

医歯学総合研究科
博士課程
医歯学専攻
履修要項

2026年度
(2026.4.1)

東京科学大学大学院

目 次

1. 医歯学総合研究科博士課程医歯学専攻の概要	1
2. 修了要件及び履修登録・取消について	6
3. 医歯学総合研究科医歯学専攻組織	12
4. 各授業内容	22
7. 諸規則	
○東京科学大学大学院学則	236
○東京科学大学大学院学修規程	265
○東京科学大学大学院の研究科における学修に関する細則	269
○東京科学大学大学院医歯学総合研究科博士課程学修内規	270
○東京科学大学学位規程	301
○東京科学大学大学院医歯学総合研究科委員会博士 (医学・歯学・学術・数理医科学)に係る学位論文審査及び試験内規	313
○東京科学大学大学院学位論文等審査基準	331
○東京科学大学における GPA 制度に関する要項	333
○東京科学大学学生の懲戒等に関する規程	336
8. 学生周知事項	342
9. 長期履修制度について	348
10. 諸手続きについて	351
11. 学内主要施設／校内案内図	354

1. 医歯学総合研究科博士課程医歯学専攻の概要

人材育成目標

医学と歯学の両分野の専門的知識を熟知し、他分野との緊密な連携により世界をリードする研究者、教育戦略を打ち立て実行できる心豊かな教育者、高い倫理観を有する研究心旺盛な高度専門医療人、そして新しい時代を開拓するオピニオンリーダーを養成することを目的としており、具体的には次のような能力を有する人材を養成する。

1. 人類の健康と福祉に貢献するための卓越した研究成果をあげることができる能力
2. 高い専門性と倫理観を持ち、先駆的、独創的研究を指導できる能力
3. 医歯学教育に関する多面的な知識と専門的知識をあわせ持ち、医学界、歯学界をリードする能力
4. 高度専門的医療人として、臨床研究において先駆的医療の発展に寄与できる能力

アドミッションポリシー

《求める学生像》

本学の掲げる、幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観、自ら考え解決する創造性と開拓力、国際性と指導力を備えた人材を育成するという教育理念の下、大学院医歯学総合研究科医歯学専攻と生命理工医療科学専攻は、各々のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づいた教育を行っている。このような教育を受ける者として、次に掲げる意欲・目的意識と知識・技能等を備えた学生を求める。

- 1) 医学、歯学、生命理工学、または医療科学に対する高い関心と明確な目的意識があり、関連する諸問題に主体性を持って取り組む意欲を有している。
- 2) 医学、歯学、生命理工学、または医療科学に関わる諸問題の解決に向けた研究を実施できる知識と技能を有している。
- 3) 研究を協働して推進し且つその成果を広く各界に発信するために必要な倫理観、英語力及びコミュニケーション能力を有している。

《入学者選抜の基本方針》

筆記試験により英語力や専門分野における研究に必要な基礎的知識と論述能力を評価し、面接試験及び出願書類により適性や意欲、コミュニケーション能力を見ることで、総合的に判定する。

カリキュラムポリシー

本学大学院医歯学総合研究科医歯学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、教育課程を編成するにあたっては、教育内容、教育方法、学習成果の評価方法等を以下のように設定する。

博士（医学）

- 1) 生命倫理観および科学的倫理観を備えさせるとともに医歯学に係わる諸領域の研究遂行に必要な基本的な学識を身につけさせるため、研究研修を開設する。

- 2) 医学領域での高度な研究・教育・医療における最先端の知識と技術を身につけ、科学的思考力と倫理観に根ざす高度な実践を展開できる能力を養うため、特論・演習・研究実習を開設する。
- 3) 研究実習は、生命倫理、利益相反、遺伝子組換え、病原体等に関する各委員会の承認のもとで行う。
- 4) より幅広い専門知識の修得のため、学外の高度専門家を講師として大学院特別講義を開設する。
- 5) 絶えず進歩する学問領域に対応するため、特定専門領域の学内外講師による大学院セミナーを開設する。
- 6) 国際性向上のため、英語による専門分野の授業およびプレゼンテーション能力養成講座を開設する。
- 7) 多様な学生の要請に応えるために、長期履修制度、早期修了制度、社会人大学院コース、複数指導体制を設定する。
- 8) 成績評価は、授業への参加状況、試験、レポートなどに基づき、各科目において学修達成度を適切に反映する基準を定めた上で行う。
- 9) 学位論文は、ディプロマ・ポリシーに基づき厳格な評価を行い、博士論文の審査及び最終試験を適切に行う。

博士（歯学）

- 1) 生命倫理観および科学的倫理観を備えさせるとともに医歯学に係わる諸領域の研究遂行に必要な基本的な学識を身につけさせるため、研究研修を開設する。
- 2) 歯学領域の高度な専門知識の修得に加え、国際的な視野形成と研究ネットワーク形成に必要な実践的スキルを養成する科目を開設する。
- 3) 高度の専門性を修得することを目的に、特論、演習、研究実習を開設する。
- 4) より幅広い専門知識の修得のため、学外の高度専門家を講師として大学院特別講義を開設する。
- 5) 絶えず進歩する学問領域に対応するため、特定専門領域の学内外講師による大学院セミナーを開設する。
- 6) 国際性向上のため、英語による専門分野の授業およびプレゼンテーション能力養成講座を開設する。
- 7) 基礎・臨床融合型教育研究である「医歯学総合研究科コース特論」のコース授業に参加するとともに、学内外の指導教員による集团的複数指導体制による客観的で学際的な研究指導および論文作成指導を行う。分野間の共同研究、あるいは研究指導委託による国内外の他機関での研究もリサーチワークの対象となる。
- 8) 多様な学生の要請に応えるために、長期履修制度、早期修了制度、社会人大学院コース、複数指導体制を設定する。
- 9) 成績評価は、レポートの提出、講義への参加状況などに基づき、各講義において学修達成度を適切に反映する基準を定めた上で行う。
- 10) 学位論文は、ディプロマ・ポリシーに基づき厳格な評価を行い、博士論文の審査及び最終試験を適切に行う。

博士（数理医科学）

- 1) 医科学のための数理科学の方法論に関連する高度で幅広い専門的知識の修得に加え、グローバルな視野形成と人的ネットワーク形成に必要で産業界から要求される実践的スキルを養成する科目を開設する。
- 2) 生命倫理観および科学的倫理観を備えさせるとともに医歯学に係わる諸領域の研究遂行に必要な基本的な学識を身につけさせるため、研究研修を開設する。
- 3) 高度の専門性を修得することを目的に、特論、演習、研究実習を開設する。
- 4) より幅広い専門知識の修得のため、学外の高度専門家を講師として大学院特別講義を開設する。
- 5) 絶えず進歩する学問領域に対応するため、特定専門領域の学内外講師による大学院セミナーを開設する。
- 6) 国際性向上のため、英語による専門分野の授業およびプレゼンテーション能力養成講座を開設する。
- 7) 数理科学的方法論を通して医科学的課題の解決能力の修得を目的とし、臨床統計・バイオインフォマティクスプログラム科目を開設する。
- 8) 数理医科学における専門的研究を行う研究実習科目を配する。又指導教員の指導のみならず他教員からの指導・助言を通じて、幅広い視野から専門分野の枠にとらわれない獨創性・創造性を持った自立した研究活動を行う力を養う。
- 9) 多様な学生の要請に応えるために、長期履修制度、早期修了制度、社会人大学院コース、複数指導体制を設定する。
- 10) 成績評価は、レポートの提出、講義への参加状況などに基づき、各講義において学修達成度を適切に反映する基準を定めた上で行う。
- 11) 学位論文は、ディプロマ・ポリシーに基づき厳格な評価を行い、博士論文の審査及び最終試験を適切に行う。

博士（学術）

- 1) 生命倫理観および科学的倫理観を備えさせるとともに医歯理工学に係わる諸領域の研究遂行に必要な基本的な学識を身につけさせるため、研究研修を開設する。
- 2) 幅広い専門知識と研究技能の修得による高度で自律的な研究遂行能力獲得および研究成果の的確な取りまとめと発信能力獲得のため、特論、演習、研究実習を開設する。
- 3) より幅広い専門知識の修得のため、学外の高度専門家を講師として大学院特別講義を開設する。
- 4) 絶えず進歩する学問領域に対応するため、特定専門領域の学内外講師による大学院セミナーを開設する。
- 5) 国際性向上のため、英語による専門分野の授業およびプレゼンテーション能力養成講座を開設する。
- 6) 他専攻の授業科目、他大学大学院の授業科目の履修を可能とし、特定の専門に偏ることなく学際的な分野の学習を提供し、幅広い視野を涵養する。

- 7) 多様な学生の要請に応えるために、長期履修制度、早期修了制度、社会人大学院コース、複数指導体制を設定する。
- 8) 成績評価は、授業への参加状況、試験、レポートなどに基づき、各科目において学修達成度を適切に反映する基準を定めた上で行う。
- 9) 学位論文は、ディプロマ・ポリシーに基づき厳格な評価を行い、博士論文の審査及び最終試験を適切に行う。

ディプロマポリシー

本専攻では、次のような能力・資質を身につけていると認められた者で、かつ所定の単位を修め、本専攻が行う博士論文の審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。

博士（医学）

医学の専門的知識を熟知し、他分野との緊密な連携により世界をリードする研究者、教育戦略を打ち立て実行できる心豊かな教育者、高い倫理観を有し研究心旺盛な高度専門医療人、そして新しい時代を開拓するオピニオンリーダーを養成することを目的としており、具体的には次のような能力を有する人材を養成する。

- 1) 人類の健康と福祉に貢献するための卓越した研究成果をあげることができる能力を有している。
- 2) 高い専門性と倫理観を持ち、先駆的、独創的研究を指導できる能力を有している。
- 3) 医学教育に関する多面的な知識と専門的知識をあわせ持ち、医学界をリードする能力を有している。
- 4) 高度専門的医療人として、臨床研究において先駆的医療の発展に寄与できる能力を有している。

博士（歯学）

- 1) 秀でた研究成果をあげており、次世代の歯科医学の発展に貢献できる研究能力を有している。
- 2) 高い専門性と倫理観を持ち、次世代の基礎および臨床歯学研究を担う人材育成や高度な専門的業務に貢献できる研究能力を有している。
- 3) 自ら課題を設定し、研究を立案・遂行できる能力を有している。
- 4) 自身の研究成果を広く社会に説明・発信できる能力を有している。
- 5) 国際的な視野を持ち、国際的に活躍できる能力を有している。

博士（数理医科学）

- 1) 先端的な数理科学の方法論を用いて、あるいはそれを発展させ、人類の健康と福祉に貢献するための卓越した研究成果をあげることができる能力を有している。
- 2) 高い専門性と倫理観を持ち、先駆的、独創的な数理科学的方法論を用いた医科学を担う人材育成や高度な専門的業務に貢献できる能力を有している。

- 3) 数理科学的手法を主軸として用いた医学的課題の解決、もしくは、医学的課題を直接的に解決する新しい遺伝統計学等を含む数理科学的手法の開発を通して、医科学の発展に貢献できる能力を有している。
- 4) 自ら課題を設定し、研究を立案・遂行できる能力を有している。
- 5) 自身の研究成果を広く社会に説明・発信できる能力を有している。
- 6) 国際的な視野を持ち、海外でも活躍できる能力を有している。

博士（学術）

- 1) 学際的な医歯理工学領域の問題を的確に理解して自ら課題を設定した上で、その解決に向けて高度な倫理観と豊かな学識によって意欲的に対応できる資質を有している。
- 2) 学際的な医歯理工学領域を切り拓くために必要な幅広い専門知識と研究技能を併せ持ち、人類の健康と福祉に貢献できる高度で自立的な研究能力を有している。
- 3) 学際的な医歯理工学領域に関する自己の研究成果を的確にまとめて広く国内外の社会や学界に伝えるとともに適切に議論できる高いコミュニケーション能力を有している。

標準修業年限及び学位

標準修業年限 4年

所定の単位を修得し、博士論文審査に合格することにより次の学位のいずれかが取得できます。

博士（医学）

博士（歯学）

博士（数理医科学）

博士（学術）

修了要件及び履修登録・取消について

1. 修了要件

本研究科に4年以上在学し、授業科目を30単位以上修得し、研究指導を受け、かつ本研究科の行う博士論文の審査及び試験に合格することとする。

※ 優れた研究業績を挙げた者と研究科委員会において認めた場合には、3年で修了することができる。

2. 履修方法

1) 本研究科において修得すべき30単位の履修方法は、次のとおりとする。

○所属分野が開設する授業科目（特論、演習、研究実習） 18単位

・所属分野以外の授業科目の履修は特論のみ履修できる。（以下、同じ。）

○本研究科が開設する授業科目 12単位以上

※履修登録にあたっては、事前に当該授業科目の担当教員と授業の履修方法等について、相談のうえ行うこと。

※生命理工医療科学専攻の科目は英語で講義が行われることがあるので、事前に担当教員に確認すること。

2) 単位は原則として1年次に特論、1～2年次に演習、2～3年次に研究実習を履修するものとし、4年次は研究課題に則した研究指導を受け、論文作成などの研究活動を行うものとする。

ただし、学則第7条に基づく長期履修学生が単位を修得する場合は、指導教員のもとで履修方法について、よく相談のうえ、計画的に履修を行うものとする。

※ 本研究科の学生は、必要に応じ、所定の手続を経て他の大学院の授業科目を履修し、若しくは他の大学院、研究所又は高度の水準を有する病院において研究指導を受け、若しくは休学することなく外国の大学院等に留学し、その科目を履修し、又は研究指導を受けることができる。

3) 歯学系の分野に所属する学生は、必ず「医歯学総合研究科コース特論」を履修すること。

4) 先制医歯理工学コース（臨床統計・バイオインフォマティクスプログラム）の学生は、次ページの先制医歯理工学コース（臨床統計・バイオインフォマティクスプログラム）履修方法を参照の上、履修すること。コースが指定する授業科目を修得した場合、学位記に先制医歯理工学コース（臨床統計・バイオインフォマティクスプログラム）を修了した旨を付記する。

5) 臨床疫学プログラム（Clinical Epidemiology Program）に参加する学生は、次のページの臨床疫学プログラム履修方法を参照の上、履修すること。プログラムが指定する科目（臨床疫学科目から選択科目を5単位以上かつ必修科目「プログラム必修科目」を修得した場合、学位記に臨床疫学プログラムを修了した旨を付記する。

6) 人間医療科学技術コースの学生は、人間医療科学技術コースシラバス（別冊）の履修方法を参照の上、履修すること。コースが指定する修了要件を満たし、かつ、大学院を修了した学生に対し、申請により、「人間医療科学技術コース履修証」を発行する。

履修例（1）医学系：一般的な履修モデル

環境社会医歯学講座 法医学分野に入学した場合

・所属分野が開設する授業科目		・研究科が開設する授業科目	
法医学特論	6単位	医療政策情報学特論	6単位
法医学演習	4単位	研究開発学特論	6単位
研究実習	8単位		
計	18単位	計	12単位
		合計	30単位

履修例（2）歯学系：一般的な履修モデル

口腔機能再構築学講座 う蝕制御学分野に入学した場合

・所属分野が開設する授業科目		・研究科が開設する授業科目	
う蝕制御学特論	6単位	口腔放射線医学特論	6単位
う蝕制御学演習	4単位	医歯学総合研究科コース特論	6単位（必修）
研究実習	8単位		
計	18単位	計	12単位
		合計	30単位

履修例 (3) 先制医歯理工学コース 臨床統計・バイオインフォマティクスプログラム：一般的な履修モデル

環境社会歯科学講座 国際健康推進医学分野に入学した場合

・所属分野が開設する授業科目		・研究科が開設する授業科目	
公衆衛生学特論	6単位	国際環境寄生虫病学特論	6単位
公衆衛生学演習	4単位	歯科学総合特論(大学院セミナー)	2単位
研究実習	8単位	国際動向特論	1単位(必修☆)
		先制医歯理工学概論Ⅰ	1単位(必修●)
		疫学	2単位(必修■)
計	18単位	計	12単位
		合計	30単位

先制医歯理工学コース(臨床統計・バイオインフォマティクスプログラム)履修方法

科目区分		科目名	単位数	履修科目		
専攻共通科目		初期研究研修	1	選択 (○)		
		歯科学総合特論(大学院セミナー)	2			
		歯科学総合コース特論	6			
		疾患予防パブリックヘルス医学概論	2			
				マネジメント特論	1	いずれか 1単位 必修 (☆)
				国際動向特論	1	
				知的財産特論	1	
				英語ディベート特論	1	
		英語プレゼンテーション特論	1			
先制医歯理工学科目	共通科目	先制医歯理工学概論Ⅰ	1	いずれか 1単位 必修 (●)		
		先制医歯理工学概論Ⅱ	1			
		データサイエンス特論Ⅰ	1			
		データサイエンス特論Ⅱ	1			
		データサイエンス特論Ⅲ	1			
		データサイエンス特論Ⅳ	1			
	臨床統計・バイオインフォマティクス専門科目	疫学	2	いずれか 2単位 必修 (■)		
		臨床・遺伝統計学	2			
	先進医療デバイスIoT学専門科目	先端バイオセンシングデバイス特論	1	選択 (○)		
		医療デバイス・システム機器特論	1			
		ウェアラブルIoT技術特論	1			
	疾患生命創薬科学専門科目	疾患分子病態学特論	1			
ケミカルバイオロジー特論		1				
生体分子制御学特論		1				
分野開設科目	所属分野が開設する特論	6	すべて 必修 (◎)			
	所属分野が開設する演習	4				
	所属分野が開設する研究実習	8				
	所属分野以外が開設する特論	6		選択 (○)		

【履修単位数】

所属分野が開設する科目(◎)	18	必修
専攻共通科目(☆)	1	
先制医歯理工学科目(共通科目)(●)	1	
先制医歯理工学科目(臨床統計・バイオ専門科目)(■)	2	
その他(○)	8	選択
計	30	修了要件

履修例 (4) 博士 (数理医科学) の学位取得を目指す場合：一般的な履修モデル

環境社会医歯学講座 臨床統計学分野に入学した場合

・所属分野が開設する授業科目		・研究科が開設する授業科目	
臨床統計学特論	6 単位	生物統計学特論	6 単位
臨床統計学演習	4 単位	医歯学総合特論 (大学院セミナー)	2 単位
研究実習	8 単位	先制医歯理工学概論 I	1 単位
		データサイエンス特論 I	1 単位
		疫学	2 単位 (必修■)
計	18 単位	計	12 単位
		合計	30 単位

博士 (数理医科学) 学位取得に係る修了要件

1. 数理医科学を担当する以下の分野に所属し、当該所属分野が開設する特論・演習・研究実習 計 18 単位を修得すること。

※数理医科学担当分野：

臨床統計学／疾患多様性遺伝学／ゲノム機能多様性／統合データ科学／生物統計学／AI システム医科学／計算システム生物学

2. 先制医歯理工学科目 臨床統計・バイオインフォマティクス専門科目のうち、2 単位以上修得すること。

臨床統計・バイオインフォマティクス専門科目	疫学	2	いずれか 2単位 必修 (■)
	臨床・遺伝統計学	2	

履修例 (5) 臨床疫学プログラム (Clinical Epidemiology Program)：一般的な履修モデル

環境社会医歯学講座 国際健康推進医学分野に入学した場合

・所属分野が開設する授業科目		・研究科が開設する授業科目	
公衆衛生学特論	6 単位	国際環境寄生虫病学特論	6 単位
公衆衛生学演習	4 単位	臨床疫学解析演習	1 単位 (必修)
研究実習	8 単位	疫学基礎	1 単位 (選択)
		生物統計学基礎	1 単位 (選択)
		生物統計学応用 I	1 単位 (選択)
		生物統計学応用 II	1 単位 (選択)
		臨床試験方法論基礎	1 単位 (選択)
計	18 単位	計	12 単位
		合計	30 単位

臨床疫学プログラム (Clinical Epidemiology Program) 履修方法

プログラム指定科目

必修科目		選択科目	
科目名	単位数	科目名	単位数
臨床疫学解析演習	1	疫学基礎	左記8科目 から5科目 5単位 (各科目 1単位)
		生物統計学基礎	
		生物統計学応用 I	
		生物統計学応用 II	
		臨床試験方法論基礎	
		臨床試験方法論応用	
		口腔疫学基礎	
		疫学応用	
必修科目単位数合計	1	選択科目単位数合計	5
合計単位数		6単位	

3. 成績

1) 成績評価について

【2024年度以降入学者】

授業科目の成績は、以下の基準に従い、60～100を合格、59以下を不合格とする。

評 点	GP	評価基準
90～100	3.5～4.5	当該科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した
80～89	2.5～3.4	当該科目の到達目標を全て達成した
70～79	1.5～2.4	当該科目の到達目標を概ね達成した
60～69	2.5～1.4	当該科目の到達目標のうち最低限を達成した
0～59	0	当該科目の到達目標を達成していない

【2023年度以前入学者】

授業科目の成績は、以下の基準に従い、A⁺、A、B、Cを合格、D、Fを不合格とする。

評 価	GP	評価基準
A ⁺	4.0	当該科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した
A	3.5	当該科目の到達目標を全て達成した
B	3.0	当該科目の到達目標を概ね達成した
C	2.0	当該科目の到達目標のうち最低限を達成した
D	1.0	当該科目の到達目標を達成していない
F	0.0	到達目標の達成度を評価できない

2) GPAについて

GPAとは、履修した各科目の成績評価に対して、それぞれポイント（GP）を定め、成績の平均値を示す成績評価結果の表示方法のひとつである。GPAは当該年度のものと同積のものを出算するが、成績証明書には同積GPAを表示するものとする。

$$\text{同積 GPA} = \frac{(\text{修得科目のGP}(\times 1) \times \text{単位数})\text{の総和}}{(\text{履修登録単位数})\text{の総和}}$$

<2024年度以降入学者>

※1 GP = (科目の評価 - 55) × 0.1

ただし、科目の評価が59点以下の場合、GP = 0.0 とする

※2 小数点第3位を四捨五入する

<2023年度までの在学同>

※1 GP = A⁺:4.0, A:3.5, B:3.0, C:2.0, D:1.0, F:0.0

※2 小数点第3位を四捨五入する

3) 履修取消について

登録済みの科目のうち履修を継続しない科目については、所定の期日までに本人からの届け出により、履修を取り消すことが出来る。履修取消を行った科目に関しては、GPAには算出されず、成績証明書にも記載されない。

履修取消の手続きは、履修登録科目取消願（様式はホームページ「教育・研究」→「大学院医歯学総合研究科」→「統合教育機構学務企画課」→「履修登録科目取消願」）を湯島教務室大学院教務第1グループへ提出すること。

なお、履修を継続しない科目について所定の期日（「東京科学大学大学院医歯学総合研究科博士課程履修内規」及び「10.諸手続きについて」参照）までに履修取消の手続きを行わない場合には、当該授業科目の成績評価を「不合格」とする。

「科目ナンバリング」について

1. 科目ナンバリングとは

科目ナンバリングは、授業科目に適切な番号を付けて分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。

本学大学院では、科目ナンバリングにより授業科目に付された特定の記号及び数字のことを「科目ID」と呼び、シラバスの各科目のページに掲載しています。

なお、同じく各科目のページに掲載されている「科目コード」は、主に履修登録の際などに使用されます。

2. 「科目ID」の構成

G M - a 3001 - L

① ② ③ ④ ⑤

各桁の意味

①授業開設部局名

部局名	コード
大学院	G

②専攻・コース名等

専攻・コース名等	コード
医歯理工保健学専攻	H
医歯理工保健学専攻医療管理政策学コース	A
医歯理工保健学専攻グローバルヘルスリーダー養成コース	P
医歯学専攻	M
生命理工医療科学専攻	B
東京科学大学・チリ大学国際連携医学系専攻	J
東京科学大学・チュロンコン大学国際連携歯学系専攻	I
東京科学大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻	S
看護先進科学専攻	N
共同災害看護学専攻	D
大学院共通科目	C

③レベル

レベル	コード
大学院共通科目、学部生先取履修対象科目	a
修士課程における発展的な内容の科目、または修士論文の作成にあたり履修する論文(研究)指導等の科目	b
博士課程における発展的な内容の科目、または博士論文の作成にあたり履修する論文(研究)指導等の科目	c
5年一貫制博士課程における発展的な内容の科目、または博士論文の作成にあたり履修する論文(研究)指導等の科目	d
その他	e

④科目コード

各専攻で開講している授業科目の通し番号(4桁)

⑤授業形態

授業形態	コード
講義	L
演習	S
実習	E
論文指導・研究指導	T
その他	Z

3. 医歯学総合研究科医歯学専攻組織

講座名	専攻分野	指導教員
口腔機能再構築学	口腔病理学	石丸直澄教授
	細菌感染制御学	鈴木敏彦教授
	口腔生命医科学	片桐さやか教授
	先端材料評価学	宇尾基弘教授
	歯科放射線診断・治療学	三浦雅彦教授
	顎口腔腫瘍外科学	原田浩之教授
	歯科麻酔学	前田茂教授
	小児歯科学・障害者歯科学	岩本勉教授
	咬合機能矯正学	小野卓史教授
	う蝕制御学	島田康史教授
	咬合機能健康科学	笛木賢治教授
	歯髄生物学	八幡祥生教授
	生体補綴歯科学	若林則幸教授
	口腔再生再建学	丸川恵理子教授
口腔デバイス・マテリアル学	猪越正直教授	

顎顔面顎部機能再建学	形成・再建外科学	森弘樹教授
	頭頸部外科学	朝蔭孝宏教授
	腫瘍放射線治療学	吉村亮一教授
	口腔顎顔面解剖学	武智正樹教授
	認知神経生物学	上阪直史教授
	分子発生・口腔組織学	井関祥子教授
	分子細胞機能学	(代)渡部徹郎教授
	顎顔面外科学	加持秀明教授
	顎顔面矯正学	森山啓司教授
	生体組織再建外科学	田中顕太郎教授

生体支持組織学	細胞生物学	中田隆夫教授
	病態代謝解析学	大石由美子教授
	運動器外科学	古賀英之教授
	病態生化学	渡部徹郎教授
	分子情報伝達学	(代)笛木賢治教授
	歯周病学 (歯周病学担当)	岩田隆紀主任教授
	歯周病学 (歯周光線治療学担当)	青木章教授
	生体情報継承学	楠山讓 ニテニユアトラック ク准教授
	無機生体材料学	川下将一教授

講座名	専攻分野	指導教員
環境社会医歯学	公衆衛生学	藤原武男教授
	寄生虫学・熱帯医学	石野智子教授
	法医学	鵜沼香奈教授
	政策科学	岡田就将教授
	人体模倣システム	高山和雄教授
	医療政策情報学	-
	先進倫理医科学	吉田雅幸教授
	法歯学	櫻田宏一教授
	歯学教育開発学	關奈央子教授
	歯科公衆衛生学	相田潤教授
	歯学教育システム評価学	則武加奈子教授
	教育メディア開発学	木下淳博教授
	保険医療管理学	藍真澄教授
	地球環境医学	那波伸敏教授
	臨床統計学	平川晃弘教授
	感染症健康危機管理学	矢沢知子教授
	医療安全管理学分野	工藤篤教授

老化制御学	リハビリテーション医学	(代)吉井俊貴教授
	高齢者歯科学	金澤学教授
	摂食嚥下リハビリテーション学	戸原玄教授

全人的医療開発学	臨床検査医学	佐々木宏治教授
	生体集中管理学	若林健二教授
	臨床医学教育開発学	山脇正永教授
	救急災害医学	森下幸治教授
	臨床腫瘍学 (腫瘍内科学・緩和医療)	浜本康夫主任教授
	臨床腫瘍学 (がんゲノム治療学担当)	池田貞勝教授
	総合診療歯科学	新田浩教授
	歯科心身医学	豊福明教授
	総合診療医学	橋本正良教授
統合臨床感染症学	具芳明教授	

講座名	専攻分野	指導教員
認知行動医学	神経機能形態学	寺田 純雄 教授
	薬理学	古屋 敷智之 教授
	細胞動態学	諸石 寿朗 教授
	神経病理学	未定 教授
	眼科学	大野 京子 教授
	耳鼻咽喉科学	堤 剛 教授
	脳神経病態学	三澤 園子 教授
	精神行動医学 (精神行動医学担当)	高橋 英彦 主任教授
	精神行動医学 (犯罪精神医学担当)	岡田 幸之 教授
	精神行動医学 (リエゾン精神医学・精神腫瘍学担当)	竹内 崇准 教授
	統合ストレス医科学	内田 周作 教授
	脳神経機能外科学	-
	血管内治療学	壽美田 一貴 教授
	NCNP脳機能病態学	星野 幹雄 連携教授
マテリアル神経科学	味岡 逸樹 教授	

生体環境応答学	免疫学	佐藤 荘 教授
	ウイルス制御学	白銀 勇太 教授
	環境生物学	未定
	生体防御学	橋本 俊聡 教授
	免疫制御学	小松 紀子 教授
	脂質生物学	佐々木 雄彦 教授
	発生発達病態学	高木 正稔 教授
	膠原病・リウマチ内科学	保田 晋助 教授
	皮膚科学	冲山 奈緒子 教授
	NCCHD成育医学	阿久津 英憲 連携教授
	ハイリスク感染症研究マネジメント	武内 寛明 教授

器官システム制御学	人体病理学	大橋 健一 教授
	細胞生理学	磯村 宜和 教授
	統合生理学	藤生 克仁 教授
	統合呼吸器病学	宮崎 泰成 教授
	消化器病態学 (消化器病態学担当)	岡本 隆一 主任教授
	消化器病態学 (肝臓病態制御学担当)	朝比奈 靖浩 教授
	総合外科学 (総合外科学担当)	有賀 智之 主任教授
	総合外科学 (小児外科学担当)	岡本 健太郎 准教授
	循環制御内科学	笹野 哲郎 教授
	心肺統御麻酔学 (心肺統御麻酔学担当)	内田 篤治郎 主任教授
	心肺統御麻酔学 (周産期・小児麻酔学担当)	遠山 悟史 教授
	心臓血管外科学 (心臓血管外科学担当)	藤田 知之 主任教授
	心臓血管外科学 (末梢血管外科学担当)	-
	腎臓内科学	-
	生殖機能協関学	宮坂 尚幸 教授
	腎泌尿器外科学	藤井 靖久 教授
	消化管外科学	絹笠 祐介 教授
	呼吸器外科学	-
	都医学研疾患分子生物学	川路 英哉 連携教授

講座名	専攻分野	指導教員
先端医療開発学	臨床解剖学	秋田 恵一 教授
	システム発生・再生医学	浅原 弘嗣 教授
	包括病理学	石川 文彦 教授
	分子腫瘍医学	田中 真二 教授
	診断病理学	未定 准教授
	疾患モデル動物解析学	金井 正美 教授
	診断治療システム医工学	梶 弘和 教授
	血液内科学	森 毅彦 教授
	分子内分泌代謝学	山田 哲也 教授
	肝胆膵外科学	伴 大輔 教授
	整形外科学	吉井 俊貴 教授
	画像診断・核医学	立石 宇貴秀 教授
	ゲノム機能多様性	高地 雄太 教授
	疾患多様性遺伝学	田中 敏博 教授
	応用再生医学	関矢 一郎 教授
	計算システム生物学	島村 徹平 教授
	創薬化学	辻 耕平 准教授
	JFCR腫瘍制御学	広田 亨 連携教授
	ゲノム健康医療学	石川 欽也 教授
	器官発生・創生学	武部 貴則 教授
	統合データ科学	宮野 悟 教授
	生物統計学	高橋 邦彦 教授
	AIシステム医科学	清水 秀幸 教授
	神経免疫学	七田 崇 教授
	NIID統合微生物学	梁 明秀 連携教授

博士課程医歯学専攻 開設科目及び修得単位一覧表

No	区分	授業科目名	時間割コード	科目コード	単位数	科目ナンバリング	
1	専攻共通科目 ※1	初期研究研修	041001	3002	1	GC-a3002-L	
2		Initial Research Training	041002	3102	1	GC-a3102-L	
3		医歯学総合特論(大学院セミナー)	041003	8601	2	GC-c8601-L	
4		医歯学先端研究特論(大学院特別講義)	041004	8602	4	GC-c8602-L	
5		医歯学総合研究科コース特論	041005	8603	6	GC-c8603-L	
6		包括臨床演習	041006	8604	8	GC-c8604-S	
7		Essential Expertise for Clinical Dentistry (EECD)	416001	8609	1	GM-c8609-E	
8		疾患予防パブリックヘルス医学概論	041007	8606	2	GC-c8606-L	
9		マネジメント特論	041008	6331	1	GC-c6331-L	
10		知的財産特論	041012	6351	1	GC-c6351-L	
11		疾患生命科学特論	041015	6402	2	GC-c6402-L	
12		先端機能分子特論	041016	6403	1	GC-c6403-L	
13		機能分子開発技術特論	041017	6404	1	GC-c6404-L	
14		機能再建材料学特論	041018	6405	1	GC-c6405-L	
15		組織再生材料学特論	041019	6406	1	GC-c6406-L	
16		生体機能材料学特論	041020	6407	1	GC-c6407-L	
17		医用材料工学特論	041021	6408	1	GC-c6408-L	
18		生体情報数理解析論	041022	6429	1	GC-c6429-L	
19		理研生体分子制御学特論	041023	6410	2	GC-c6410-L	
20		先端口腔保健応用学特論	416012	6411	2	GC-c6411-L	
21		先端口腔保健応用学演習	416013	6412	1	GC-c6412-L	
22		先端口腔保健工学特論	416014	6413	1	GC-c6413-L	
23		硬組織研究・骨形態計測学特論	416015	6414	1	GC-c6414-L	
24		実践疫学	416002	6200	2	GC-c6200-L	
25		アドバンス生物統計学	416003	6210	2	GC-c6210-L	
26		公衆衛生のための医学・生物学	416004	6220	2	GC-c6220-L	
27		医療システム・マネジメント	416005	6230	2	GC-c6230-L	
28		グローバルヘルス	416007	6250	4	GC-c6250-L	
29		母子保健	416008	6260	2	GC-c6260-L	
30		行動科学	416010	6280	2	GC-c6280-L	
31		地球環境と健康	416025	6291	2	GC-c6291-L	
32	大学院共通履修科目 ※修了要件単位数には含まれない	ジョブ型研究インターンシップ	417005	8717	1	GC-c8717-L	
33	先制医歯理工学科目	共通科目	先制医歯理工学概論 I	041024	6415	1	GC-c6415-L
34			先制医歯理工学概論 I (英語)	041025	6425	1	GC-c6425-L
35			先制医歯理工学概論 II	041026	6416	1	GC-c6416-L
36			データサイエンス特論 I	041027	6311	1	GC-c6311-L
37			データサイエンス特論 I (英語)	041028	6315	1	GC-c6315-L
38			データサイエンス特論 II	041029	6321	1	GC-c6321-L
39			データサイエンス特論 II (英語)	041030	6325	1	GC-c6325-L
40			データサイエンス特論 III	041510	6322	1	GC-c6322-L
41			データサイエンス特論 IV	041511	6323	1	GC-c6323-L
42			臨床統計・バイオ インフォマティクス 専門科目	疫学	041031	8607	2
43		臨床・遺伝統計学		041032	8608	2	GC-c8608-L
44		先進医療デバイ スIoT学 専門科目	先端バイオセンシングデバイス特論	041033	6418	1	GC-c6418-L
45			医療デバイス・システム機器特論	041034	6419	1	GC-c6419-L
46			ウェアラブルIoT技術特論	041035	6420	1	GC-c6420-L
47		疾患生命創薬科 学 専門科目	疾患分子病態学特論	041036	6422	1	GC-c6422-L
48			先端ケミカルバイオロジー特論	041037	6423	1	GC-c6423-L
49			生体分子制御学特論	041038	6424	1	GC-c6424-L
50	臨床疫学科目	疫学基礎	416016	6430	1	GC-c6430-L	
51		生物統計学基礎	416017	6431	1	GC-c6431-L	
52		生物統計学応用 I	416018	6432	1	GC-c6432-L	
53		生物統計学応用 II	416019	6433	1	GC-c6433-L	
54		臨床試験方法論基礎	416020	6434	1	GC-c6434-L	
55		臨床試験方法論応用	416021	6435	1	GC-c6435-L	
56		口腔疫学基礎	416022	6436	1	GC-c6436-L	
57		疫学応用	416023	6437	1	GC-c6437-L	
58		臨床疫学解析演習	416024	6438	1	GC-c6438-L	
59			口腔病理学特論	041039	8011	6	GM-c8011-L

博士課程医歯学専攻 開設科目及び修得単位一覧表

No	区分	授業科目名	時間割コード	科目コード	単位数	科目ナンバリング	
60	分野科目	口腔病理学演習	041040	8012	4	GM-c8012-S	
61		研究実習	041041	8013	8	GM-c8013-E	
62		細菌感染制御学特論	041042	8021	6	GM-c8021-L	
63		細菌感染制御学演習	041043	8022	4	GM-c8022-S	
64		研究実習	041044	8023	8	GM-c8023-E	
65		口腔生命医科学特論	417015	8034	6	GM-c8034-L	
66		口腔生命医科学演習	417016	8035	4	GM-c8035-S	
67		口腔生命医科学研究実習	417017	8036	8	GM-c8036-E	
68		先端材料評価学特論	041048	8041	6	GM-c8041-L	
69		先端材料評価学演習	041049	8042	4	GM-c8042-S	
70		研究実習	041050	8043	8	GM-c8043-E	
71		歯科放射線診断・治療学特論	415054	8534	6	GM-c8534-L	
72		歯科放射線診断・治療学演習	415055	8535	4	GM-c8535-S	
73		研究実習	415056	8536	8	GM-c8536-E	
74		顎口腔腫瘍外科学特論	415069	8591	6	GM-c8591-L	
75		顎口腔腫瘍外科学演習	415070	8592	4	GM-c8592-S	
76		研究実習	415071	8593	8	GM-c8593-E	
77		歯科麻酔学特論	417018	5234	6	GM-c5234-L	
78		歯科麻酔学演習	417019	5235	4	GM-c5235-S	
79		歯科麻酔学研究実習	417020	5236	8	GM-c5236-E	
80		小児歯科学・障害者歯科学特論	041069	5191	6	GM-c5191-L	
81		小児歯科学・障害者歯科学演習	041070	5192	4	GM-c5192-S	
82		研究実習	041071	5193	8	GM-c5193-E	
83		咬合機能矯正学特論	041072	8141	6	GM-c8141-L	
84		咬合機能矯正学演習	041073	8142	4	GM-c8142-S	
85		研究実習	041074	8143	8	GM-c8143-E	
86		う蝕制御学特論	041075	8151	6	GM-c8151-L	
87		う蝕制御学演習	041076	8152	4	GM-c8152-S	
88		研究実習	041077	8153	8	GM-c8153-E	
89		咬合機能健康科学特論	415023	8161	6	GM-c5281-L	
90		咬合機能健康科学演習	415024	8162	4	GM-c5282-S	
91		研究実習	415025	8163	8	GM-c5283-E	
92		歯髄生物学特論	041081	8171	6	GM-c8171-L	
93		歯髄生物学演習	041082	8172	4	GM-c8172-S	
94		研究実習	041083	8173	8	GM-c8173-E	
95		生体補綴歯科学特論	415026	8181	6	GM-c5291-L	
96		生体補綴歯科学演習	415027	8182	4	GM-c5292-S	
97		研究実習	415028	8183	8	GM-c5293-E	
98		口腔再生再建学特論	415029	8191	6	GM-c5301-L	
99		口腔再生再建学演習	415030	8192	4	GM-c5302-S	
100		研究実習	415031	8193	8	GM-c5303-E	
101		口腔デバイス・マテリアル学特論	417021	8384	6	GM-c8384-L	
102		口腔デバイス・マテリアル学演習	417022	8385	4	GM-c8385-S	
103		口腔デバイス・マテリアル学研究実習	417023	8386	8	GM-c8386-E	
104		分野科目	形成・再建外科学特論	415078	8631	6	GM-c8631-L
105			形成・再建外科学演習	415079	8632	4	GM-c8632-S
106			研究実習	415080	8633	8	GM-c8633-E
107			頭頸部外科学特論	041096	7021	6	GM-c7021-L
108			頭頸部外科学演習	041097	7022	4	GM-c7022-S
109			研究実習	041098	7023	8	GM-c7023-E
110			腫瘍放射線治療学特論	041099	7031	6	GM-c7031-L
111			腫瘍放射線治療学演習	041100	7032	4	GM-c7032-S
112			研究実習	041101	7033	8	GM-c7033-E
113			口腔顎顔面解剖学特論	415066	8581	6	GM-c8581-L
114			口腔顎顔面解剖学演習	415067	8582	4	GM-c8582-S
115			研究実習	415068	8583	8	GM-c8583-E
116			認知神経生物学特論	041105	8221	6	GM-c8221-L
117			認知神経生物学演習	041106	8222	4	GM-c8222-S
118			研究実習	041107	8223	8	GM-c8223-E
119			分子発生・口腔組織学特論	415063	8571	6	GM-c8571-L
120			分子発生・口腔組織学演習	415064	8572	4	GM-c8572-S
121			研究実習	415065	8573	8	GM-c8573-E

博士課程医歯学専攻 開設科目及び修得単位一覧表

No	区分	授業科目名	時間割コード	科目コード	単位数	科目ナンバリング
122		顎顔面外科学特論	041114	8271	6	GM-c8271-L
123		顎顔面外科学演習	041115	8272	4	GM-c8272-S
124		研究実習	041116	8273	8	GM-c8273-E
125		顎顔面矯正学特論	041117	8281	6	GM-c8281-L
126		顎顔面矯正学演習	041118	8282	4	GM-c8282-S
127		研究実習	041119	8283	8	GM-c8283-E
128		生体組織再建外科学特論	415041	5321	6	GM-c5321-L
129		生体組織再建外科学演習	415042	5322	4	GM-c5322-S
130		研究実習	415043	5323	8	GM-c5323-E
131		細胞生物学特論	041123	7041	6	GM-c7041-L
132		細胞生物学演習	041124	7042	4	GM-c7042-S
133		研究実習	041125	7043	8	GM-c7043-E
134		病態代謝解析学特論	041126	7051	6	GM-c7051-L
135		病態代謝解析学演習	041127	7052	4	GM-c7052-S
136		研究実習	041128	7053	8	GM-c7053-E
137		運動器外科学特論	041129	7061	6	GM-c7061-L
138		運動器外科学演習	041130	7062	4	GM-c7062-S
139		研究実習	041131	7063	8	GM-c7063-E
140		病態生化学特論	415020	8331	6	GM-c8531-L
141		病態生化学演習	415021	8332	4	GM-c8532-S
142		研究実習	415022	8333	8	GM-c8533-E
143		分子情報伝達学特論	041144	8341	6	GM-c8341-L
144	分野科目	分子情報伝達学演習	041145	8342	4	GM-c8342-S
145		研究実習	041146	8343	8	GM-c8343-E
146		歯周病学Ⅰ特論	041147	5151	6	GM-c5151-L
147		歯周病学Ⅰ演習	041148	5152	4	GM-c5152-S
148		研究実習	041149	5153	8	GM-c5153-E
149		歯周病学Ⅱ特論	041150	5161	6	GM-c5161-L
150		歯周病学Ⅱ演習	041151	5162	4	GM-c5162-S
151		研究実習	041152	5163	8	GM-c5163-E
152		生体情報継承学特論	415057	8537	6	GM-c8537-L
153		生体情報継承学演習	415058	8538	4	GM-c8538-S
154		研究実習	415059	8539	8	GM-c8539-E
155		無機生体材料学特論	041153	5171	6	GM-c5171-L
156		無機生体材料学演習	041154	5172	4	GM-c5172-S
157		研究実習	041155	5173	8	GM-c5173-E
158		公衆衛生学特論	041156	7071	6	GM-c7071-L
159		公衆衛生学演習	041157	7072	4	GM-c7072-S
160		研究実習	041158	7073	8	GM-c7073-E
161		寄生虫学・熱帯医学特論	415010	7081	6	GM-c5271-L
162		寄生虫学・熱帯医学演習	415011	7082	4	GM-c5272-S
163		研究実習	415012	7083	8	GM-c5273-E
164		法医学特論	041162	7091	6	GM-c7091-L
165		法医学演習	041163	7092	4	GM-c7092-S
166		研究実習	041164	7093	8	GM-c7093-E
167		政策科学特論	041165	7111	6	GM-c7111-L
168		政策科学演習	041166	7112	4	GM-c7112-S
169		研究実習	041167	7113	8	GM-c7113-E
170		人体模倣システム特論	417045	7124	6	GM-c7124-L
171		人体模倣システム演習	417046	7125	4	GM-c7125-S
172		研究実習	417047	7126	8	GM-c7126-E
173		先進倫理医科学特論	041177	7151	6	GM-c7151-L
174		先進倫理医科学演習	041178	7152	4	GM-c7152-S
175		研究実習	041179	7153	8	GM-c7153-E
176		法歯学特論	041180	8371	6	GM-c8371-L
177		法歯学演習	041181	8372	4	GM-c8372-S
178		研究実習	041182	8373	8	GM-c8373-E
179		歯学教育開発学特論	041186	8391	6	GM-c8391-L
180		歯学教育開発学演習	041187	8392	4	GM-c8392-S
181	分野科目	研究実習	041188	8393	8	GM-c8393-E
182		歯科公衆衛生学特論	417033	8404	6	GM-c8404-L
183		歯科公衆衛生学演習	417034	8405	4	GM-c8405-S

博士課程医歯学専攻 開設科目及び修得単位一覧表

No	区分	授業科目名	時間割コード	科目コード	単位数	科目ナンバリング
184		歯科公衆衛生学研究実習	417035	8406	8	GM-c8406-E
185		歯学教育システム評価学特論	041195	8421	6	GM-c8421-L
186		歯学教育システム評価学演習	041196	8422	4	GM-c8422-S
187		研究実習	041197	8423	8	GM-c8423-E
188		教育メディア開発学特論	041198	8431	6	GM-c8431-L
189		教育メディア開発学演習	041199	8432	4	GM-c8432-S
190		研究実習	041200	8433	8	GM-c8433-E
191		保険医療管理学特論	041201	7941	6	GM-c7941-L
192		保険医療管理学演習	041202	7942	4	GM-c7942-S
193		研究実習	041203	7943	8	GM-c7943-E
194		地球環境医学特論	417051	5111	6	GM-c5111-L
195		地球環境医学演習	417052	5112	4	GM-c5112-S
196		研究実習	417053	5113	8	GM-c5113-E
197		臨床統計学特論	415007	5260	6	GM-c5260-L
198		臨床統計学演習	415008	5261	4	GM-c5261-S
199		研究実習	415009	5262	8	GM-c5262-E
200		感染症健康危機管理学特論	415060	8561	6	GM-c8561-L
201		感染症健康危機管理学演習	415061	8562	4	GM-c8562-S
202		研究実習	415062	8563	8	GM-c8563-E
203		医療安全管理学特論	417036	8689	6	GM-c8689-L
204		医療安全管理学演習	417037	8690	4	GM-c8690-S
205		医療安全管理学研究実習	417038	8691	8	GM-c8691-E
206	分野科目	リハビリテーション医学特論	041207	7171	6	GM-c7171-L
207		リハビリテーション医学演習	041208	7172	4	GM-c7172-S
208		研究実習	041209	7173	8	GM-c7173-E
209		高齢者歯科学特論	041210	8441	6	GM-c8441-L
210		高齢者歯科学演習	041211	8442	4	GM-c8442-S
211		研究実習	041212	8443	8	GM-c8443-E
212		摂食嚥下リハビリテーション学特論	041213	5201	6	GM-c5201-L
213		摂食嚥下リハビリテーション学演習	041214	5202	4	GM-c5202-S
214		研究実習	041215	5203	8	GM-c5203-E
215		分野科目	臨床検査医学特論	041216	7181	6
216	臨床検査医学演習		041217	7182	4	GM-c7182-S
217	研究実習		041218	7183	8	GM-c7183-E
218	生体集中管理学特論		041901	5241	6	GM-c5241-L
219	生体集中管理学演習		041902	5242	4	GM-c5242-S
220	研究実習		041903	5243	8	GM-c5243-E
221	臨床医学教育開発学特論		041231	7221	6	GM-c7221-L
222	臨床医学教育開発学演習		041232	7222	4	GM-c7222-S
223	研究実習		041233	7223	8	GM-c7223-E
224	救急災害医学特論		041234	7231	6	GM-c7231-L
225	救急災害医学演習		041235	7232	4	GM-c7232-S
226	研究実習		041236	7233	8	GM-c7233-E
227	臨床腫瘍学Ⅰ特論		417006	7244	6	GM-c7244-L
228	臨床腫瘍学Ⅰ演習		417007	7245	4	GM-c7245-S
229	研究実習		417008	7246	8	GM-c7246-E
230	臨床腫瘍学Ⅱ特論		417009	7247	6	GM-c7247-L
231	臨床腫瘍学Ⅱ演習		417010	7248	4	GM-c7248-S
232	研究実習		417011	7249	8	GM-c7249-E
233	総合診療歯科学特論		041243	8461	6	GM-c8461-L
234	総合診療歯科学演習		041244	8462	4	GM-c8462-S
235	研究実習		041245	8463	8	GM-c8463-E
236	歯科心身医学特論		041246	8471	6	GM-c8471-L
237	歯科心身医学演習		041247	8472	4	GM-c8472-S
238	研究実習		041248	8473	8	GM-c8473-E
239	総合診療医学特論		041255	5181	6	GM-c5181-L
240	総合診療医学演習		041256	5182	4	GM-c5182-S
241	研究実習		041257	5183	8	GM-c5183-E
242	統合臨床感染症学特論		415032	8501	6	GM-c8501-L
243	統合臨床感染症学演習		415033	8502	4	GM-c8502-S
244	研究実習		415034	8503	8	GM-c8503-E
245		神経機能形態学特論	041258	7251	6	GM-c7251-L

博士課程医歯学専攻 開設科目及び修得単位一覧表

No	区分	授業科目名	時間割コード	科目コード	単位数	科目ナンバリング
246	分野科目	神経機能形態学演習	041259	7252	4	GM-c7252-S
247		研究実習	041260	7253	8	GM-c7253-E
248		薬理学特論	417054	8721	6	GM-c8721-L
249		薬理学演習	417055	8722	4	GM-c8722-S
250		研究実習	417056	8723	8	GM-c8723-E
251		細胞動態学特論	417042	7041	6	GM-c7042-L
252		細胞動態学演習	417043	7042	4	GM-c7043-S
253		細胞動態学研究実習	417044	7043	8	GM-c7044-E
254		眼科学特論	041273	7301	6	GM-c7301-L
255		眼科学演習	041274	7302	4	GM-c7302-S
256		研究実習	041275	7303	8	GM-c7303-E
257		耳鼻咽喉科学特論	041276	7311	6	GM-c7311-L
258		耳鼻咽喉科学演習	041277	7312	4	GM-c7312-S
259		研究実習	041278	7313	8	GM-c7313-E
260		脳神経病態学特論	041279	7321	6	GM-c7321-L
261		脳神経病態学演習	041280	7322	4	GM-c7322-S
262		研究実習	041281	7323	8	GM-c7323-E
263		精神行動医科学Ⅰ特論	041282	7331	6	GM-c7331-L
264		精神行動医科学Ⅰ演習	041283	7332	4	GM-c7332-S
265		研究実習	041284	7333	8	GM-c7333-E
266		精神行動医科学Ⅱ特論	041285	5021	6	GM-c5021-L
267		精神行動医科学Ⅱ演習	041286	5022	4	GM-c5022-S
268		研究実習	041287	5023	8	GM-c5023-E
269		精神行動医科学Ⅲ特論	041904	5251	6	GM-c5251-L
270		精神行動医科学Ⅲ演習	041905	5252	4	GM-c5252-S
271		研究実習	041906	5253	8	GM-c5253-E
272		統合ストレス医科学特論	417048	7854	6	GM-c7854-L
273		統合ストレス医科学演習	417049	7855	4	GM-c7855-S
274		研究実習	417050	7856	8	GM-c7856-E
275		血管内治療学特論	041291	7351	6	GM-c7351-L
276		血管内治療学演習	041292	7352	4	GM-c7352-S
277		研究実習	041293	7353	8	GM-c7353-E
278		NCNP脳機能病態学特論	041294	9011	6	GM-c9011-L
279		NCNP脳機能病態学演習	041295	9012	4	GM-c9012-S
280		研究実習	041296	9013	8	GM-c9013-E
281		マテリアル神経科学特論	417027	7994	6	GM-c7994-L
282		マテリアル神経科学演習	417028	7995	4	GM-c7995-S
283	マテリアル神経科学研究実習	417029	7996	8	GM-c7996-E	
284	分野科目	免疫学特論	415081	8641	6	GM-c8641-L
285		免疫学演習	415082	8642	4	GM-c8642-S
286		研究実習	415083	8643	8	GM-c8643-E
287		ウイルス制御学特論	041300	7371	6	GM-c7371-L
288		ウイルス制御学演習	041301	7372	4	GM-c7372-S
289		研究実習	041302	7373	8	GM-c7373-E
290		生体防御学特論	041309	7401	6	GM-c7401-L
291		生体防御学演習	041310	7402	4	GM-c7402-S
292		研究実習	041311	7403	8	GM-c7403-E
293		免疫制御学特論	417012	8683	6	GM-c7411-L
294		免疫制御学演習	417013	8684	4	GM-c7412-S
295		研究実習	417014	8685	8	GM-c7413-E
296		脂質生物学特論	041315	5101	6	GM-c5101-L
297		脂質生物学演習	041316	5102	4	GM-c5102-S
298		研究実習	041317	5103	8	GM-c5103-E
299		発生発達病態学特論	041318	7441	6	GM-c7441-L
300		発生発達病態学演習	041319	7442	4	GM-c7442-S
301		研究実習	041320	7443	8	GM-c7443-E
302		膠原病・リウマチ内科学特論	041321	7451	6	GM-c7451-L
303		膠原病・リウマチ内科学演習	041322	7452	4	GM-c7452-S
304		研究実習	041323	7453	8	GM-c7453-E
305		皮膚科学特論	041324	7461	6	GM-c7461-L
306		皮膚科学演習	041325	7462	4	GM-c7462-S
307		研究実習	041326	7463	8	GM-c7463-E

博士課程医歯学専攻 開設科目及び修得単位一覧表

No	区分	授業科目名	時間割コード	科目コード	単位数	科目ナンバリング
308		NCCHD成育医学特論	041327	9031	6	GM-c9031-L
309		NCCHD成育医学演習	041328	9032	4	GM-c9032-S
310		研究実習	041329	9033	8	GM-c9033-E
311		ハイリスク感染症研究マネジメント学特論	415093	8674	6	GM-c8674-L
312		ハイリスク感染症研究マネジメント学演習	415094	8675	4	GM-c8675-S
313		ハイリスク感染症研究マネジメント学研究実習	415095	8676	8	GM-c8676-E
314		人体病理学特論	041330	7471	6	GM-c7471-L
315		人体病理学演習	041331	7472	4	GM-c7472-S
316		研究実習	041332	7473	8	GM-c7473-E
317		細胞生理学特論	041333	7481	6	GM-c7481-L
318		細胞生理学演習	041334	7482	4	GM-c7482-S
319		研究実習	041335	7483	8	GM-c7483-E
320		統合生理学特論	417057	8731	6	GM-c8731-L
321		統合生理学演習	417058	8732	4	GM-c8732-S
322		研究実習	417059	8733	8	GM-c8733-E
323		統合呼吸器病学特論	041351	7581	6	GM-c7581-L
324		統合呼吸器病学演習	041352	7582	4	GM-c7582-S
325		研究実習	041353	7583	8	GM-c7583-E
326		消化器病態学Ⅰ特論	041354	7591	6	GM-c7591-L
327		消化器病態学Ⅰ演習	041355	7592	4	GM-c7592-S
328		研究実習	041356	7593	8	GM-c7593-E
329		消化器病態学Ⅱ特論	417039	7761	6	GM-c7761-L
330		消化器病態学Ⅱ演習	417040	7762	4	GM-c7762-S
331		研究実習	417041	7763	8	GM-c7763-E
332		総合外科学特論Ⅰ(総合外科学担当)	041357	7601	6	GM-c7601-L
333		総合外科学演習Ⅰ(総合外科学担当)	041358	7602	4	GM-c7602-S
334		研究実習Ⅰ(総合外科学担当)	041359	7603	8	GM-c7603-E
335		総合外科学特論Ⅱ(小児外科学担当)	415099	8680	6	GM-c8680-L
336		総合外科学演習Ⅱ(小児外科学担当)	415100	8681	4	GM-c8681-S
337		研究実習Ⅱ(小児外科学担当)	415101	8682	8	GM-c8682-E
338		循環制御内科学特論	041360	7611	6	GM-c7611-L
339		循環制御内科学演習	041361	7612	4	GM-c7612-S
340		研究実習	041362	7613	8	GM-c7613-E
341	分野科目	心肺統御麻酔学Ⅰ特論	415072	8611	6	GM-c8611-L
342		心肺統御麻酔学Ⅰ演習	415073	8612	4	GM-c8612-S
343		研究実習	415074	8613	8	GM-c8613-E
344		心肺統御麻酔学Ⅱ特論	415075	8621	6	GM-c8621-L
345		心肺統御麻酔学Ⅱ演習	415076	8622	4	GM-c8622-S
346		研究実習	415077	8623	8	GM-c8623-E
347		心臓血管外科学Ⅰ特論	041369	7631	6	GM-c7631-L
348		心臓血管外科学Ⅰ演習	041370	7632	4	GM-c7632-S
349		研究実習	041371	7633	8	GM-c7633-E
350		心臓血管外科学Ⅱ特論	415096	8677	6	GM-c8677-L
351		心臓血管外科学Ⅱ演習	415097	8678	4	GM-c8678-S
352		研究実習	415098	8679	8	GM-c8679-E
353		腎臓内科学特論	041372	7641	6	GM-c7641-L
354		腎臓内科学演習	041373	7642	4	GM-c7642-S
355		研究実習	041374	7643	8	GM-c7643-E
356		生殖機能協関学特論	041375	7651	6	GM-c7651-L
357		生殖機能協関学演習	041376	7652	4	GM-c7652-S
358		研究実習	041377	7653	8	GM-c7653-E
359		腎泌尿器外科学特論	041378	7661	6	GM-c7661-L
360		腎泌尿器外科学演習	041379	7662	4	GM-c7662-S
361		研究実習	041380	7663	8	GM-c7663-E
362		消化管外科学特論	041381	7671	6	GM-c7671-L
363		消化管外科学演習	041382	7672	4	GM-c7672-S
364		研究実習	041383	7673	8	GM-c7673-E
365		都医学研疾患分子生物学特論	041387	9021	6	GM-c9021-L
366		都医学研疾患分子生物学演習	041388	9022	4	GM-c9022-S
367		研究実習	041389	9023	8	GM-c9023-E
368		臨床解剖学特論	041390	7691	6	GM-c7691-L
369		臨床解剖学演習	041391	7692	4	GM-c7692-S

博士課程医歯学専攻 開設科目及び修得単位一覧表

No	区分	授業科目名	時間割コード	科目コード	単位数	科目ナンバリング
370		研究実習	041392	7693	8	GM-c7693-E
371		システム発生・再生医学特論	041393	7701	6	GM-c7701-L
372		システム発生・再生医学演習	041394	7702	4	GM-c7702-S
373		研究実習	041395	7703	8	GM-c7703-E
374		包括病理学特論	041396	7711	6	GM-c7711-L
375		包括病理学演習	041397	7712	4	GM-c7712-S
376		研究実習	041398	7713	8	GM-c7713-E
377		分子腫瘍医学特論	041399	7721	6	GM-c7721-L
378		分子腫瘍医学演習	041400	7722	4	GM-c7722-S
379		研究実習	041401	7723	8	GM-c7723-E
380		疾患モデル動物解析学特論	041405	7741	6	GM-c7741-L
381		疾患モデル動物解析学演習	041406	7742	4	GM-c7742-S
382		研究実習	041407	7743	8	GM-c7743-E
383		診断治療システム医工学特論	417060	8741	6	GM-c8741-L
384		診断治療システム医工学演習	417061	8742	4	GM-c8742-S
385		研究実習	417062	8743	8	GM-c8743-E
386		血液内科学特論	415035	7891	6	GM-c5311-L
387		血液内科学演習	415036	7892	4	GM-c5312-S
388		研究実習	415037	7893	8	GM-c5313-E
389		分子内分泌代謝学特論	041435	7901	6	GM-c7901-L
390		分子内分泌代謝学演習	041436	7902	4	GM-c7902-S
391		研究実習	041437	7903	8	GM-c7903-E
392		肝胆膵外科学特論	041438	7911	6	GM-c7911-L
393		肝胆膵外科学演習	041439	7912	4	GM-c7912-S
394		研究実習	041440	7913	8	GM-c7913-E
395		整形外科学特論	041441	7921	6	GM-c7921-L
396		整形外科学演習	041442	7922	4	GM-c7922-S
397		研究実習	041443	7923	8	GM-c7923-E
398		画像診断・核医学特論	041444	7931	6	GM-c7931-L
399		画像診断・核医学演習	041445	7932	4	GM-c7932-S
400		研究実習	041446	7933	8	GM-c7933-E
401		ゲノム機能多様性特論	041447	5211	6	GM-c5231-L
402		ゲノム機能多様性演習	041448	5212	4	GM-c5232-S
403	分野科目	研究実習	041449	5213	8	GM-c5233-E
404		疾患多様性遺伝学特論	041450	7991	6	GM-c7991-L
405		疾患多様性遺伝学演習	041451	7992	4	GM-c7992-S
406		研究実習	041452	7993	8	GM-c7993-E
407		応用再生医学特論	041453	7001	6	GM-c7001-L
408		応用再生医学演習	041454	7002	4	GM-c7002-S
409		研究実習	041455	7003	8	GM-c7003-E
410		計算システム生物学特論	415087	8661	6	GM-c8661-L
411		計算システム生物学演習	415088	8662	4	GM-c8662-S
412		研究実習	415089	8663	8	GM-c8663-E
413		創薬化学特論	417063	8751	6	GM-c8751-L
414		創薬化学演習	417064	8752	4	GM-c8752-S
415		研究実習	417065	8753	8	GM-c8753-E
416		JFCR腫瘍制御学特論	041456	9041	6	GM-c9041-L
417		JFCR腫瘍制御学演習	041457	9042	4	GM-c9042-S
418		研究実習	041458	9043	8	GM-c9043-E
419		ゲノム健康医療学特論	041465	5121	6	GM-c5121-L
420		ゲノム健康医療学演習	041466	5122	4	GM-c5122-S
421		研究実習	041467	5123	8	GM-c5123-E

博士課程医歯学専攻 開設科目及び修得単位一覧表

No	区分	授業科目名	時間割コード	科目コード	単位数	科目ナンバリング
422		器官発生・創生学特論	041468	5221	6	GM-c5231-L
423		器官発生・創生学演習	041469	5222	4	GM-c5232-S
424		研究実習	041470	5223	8	GM-c5233-E
425		統合データ科学特論	041501	5224	6	GM-c5224-L
426		統合データ科学演習	415002	5225	4	GM-c5225-S
427		研究実習	415003	5226	8	GM-c5226-E
428		生物統計学特論	415004	5227	6	GM-c5227-L
429		生物統計学演習	415005	5228	4	GM-c5228-S
430		研究実習	415006	5229	8	GM-c5229-E
431		AIシステム医科学特論	415038	5331	6	GM-c5331-L
432		AIシステム医科学演習	415039	5332	4	GM-c5332-S
433		研究実習	415040	5333	8	GM-c5333-E
434		神経免疫学特論	415084	8651	6	GM-c8651-L
435		神経免疫学演習	415085	8652	4	GM-c8652-S
436		研究実習	415086	8653	8	GM-c8653-E
437		NIID統合微生物学特論	417030	8686	6	GM-c8686-L
438		NIID統合微生物学演習	417031	8687	4	GM-c8687-S
439		NIID統合微生物学研究実習	417032	8688	8	GM-c8688-E

※1

専攻共通科目は、一部科目を除き四大学未来共創連合に基づく相互履修対象科目です。

本専攻履修者がいない場合は、開講しないこともあります。

なお、履修希望者多数の場合は、東京科学大学の学生が優先され、履修が認められないことがあります。

また、専攻共通科目以外は、四大学未来共創連合に基づく相互履修対象科目ではありません。

「授業科目履修希望申告書」を提出しても当該科目の履修は認められません。

各科目の授業内容等について

各科目のシラバス、時間割は、[ドリームキャンパス](#)で確認してください。

14ページ目以降に科目の一覧がございますので、科目名もしくは時間割コードでご検索いただけましたら該当の科目の内容をご確認いただけます。

※上記リンクから遷移できない場合は以下 URL で検索してご確認ください。

<https://yushima2.tmd.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx>

4. 専攻共通科目授業内容

時間割番号	041001			科目ID	
科目名	初期研究研修			科目ID	
担当教員					
開講時期	2026 年度前期	対象年次		単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
<p>同じ内容の英語授業を別日程で開講している。</p> <p>本科目を履修される方は、2026 年 4 月 8 日(水)までに以下の登録フォームより申込をすること。</p> <p>【登録フォーム】</p> <p>https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=IbgL9w4edUa-MyJ2PTaIPXan4S81oTVMv6r4VDGRTfhUNkVDMk9TOFBSRU00Q0RaUjNVRkJMNURVUCQIQCNjPTEkJUAdD1n</p> <p>(短縮アドレス)</p> <p>https://forms.office.com/r/gPWQ6uDLL0</p> <p>※登録フォームより申込をただけでは履修登録がされたことにはならない。 履修登録を希望する場合は、必ず別途履修登録手続きをすること。</p> <p>※2024 年度より初期研究研修を受講したことによる「基礎研究 ID および受講証番号」の発行は行わない。 「基礎研究 ID および研究倫理講習会受講証番号」についての詳細及び問い合わせ先は、以下の大学ホームページをご確認ください。 なお、2026 年度版の開講については、順次 info メール等でお知らせがある。</p> <p>home > 研究・連携 > 研究手続き > 研究に必要な講習会案内</p> <p>https://www.tmd.ac.jp/tmd-research/safety/koushoukaiannai/</p>					
授業の目的、概要等					
研究開始に当たり、種々の研究分野における基本的な研究概念や具体的な研究方法の必要知識および研究実施上の注意事項を学習する。					
成績評価の方法					
授業の参加状況と授業中に与えられた課題の達成度(合計 100%、課題の達成度は 50%以内)に基づいて総合的に評価を行う。					
準備学習等についての具体的な指示					
履修上の注意事項					
本科目は日本人学生を対象にしており、留学生は英語で実施される初期研究研修を履修することができる。なお、日本語を十分理解する留学生は本科目を履修することは差支えない。本科目を履修される方は、4/8(水)までに登録フォームより申込をすること。					

時間割番号	041002			科目ID	
科目名	Initial Research Training			科目ID	
担当教員					
開講時期	2026 年度前期	対象年次		単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
<p>同じ内容の英語授業を別日程で開講している。</p> <p>本科目を履修される方は、2026 年 4 月 8 日(水)までに以下の登録フォームより申込をすること。</p> <p>【登録フォーム】</p> <p>https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=Ibgl9w4edUa-MyJ2PTaIPXan4S81oTVMv6r4VDGRTfhUNkVDMk9TOFBSRU00Q0RaUjNVRkJMNURVUCQIQCNjPTEkJUAjdD1n</p> <p>(短縮アドレス)</p> <p>https://forms.office.com/r/gPWQ6uDLL0</p> <p>※登録フォームより申込をただけでは履修登録がされたことにはならない。 履修登録を希望する場合は、必ず別途履修登録手続きをすること。</p> <p>※2024 年度より初期研究研修を受講したことによる「基礎研究 ID および受講証番号」の発行は行わない。 「基礎研究 ID および研究倫理講習会受講証番号」についての詳細及び問い合わせ先は、以下の大学ホームページをご確認ください。 なお、2026 年度版の開講については、順次 info メール等でお知らせがある。</p> <p>home > 研究・連携 > 研究手続き > 研究に必要な講習会案内</p> <p>https://www.tmd.ac.jp/tmd-research/safety/koushoukaiannai/</p>					
授業の目的、概要等					
研究開始に当たり、種々の研究分野における基本的な研究概念や具体的な研究方法の必要知識および研究実施上の注意事項を学習する。					
成績評価の方法					
授業の参加状況と授業中に与えられた課題の達成度(合計 100%、課題の達成度は 50%以内)に基づいて総合的に評価を行う。					
準備学習等についての具体的な指示					
履修上の注意事項					
本科目を履修される方は、4/8(水)までに登録フォームより申込をすること。					

時間割番号	041003			科目ID	
科目名	医歯学総合特論(大学院セミナー)		科目ID		
担当教員					
開講時期	2026 年度通年	対象年次		単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
一部英語で行う					
<p>授業内容</p> <p>毎年3から4のトピックスを選び学内外の専門家による大学院セミナーを開催している。 今年度の予定は次のとおりだが、日程、講演者等については決定次第、Slack やホームページで随時通知する。 ※以下チャンネルで周知をおこなっております。 #an-call-for-participants-参加募集-all https://science-tokyo.enterprise.slack.com/archives/C07CU455VFA</p> <p>各セミナーについての URL は、以下を参照のこと。 https://www.tmdac.jp/faculties/graduate_school/seminar/ を表示後、「2026 年度」をクリックしお進みください。 「これから開催するセミナー・大学院特別講義等」の大学院セミナーと記載のあるセミナーが対象です。</p> <p>大学院セミナーは博士課程授業科目「医歯学総合特論」2単位として認定される。 各講義は本科目の履修に関わらず聴講可能である。</p>					
<p>成績評価の方法</p> <p>科目登録者には出席票を配布する。6回以上出席した出席票を提出した者に単位を認定する。 規程回数以上の出席に加えて医歯学総合特論(大学院セミナー)における積極的な取組姿勢を総合的に勘案して評価する。</p> <p>【出席票について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー終了後、出席票左欄へ、対面の場合は所属分野長より押印いただくこと。 なお、Zoom の場合は押印不要。 ・出席票右欄の医歯学総合特論(大学院セミナー)における積極的な取組姿勢の確認欄へのサインの記入は、医歯学総合特論(大学院セミナー)を主催する分野の教員が行う。 ・単位認定の唯一の根拠となるため、破損・紛失のないよう取り扱いに注意する。紛失した場合、新しい出席票を受け取ることは可能だが、それまでの出席はカウントされない。 ・3年次の1月末日までに学務企画課に提出する。学年を問わず、6回出席した時点で提出して差し支えない。2月以降に出席票を提出した者の単位認定は次年度となる。 					
<p>準備学習等についての具体的な指示</p>					

時間割番号	041004			科目ID	
科目名	医歯学先端研究特論(大学院特別講義)				
担当教員					
開講時期	2026 年度通年	対象年次		単位数	4
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
一部英語で行う					
授業内容 毎年 100 回前後の大学院特別講義を開催している。これは各研究室が取り組んでいるテーマのなかで先端の研究を行っている研究者を招いて講義を行うものである。 今年度の予定は次のとおりだが、日程、会場、講演者等については決定次第、Slack やホームページで随時通知する。 ※以下チャンネルで周知をおこなっております。 #an-call-for-participants-参加募集-all https://science-tokyo.enterprise.slack.com/archives/C07CU455VFA 各大学院特別講義についての URL は、以下を参照のこと。 https://www.tmd.ac.jp/faculties/graduate_school/seminar/ を表示後、「2026 年度」をクリックしお進みください。 「これから開催するセミナー・大学院特別講義等」の特別講義と記載のある講義が対象です。 「大学院特別講義開催予定一覧」もご参照ください。 大学院特別講義は医歯学系専攻博士課程授業科目「医歯学先端研究特論」4単位として認定される。 各講義は本科目の履修に関わらず聴講可能である。					
成績評価の方法 科目登録者には出席票を配布する。3 年間で 30 回以上の出席者が対象になる。 規程回数以上の出席に加えて医歯学先端研究特論(大学院特別講義)における積極的な取組姿勢を総合的に勘案して評価する。 【出席票について】 ・出席ごとに指導教員に報告のうえ、出席票左欄へ認印(サイン)を受ける。 ・出席票右欄の医歯学先端研究特論(大学院特別講義)における積極的な取組姿勢の確認欄へのサインの記入は医歯学先端研究特論(大学院特別講義)を主催する分野の教員が行う。 ・単位認定の唯一の根拠となるため、破損・紛失のないよう取り扱いに注意する。紛失した場合、新しい出席票を受け取ることは可能だが、それまでの出席はカウントされない。 ・3年次の1月末日までに学務企画課に提出する。学年を問わず、30 回出席した時点で提出して差し支えない。2月以降に出席票を提出した者の単位認定は次年度となる					
準備学習等についての具体的な指示					

時間割番号	041005				
科目名	医歯学総合研究科コース特論	科目ID			
担当教員					
開講時期	2026 年度3年通年	対象年次	1～3	単位数	6
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
原則英語で行う/Most of the classes are taught in English					
主な講義場所					
<p>コース授業が行われる講義室は別途掲示板やホームページ等で通知する。</p> <p>3人指導体制による research progress meeting の開催場所は大学院生各自が設定する。</p>					
授業の目的、概要等					
<p>「医歯学総合研究科コース特論」は、コース授業へ参加し、特別講習の受講、3人指導体制による research progress meeting、および基礎系学会への参加によって、基礎・臨床融合型教育研究を習得する。</p>					
授業方法					
<p>・コース授業(1年次)</p> <p>コース授業は講義形式で行われ、講義ごとに出席をとる。</p> <p>出席数が最も多いコースを選択したコースとみなす。</p> <p>・研究発表の基礎の特別講習から5コマをオンデマンドで受ける。</p> <p>・3人指導体制による research progress meeting</p> <p>研究テーマと3名の指導教員を決定後、research progress meeting を開始する。個別に research progress meeting 実施依頼を送付するので、大学院生は自ら3名の指導教員と日程を調整し、research progress meeting を実施してその結果を所定の報告書にまとめ、事務担当者へ提出する。単位認定および研究の進捗状況を把握するデータとする。</p> <p>・3年次終了前に基礎系学会に参加する。</p>					
授業内容					
<p>確定次第、ホームページに掲載します。詳細は入学者ガイダンス資料を確認してください。</p> <p>https://www.tmd.ac.jp/faculties/graduate_school/seminar/2026/</p>					
成績評価の方法					
<p>コース授業への参加と取り組み、特別講習の受講状況、基礎系学会への参加、および research progress meeting の報告書により総合的に評価する。なお、コース授業は1年次の間に出席すること。</p> <p>研究の進捗状況は個々に異なるものであるが、3年次終了時で評価する(長期履修者はこの限りではない)ため、その時点までに2回以上(原則として2年次および3年次に各1回)research progress meeting を実施して報告書を提出することが単位認定の条件となる。</p> <p>各コースの第1回目の授業(日本語、英語それぞれの第1回目)でコース全体のガイダンスおよび単位認定について説明するので出席すること。</p>					
準備学習等についての具体的な指示					
<p>リサーチプログレスミーティングを行うにあたり、特別講習のオンデマンド視聴による学修を生かすこと。</p> <p>コース授業や基礎系学会への参加によって学んだ知識等を自身の研究にどのように活かせるかを検討すること。</p>					
備考					
<p>研究の進捗状況等により research progress meeting を延期する場合は、必ず主指導教員に相談し、相談の上決定した旨と次回の実施時期を事務担当者まで報告すること。学生の判断のみで延期等を決定することは認められない。</p> <p>研究の進捗によって指導教員を変更する場合は、所属分野長より事務担当者への連絡が必要である。</p> <p>research progress meeting は、修了まで継続して実施することができる。</p>					

時間割番号	041006				
科目名	包括臨床演習	科目ID			
担当教員	金澤 学 濱 洋平[KANAZAWA Manabu, HAMA Yohei]				
開講時期	2026 年度4年通年	対象年次	1~4	単位数	8
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
授業内容					
<p>医歯学総合研究科博士課程(歯学系臨床分野)では、臨床に特化した教育を行っている。所属分野が指定する複数の分野の臨床演習を、副専攻分野のコースプログラムとして受講することにより、包括的な臨床知識、技術を習得する演習科目である。本演習の受講に関しては、所属分野長と受講する副専攻分野の分野長、および包括臨床演習責任者の承認が必要となる。日程等については所属分野長、受講する副専攻分野の分野長、および包括臨床演習責任者の合議によって個別に決定する。</p>					
成績評価の方法					
<p>出席状況および臨床ケースプレゼンテーション、口頭試問などによって判定される。</p> <p>1)所属分野長および副専攻分野長から提出される評価報告書、ポートフォリオ、出席状況、プレゼンテーション、口頭試問などによって判定される。</p> <p>2)各年次末(3月)にその年度での達成状況を評価し、次年度の受講の可否を判定する。</p> <p>評価の結果次第では次年度の履修を許可しない。</p> <p>3)単位認定は4年次末とする。在学延長しての履修継続は認めない。</p>					
準備学習等についての具体的な指示					
備考					
<p>単位認定が4年次末であることから、単位が修得できなかった場合、改めて別科目を履修することができない。本科目を含めずに30単位以上科目登録すること。</p>					
連絡先(メールアドレス)					
<p>金澤 学:m.kanazawa.gerd@tmd.ac.jp 濱 洋平:y.hama.gerd@tmd.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>金澤 学:火-金, 16:00- 18:00 1号館3階 高齢者歯科学分野学分野 Lab9 濱 洋平:月、火、木、金 18時以降 一号館東2F 高齢者歯科学学分野 第6研究室 (メールまたは TEAMS で連絡ください)</p>					

時間割番号	416001																																																	
科目名	Essential Expertise for Clinical Dentistry (EECD)			科目ID																																														
担当教員	關 奈央子, 金澤 学, 駒田 亘, 駒ヶ嶺 友梨子, 水谷 幸嗣, 米満 郁男, 前川 祥吾, 田澤 建人, 畑山 貴志, 金森 ゆうな, 服部 麻里子, 村瀬 舞, 永田 瑞, 牧 圭一郎, 原口 美穂子, 大石 晋也, 平野 恵子, 保坂 啓一, 矢野 孝星, Richard Foxton, 畑山 貴志, 保坂 啓一[SEKI Naoko, KANAZAWA Manabu, KOMADA Wataru, KOMAGAMINE Yuriko, MIZUTANI Koji, YONEMITSU Ikuo, MAEKAWA Shogo, TAZAWA Kento, HATAYAMA Takashi, KANAMORI Yuna, HATTORI Mariko, MURASE Mai, NAGATA Mizuki, MAKI Keiichiro, HARAGUCHI Mihoko, OISHI Shinya, HIRANO Keiko, HOSAKA Keiichi, YANO Kosei, Richard Foxton, HATAYAMA Takashi, HOSAKA Keiichi]																																																	
開講時期	2026 年度通年	対象年次	1~4	単位数	1																																													
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面																																													
全て英語で行う																																																		
主な講義場所 7号館3階実習室1(旧補綴実習室)、7号館5階実習室3(旧保存・矯正実習室)																																																		
授業の目的、概要等 先端的な歯科医療・歯学教育・研究を包括した歯学知識と技術を実習形式で習得する。本実習にて臨床技術のスキルアップを目指す。3時間の実習を10回と、90分の症例検討会を予定している。																																																		
授業の到達目標 ・先端的な歯科診療の知識・技術を習得し、応用できる。 ・先端的な歯科診療について討論できる。																																																		
授業計画 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>8/27</td> <td>17:00-20:00</td> <td>7号館3階歯学科実習室1</td> <td>金澤 学, 駒ヶ嶺 友梨子</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>8/28</td> <td>17:00-20:00</td> <td>7号館5階歯学科実習室3</td> <td>服部 麻里子, 原口 美穂子, 村瀬 舞</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>8/31</td> <td>17:00-20:00</td> <td>7号館5階歯学科実習室3</td> <td>田澤 建人, 牧 圭一郎, 平野 恵子</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>9/1</td> <td>17:00-20:00</td> <td>7号館5階歯学科実習室3</td> <td>水谷 幸嗣, 前川 祥吾, 矢野 孝星, 永田 瑞</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>9/3</td> <td>17:00-20:00</td> <td>7号館5階歯学科実習室3</td> <td>畑山 貴志</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>11/30</td> <td>17:00-20:00</td> <td>7号館3階歯学科実習室1</td> <td>駒ヶ嶺 友梨子, 金澤 学</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>12/3</td> <td>17:00-20:00</td> <td>7号館5階歯学科実習室3</td> <td>水谷 幸嗣, 前川 祥吾, 永田 瑞, 矢野 孝星</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>12/4</td> <td>17:00-20:00</td> <td>7号館5</td> <td>駒田 亘 大</td> </tr> </tbody> </table>						回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	8/27	17:00-20:00	7号館3階歯学科実習室1	金澤 学, 駒ヶ嶺 友梨子	2	8/28	17:00-20:00	7号館5階歯学科実習室3	服部 麻里子, 原口 美穂子, 村瀬 舞	3	8/31	17:00-20:00	7号館5階歯学科実習室3	田澤 建人, 牧 圭一郎, 平野 恵子	4	9/1	17:00-20:00	7号館5階歯学科実習室3	水谷 幸嗣, 前川 祥吾, 矢野 孝星, 永田 瑞	5	9/3	17:00-20:00	7号館5階歯学科実習室3	畑山 貴志	6	11/30	17:00-20:00	7号館3階歯学科実習室1	駒ヶ嶺 友梨子, 金澤 学	7	12/3	17:00-20:00	7号館5階歯学科実習室3	水谷 幸嗣, 前川 祥吾, 永田 瑞, 矢野 孝星	8	12/4	17:00-20:00	7号館5	駒田 亘 大
回	日付	時刻	講義室	担当教員																																														
1	8/27	17:00-20:00	7号館3階歯学科実習室1	金澤 学, 駒ヶ嶺 友梨子																																														
2	8/28	17:00-20:00	7号館5階歯学科実習室3	服部 麻里子, 原口 美穂子, 村瀬 舞																																														
3	8/31	17:00-20:00	7号館5階歯学科実習室3	田澤 建人, 牧 圭一郎, 平野 恵子																																														
4	9/1	17:00-20:00	7号館5階歯学科実習室3	水谷 幸嗣, 前川 祥吾, 矢野 孝星, 永田 瑞																																														
5	9/3	17:00-20:00	7号館5階歯学科実習室3	畑山 貴志																																														
6	11/30	17:00-20:00	7号館3階歯学科実習室1	駒ヶ嶺 友梨子, 金澤 学																																														
7	12/3	17:00-20:00	7号館5階歯学科実習室3	水谷 幸嗣, 前川 祥吾, 永田 瑞, 矢野 孝星																																														
8	12/4	17:00-20:00	7号館5	駒田 亘 大																																														

			階歯学科 実習室 3	石 晋也
9	12/7	17:00-20:00	7号館 5 階歯学科 実習室 3	畑山 貴志 保坂 啓一
10	12/8	16:00-19:00	7号館 5 階歯学科 実習室 3	米満 郁男
11	12/9	18:30-20:00	遠隔授業 (同期型)	金澤 学, 關 奈央子, 駒田 亘, 駒ヶ嶺 友 梨子, 水谷 幸嗣, 前川 祥吾, 畑山 貴志, 永田 瑞, 米満 郁 男, 矢野 孝 星, 保坂 啓 一, Richard F oxton, 金森 ゆうな

授業方法

実習形式。参加者との意見交換を自由に行えるようにする。

成績評価の方法

参加状況、発表・発言等の積極性、実習成果等を総合的に判断し授業の到達目標の達成度を評価する。正当な理由なく欠席した場合には不合格とする。

準備学習等についての具体的な指示

事前準備教材等ある場合、事前に連絡することとする。また提出等締め切りがある場合それを厳守すること。

参考書

必要に応じて提示する。

履修上の注意事項

・歯科大学を卒業した者のみ履修できる。 ・すべての日程に参加できる予定の者のみ履修登録すること。

備考

・履修者の上限は20～25名程度を想定しており、上限を超える履修登録があった場合には、受講者を選抜する。履修不可学生には別途連絡する。

連絡先(メールアドレス)

關 奈央子:seki.n.03df@misc.ac.jp
 前川 祥吾:maekawa.peri@tmd.ac.jp
 畑山 貴志:060371ds@gmail.com
 金森 ゆうな:kanamori.ope@tmd.ac.jp
 永田 瑞:nagata.peri@tmd.ac.jp
 服部 麻里子:sasamfp@tmd.ac.jp
 駒田 亘:w.komada.fpro@tmd.ac.jp
 金澤 学:m.kanazawa.gerd@tmd.ac.jp
 保坂 啓一:hosaka.ope@tmd.ac.jp
 水谷 幸嗣:mizutani.peri@tmd.ac.jp
 田澤 建人:kenendo@tmd.ac.jp

オフィスアワー

關 奈央子:毎週月曜日 15:00 - 16:00 M&D タワー7階 教員室
前川 祥吾:毎週月、火、木、金曜日 PM.17:00-18:00 10号棟7階第3研究室
永田 瑞:10号館7階 歯周病学分野医局 随時
服部 麻里子:随時(teams か slack のメッセージにて面談の日程を調整すること)D棟11階生体補綴歯科学分野第3研究室
駒田 亘:随時
金澤 学:火-金, 16:00- 18:00
1号館3階 高齢者歯科学分野学分野 Lab9
保坂 啓一:月・火・木・金 17:00以降 水 18:00以降
水谷 幸嗣:D棟11階 総合診療歯科学分野研究室
田澤 建人:毎週月～金曜日(火曜は除く) AM.9:00-PM.5:00 歯科棟北10階 第4研究室

時間割番号	041007				
科目名	疾患予防パブリックヘルス医学概論			科目ID	
担当教員	石野 智子, 藤原 武男, 具 芳明, 瀬川 勝盛, 白銀 勇太, 那波 伸敏, 秋田 恵一, 中村 桂子[SHINO Tomoko, FUJIWARA Takeo, GU Yoshiaki, SEGAWA Katsumori, SHIROGANE Yuta, NAWA Nobutoshi, AKITA Keiichi, NAKAMURA Keiko]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	1~3	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
全てを英語で行う					
主な講義場所					
講義室(後日連絡)または ZOOM(Web 遠隔講義システム)で実施する。ZOOM 講義受講に必要な ID 及びパスワードは履修登録者にメールにて通知する。 参加型授業のためリアルタイムでの授業参加を原則とする。					
授業の目的、概要等					
疾患予防の研究、データサイエンス医学、実装医科学、診療、地域実践、政策領域で国際的にリーダーシップを発揮することを目指す人材が、国際的な疾病状況をふまえた上での疾患予防、データサイエンス医学、実装医科学に関わるパブリックヘルス医学の知識、技術を修得し、疾患予防の幅広い領域の研究教育、実務に携わる基本能力を獲得することを目的とする。「データサイエンスで世界をつなぐ感染症研究リーダー育成プログラム」(医系)「データサイエンス生命科学国際人材育成プログラム」(生命理工医療科学系)参加学生の必修科目である。					
授業の到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・疾患予防におけるパブリックヘルスの概念を説明できる ・データサイエンスの手法による基礎医学、臨床医学、社会医学の研究開発について説明できる ・実装科学の理論による医学研究の展開について説明できる ・疾患予防の医学研究について説明できる ・国際医学研究における倫理的事項を説明できる ・疾患予防に関わる国境を越えた課題を説明できる ・医学研究の歴史について説明できる ・医学教育医学研究におけるリーダーシップについて説明できる 					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	11/6	16:00-19:10	大学院講義室 2	熱帯病予防	石野 智子
2	11/12	08:50-12:15	ライブ	Life-course epidemiology	藤原 武男
3	11/17	16:00-19:10	大学院講義室 2	感染症予防	具 芳明
4	12/1	16:00-19:10	大学院講義室 2	Recent advances in medical research	瀬川 勝盛
5	12/3	16:00-19:10	大学院講義室 2	ウイルス感染症概論	白銀 勇太
6	12/8	16:00-19:10	大学院講義室 1	日本における外国にルーツを持つ方の医療アクセスの課題	那波 伸敏
7	1/12	16:00-19:10	ライブ	解剖学の歴史と献体	秋田 恵一
8	1/19	16:00-19:10	大学院講義室 2	プラネタリーヘルス	中村 桂子
授業方法					
授業は英語で行う。 講義、グループディスカッション、チームプロジェクトの形式で行う。					

<p>外国人学生、日本人学生が同じ授業に参加する。 医歯学、生命理工医療科学の学生が同じ授業で学習する。 同期型授業であり、原則として、授業時間に参加することが必要である。</p>
<p>授業内容 別表のとおり</p>
<p>成績評価の方法 授業への参加状況、グループワークにおける参加状況、およびレポートに基づいて総合的に評価を行う。</p>
<p>成績評価の基準 授業への参加状況、グループワークにおける参加状況、およびレポートに基づいて総合的に評価を行う。</p>
<p>準備学習等についての具体的な指示 事前に教材を配布された場合は、指示に従い十分な学習を行うこと。</p>
<p>参考書 必要に応じて授業中に提示する。</p>
<p>履修上の注意事項 「データサイエンスで世界をつなぐ感染症研究リーダー育成プログラム」(医学系)の必修科目であり、同プログラムの選考により入学した学生(医系)は、必ず履修が必要です。「データサイエンス生命科学研究国際人材育成プログラム」(生命理工医療科学系)の必修科目であり、同プログラムの選考により入学した学生は、必ず履修が必要です。医歯学(博士課程)、生命理工医療科学(博士課程)、その他の一般選考で入学した学生においても、本科目を選択することが可能です。本科目は同期型授業で、授業時間に参加することが原則であるが、特別な理由があり授業時間に対面で参加できない場合は、オンラインで受講するか、録画ビデオを視聴してレポートを提出することで、授業参加とみなされることがある。その場合は、教務第1グループ(grad01@ml.tmd.ac.jp)に事前に報告し、科目責任者(石野教授:tishino.vip@tmd.ac.jp)の許可を得る必要がある。レポートの提出期限は2027年1月31日。</p>
<p>備考 日本人学生、留学生が参加し、疾病予防に関わるテーマについて英語による授業を行います。疾患予防のグローバルリーダー育成、データサイエンス医学研究国際人材育成、グローバルヘルス医科学研究国際人材育成の一環として位置づけています。</p>

時間割番号	041008				
科目名	マネジメント特論	科目ID	GC-c6331-L		
担当教員	竹内 勝之, 板越 正彦, 今村 健, 吉野 宏志[TAKEUCHI Katsuyuki, ITAGOSHI Masahiko, IMAMURA Ken, YOSHINO Hiroshi]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
同じ内容の英語授業を別日程で開講している。					
主な講義場所					
授業スケジュールを参照					
授業の目的、概要等					
授業目的: マネジメントスキル(プロジェクトマネジメント、キャリアマネジメント、ビジネスコミュニケーション等)の基礎知識・スキルを習得し、日々の医療活動や研究活動等に実践できるようトレーニングする。 概要: 将来、医療人・研究者・企業人として活躍するうえで必要なマネジメントスキルのうち、特に、プロジェクトマネジメント、キャリアマネジメント、ビジネスコミュニケーションを中心に解説する。					
授業の到達目標					
マネジメントスキルのエッセンスを理解し、日々の医療活動や研究活動に活かせるよう基本的なスキルを修得する。					
授業方法					
マネジメントスキルのエッセンス(知識)は講義を通じて習得し、実践的なスキルはワークショップを通じて習得する。					
授業内容					
授業日程について決定次第履修登録者へアナウンスする。					
成績評価の方法					
講義への出席 70%、議論などの発言内容 30%					
準備学習等についての具体的な指示					
なし					
連絡先(メールアドレス)					
竹内 勝之:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
オフィスアワー					
竹内 勝之:随時。但し事前にメールで予約。 問合せ先 医療・創薬イノベーション教育開発機構 竹内勝之 E-mail:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					

時間割番号	041009				
科目名	マネジメント特論(英語)	科目ID	GC-c6331-L		
担当教員	竹内 勝之, 板越 正彦, 吉野 宏志[TAKEUCHI Katsuyuki, ITAGOSHI Masahiko, YOSHINO Hiroshi]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
Availability in English: All classes are taught in English.					
授業の目的、概要等					
Course Purpose: Students will acquire a set of basic knowledge and skills of management (project management, career management, business communication, and so on) and will get training so that they apply it to daily medical and research activities.					
Outline: The course provides lectures explaining management skills necessary for students to make success in the medical, research or business world in the future, focusing mainly on project management, career management, and business communication.					
授業の到達目標					
Students will understand the essence of management skills and acquire basic skills so that they apply it to daily medical and research activities.					
授業方法					
Lectures on the essence of management skills, and workshops for practical skills.					
授業内容					
The course schedule will be announced to the course registrants as soon as it is decided.					
成績評価の方法					
Participation (70%) and discussion and attitude (30%).					
準備学習等についての具体的な指示					
None.					
連絡先(メールアドレス)					
竹内 勝之:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
オフィスアワー					
竹内 勝之:随時。但し事前にメールで予約。 問合せ先 医療・創薬イノベーション教育開発機構 竹内勝之 E-mail:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					

時間割番号	041012				
科目名	知的財産特論	科目ID	GC-c6351-L		
担当教員	竹内 勝之, 杉光 一成, 川瀬 真, 平井 佑希[TAKEUCHI Katsuyuki, SUGIMITSU Kazunari, KAWASE Makoto, HIRAI Yuki]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
全て日本語で行う。					
主な講義場所 授業スケジュールを参照					
授業の目的、概要等 授業目的: 研究活動やビジネス等に従事するうえで必要不可欠となる知的財産の基礎知識を習得する。 概要: 特許、著作権など研究開発やビジネスの場面で必要になる知的財産のエッセンスを講義する。また、研究開発やビジネスにおける知的財産戦略のケーススタディを行い、知的財産に対する理解を深める。					
授業の到達目標 「特許」「著作権」に関する基礎知識の習得、特許調査に関する基礎的スキルの習得を目標とする。					
授業方法 知的財産に関する基礎知識を講義するとともに、実習やケーススタディを通じて理解を深める。					
授業内容 授業日程について決定次第履修登録者へアナウンスする。					
成績評価の方法 講義への参加 70%、議論などの発言内容 30%					
準備学習等についての具体的な指示 なし。					
連絡先(メールアドレス) 竹内 勝之: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
オフィスアワー 竹内 勝之: 随時。但し事前にメールで予約。 問合せ先 医療・創薬イノベーション教育開発機構 竹内勝之 E-mail: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					

時間割番号	041015				
科目名	疾患生命科学特論			科目ID	GC-c6426-L
担当教員	二階堂 愛, 笹川 洋平, 後藤 利保, 仁科 博史, 小藤 智史, 松田 憲之, 瀬川 勝盛[NIKAIDO Itoshi, SASAGAWA Yohei, GOTO Toshiyasu, NISHINA Hiroshi, KOFUJI Satoshi, MATSUDA Noriyuki, SEGAWA Katsumori]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	1~	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
留学生が履修登録した場合は英語で行う					
主な講義場所 オンライン (Zoom)でのオンライン講義、あるいは、動画によるオンデマンド講義					
授業の目的、概要等 授業目的:疾患生命科学の基礎であるゲノミクス、エピジェネティクス、バイオインフォマティクス、免疫学から、応用として生活習慣病や腫瘍医学までの最新の知識を学び、論理的な思考の習得を目標とする。 概要:ヒトやマウスなどのモデル動物にみられる様々な高次生命現象や疾患を紹介し、解明されている分子メカニズムの紹介を行う。					
授業の到達目標 生物学、基礎医学から疾患医学までの最新の知見を広く理解する。					
授業方法 ゼミ形式で教員による講義と全体で討議、レポート執筆を行うことにより学習を深める。					
成績評価の方法 授業の参加状況(80%)及びレポート(20%)に基づいて総合的に評価を行う。					
準備学習等についての具体的な指示 初回授業のガイダンスならびに各授業において必要に応じて指示する。					
試験の受験資格 講義出席75%以上					
参考書 Molecular cell biology/Harvey Lodish ... [et al.],Lodish, Harvey F.,:W.H. Freeman, 2016 Epigenetics/C. David Allis, Marie-Laure Caparros, Thomas Jenuwein, Danny Reinberg, editors ; Monika Lachner, associate editor,Allis, C. David,Caparros, Marie-Laure,Jenuwein, Thomas,Reinberg, Danny,Lachner, Monika,: Cold Spring Harbor Laboratory Press, 2015 エッセンシャル免疫学/ピーター・パーラム著,Parham, Peter,笹月, 健彦,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2016 ゲノム : 生命情報システムとしての理解/T.A. ブラウン著,Brown, T. A. (Terence Austen),石川, 冬木,中山, 潤一,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2018 “The immune system” (Third edition),Peter Parham, Garland Science Molecular Cell Biology Eighth Edition, Harvey Lodish et al, ISBN-13: 978-1-4641-8339-3 Genome 4, Garland Science, 978-0815345084					

時間割番号	041016			科目ID	GC-c6427-L
科目名	先端機能分子特論				
担当教員	伊藤 幸裕, 吉岡 広大[ITOU Yukihiko, YOSHIOKA Hiromasa]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
授業の目的、概要等					
<p>授業目的: 生命科学、分析化学、有機化学、材料科学などの分野で用いられている機能性分子の基礎知識を習得し、その応用研究について理解を深める。</p> <p>概要: 機能性分子の開発とその機能解析に必要な基礎的手法を講義し、機能性分子を用いた最新の研究成果をもとに講義ならびに討論をする。</p>					
授業の到達目標					
<p>化学は、物質を対象として、分子、原子レベルでその性質を理解し、制御する学問分野であり、ナノテクノロジー、ケミカルバイオロジーといった、様々な分野との複合領域研究が行われている。このような研究分野の鍵となる機能性分子を用いた、最先端の研究動向について教育する。</p>					
授業方法					
ゼミ形式で教員による講義、履修生によるプレゼンテーションを行い、全体で討議を行うことにより学習を深める。					
授業内容					
別表					
成績評価の方法					
授業の参加状況(50%)及び機能性分子を用いた研究に関するプレゼンテーションやレポート(50%)に基づいて総合的に評価を行う。					
準備学習等についての具体的な指示					
有機化学、生化学の復習、もしくは次項に示した書籍等による予習をしておくが良い。					
参考書					
最新 創薬化学 -探索研究から開発まで(長瀬博、テクノミック)、Chemical Biology(L. Schreiber, T. Kapoor, G. Weiss 編、WILEY-VCH)、ビタミン研究のブレークスルー(日本ビタミン学会編、学振出版)、The Nuclear Receptors FactsBook(Laudet, V & Gronemeyer, H., Academic Press)、生命現象を理解する分子ツール(浜地格、二木史朗編、化学同人)、生体有機化学(橋本祐一、村田道雄編、東京化学同人)					
連絡先(メールアドレス)					
伊藤 幸裕 itoh.yukihiko@tmd.ac.jp					
オフィスアワー					
伊藤 幸裕 毎週月曜日 PM.2:00-PM.5:00					
駿河台キャンパス 21 号館 3 階 302					

時間割番号	041017				
科目名	機能分子開発技術特論			科目ID	GC-c6428-L
担当教員	細谷 孝充, 玉村 啓和, 小早川 拓也, 田口 純平, 辻 耕平, 隅田 有人, 落合 幸太郎[HOSOYA Takamitsu, TAMAMURA Hirokazu, KOBAYAKAWA Takuya, TAGUCHI Jumpei, TSUJI Kohei, SUMIDA Yuto, OCHIAI Kotaro]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
英語による授業. 留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
授業の目的、概要等					
<p>授業目的: 生命科学、分析化学、有機化学、材料科学などの分野で用いられている機能性分子の基礎知識を習得し、その応用研究について理解を深める。</p> <p>概要: 機能性分子の開発とその機能解析に必要な基礎的手法を講義し、機能性分子を用いた最新の研究成果をもとに講義ならびに討論をする。</p>					
授業の到達目標					
<p>化学は、物質を対象として、分子、原子レベルでその性質を理解し、制御する学問分野であり、ナノテクノロジー、ケミカルバイオロジーといった、様々な分野との複合領域研究が行われている。このような研究分野の鍵となる機能性分子を用いた、最先端の研究動向について教育する。</p>					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	5/23	15:00-17:15	1F 第2会議室	機能性分子開発技術 1	細谷 孝充, 隅田 有人, 田口 純平
2	5/30	15:00-17:15	1F 第2会議室	機能性分子開発技術 2	細谷 孝充, 隅田 有人, 田口 純平
3	6/13	15:00-17:15	1F 第2会議室	機能性分子開発技術 3	細谷 孝充, 金本 和也, 田口 純平
4	6/27	15:00-17:15	1F 第2会議室	機能性分子開発技術 4	玉村 啓和, 辻 耕平, 小 早川 拓也
5	7/11	15:00-17:15	1F 第2会議室	機能性分子開発技術 5	伊藤 幸裕, 吉岡 広大
授業方法					
ゼミ形式で教員による講義、履修生によるプレゼンテーションを行い、全体で討議を行うことにより学習を深める。					
授業内容					
別表					
成績評価の方法					
授業の参加状況(50%)及び機能性分子を用いた研究に関するプレゼンテーションやレポート(50%)に基づいて総合的に評価を行う。					
準備学習等についての具体的な指示					
有機化学、生化学の復習、もしくは次項に示した書籍等による予習をしておくが良い。					
参考書					
最新 創薬化学 -探索研究から開発まで(長瀬博、テクノミック)、Chemical Biology(L. Schreiber, T. Kapoor, G. Wess 編、WILEY-VCH)、ビタミン研究のブレークスルー(日本ビタミン学会編、学振出版)、The Nuclear Receptors FactsBook(Laudet, V & Gronemeyer, H., Academic Press)、生命現象を理解する分子ツール(浜地格、二木史朗編、化学同人)、生体有機化学(橋本祐一、村田道雄編、東京化学同人)					
連絡先(メールアドレス)					
細谷 孝充:thosoya.cb@tmd.ac.jp					

時間割番号	041018				
科目名	機能再建材料学特論	科目ID	GC-c6405-L		
担当教員	仲井 正昭[NAKAI Masaaki]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
主な講義場所 金属生体材料学分野研究室					
授業の目的、概要等 授業目的: 生体用金属材料の基礎を理解し、新材料開発や特性改善のための方法に関する知識の習得を目的とする。 概要: 生体用金属材料の機能発現のための原理や技術について説明し、新たな材料・プロセス開発に関する研究動向を最新の文献を用いて議論する。					
授業の到達目標 生体用金属材料の機能が、結晶構造、格子欠陥、準安定相、表面状態などに基づいて発現することを理解し、機能を向上させるための材料設計や製造・加工プロセスを考案するのに必要な知識を習得する。					
授業方法 各回別のテーマに沿って、教員による講義、学生のプレゼンテーション、および小グループでのディスカッションを行う。					
成績評価の方法 講義への参加及び講義内に行うプレゼンテーションに基づき、以下の割合を目安に評価を行う。 ○講義への参加状況: 60% ○プレゼンテーション等: 40%					
準備学習等についての具体的な指示 基礎化学、物理化学の復習を、可能であれば金属工学の予習しておくことが望ましい。					
参考書 医療用金属材料概論 = Metals for medicine / 埴隆夫編, 隆夫, : 日本金属学会, 2010 金属バイオマテリアル / 埴隆夫, 米山隆之共著, 隆夫, 米山, 隆之, : コロナ社, 2007 Metals for Medical Devices / M. Niinomi ed. : Woodman, 2019 教科書・参考書・参考論文等は、科目担当者が指示する。					
履修上の注意事項 平素取り組んでいる研究の中から問題点を抽出して議論できるように準備しておくことが望ましい。					
連絡先(メールアドレス) nakai.masaaki@tmd.ac.jp					

時間割番号	041019			科目ID	GC-c6406-L
科目名	組織再生材料学特論				
担当教員	横井 太史, 川下 将一, 島袋 将弥[YOKOI Taishi, KAWASHITA Masakazu, SHIMABUKURO Masaya]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う					
主な講義場所					
研究室(東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 無機生体材料学分野:21 号館 3 階)での対面講義を行う。					
授業の目的、概要等					
授業目的: バイオセラミックスがどのように設計・製造されるかを理解し、さらに、バイオセラミックスがその構造および特性に基づいて様々な分野で臨床応用されていることを理解することを目的とする。					
概要: バイオセラミックスに関する文献をまとめて発表し、必要に応じて無機生体材料学分野の教員が説明を行う。					
授業の到達目標					
種々のバイオセラミックスが、その構造・特性に応じて、様々な分野で臨床応用されていることを理解する。					
授業方法					
バイオセラミックスに関する文献を読んで内容を発表し、文献の記載内容について参加者全員で議論する。必要に応じて教員による補足説明を行う。					
授業内容					
以下のバイオセラミックスやその関連分野を対象とした輪読を行う。					
(1) 新規なバイオセラミックス					
(2) バイオセラミックス-組織間の接着性					
(3) 生体不活性なバイオセラミックス					
(4) 多孔性セラミックス					
(5) 生体活性ガラスおよび結晶化ガラス					
(6) 界面反応速度論					
(7) 生体活性ガラスおよび結晶化ガラスの臨床応用					
(8) リン酸カルシウムセラミックス					
(9) 複合体					
(10) コーティング					
(11) がん治療用材料					
(12) 歯科材料					
成績評価の方法					
講義への参加状況及び最終プレゼンテーションに基づき、以下の割合を目安に成績評価を行う。					
○講義への参加状況: 70%					
○最終プレゼンテーション: 30%					
準備学習等についての具体的な指示					
なし。					
参考書					
教科書・参考書・参考論文等は、科目担当者が指示する。					
連絡先(メールアドレス)					
横井 太史:yokoi.taishi.bcr@tmd.ac.jp					
オフィスアワー					
横井 太史:月曜日 PM3:00-PM5:00 21 号館 3 階 301B 室					

時間割番号	041020				
科目名	生体機能材料学特論	科目ID	GC-c6407-L		
担当教員	松元 亮 堀 真緒[MATSUMOTO Akira, HORI Mao]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
授業の目的、概要等					
<p>授業目的: 生体分子・組織に見られる自己組織化、階層的構造化の重要性について概説し、生体材料学への応用例や発展性について議論する。また、分子認識科学を駆使した最新のバイオマテリアル研究について、その基礎から応用までを俯瞰しつつ、最終的には研究戦略を策定する論理思考について習得する。</p> <p>概要: 上記に関する理解を深め、今後期待される有機生体材料のあり方を思索する。</p>					
授業の到達目標					
有機系生体材料の基礎から応用までを俯瞰しつつ、その問題点を探り、将来的な生体材料設計の方向性を受講生自らが提案できるようになることを目指す。					
授業方法					
ゼミ形式で教員による講義や学生のプレゼンテーションを行い、全体で討議を行うことにより学習を深める。					
成績評価の方法					
講義への参加状況(50%)及び講義中の試問等(50%)に基づいて総合的に評価する。					
準備学習等についての具体的な指示					
事前に生体材料学特論および応用生体材料学特論、あるいはそれと同程度の事前学習をしておくことが望ましい。					
教科書					
Biomaterials Science : An Introduction to Materials in Medicine / edited by Buddy D. Ratner ... [et al.], Ratner, B. D. (Buddy D.), Hoffman, Allan S., Schoen, Frederick J., Lemons, Jack E. : Academic Press, 2013					
参考書					
科目担当者が適宜指示する。					
連絡先(メールアドレス)					
松元 亮 matsumoto.bsr@tmd.ac.jp					

時間割番号	041021				
科目名	医用材料工学特論	科目ID	GC-c6408-L		
担当教員	鳴瀧 彩絵, 宮本 昂明, 沖田 ひかり[NARUTAKI Ayae, MIYAMOTO Takaaki, OKITA Hikari]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
2026 年度休講					
準備学習等についての具体的な指示					

時間割番号	041022				
科目名	生体情報数理解析論	科目ID	GC-c6429-L		
担当教員	中島 義和, 杉野 貴明, 周 東博, 小野木 真哉[NAKAJIMA Yoshikazu, SUGINO Takaaki, SHU Tohaku, ONOGI Shinya]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
英語による授業. 留学生が履修登録した場合には英語で行う					
主な講義場所					
すべての講義はオンライン(Zoom)で行います。					
授業の目的、概要等					
生体計測診断にかかる技術の急速な発展にともない, 人工能をはじめとした医療生体情報の統合的解析ならびに数理コンピューティング理論の確立への期待が高まっている. 本講義では, 同分野での研究ならびにシステム開発に必要な数理解析の基礎理論を解説するとともに, 先端動向ならびに具体的な実施例を紹介する.					
授業の到達目標					
医療 AI など, 生体情報のデータ処理ならびに解析手法に関して, 基礎理論を学習するとともに, 先端動向を学ぶ.					
授業方法					
講義形式で行う.					
授業内容					
統計解析, 数理シミュレーション, 人工知能 (AI) 解析, 医用システム開発基礎理論.					
成績評価の方法					
講義への参加回数, 質問や意見などの講義への貢献度, ならびにレポートにより, 総合的に評価する.					
成績評価の基準					
講義への参加状況(50%)ならびにレポート(50%)に基づいて評価する.					
準備学習等についての具体的な指示					
統計解析手法やデータ処理手法を数学的に理解するために必要な基礎知識を学習しておくこと. 詳細は初回講義に実施されるガイダンスならびに各講義回において適宜指示する.					
試験の受験資格					
制限なし					
構成ユニット					
中島義和, 小野木真哉, 周東博, 市川健太					
モジュールの単位判定					
受講状況ならびにレポート課題のクオリティに基づいて, 統合的に判断する.					
教科書					
必要に応じて資料を配布する.					
参考書					
必要に応じて適宜, 資料を配布する.					
履修上の注意事項					
特になし.					

備考 特になし。
連絡先(メールアドレス) 中島 義和 nakajima.y.8203@m.isct.ac.jp
オフィスアワー 中島 義和 毎週月曜日 15:00-16:30 駿河台キャンパス 21号館 4階 409A

時間割番号	041023				
科目名	理研生体分子制御学特論			科目ID	GC-c6190-L
担当教員	谷内 一郎, 田中 元雅, 三好 知一郎, 田上 俊輔, 今見 考志 [Ichiroh Taniuchi, Motomasa Tanaka, MIYOSHI Tomoichiro, Shunsuke Tagami, IMAMI Kohshi]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	1~	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
英語による授業. 留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
主な講義場所 別表のとおり					
授業の目的、概要等 授業目的: 化学生物学、有機合成化学、分子細胞病態学、構造生物学、分子免疫学、分子神経病態学、タンパク質病態学、ゲノム医科学などの分野で用いられている生体機能分子の探索・創製とこれを用いた高次生命現象の理解のための基礎知識を習得し、医学・生物学への応用研究について理解を深める。 概要: 化学生物学、有機合成化学、分子細胞病態学、構造生物学、分子免疫学、分子神経病態学、タンパク質病態学、ゲノム医科学に必要な基礎的手法を講義し、生体機能分子を用いた最新の研究成果をもとに講義ならびに討論をする。					
授業の到達目標 生体分子制御学は、生体機能を制御するタンパク質・糖・ホルモンなどを対象として、化学生物学、有機合成化学、免疫学、ゲノム医科学の基礎と、医学・生物学への応用を理解する学問分野であり、様々な分野との複合領域研究が行われている。このような研究分野の鍵となる生体機能分子に着目し、最先端の研究動向について教育する。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	6/18	09:45-12:00	和光理研 脳中央棟 5F セミナ 一室 S505	植物の分子細胞生物学	泉 正範
2	6/18	13:00-15:15	和光理研 脳中央棟 5F セミナ 一室 S505	構造生物学	野村 高志
3	6/18	15:30-17:45	和光理研 脳中央棟 5F セミナ 一室 S505	分子神経生物学	遠藤 良
4	8/19	13:00-15:15	和光理研 脳中央棟 5F セミナ 一室 S505	分子神経病態学	田中 元雅
5	8/19	15:00-17:15	和光理研 脳中央棟 5F セミナ 一室 S505	化学感覚の分子神経制御	宮坂 信彦
6	8/25	09:45-12:00	横浜理研	生体高分子エンジニアリ	田上 俊輔

			北研究棟 5F 会議 室	ング	
7	8/25	13:00-15:15	横浜理研 北研究棟 5F 会議 室	免疫細胞分化分子制御	谷内 一郎
8	8/25	15:30-17:45	横浜理研 北研究棟 5F 会議 室	先端プロテオミクス	今見 孝志
9	9/3	13:00-15:15	横浜理研 北研究棟 5F 会議 室	ゲノム生物学	三好 知一郎
10	9/3	15:30-17:45	横浜理研 北研究棟 5F 会議 室	ノンコーディング RNA と エピジェネティクス	Gailhouste, Luc Nicolas

授業方法

ゼミ形式で教員による講義や学生のプレゼンテーションを行い、全体で討議を行うことにより学習を深める。

成績評価の方法

授業の参加状況(40%)及びレポート(60%)に基づいて総合的に評価を行う。

準備学習等についての具体的な指示

なし。

参考書

Introduction to Glycobiology Third Edition (Maureen E. Taylor and Kurt Drickamer, Oxford University Press)、Fundamentals of Protein Structure and Function (Buxbaum and Engelbert, Springer)、Neuroscience: Exploring the Brain 4th Edition (Mark F. Bear, Barry Connors and Mike Paradiso, Wolters Kluwer)、Immunobiology, 10th ed. (K.Murphy, C.Weaver & L.Berg)

備考

科目責任者 理研生体分子制御学分野(谷内)連携教授室

連絡先(メールアドレス)

谷内 一郎:ichiro.taniuchi@riken.jp

オフィスアワー

谷内 一郎:授業内容等に関する質問は、随時、科目担当者に相談すること
科目担当者 理研生体分子制御学分野(谷内)連携教授(随時メールで対応可)

時間割番号	416012			科目ID	GcC6411
科目名	先端口腔保健応用学特論				
担当教員					
開講時期	2026 年度通年	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
<p>一部英語で行う、あるいは、留学生が履修登録した場合は英語で行う。 連絡先:学務企画課大学院教務第二係 TEL: 03-5803-4534、Email: grad02@ml.tmd.ac.jp 科目責任者:樺沢勇司 Email: kabasawa.ocsh@tmd.ac.jp</p>					
主な講義場所					
遠隔講義のため自宅					
授業の目的、概要等					
<p>授業目的:本科目では口腔保健学研究に必要な基礎的および臨床的な最新の知見について学ぶ。医学、歯学のみならず、理学、工学、検査学(保健学)、社会福祉学をはじめとする関連分野との融合の必要性についても学ぶ。 概要:本特論は、博士課程生命理工医療科学専攻及び医歯学専攻の学生のうち、取得学位に関わらず履修可能である。</p>					
授業の到達目標					
講義の2/3以上に参加し、講義内容について理解するとともに、自らの研究テーマを立案することができることを到達目標とする。					
授業方法					
ウェブクラスや ZOOM を用いた、遠隔講義を中心とする。					
授業内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・口腔保健学概論最新の知見について、関連する各分野との融合研究について ・地域や病院における口腔保健学の応用について ・口腔保健学の先進的な臨床研究について ・社会疫学、健康格差と口腔保健学について ・公衆衛生における口腔保健学について 					
成績評価の方法					
各講義における、討論、取り組みの熱意、講義後の課題等を総合的に判断して評価する。					
準備学習等についての具体的な指示					
個別のセミナー、講義等の案内を参照のこと。					
教科書					
各講義担当教員から指示する					
参考書					
各講師により指定される場合がある。					
履修上の注意事項					
遠隔講義が中心であるため、通信環境等の原因で受講困難であった場合には、科目責任者(樺沢)に連絡を必ず行う事。					

時間割番号	416013				
科目名	先端口腔保健応用学演習	科目ID	GCc6412		
担当教員	松尾 浩一郎, 吉田 直美, 日高 玲奈, 竹内 康雄, 伊藤 奏, 安達 奈穂子[MATSUO Koichiro, YOSHIDA Naomi, HIDAKA Rena, TAKEUCHI Yasuo, ITO Kanade, ADACHI Naoko]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
留学生在が履修登録した場合には英語で行う。					
主な講義場所 東京医科歯科大学病院 オーラルヘルスセンター他					
授業の目的、概要等 東京医科歯科大学大学院と病院とは医療人育成の卒業教育に取り組むために、歯科衛生士の資格をもつ大学院学生を対象としたインターンシップであるヘルスケアアシスタント(HCA)制度を設け、非常勤職員として実際に業務に就きながら研修する制度を設けている。本演習は HCA 新規採用申請者のうち、オーラルヘルスセンターでの業務を希望する学生を対象として、主に周術期等口腔健康管理を実施するのに必要な知識と技術を身につけるために実施する演習である。					
授業の到達目標 1) オーラルヘルスセンターの業務内容の概略を理解する。 2) 歯科衛生士として求められる、患者対応、トラブルへの対処法の基本を修得する。 3) オーラルヘルスセンターの業務理解し、求められる業務を指導の下で適切に実行できる。					
授業方法 オーラルヘルスセンターにおいて、講義と演習を行う。 一部は、症例検討会や ZOOM を用いた、アクティブラーニングを積極的に取り入れる。					
成績評価の方法 症例報告やレポート、講義後の確認テストおよび参加態度で評価する。					
準備学習等についての具体的な指示 ・周術期等口腔健康管理などに関する学部教育の基礎知識を復習しておくこと。 ・事前に周知された、ウェブクラス等にアップロードされた教材について予習・自主学習して参加すること。					
教科書 適時、教員より指示する。					
参考書 適時教員より指示する。					
履修上の注意事項 ・病院内では医療スタッフとしてのマナーを遵守すること。 ・本演習は、HCA として勤務することを希望する学生を対象とする。					
連絡先(メールアドレス) 竹内 康雄takeuchi.peri@tmd.ac.jp 伊藤 奏ito.ocsh@tmd.ac.jp 吉田 直美yoshida.ohce@tmd.ac.jp 松尾 浩一郎matsuo.ohcw@tmd.ac.jp					
オフィスアワー 竹内 康雄PM.5:00-PM.6:30 1号館8階812B 伊藤 奏随時(メールにて事前にアポイントメントをとること) 1号館8階817B 吉田 直美オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること。 松尾 浩一郎毎週月曜日 16:00-18:00 1号館8階818B室 * 要事前連絡					

時間割番号	416014																																																																																																													
科目名	先端口腔保健工学特論	科目ID	GCc6413																																																																																																											
担当教員	池田 正臣, 大木 明子, 岩城 麻衣子, 土田 優美, 塩沢 真穂, 佐藤 隆明, 高市 敦士[IKEDA Masaomi, OKI Meiko, IWAKI Maiko, TSUCHIDA Yumi, SHIOZAWA Maho, SATO Takaaki, TAKAICHI Atsushi]																																																																																																													
開講時期	2026 年度通年	対象年次	1~	単位数	1																																																																																																									
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目																																																																																																									
<p>留学生在が履修登録した場合は英語で行う</p> <p>キーワード: 歯科技工操作, 歯科治療, CAD/CAM, 歯科材料</p>																																																																																																														
<p>授業の目的、概要等</p> <p>授業目的: 口腔保健工学を支える研究, 技術の多彩で具体的な応用例を学ぶことにより, 幅広い問題解決についての知識を得ることを目的としている。</p> <p>概要: 口腔医療工学分野, 口腔デジタルプロセス学分野, 口腔基礎工学分野の教員が担当し, 口腔保健工学を支える研究・技術について各自の先端的専門分野を基盤に講義する。</p>																																																																																																														
<p>授業の到達目標</p> <p>口腔保健工学を支える研究成果・技術について, それぞれの開発・応用・機能及び問題点の各項目について議論し, 先端的な知識を具体的な応用に結びつける戦略について学ぶ。</p>																																																																																																														
<p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>授業題目</th> <th>授業内容</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>10/2</td> <td>16:00-17:00</td> <td>オンデマンド</td> <td>積層造形技術の部分床義歯への応用</td> <td>Additive manufacturing for Removable partial dentures</td> <td>高市 敦士</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10/9</td> <td>16:00-17:00</td> <td>オンデマンド</td> <td>デジタル技術を用いた全部床義歯製作</td> <td>Fabrication of complete dentures using digital technology</td> <td>高市 敦士</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>10/16</td> <td>16:00-17:00</td> <td>オンデマンド</td> <td>無歯顎補綴における臨床研究</td> <td>Clinical research for edentulous patients</td> <td>岩城 麻衣子</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>10/23</td> <td>16:00-17:00</td> <td>オンデマンド</td> <td>インプラントオーバーデンチャーの研究</td> <td>Clinical research for implant overdenture</td> <td>岩城 麻衣子</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>11/6</td> <td>16:00-17:00</td> <td>オンデマンド</td> <td>歯科臨床・教育支援用アプリケーションソフトウェアの開発</td> <td>Development Application Software for Clinical and Educational Support in Dentistry</td> <td>土田 優美</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>11/13</td> <td>16:00-17:00</td> <td>オンデマンド</td> <td>歯科用フェイスナルスキャナの研究</td> <td>Research of Facial Scanners for Dentistry</td> <td>土田 優美</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>11/20</td> <td>16:00-17:00</td> <td>オンデマンド</td> <td>コンポジットレジンの歯科技工操作</td> <td>Dental laboratory procedures for indirect resin composite restoration</td> <td>池田 正臣</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>11/27</td> <td>16:00-17:00</td> <td>オンデマンド</td> <td>歯科技工と接着</td> <td>Dental laboratory work and adhesive materials</td> <td>池田 正臣</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>12/4</td> <td>16:00-17:00</td> <td>ライブ</td> <td>顎顔面補綴におけるCAD/CAM技術の利用</td> <td>CAD/CAM technology for maxillofacial prosthetics</td> <td>大木 明子</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>12/11</td> <td>16:00-17:00</td> <td>オンデマンド</td> <td>歯冠修復物の補修</td> <td>Repairing the tooth restoration</td> <td>佐藤 隆明</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>12/18</td> <td>16:00-17:00</td> <td>ライブ</td> <td>顎顔面補綴に用いられる材料</td> <td>Materials and digital technology for facial prostheses</td> <td>大木 明子</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>1/8</td> <td>16:00-17:00</td> <td>オンデマンド</td> <td>CAD/CAM用レジンの着色</td> <td>Discoloration of resin materials for CAD/CAM</td> <td>塩沢 真穂</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>1/15</td> <td>16:00-17:00</td> <td>オンデマンド</td> <td>3Dプリンターを用いた研究</td> <td>Research topics with 3D printing</td> <td>塩沢 真穂</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>1/22</td> <td>16:00-17:00</td> <td>オンデマンド</td> <td>3Dプリンターを用いた歯科技工</td> <td>Fabrication process with 3D printing</td> <td>池田 正臣</td> </tr> </tbody> </table>						回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	1	10/2	16:00-17:00	オンデマンド	積層造形技術の部分床義歯への応用	Additive manufacturing for Removable partial dentures	高市 敦士	2	10/9	16:00-17:00	オンデマンド	デジタル技術を用いた全部床義歯製作	Fabrication of complete dentures using digital technology	高市 敦士	3	10/16	16:00-17:00	オンデマンド	無歯顎補綴における臨床研究	Clinical research for edentulous patients	岩城 麻衣子	4	10/23	16:00-17:00	オンデマンド	インプラントオーバーデンチャーの研究	Clinical research for implant overdenture	岩城 麻衣子	5	11/6	16:00-17:00	オンデマンド	歯科臨床・教育支援用アプリケーションソフトウェアの開発	Development Application Software for Clinical and Educational Support in Dentistry	土田 優美	6	11/13	16:00-17:00	オンデマンド	歯科用フェイスナルスキャナの研究	Research of Facial Scanners for Dentistry	土田 優美	7	11/20	16:00-17:00	オンデマンド	コンポジットレジンの歯科技工操作	Dental laboratory procedures for indirect resin composite restoration	池田 正臣	8	11/27	16:00-17:00	オンデマンド	歯科技工と接着	Dental laboratory work and adhesive materials	池田 正臣	9	12/4	16:00-17:00	ライブ	顎顔面補綴におけるCAD/CAM技術の利用	CAD/CAM technology for maxillofacial prosthetics	大木 明子	10	12/11	16:00-17:00	オンデマンド	歯冠修復物の補修	Repairing the tooth restoration	佐藤 隆明	11	12/18	16:00-17:00	ライブ	顎顔面補綴に用いられる材料	Materials and digital technology for facial prostheses	大木 明子	12	1/8	16:00-17:00	オンデマンド	CAD/CAM用レジンの着色	Discoloration of resin materials for CAD/CAM	塩沢 真穂	13	1/15	16:00-17:00	オンデマンド	3Dプリンターを用いた研究	Research topics with 3D printing	塩沢 真穂	14	1/22	16:00-17:00	オンデマンド	3Dプリンターを用いた歯科技工	Fabrication process with 3D printing	池田 正臣
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員																																																																																																								
1	10/2	16:00-17:00	オンデマンド	積層造形技術の部分床義歯への応用	Additive manufacturing for Removable partial dentures	高市 敦士																																																																																																								
2	10/9	16:00-17:00	オンデマンド	デジタル技術を用いた全部床義歯製作	Fabrication of complete dentures using digital technology	高市 敦士																																																																																																								
3	10/16	16:00-17:00	オンデマンド	無歯顎補綴における臨床研究	Clinical research for edentulous patients	岩城 麻衣子																																																																																																								
4	10/23	16:00-17:00	オンデマンド	インプラントオーバーデンチャーの研究	Clinical research for implant overdenture	岩城 麻衣子																																																																																																								
5	11/6	16:00-17:00	オンデマンド	歯科臨床・教育支援用アプリケーションソフトウェアの開発	Development Application Software for Clinical and Educational Support in Dentistry	土田 優美																																																																																																								
6	11/13	16:00-17:00	オンデマンド	歯科用フェイスナルスキャナの研究	Research of Facial Scanners for Dentistry	土田 優美																																																																																																								
7	11/20	16:00-17:00	オンデマンド	コンポジットレジンの歯科技工操作	Dental laboratory procedures for indirect resin composite restoration	池田 正臣																																																																																																								
8	11/27	16:00-17:00	オンデマンド	歯科技工と接着	Dental laboratory work and adhesive materials	池田 正臣																																																																																																								
9	12/4	16:00-17:00	ライブ	顎顔面補綴におけるCAD/CAM技術の利用	CAD/CAM technology for maxillofacial prosthetics	大木 明子																																																																																																								
10	12/11	16:00-17:00	オンデマンド	歯冠修復物の補修	Repairing the tooth restoration	佐藤 隆明																																																																																																								
11	12/18	16:00-17:00	ライブ	顎顔面補綴に用いられる材料	Materials and digital technology for facial prostheses	大木 明子																																																																																																								
12	1/8	16:00-17:00	オンデマンド	CAD/CAM用レジンの着色	Discoloration of resin materials for CAD/CAM	塩沢 真穂																																																																																																								
13	1/15	16:00-17:00	オンデマンド	3Dプリンターを用いた研究	Research topics with 3D printing	塩沢 真穂																																																																																																								
14	1/22	16:00-17:00	オンデマンド	3Dプリンターを用いた歯科技工	Fabrication process with 3D printing	池田 正臣																																																																																																								

15	1/29	16:00-17:00	オンデマ ンド	歯の診断機器	Update the dental diagnostic devices	佐藤 隆明	
授業方法							
複数の教員により多岐にわたる講義を行い、学生の質問を中心とした討議を行うことにより学習を深める。							
成績評価の方法							
成績評価は、提出レポート内容(50点)と参加状況(50点)を総合して評価する。							
準備学習等についての具体的な指示							
特になし。教科書・参考書・参考論文等が、事前に連絡される場合があるので、その際には講義の前に確認しておくこと。							
参考書							
教科書・参考書・参考論文等は、事前に科目担当者が指示する。							
備考							
受講者数により、授業スケジュールが一部変更する可能性がある。							
連絡先(メールアドレス)							
池田 正臣:ikedacsoe@tmd.ac.jp							
オフィスアワー							
池田 正臣:メールにて面談の日程を調整すること							

時間割番号	416015					科目ID	Gc6414
科目名	硬組織研究・骨形態計測学特論			科目ID	Gc6414		
担当教員	青木 和広, 野中 希一, 上條 真吾, Masud Khan[AOKI Kazuhiro, NONAKA Kiichi, KAMIJO Shingo, MASUD Khan]						
開講時期	2026 年度通年	対象年次	1~	単位数	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目		
留学生在が履修登録した場合は英語も用いる							
主な講義場所 同期型遠隔授業							
授業の目的、概要等 授業目的: 硬組織研究では欠かすことができない骨密度解析、非脱灰切片の作成方法および骨形態計測法についてその理論と実際の研究手法について学び、自分の研究に骨形態計測を応用することを目的とする。 概要: 非脱灰切片の作成や骨形態計測の実際は、マウスやラットというげっ歯類を用いた実習を行う。講義では、再生骨や顎骨の骨形態計測、イヌやサルなどのリモデリング動物も含めた骨形態計測、さらに、最新の非侵襲的骨密度解析装置についても学ぶ。							
授業の到達目標 1. 硬組織研究における骨形態計測法の役割について説明できる。 2. 非脱灰切片の破骨細胞と骨芽細胞を見分けることができる 3. 海綿骨や皮質骨における骨形態計測が説明できる。 4. モデリング動物とリモデリング動物における骨形態計測について説明できる。 5. 再生骨や顎骨における骨形態計測について説明できる。 6. 非侵襲的骨密度測定装置について説明できる。 7. 自身の研究に骨形態計測が応用できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/16	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	骨形態計測学特論 オリエンテーション ミーティング ID: 946 6960 9953 パスコード: 804145	硬組織研究における骨形態計測の意義	青木 和広	骨形態計測の意義について説明できる TBL 形式
2	4/30	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	骨形態計測総論(その1) ミーティング ID: 946 6960 9953 パスコード: 804145	硬組織研究における骨形態計測の実際	青木 和広 天野 均	骨リモデリングとの関連で骨形態計測の意義を説明できる TBL 形式
3	5/15	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	骨形態計測学会解説 ミーティング ID: 946 6960 9953 パスコード: 804145	骨形態計測学会準備	青木 和広	
4	6/5	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	骨密度測定 X線学的解析 ミーティング ID: 946 6960 9953 パスコード: 804145	骨密度測定の理論と実際 (DXA, pQCT, 超音波など)	青木 和広 野中 希一	非侵襲的骨密度解析について、説明できる TBL 形式
5	6/18	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	論文における骨形態計測の重要性 ミーティング ID: 946 6960 9953 パスコード: 804145	抄読会	青木 和広 野中 希一	骨形態計測の意義について説明できる TBL 形式

6	7/2	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	論文における骨形態計測の重要性 ミーティング ID: 946 6960 9953 パスワード: 804145	抄読会	青木 和広	骨形態計測の意義について説明できる TBL 形式
7	7/16	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	骨形態計測総論(その2) 天野先生講義含む ミーティング ID: 946 6960 9953 パスワード: 804145		青木 和広 天野 均	骨リモデリングとの関連で骨形態計測の意義を説明できる TBL 形式
8	9/3	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	論文における骨形態計測の重要性 ミーティング ID: 946 6960 9953 パスワード: 804145	抄読会	青木 和広	骨形態計測の意義について説明できる TBL 形式
9	9/17	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	骨形態計測各論(その1) ミーティング ID: 946 6960 9953 パスワード: 804145	非脱灰切片標本作成(薄切片、研磨切片)	青木 和広 天野 均	非脱灰切片の作成方法について説明できる TBL 形式 天野先生講義含む
10	10/1	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	論文における骨形態計測の重要性 ミーティング ID: 946 6960 9953 パスワード: 804145	抄読会	青木 和広	骨形態計測の意義について説明できる TBL 形式
11	11/6	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	X線学的解析 ミーティング ID: 946 6960 9953 パスワード: 804145	マイクロ CT 撮影とその実際	青木 和広 天野 均	μ CTについて原理と撮影方法について述べられる TBL 形式
12	11/19	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	論文における骨形態計測の重要性 ミーティング ID: 946 6960 9953 パスワード: 804145	抄読会	青木 和広	骨形態計測の意義について説明できる TBL 形式
13	12/3	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	骨形態計測各論(その3) ミーティング ID: 946 6960 9953 パスワード: 804145	皮質骨の計測および骨再生部位や顎骨の計測	青木 和広	海綿骨の計測と皮質骨の計測違いを説明できる TBL 形式
14	12/17	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	論文における骨形態計測の重要性 ミーティング ID: 946 6960 9953 パスワード: 804145	抄読会	青木 和広	骨形態計測の意義について説明できる TBL 形式
15	1/14	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	まとめ(その1) ミーティング ID: 946 6960 9953 パスワード: 804145	履修した学生全員がこの特論で学んだことを発表し、成果をシェアする	青木 和広	骨形態計測について説明でき、自分の研究に応用できる プレゼン資料各自準備
16	1/28	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	まとめ(その2) ミーティング ID: 946 6960 9953 パスワード: 804145	履修した学生全員がこの特論で学んだことを発表し、成果をシェアする	青木 和広	骨形態計測について説明でき、自分の研究に応用できる プレゼン資料各自準備
授業方法							

<p>同期型遠隔授業を行います。</p> <p>授業方法が変わる場合は、都度連絡いたします。</p> <p>あらかじめ、作成してある基本事項説明動画は視聴して講義に臨むこと。</p> <p>また、最後2回の授業は、一人、5分ほどのプレゼンテーションを行います。</p> <p>事前の準備をお願いします。(評価方法参照)</p>
<p>授業内容</p> <p>長管骨の骨改造活性を計測する手法と再生骨の骨動態を定量化する手法とは同様な計測はできない。また、長管骨における皮質骨と海綿骨を計測する手法、さらには、顎骨を計測する手法とは異なり、それぞれの骨の特性を理解した計測手法を用いることにより、生理的な変化あるいは介入の効果を定量化できる。特論の講義・演習では、骨形態計測による定量化の限界とその対処法についても学ぶとともに、骨形態計測と合わせて硬組織研究に必須な X 線学的解析、骨密度測定装置についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全 16 回)</p> <p>(青木和広/12 回)骨形態計測学総論・各論/学生発表</p> <p>(天野 均/2 回)X 線学的解析(μCT)、非脱灰切片作成法、骨リモデリングについて</p> <p>(野中希一/2 回)骨密度測定装置(DXA, pQCT, 超音波骨密度測定装置)+ 対面授業</p>
<p>成績評価の方法</p> <p>講義への参加状況及び最終プレゼンテーションに基づき、以下の割合を目安に成績評価を行う。</p> <p>○講義や実習への参加状況:70%(プレゼンテーションを行う最後の授業以外の 7 回分の出席評価点数であり、1 回 10 点を満点として計算します。)</p> <p>○最終プレゼンテーション:30%</p> <p>(どのように習ったことを自分の研究に応用・展開することを考えられたかを発表してもらいます)</p>
<p>準備学習等についての具体的な指示</p> <p>①事前に資料がアップされるときには、目を通してから授業に臨むこと。</p> <p>②最終回の発表には必ず出席すること。やむを得なく欠席する場合は、授業が始まるまでに担当教員に連絡すること。</p> <p>③発表は 5 分ほどでまとめること。</p> <p>③発表には、1)自身の研究目的を述べ、2)どの部分に関心領域を設定し、3)どのようなパラメーターを計測するのかを述べる。</p> <p>④他分野の学生にも研究目的が分かるように、平易かつ簡潔な発表をこころがける。</p> <p>⑤抄読会では、IF9 以上の論文を選ぶ、5 つ選び、4 つは、概要を説明し、1 つは抄読する(25 分ほど)</p>
<p>参考書</p> <p>新しい骨形態計測/山本智章編集,遠藤, 直人,山本, 智章,:ウイネット, 2014</p> <p>骨形態計測からヒトの骨組織を見る、知る、学ぶ/山本智章, 平野徹, 田中伸哉編集,遠藤, 直人,山本, 智章,平野, 徹,田中, 伸哉,:ウイネット, 2019</p>
<p>連絡先(メールアドレス)</p> <p>青木 和広:kazuhiro_aoki.bhoe@tmd.ac.jp</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>青木 和広:毎週月曜日 16 時から 18 時 2 号館 2 階 216 号室(口腔基礎工学分野)</p> <p>オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせることを推奨。</p>

時間割番号	416002			科目ID	GC-c6200-L
科目名	実践疫学				
担当教員	相田 潤[AIDA Jun]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
<p>Instructor(s):</p> <p>Jun Aida, Professor, Department of Dental Public Health</p> <p>Takeo Fujiwara, Professor, Department of Public Health</p> <p>Shino Kino, Professor, Department of Preventive Oral Health Care Sciences</p> <p>Ichiro Kawachi, John L. Loeb and Frances Lehman Loeb Professor of Social Epidemiology, Chair, Department of Social and Behavioral Sciences, Harvard T.H. Chan School of Public Health</p> <p>Naoki Kondo, Professor, Department of Social Epidemiology, Kyoto University</p> <p>Fumiaki Imamura, Senior Investigator Scientist, MRC Epidemiology Unit, Institute of Metabolic Science, University of Cambridge School of Clinical Medicine</p> <p>Availability in English: All classes are taught in English.</p> <p>Key word: Epidemiology</p>					
主な講義場所					
授業日程参照					
授業の目的、概要等					
<p>コースの目的</p> <p>このコースでは、高度な疫学的方法論を応用し、主要な社会的決定要因の健康への影響を探求する。</p> <p>概要</p> <p>社会階層、人種、ジェンダー、貧困、所得分布、社会的ネットワーク/サポート、地域社会の結束、職場や近隣環境、行動経済学、栄養疫学など、健康の社会的決定要因に焦点を当てる。また、社会・経済政策の健康への影響や、行動経済学に基づく革新的な手法など、特定の社会的介入の潜在的な役割についても取り上げる。社会疫学の理解を深めるために、口腔の健康アウトカム、集団におけるその分布、およびその共通決定要因についても講義する。ハーバード大学 T.H. チャン公衆衛生大学院の Ichiro Kawachi 教授による講義は、ハーバード / ジョンズ・ホプキンス・レクチャー・シリーズ (HJLS) の一環として行われる。</p>					
授業の到達目標					
<p>このコースの終わりまでに、学生は以下のことが論理的に科学的に説明ができるようになる。</p> <p>a) 健康の社会的決定要因を定義し、その測定方法を説明し、健康の社会的決定要因が健康に影響を与えるメカニズムを説明することができる。</p> <p>b) 予防のためのハイリスク戦略とポピュレーション戦略を説明し、2つの戦略の利点と欠点を対比させることができる。</p> <p>c) 口腔保健のアウトカム測定とその分布、および口腔保健の一般的な決定要因について説明することができる。</p> <p>d) 行動経済学からの新しい洞察をどのように取り入れれば、行動変容の成功を向上させることができるかを説明できる。</p>					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1-2	11/9	08:50-12:15	G-Lab	Lecture: Oral Epidemiology 1	相田 潤
3	11/9	13:30-15:00	G-Lab, オンデマンド	Lecture: Socioeconomic status and health (Video lecture)	近藤 尚己
4	11/9	15:25-16:55	G-Lab, オンデマ	Neighborhood and health (Ondemand)	Ichiro Kawachi

			ンド		
5	11/10	08:50-10:20	G-Lab	Preparation for the group presentation	相田 潤
6	11/10	10:45-12:15	G-Lab	Presentation for the group presentation	相田 潤, 木野 志保
7	11/10	13:30-15:00	G-Lab	Q & A session: Socioeconomic status and health	近藤 尚己, 相田 潤
8	11/10	13:30-15:00	G-Lab	Lecture: Social epidemiology	相田 潤, 藤原 武男, Ichiro Kawachi, 木野 志保
9	11/12	08:50-10:20	G-Lab, オンデマンド	Lecture: Life-course epidemiology (On-demand)	藤原 武男
10	11/12	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Life-course epidemiology	藤原 武男
11	11/12	13:30-15:00	G-Lab	Lecture for the final exam presentation	相田 潤
12	11/12	15:25-16:55	G-Lab	Lecture: Nutritional Epidemiology 1	今村 文昭, 相田 潤
13	11/13	08:50-10:20	G-Lab	Case and group activity: Preparation for the final exam presentation	相田 潤
14	11/13	10:45-12:15	G-Lab	Case and group activity: Final exam presentation.	相田 潤, 木野 志保
15	11/13	13:30-15:00	G-Lab	Case and group activity: Final exam presentation.	相田 潤, 木野 志保
16	11/13	15:25-16:55	G-Lab	Lecture: Nutritional Epidemiology 2	今村 文昭, 相田 潤

授業方法

このコースは、講義とケースベースのクラス活動で構成されている。受講生は最終レポートを作成することが要求される。

授業内容

授業スケジュール参照

成績評価の方法

成績は以下の要素で評価されます。

参加率 10%

プレゼンテーション 35%

最終論文 55%

準備学習等についての具体的な指示

教材は Web ページで公開される。受講者は、対応する授業に出席する前に、その資料を十分に読み込んでおくことが期待される。

参考書

教材は Web ページで公開される。受講者は、対応する授業に出席する前に、その資料を十分に読み込んでおくことが期待される。

なお下記の本は、本講義の講師でもあるハーバード大学の Kawachi 教授が編集と執筆を務めており、健康の社会的決定要因に関連する研究を行っている方にお勧めである。

社会疫学<上><下>

ISBN-10 : 4469268291

ISBN-10 : 4469268305

履修上の注意事項

For students not in the MPH course, instructor's permission is required before registering to the course. Also, students are required to have TOEFL iBT with a minimum score of 80 (taken before January 21, 2026), 4.5 (taken on or after January 21, 2026), or IELTS with a minimum score of 6.5. Please submit an email when you receive permission through the Forms below. <https://forms.office.com/r/3qSAXRwJbN>
In addition, priority for course registration is given to MPH students, and registration may be limited depending on the number of applicants.

備考

課題については、講義で説明する。

授業明細は暫定版です。授業明細の最新版は MPH シラバス『Social Epidemiology』をご確認ください

連絡先(メールアドレス)

相田 潤 aida.ohp@tmd.ac.jp

オフィスアワー

相田 潤 歯科公衆衛生学分野 教授 相田潤

aida.ohp@tmd.ac.jp

毎週火曜日 PM.4:30-5:30 歯科棟北 10階 歯科公衆衛生学分野

時間割番号	416003				科目ID	GC-c6210-L
科目名	アドバンス生物統計学			科目ID	GC-c6210-L	
担当教員	藤原 武男[FUJIWARA Takeo]					
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1~	単位数	2	
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面	
<p>Instructor(s): Takeo Fujiwara, Professor, Department of Public Health Hisaaki Nishimura, Assistant Professor, Department of Public Health</p> <p>Availability in English: All classes are taught in English. Key word: Biostatistics</p>						
主な講義場所						
Refer to the course schedule						
授業の目的、概要等						
<p>Course Purpose: To be able to analyze existing questionnaire data and/or clinical data quantitatively.</p> <p>Outline: Be able to make research question Be able to select exposure, outcome, and covariates Be able to do data-cleaning, define analytic sample Be able to handle missing data (dummy variable) Be able to describe sample characteristics as Table 1 Be able to use simple regression Be able to use multivariate regression Be able to report the main outcome as Table 2 Be able to interpret the interaction term Be able to use propensity score (propensity score matching, inverse probability weighting) Be able to use multiple imputation for missing data</p>						
授業の到達目標						
By the end of this course, students will be able to choose appropriate statistical analyses, perform them using statistical software (STATA), interpret results and propose research and policy implication.						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	
1	10/5	08:50-10:20	情報検索室 1	Session 1: Make clear, specific research question	西村 久明, 藤原 武男	
2	10/5	10:45-12:15	情報検索室 1	Session 2: Select exposure, outcome, covariates	西村 久明, 藤原 武男	
3	10/5	13:30-15:00	情報検索室 1	Session 3: Data cleaning	西村 久明, 藤原 武男	
4	10/5	15:25-16:55	情報検索室 1	Hands-on activity (1)	西村 久明, 藤原 武男	
5	10/6	08:50-10:20	情報検索室 1	Session 4: Summarize and report characteristics	西村 久明, 藤原 武男	

				of data as Table 1	
6	10/6	10:45-12:15	情報検索室 1	Session 5: Correlations	西村 久明, 藤原 武男
7	10/6	13:30-15:00	情報検索室 1	Session 6: Simple linear regression	西村 久明, 藤原 武男
8	10/6	15:25-16:55	情報検索室 1	Hands-on activity (2)	西村 久明, 藤原 武男
9	10/8	08:50-10:20	情報検索室 1	Session 7: Simple logistic regression	西村 久明, 藤原 武男
10	10/8	10:45-12:15	情報検索室 1	Session 8: Multivariate regression	西村 久明, 藤原 武男
11	10/8	13:30-15:00	情報検索室 1	Session 9: Making Table 2	西村 久明, 藤原 武男
12	10/8	15:25-16:55	情報検索室 1	Hands-on activity (3)	西村 久明, 藤原 武男
13	10/9	08:50-10:20	情報検索室 1	Session 10: Interaction	西村 久明, 藤原 武男
14	10/9	10:45-12:15	情報検索室 1	Session 11: Propensity score	西村 久明, 藤原 武男
15	10/9	13:30-15:00	情報検索室 1	Session 12: Multiple imputation	西村 久明, 藤原 武男
16	10/9	15:25-16:55	情報検索室 1	Final Q&A	西村 久明, 藤原 武男

授業方法

This course will consist of lectures and case-based class activities. Students will be required to submit assignments.

授業内容

Refer to the course schedule

成績評価の方法

Grades will be based on the following elements:

Participation 20%

Assignments 80% (10 assignments, 8% each)

準備学習等についての具体的な指示

If you want to analyze your own data, please prepare in Excel format or stata format. If not, we will provide data for this course.

モジュールの単位判定

2 units

参考書

Hayes-Larson E, Kezios KL, Mooney SJ, Lovasi G. Who is in this study, anyway? Guidelines for a useful Table 1. J Clin Epidemiol. 2019 Oct;114:125-132.

Westreich D, Greenland S. The table 2 fallacy: presenting and interpreting confounder and modifier coefficients. Am J Epidemiol. 2013 Feb 15;177(4):292-8.

履修上の注意事項

For students not in the MPH course, instructor's permission is required before registering to the course. Also, students are required to have TOEFL iBT with a minimum score of 80 (taken before January 21, 2026), 4.5 (taken on or after January 21, 2026), or IELTS with a minimum score of 6.5. Please submit an email when you receive permission through the Forms below. <https://forms.office.com/r/ZfAaDzZn0S> In addition, priority for course registration is given to MPH students, and registration may be limited depending on the number of applicants.

備考

1. During the course, you will be asked to log onto the library computer, zoom, Webmail, websystem, and Microsoft365. Please make sure that you know Togo-ID, Science Tokyo-ID/passwords and user IDs and passwords for each tool before the course week starts.

- Zoom login: <https://zoom.us/ja/signin#/login>
- Webmail login/ <https://webmail.tmd.ac.jp/cgi-bin/index.cgi>
- Science Tokyo ID: <https://tmdu.ex-tic.com/auth/session>
- Science Tokyo ID Portal (LMS, Microsoft 365): <https://isct.ex-tic.com/auth/session>

*In case that you forgot your Togo-ID password, please ask for help from IT help desk (ithelp@ml.tmd.ac.jp). They cannot reset a password in a day so please ask for help beforehand.

2. The library computer will be automatically reset at the end of the day so you cannot save your work (report, modified dataset etc.) on the computer. Please bring your USB.

連絡先(メールアドレス)

藤原 武男 fujiwara.hlth@tmd.ac.jp

時間割番号	416004				
科目名	公衆衛生のための医学・生物学	科目ID	GC-c6220-L		
担当教員	藤原 武男, 長谷川 久紀[FUJIWARA Takeo, HASEGAWA Hisanori]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1~	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目
<p>(Course director) Takeo Fujiwara, Professor, Department of Public Health</p> <p>(Instructors) Hisanori Hasegawa, MD, PhD Junior Associate Professor, Office of Global Affairs Yoshimitsu Akiyama, PhD Junior Associate Professor, Department of Molecular Oncology Takasato Fujiwara, MD Hospital Director, Tanaka Clinic Sadakatsu Ikeda, MD, PhD Professor, Cancer Center, Medical Hospital Janelle Moross, RN Associate Professor, Office of Education Shun Nakagama, MD, PhD Clinical Lecturer, Department of Virology & Parasitology, Osaka Metropolitan University Hiroshi Noto, MD, PhD Director, Endocrinology Department, St. Luke's International Hospital Koh Okamoto, MD, PhD Associate Professor, Department of Infectious Diseases Yasuaki Tagashira, MD, PhD Junior Associate Professor, Department of Infectious Diseases Kentaro Takahashi, MD, PhD Assistant Professor, Department of Human Genetics and Disease Diversity Akihito Uezato, MD, PhD Professor, Center for Basic Medical Research, International University of Health and Welfare</p> <p>Availability in English: All classes are taught in English. Key word: Public Health</p>					
主な講義場所					
・All lectures will be delivered on-demand (asynchronous).					
授業の目的、概要等					
<p>Course Purpose: The goals of this course are to provide students with a fundamental understanding of the biology and pathophysiology underlying major human diseases which cause significant morbidity or mortality that are necessary for the practice of public health. This course is mandatory for MPH students without MD, DDS, DMD, or RN.</p> <p>Outline: Discusses the molecular, cellular, physiological, genetic and immunological determinants of human diseases and disease susceptibility, including infectious disease, pulmonary diseases related to air pollution, diabetes and obesity, cardiovascular diseases, stress-related conditions, psychiatric diseases, perinatal complications, and cancer. Focuses on how biological principles help to understand the development, treatment and prevention of disease, and to assess risk from potentially hazardous agents and behaviors.</p>					
授業の到達目標					
<p>Upon successfully completing this course, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Describe the public health strategies for the prevention of the infectious diseases of public health concern worldwide 2) Explain how a vaccine works to achieve resistance to an infectious organism, define the term herd immunity, and explain how it provides protection for the non-immunized person as well as its philosophical consideration 3) Describe the psychophysiological effector mechanisms that represent the stress response and the effect of the stress response on the target organ systems and its public health implications 4) Describe the prevalence, clinical manifestations, natural history and societal impact, pathophysiology, and management of mood and anxiety disorders, schizophrenia, developmental disorders, and dementia 5) Outline normal pregnancy and parturition and describe the effects of host environment on fetus 					

- 6) Describe the public health strategies for the prevention of the pulmonary diseases related to air pollution and the respiratory tract infection of public-health concerns
- 7) Describe the public health burden (domestic and global) of and the public health strategies for the prevention of cardiovascular diseases
- 8) Describe the public health burden (domestic and global) of and the public health strategies for the prevention of diabetes/obesity
- 9) Define genetics and its relationship to the health of individuals and populations, and define major ethical, legal, and social implications of genetics as applied in the clinical setting and in public health
- 10) Describe the effects of epigenetic states on health outcomes related to cardiovascular and respiratory disease, aging, reproductive health, neurological and neuropsychological diseases, and cancer
- 11) Describe the public health burden (domestic and global) of and the public health strategies for various cancer

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/21	08:50-10:20	オンデマンド	Host response to infection: the immune response and vaccination	長谷川 久紀	Objectives:2) Pre-Assignments: Refer course syllabus on the LMS
2	4/21	10:45-12:15	オンデマンド	Host response to infection: the immune response and vaccination	長谷川 久紀	Objectives:2) Pre-Assignments: Refer course syllabus on the LMS
3	4/21	13:30-15:00	オンデマンド	Pulmonary diseases related to air pollution and respiratory tract infection of public-health concern	藤原 高智	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
4	4/23	08:50-10:20	オンデマンド	Genetics for public health students	高橋 健太郎	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
5	4/23	10:45-12:15	オンデマンド	Genetics for public health students	高橋 健太郎	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
6	4/24	13:30-15:00	オンデマンド	Cardiovascular diseases for public health students	中釜 瞬	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
7	4/24	15:25-16:55	オンデマンド	Cardiovascular diseases for public health students	中釜 瞬	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
8	4/27	13:30-15:00	オンデマンド	Diabetes and obesity for public health students	能登 洋	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
9	4/27	15:25-16:55	オンデマンド	Diabetes and obesity for public health students	能登 洋	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
10	4/28	10:45-12:15	オンデマンド	Essentials of obstetrics for public health students	JANELLE R ENE E MOR OSS	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
11	4/28	13:30-15:00	オンデマ	Cancer for public health	池田 貞勝	Pre-Assignments:

			ンド	students		Refer syllabus on the LMS
12	4/30	13:30-15:00	オンデマ ンド	Pathogens, infection, and infectious diseases	岡本 耕	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
13	4/30	15:25-16:55	オンデマ ンド	Pathogens, infection, and infectious diseases	田頭 保彰	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
14	5/1	08:50-10:20	オンデマ ンド	Epigenetics for public health students	秋山 好光	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
15	5/7	08:50-10:20	オンデマ ンド	Stress Response / Essentials of neuroscience and psychiatric illnesses	上里 彰仁	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
16	5/7	10:45-12:15	オンデマ ンド	Stress Response / Essentials of neuroscience and psychiatric illnesses	上里 彰仁	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS

授業方法

- ・All lectures will be delivered on-demand (asynchronous).
- ・Lecture videos will be uploaded to the “Public Health Biology 2026 (Spring semester)” course in the Science Tokyo LMS.

授業内容

Refer to the course schedule

成績評価の方法

The final grade will be based on the sum of all points granted. For those students who fail to meet the requirements for grading or those students who did not fulfill attendance requirements or other necessary requirements, the grade will be marked as credit not granted.

Grading Criteria

Grades are finalized by considering the sum of all points granted for the following items.

- (1) Class Attendance: 30% of the total course points
- (2) Final Report: 70% of the total course points

Evaluation of the Final Report will be based NOT on the quantity (the length) but on the quality (content and organization) by taking into account the following factors:

- ・Analytical ability and insights
- ・Reasoning skills
- ・Ability to develop and evaluate hypotheses
- ・Comprehension of learned concepts and frameworks
- ・Strength of the argument presented

準備学習等についての具体的な指示

Preparation (reading, viewing, assignments, etc) will be specified in the course syllabus which will be provided to registered students on the LMS.

試験の受験資格

There will be no final exams in this course. Course gradings will be based on the sum of all points granted from the Preparation Assignment, Class Participation and Final Report.

モジュールの単位判定

2 units
教科書 Human Genetic Diversity／Julian C. Knight:Oxford University Press, 2009 Please purchase the above textbooks before the session “Genetics for public health students”(Sessions 4 and 5)
参考書 All other reference materials will be specified in the course syllabus on the LMS.
履修上の注意事項 (1) Lecture style ·All the other lectures will be delivered on-demand (asynchronous). ·Lecture videos will be uploaded on the LMS. ·Videos will be only available on the LMS during April 20th～June 8th, 2026. (2) Self Introduction Set your concrete goal for taking this course and post it, along with your self-introduction, to the course mailing list (phb@ml.tmd.ac.jp) by 20th of Apr (Mon) 19:00. (3) Attendance ·Attendance of at least 11 out of 16 sessions. ·Attendance will be checked through your browsing history of each session’s video. ·75% or more viewing per video on the LMS is required for attendance. (4) Preparation Assignments Students are required to do preparation assignments as specified by each session in this syllabus. Preparation Assignments assist you in understanding the topic for the class. (5) Preparation and Class Participation All sessions are conducted with the assumption that all students are fully prepared. Students attending class without having prepared will not benefit themselves. Therefore, all students are expected to prepare thoroughly. (6) Submission of Final Report A report is required for the completion of the course and its deadline will be specified in the course syllabus. The most important point in completing the Final Report is to develop and explain your own opinions which should be thought through thoroughly and lead you to make your own conclusion. Merely summarizing cases, methods or frameworks is not sufficient. Explain your thoughts clearly and concisely. Use simple and clear expressions. If you use any charts in your Report, clarify and explain what information those can tell readers. Detailed direction for Final Report will be given at the end of this course syllabus. Final report is due at 23:59 pm on June 8th (Mon), 2026. Note: Measures against cheating and plagiarism When writing your Final Report, it is strictly forbidden to copy or use ideas from Final Reports of your classmates or those students who took this course in past terms, handouts from other courses, or materials from past terms. Students should refrain from sharing solutions for Final Report exercises and any other information that could impact the outcome of it through any forms of communication. Both the provider and beneficiary of relevant information shall become disqualified from completing the course in the case of such cheating and plagiarism.
備考 Preparation assignments, dates, time, location of each session are subject to change. Please check with the most updated course syllabus. For students not in the MPH course, instructor’s permission is required before registering to the course. Also, students are required to have TOEFL iBT with a minimum score of 80 (taken before January 21, 2026), 4.5 (taken on or after January 21, 2026), or IELTS with a minimum score of 6.5. Please submit an email when you receive permission through the Forms below. https://forms.office.com/r/5S5i8Xwhit In addition, priority for course registration is given to MPH students, and registration may be limited depending on the number of applicants. For the most recent update, please refer to the web page. The times shown in the “Lecture plan” may differ from the actual times.
連絡先(メールアドレス) 長谷川 久紀hasegawa.rheu@tmd.ac.jp
オフィスアワー 長谷川 久紀毎週火曜～木曜日 AM.10:00-PM.18:00 1号館4階居室 毎週金曜日 PM.15:00-PM.18:00 1号館4階居室 上記時間でも不在の場合がありますので、まずは81600に連絡下さい。

時間割番号	416005			科目ID	GC-c6230-L	
科目名	医療システム・マネジメント					
担当教員	森田 彩子[MORITA Ayako]					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1~	単位数	2	
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面	
<p>Instructors:</p> <p>Ayako Morita, Associate Professor, Department of Public Health</p> <p>Ali Shehzad, Canada Research Chair and Professor, Department of Epidemiology & Biostatistics, Western University</p> <p>Daisuke Shinjo, Associate Professor, Department of Health Policy and Informatics Section</p> <p>Miho Ishimaru, Lecturer, Department of Dental Public Health</p> <p>Tsuguhiko Kato, Associate Professor, Graduate School of Public Health, St. Lukes International University</p> <p>Yuiko Nagamine, Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan</p> <p>Takeo Fujiwara, Professor, Department of Public Health</p> <p>Nobutoshi Nawa, Professor, Department of Global Environmental Health</p> <p>Yu Par Khin, Specially Appointed Assistant Professor, Department of Public Health</p> <p>Availability in English: All classes are taught in English.</p> <p>Keyword: Public Health</p>						
主な講義場所						
G-lab, 8F, M&D tower						
授業の目的、概要等						
This course provides an overview of the Japanese health care system and introduces cost-benefit analysis methods used in medical and public health interventions.						
授業の到達目標						
By the end of this course, students will be able to:						
1) Describe the key features of the Japanese health care system.						
2) Explain the basic concepts of cost-benefit analysis in health care.						
3) Apply cost-benefit analysis methods to medical and public health interventions.						
4) Interpret economic evaluation results for policy decision-making critically in a logical manner.						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/13	08:50-10:20	G-Lab	Course Overview and Syllabus Review, Lecture: Healthcare Systems in Japan and Beyond	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, Y U PAR KHI N, 新城 大輔	
2	4/13	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Dental Healthcare System in Japan	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, Y U PAR KHI N, 石丸 美穂	
3	4/13	13:30-15:00	G-Lab	Lecture: Maternal and Child Health Care System in Japan	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, Y U PAR KHI N	Guest lecturer: Tuguhiko Kato

4	4/13	15:25-16:55	G-Lab	Lecture: Longevity Health Care System in Japan	藤原 武男, 那波 伸敏 森田 彩子, Y U PAR KHI N	Guest lecturer: Yuiko Nagamine
5	4/14	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (1)	藤原 武男, 那波 伸敏 森田 彩子, Y U PAR KHI N	Guest professor: Ali Shehzad
6	4/14	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (2)	藤原 武男, 那波 伸敏 森田 彩子, Y U PAR KHI N	Guest professor: Ali Shehzad
7	4/14	13:30-15:00	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (3)	藤原 武男, 那波 伸敏 森田 彩子, Y U PAR KHI N	Guest professor: Ali Shehzad
8	4/14	15:25-16:55	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (4)	藤原 武男, 那波 伸敏 森田 彩子, Y U PAR KHI N	Guest professor: Ali Shehzad
9	4/16	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (5)	藤原 武男, 那波 伸敏 森田 彩子, Y U PAR KHI N	Guest professor: Ali Shehzad
10	4/16	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (6)	藤原 武男, 那波 伸敏 森田 彩子, Y U PAR KHI N	Guest professor: Ali Shehzad
11	4/16	13:30-15:00	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (7)	藤原 武男, 那波 伸敏 森田 彩子, Y U PAR KHI N	Guest professor: Ali Shehzad
12	4/16	15:25-16:55	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (8)	藤原 武男, 那波 伸敏 森田 彩子, Y U PAR KHI N	Guest professor: Ali Shehzad

13	4/17	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (9)	藤原 武男, 那波 伸敏 森田 彩子, Y U PAR KHI N	Guest professor: Ali Shehzad
14	4/17	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (10)	藤原 武男, 那波 伸敏 森田 彩子, Y U PAR KHI N	Guest professor: Ali Shehzad
15	4/17	13:30-15:00	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (11)	藤原 武男, 那波 伸敏 森田 彩子, Y U PAR KHI N	Guest professor: Ali Shehzad
16	4/17	15:25-16:55	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (12)	藤原 武男, 那波 伸敏 森田 彩子, Y U PAR KHI N	Guest professor: Ali Shehzad

授業方法

This four-day course will consist of lectures, discussion, breakout sessions for group work and daily group presentations of the previous day's group work.

授業内容

Refer to the course schedule

成績評価の方法

Grades will be based on the following elements:

Participation (Attendance and Active Class Engagement such as asking questions and involving in discussion) 20%

Individual report 30%

Group project 50%

準備学習等についての具体的な指示

Required and recommended readings will be introduced in class and will be made available on the web page.

モジュールの単位判定

2 units

参考書

To be specified in the class.

履修上の注意事項

For students not in the MPH course, instructor's permission is required before registering to the course. Also, students are required to have TOEFL iBT with a minimum score of 80 (taken before January 21, 2026), 4.5 (taken on or after January 21, 2026), or IELTS with a minimum score of 6.5. Please submit an email when you receive permission through the Forms below. <https://forms.office.com/r/xnqsvRfWT> In addition, priority for course registration is given to MPH students, and registration may be limited depending on the number of applicants.

備考

For the most recent update, please refer to Webclass

連絡先(メールアドレス)

森田 彩子:morita.hlth@tmd.ac.jp

時間割番号	416007			科目ID	GC-c6250-L	
科目名	グローバルヘルス					
担当教員	那波 伸敏[NAWA Nobutoshi]					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1~	単位数	4	
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面	
<p>Instructor(s):</p> <p>Nobutoshi Nawa, Professor, Department of Global Environmental Health</p> <p>Takeo Fujiwara, Professor, Department of Public Health</p> <p>Pamela Surkan, Professor, Department of International Health, Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health</p> <p>Ayako Morita, Associate Professor, Department of Public Health</p> <p>Yui Yamaoka, Project Assistant Professor, Department of Public Health</p> <p>Aya Goto, Professor, Department of International Health and Population Studies, Harvard School of Public Health</p> <p>Yugo Shobugawa, Professor, Center for Well-being Research Advancement (CWRA)</p> <p>Yu Par Khin, Adjunct Assistant Professor, Department of Public Health</p> <p>Yoshiaki Gu, Professor, Department of Infectious Diseases, Institute of Science Tokyo</p> <p>Shinjiro Nozaki, Regional Compliance and Risk Management Officer, Regional Office for the Western Pacific, World Health Organization</p> <p>Masami Fujita, Director, Office of Partnership and Coordination, Bureau of Global Health Cooperation, Japan Institute for Health Security</p> <p>Akimi Ota, Toke Studio</p> <p>Akihiro Koido, Professor, Faculty of International Relations, Department of Multicultural Communication, Asia University</p> <p>Availability in English: All classes are taught in English.</p> <p>Key word: Global Health</p>						
主な講義場所						
M&D タワー8階 G-Lab						
授業の目的、概要等						
このコースでは、紛争、移民、感染症のパンデミック、交通事故など、今日の世界が直面する主要なグローバルヘルスの問題の概要を紹介します。また、学生はこれらの問題に関するデータを収集するためのアンケート作成や質的な調査方法についても学びます。						
授業の到達目標						
a) 特定の地域の人口動態、文化的・民族的・歴史的背景、天然資源、人的・社会経済的移動、健康状態の関係について説明する b) 公衆衛生および人権への対応プロセスに対する政府機関、政府間機関、非政府機関の活動の影響について論じる c) 医学、公衆衛生、社会科学の観点から、現在の世界的な健康問題について説明する						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	6/29	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Qualitative method in global health (1)	PAMELA JE AN SURKA N. 那波 伸敏 YU PAR KH IN	
2	6/29	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Qualitative method in global health (2)	PAMELA JE AN SURKA N. 那波 伸敏 YU PAR KH IN	
3	6/29	13:30-15:00	G-Lab	Lecture & groupwork: Qualitative method in global health (3)	PAMELA JE AN SURKA N. 那波 伸敏	

					YU PAR KH IN	
4	6/29	15:25-16:55	G-Lab	Lecture & groupwork: Qualitative method in global health (4)	PAMELA JE AN SURKA N. 那波 伸敏 YU PAR KH IN	
5	6/30	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Qualitative method in global health (5)	PAMELA JE AN SURKA N. 那波 伸敏 YU PAR KH IN	
6	6/30	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Qualitative method in global health (6)	PAMELA JE AN SURKA N. 那波 伸敏 YU PAR KH IN	
7	6/30	13:30-15:00	G-Lab	Lecture & groupwork: Qualitative method in global health (7)	PAMELA JE AN SURKA N. 那波 伸敏 YU PAR KH IN	
8	6/30	15:25-16:55	G-Lab	Lecture & groupwork: Qualitative method in global health (8)	PAMELA JE AN SURKA N. 那波 伸敏 YU PAR KH IN	
9	7/2	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Qualitative method in global health (9)	PAMELA JE AN SURKA N. 那波 伸敏 YU PAR KH IN	
10	7/2	10:45-12:15	G-Lab	Lecture & groupwork: Qualitative method in global health (10)	PAMELA JE AN SURKA N. 那波 伸敏 YU PAR KH IN	
11	7/2	13:30-15:00	G-Lab	Lecture & groupwork: Qualitative method in global health (11)	PAMELA JE AN SURKA N. 那波 伸敏 YU PAR KH IN	
12	7/2	15:25-16:55	G-Lab	Lecture & groupwork: Qualitative method in global health (12)	PAMELA JE AN SURKA N. 那波 伸敏 YU PAR KH IN	
13	7/3	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Qualitative method in global health	PAMELA JE AN SURKA	

				(13)	N. 那波 伸敏 YU PAR KH IN	
14	7/3	10:45-12:15	G-Lab	Lecture & groupwork Qualitative method in global health (14)	PAMELA JE AN SURKA N. 那波 伸敏 YU PAR KH IN	
15	7/3	13:30-15:00	G-Lab	Lecture & groupwork Qualitative method in global health (15)	PAMELA JE AN SURKA N. 那波 伸敏 YU PAR KH IN	
16	7/3	15:25-16:55	G-Lab	Lecture & groupwork Qualitative method in global health (16)	PAMELA JE AN SURKA N. 那波 伸敏 YU PAR KH IN	
17	7/6	08:50-10:20	G-Lab	Lecture & Group activity: How to make a questionnaire ①	森田 彩子, 藤原 武男, 山岡 祐衣, Y U PAR KHI N	
18	7/6	10:45-12:15	G-Lab	Lecture & Group activity: How to make a questionnaire ②	森田 彩子, 藤原 武男, 山岡 祐衣, Y U PAR KHI N	
19	7/6	13:30-15:00	G-Lab	Lecture: Intersection of visual anthropology and public health	那波 伸敏	OTA Akimi
20	7/6	15:25-16:55	G-Lab	Lecture: Infectious disease control in hospital	具 芳明	
21-23	7/7	08:50-15:00	G-Lab, ライブ	Lecture: Human development in developing countries	後藤 あや	
24	7/7	15:25-16:55	G-Lab	Lecture: Immigrants' Access to Healthcare	森田 彩子, 山岡 祐衣, Y U PAR KHI N, 藤原 武男	FUJITA Masami
25	7/9	08:50-10:20	G-Lab, ライブ	Lecture: Immigration Policy	那波 伸敏	KOIDO Akihiro
26	7/9	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Methodologies for migrant studies	YU PAR KH IN	
27	7/9	13:30-15:00	G-Lab, ライブ	Lecture & Group activity: How to make a questionnaire ③	森田 彩子, 山岡 祐衣, Y U PAR KHI N, 藤原 武男	
28	7/9	15:25-16:55	G-Lab	Lecture: Health in fragile	菖蒲川 由郷	

				and conflict-affected area – a case study in Myanmar		
29	7/10	08:50-10:20	G-Lab	Lecture & Group activity: How to make a questionnaire ④: Pre-checking	藤原 武男, 森田 彩子, 山岡 祐衣, Y U PAR KHI N	
30	7/10	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: WHO	藤原 武男, 森田 彩子, 山岡 祐衣, Y U PAR KHI N	NOZAKI Shirjiro
31	7/10	13:30-15:00	G-Lab	Lecture & Group activity: How to make a questionnaire ④: Preparation for presentation	藤原 武男, 森田 彩子, 山岡 祐衣, Y U PAR KHI N	
32	7/10	15:25-16:55	G-Lab	Individual presentation	藤原 武男, 森田 彩子, 山岡 祐衣, Y U PAR KHI N	

授業方法

このコースは、講義とケースベースのクラス活動で構成されています。受講生は最終レポートを作成することが要求される。

授業内容

コースを通して、グローバルヘルスに関するエビデンス、理論、手法、およびグローバルヘルス問題に対処するための政策を立案、実施、評価するために用いられるアプローチを検討し、議論していきます。

成績評価の方法

授業への参加状況と課題に基づいて評価します。

- ・授業への参加状況 10%
- ・個人課題(オリジナル問題作成) 50%
- ・グループベース定性調査レポート 40%

準備学習等についての具体的な指示

参考文献は Websystem で公開されます。受講者は、対応する授業の前に、参考文献を読み込んでおいてください。

履修上の注意事項

For students not in the MPH course, instructor's permission is required before registering to the course. Also, students are required to have TOEFL iBT with a minimum score of 80 (taken before January 21, 2026), 4.5 (taken on or after January 21, 2026), or IELTS with a minimum score of 6.5. Please submit an email when you receive permission through the Forms below. <https://forms.office.com/r/TQ0W1Arwxc> In addition, priority for course registration is given to MPH students, and registration may be limited depending on the number of applicants.

備考

授業明細は暫定版です。授業明細の最新版は MPH シラバス『Global Health』をご確認ください

連絡先(メールアドレス)

那波 伸敏 nawa.ioe@tmd.ac.jp

時間割番号	416008			科目ID	GC-c6260-L	
科目名	母子保健					
担当教員	山岡 祐衣, 伊角 彩[YAMAOKA Yui, ISUMI Aya]					
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1~	単位数	2	
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面	
<p>Instructor(s): Takeo Fujiwara, Professor, Department of Public Health Yui Yamaoka, Associate Professor, Institute of Future Science (Chair) Aya Isumi, Lecturer, Department of Health Policy</p> <p>Availability in English: All classes are taught in English. Key word: Public Health, Maternal and Child Health</p>						
主な講義場所						
Refer to the course schedule						
授業の目的、概要等						
<p>Course Purpose: This course has been designed to provide students with a conceptual grounding in theoretical approaches and emerging research topics in maternal and child health.</p> <p>Outline: This course introduces emerging issues in maternal and child health, such as child maltreatment and nutrition. It provides students with basic knowledge and skills needed to apply a life course approach to solve these issues.</p>						
授業の到達目標						
<p>Upon successfully completing this course, students will be able to understand and explain that childhood is the critical period of health issues. Also, students will obtain skills to develop research plans for emerging issues in maternal and child health, along with life-course perspectives.</p>						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	1/18	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Theories and Models of Human Development	伊角 彩	
2	1/18	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: MCH in Japan	藤原 武男	KATO Tsuguhiko
3	1/18	13:30-15:00	G-Lab	Lecture: Developmental Origins of Health and Disease	寺田 周平	
4	1/18	15:25-16:55	G-Lab	Instructions for assignments (テーマ? Group preparation for assignment	山岡 祐衣, 伊角 彩, 藤原 武男	
5	1/19	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Injury prevention	藤原 武男	KAWAHARA
6	1/19	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Paternal Origins of Health and Disease	前田 裕斗	
7-8	1/19	13:30-16:55	G-Lab	Group presentation preparation (consultations and feedback) 個別相談と	山岡 祐衣, 伊角 彩, 藤原 武男	

				FB ? Or brief presentation?		
9	1/21	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Brain development and mental health	小山 佑奈	
10	1/21	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Early childhood intervention	山岡 祐衣	
11-12	1/21	13:30-16:55	G-Lab	Group preparation for assignment	山岡 祐衣, 伊角 彩 藤 原 武男	
13-14	1/22	08:50-12:15	G-Lab	Lecture: Child maltreatment, Developmental disabilities	藤原 武男	Makiko Okuyama
15-16	1/22	13:30-16:55	G-Lab	Group presentations	山岡 祐衣, 伊角 彩 藤 原 武男	

授業方法

Lectures, readings and case-studies

授業内容

Refer to the course schedule

成績評価の方法

Grades will be based on the following elements:

Participation 30%

Individual presentation 40%

Reflection paper (regarding lectures) 30%

準備学習等についての具体的な指示

Reading materials will be available online at the course webpage. Students are expected to have worked thorough the materials before attending the corresponding class.

モジュールの単位判定

2 units

参考書

To be specified in the class.

履修上の注意事項

For students not in the MPH course, instructor's permission is required before registering to the course. Also, students are required to have TOEFL iBT with a minimum score of 80 (taken before January 21, 2026), 4.5 (taken on or after January 21, 2026), or IELTS with a minimum score of 6.5. Please submit an email when you receive permission through the Forms below. <https://forms.office.com/r/ZxwMUJT5yz> In addition, priority for course registration is given to MPH students, and registration may be limited depending on the number of applicants.

備考

Participation in Zoom is permitted to participants with exceptional circumstances. Please inform and receive permission from the course instructor in advance.

授業明細は暫定版です。授業明細の最新版は MPH シラバス『Maternal and Child Health』をご確認ください

連絡先(メールアドレス)

山岡 祐衣:yamaoka.hth@tmd.ac.jp

オフィスアワー

山岡 祐衣:平日9~17時、MD タワー16階 S1665

時間割番号	416010			科目ID	GC-c6280-L	
科目名	行動科学					
担当教員	森田 彩子[MORITA Ayako]					
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1~	単位数	2	
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面	
<p>Instructors</p> <p>Ayako Morita, Associate Professor, Department of Public Health</p> <p>Satomi Doi, Assistant Professor, Department of Health Policy</p> <p>Takeo Fujiwara, Professor, Department of Public Health (Chair)</p> <p>Yoshitake Takebayashi, Lecturer, Fukushima Medical University</p> <p>Tsuyoshi Okuhara, Associate Professor, The University of Tokyo</p> <p>Kota Katanoda, Chief, Division of Cancer Statistics Integration, National Cancer Center, Center for Cancer Control and Information Services</p> <p>Masamitsu Kamada, Lecturer, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo</p> <p>Availability in English: All classes are taught in English.</p> <p>Key word: Public Health</p>						
主な講義場所						
Refer to the course schedule						
授業の目的、概要等						
Course Purpose:						
This course has been designed to provide students with a conceptual grounding in theoretical approaches and hot research topics in health behaviors.						
Outline:						
This course provides students with basic knowledge and skills needed to understand individual, group, and community behaviors and change processes in cross-cultural contexts in order to design health promoting behavioral interventions.						
授業の到達目標						
Upon successfully completing this course, students will be able to apply theories and models in diagnosing community and designing effective public health intervention in a logical manner.						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	10/19	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Basic Theories and Models of Behavioral Change	Reflexive, Cognitive-Behavioral, and Ecological Models	森田 彩子
2	10/19	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Health Behavior Change Intervention in Clinical Practice	How to facilitate behavior change in patients through a patient-centered approach	竹林 由武
3	10/19	13:30-15:00	G-Lab	Lecture: Tobacco Control	How to introduce behavioral change in citizens with regulatory policies	片野田 耕太
4	10/19	15:25-16:55	G-Lab	Group activity #1: Developing a theory-informed behaviour change interventions	"Who needs to do what, differently? Which barriers and enablers need to be addressed?"	森田 彩子, 藤原 武男, 土井 理美, 片野田 耕太
5	10/20	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Mass Health Communication (1)	Basic Principles of Health Communication	奥原 剛
6	10/20	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Mass Health	Designing Affective Appeals in	奥原 剛

				Communication (2)	Health Communication	
7	10/20	13:30-15:00	G-Lab	Lecture: Social Networks	How Social Networks Influence Health Behaviors	森田 彩子
8	10/20	15:25-16:55	G-Lab	Group activity #2: Developing a theory-informed behaviour change interventions	"Which intervention components could overcome the modifiable barriers and enhance the enablers?"	森田 彩子, 土井 理美 藤原 武男
9	10/21	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Population strategies for promoting physical activity (1)	Social marketing and gamification techniques	鎌田 真光
10	10/21	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Population strategies for promoting physical activity (2)	Social marketing and gamification techniques	鎌田 真光
11	10/21	13:30-15:00	G-Lab	Lecture: Strategic persuasive communication	How to communicate with key persons in the fields	土井 理美 鎌田 真光
12	10/21	15:25-16:55	G-Lab	Group activity #3: Strategic persuasive communication	"How to Present Yourself and Your Intervention to Key Stakeholders?"	土井 理美
13	10/23	08:50-10:20	G-Lab	Group activity #4 & 5: Time to finalize presentation		藤原 武男, 森田 彩子, 土井 理美 那波 伸敏
14	10/23	10:45-12:15	G-Lab	Group activity #4 & 5: Time to finalize presentation		藤原 武男, 森田 彩子, 土井 理美 那波 伸敏
15	10/23	13:30-15:00	G-Lab	Presentation		藤原 武男, 森田 彩子, 土井 理美

授業方法

This four-day course will consist of lectures, discussion, breakout sessions for group work and daily group presentations of the previous day's group work, and individual works.

授業内容

Refer to the course schedule

成績評価の方法

Grades will be based on the following elements:

Participation (Attendance + Classroom Engagement such as asking questions and participating in discussions) 20%

Assignment

#1

30%

Assignment #2 50%

準備学習等についての具体的な指示

Reading materials are available online at the course webpage. Students are recommended to read the materials before the corresponding lectures.

モジュールの単位判定

2 units

参考書

To be specified in the class.

履修上の注意事項

For students not in the MPH course, instructor's permission is required before registering to the course. Also, students are required to have TOEFL iBT with a minimum score of 80 (taken before January 21, 2026), 4.5 (taken on or after January 21, 2026), or IELTS with a minimum score of 6.5. Please submit an email when you receive permission through the Forms below. <https://forms.office.com/r/42Z2XGgncy> In addition, priority for course registration is given to MPH students, and registration may be limited depending on the number of applicants.

備考

Guidance on the course assignments will be given during the lecture No.1

連絡先(メールアドレス)

森田 彩子:morita.hlth@tmd.ac.jp

時間割番号	416025																																																												
科目名	地球環境と健康	科目ID	GC-c6291-L																																																										
担当教員	那波 伸敏[NAWA Nobutoshi]																																																												
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1~	単位数	2																																																								
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面																																																								
<p>Instructor(s): Nobutoshi Nawa, Professor, Department of Global Environmental Health Hisaki Nishimura, Assistant Professor, Department of Public Health Takeo Fujiwara, Professor, Department of Public Health Brian Schwartz, Professor, Department of Environmental Health and Engineering, Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health</p> <p>Availability in English: All classes are taught in English. Key word: Global Health</p>																																																													
主な講義場所 M&D タワー8階 G-Lab																																																													
授業の目的、概要等 このコースでは、環境衛生問題の最新のトピック、その原因に関する科学的理解、および主要な環境衛生問題の制御に向けて将来可能なアプローチを紹介します。																																																													
授業の到達目標 ・公衆衛生において重要な環境暴露を定義し、それらがどのように病気を引き起こし、あるいは健康を促進するかを科学的かつ論理的に説明できる。 ・暴露の可能性と健康結果のリスクに影響を及ぼす特定の要因(遺伝子、人口統計、社会経済的地位、栄養など)を科学的かつ論理的に説明できる。 ・環境ハザードの特定、ハザードの健康への影響の評価、ハザードの管理、管理努力の監視の方法について科学的かつ論理的に説明できる。																																																													
授業計画 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>授業題目</th> <th>担当教員</th> <th>到達目標・学習方法・その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-2</td> <td>7/27</td> <td>08:50-12:15</td> <td>G-Lab</td> <td>Lecture: Introduction to environmental health and guidance for group activity</td> <td>西村 久明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3-4</td> <td>7/27</td> <td>13:30-16:55</td> <td>G-Lab</td> <td>Case and group activity: Preparation for the presentation</td> <td>藤原 武男, 那波 伸敏 西村 久明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5-6</td> <td>7/28</td> <td>08:50-12:15</td> <td>G-Lab</td> <td>Lecture: Minamata disease</td> <td>頼藤 貴志</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7-8</td> <td>7/28</td> <td>13:30-16:55</td> <td>G-Lab</td> <td>Case and group activity: Preparation for the presentation</td> <td>藤原 武男, 那波 伸敏 西村 久明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9-10</td> <td>7/30</td> <td>08:50-12:15</td> <td>G-Lab</td> <td>Lecture: Water resources and health</td> <td>那波 伸敏</td> <td>Keisuke Fukushi</td> </tr> <tr> <td>11-12</td> <td>7/30</td> <td>13:30-16:55</td> <td>G-Lab</td> <td>Case and group activity: Preparation for the presentation</td> <td>藤原 武男, 那波 伸敏 西村 久明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13-14</td> <td>7/31</td> <td>08:50-12:15</td> <td>G-Lab</td> <td>Lecture: Global</td> <td>西村 久明</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他	1-2	7/27	08:50-12:15	G-Lab	Lecture: Introduction to environmental health and guidance for group activity	西村 久明		3-4	7/27	13:30-16:55	G-Lab	Case and group activity: Preparation for the presentation	藤原 武男, 那波 伸敏 西村 久明		5-6	7/28	08:50-12:15	G-Lab	Lecture: Minamata disease	頼藤 貴志		7-8	7/28	13:30-16:55	G-Lab	Case and group activity: Preparation for the presentation	藤原 武男, 那波 伸敏 西村 久明		9-10	7/30	08:50-12:15	G-Lab	Lecture: Water resources and health	那波 伸敏	Keisuke Fukushi	11-12	7/30	13:30-16:55	G-Lab	Case and group activity: Preparation for the presentation	藤原 武男, 那波 伸敏 西村 久明		13-14	7/31	08:50-12:15	G-Lab	Lecture: Global	西村 久明	
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他																																																							
1-2	7/27	08:50-12:15	G-Lab	Lecture: Introduction to environmental health and guidance for group activity	西村 久明																																																								
3-4	7/27	13:30-16:55	G-Lab	Case and group activity: Preparation for the presentation	藤原 武男, 那波 伸敏 西村 久明																																																								
5-6	7/28	08:50-12:15	G-Lab	Lecture: Minamata disease	頼藤 貴志																																																								
7-8	7/28	13:30-16:55	G-Lab	Case and group activity: Preparation for the presentation	藤原 武男, 那波 伸敏 西村 久明																																																								
9-10	7/30	08:50-12:15	G-Lab	Lecture: Water resources and health	那波 伸敏	Keisuke Fukushi																																																							
11-12	7/30	13:30-16:55	G-Lab	Case and group activity: Preparation for the presentation	藤原 武男, 那波 伸敏 西村 久明																																																								
13-14	7/31	08:50-12:15	G-Lab	Lecture: Global	西村 久明																																																								

				environmental change		
15-16	7/31	13:30-16:55	G-Lab	Case and group activity: Presentation	藤原 武男, 那波 伸敏 西村 久明	
授業方法						
このコースは、講義とケースベースのクラス活動で構成されています。受講生は最終レポートを作成することが要求される。						
授業内容						
このコースでは、毒物学、曝露評価、環境疫学、リスク評価・管理、大気汚染、水質汚染、環境正義などのトピックを検討し、議論していく予定です。						
成績評価の方法						
授業への参加状況と課題に基づいて評価します。						
授業への参加状況 10%						
課題 90%(プレゼン 30%、レポート 60%)						
準備学習等についての具体的な指示						
参考文献は Websystem で公開されます。受講者は、対応する授業の前に、参考文献を読み込んでください。						
教科書						
標準的な教科書を読みたい人は、以下の本をオススメします。Frumkin H, editor. Environmental health: from global to local. San Francisco: Jossey-Bass; 2016.						
履修上の注意事項						
For students not in the MPH course, instructor's permission is required before registering to the course. Also, students are required to have TOEFL iBT with a minimum score of 80 (taken before January 21, 2026), 4.5 (taken on or after January 21, 2026), or IELTS with a minimum score of 6.5. Please submit an email when you receive permission through the Forms below. https://forms.office.com/r/njk8XDjuvL . In addition, priority for course registration is given to MPH students, and registration may be limited depending on the number of applicants.						
備考						
授業明細は暫定版です。授業明細の最新版は MPH シラバス『Environmental Planetary Health』をご確認ください						
連絡先(メールアドレス)						
那波 伸敏 nawa.ioe@tmd.ac.jp						

時間割番号	417005				科目ID	
科目名	ジョブ型研究インターンシップ			科目ID		
担当教員						
開講時期	2026 年度通年	対象年次	1～4	単位数	1	
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面	
・すべて日本語で行う						
主な講義場所						
対面						
授業の目的、概要等						
<p>本科目は、博士課程学生を対象とした、大学院教育の一環として行われる長期間(2ヶ月以上)かつ有給の研究インターンシップである。本インターンシップは、文部科学省高等教育局が定めた「ジョブ型研究インターンシップ(先行的・試行的取組)実施方針(ガイドライン)(以下、「ガイドライン」という。)及び関連する資料等に基づいて実施されるインターンシップである。なお、これらガイドラインや関連資料等は、改訂されることがあるので、必要があれば常に最新のものを参照すること。ガイドラインに基づき実施されたジョブ型研究インターンシップについては、本科目を履修することにより単位が認められる。</p>						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・以下の各項目及びそれらを総合して向上がみられること。 -研究:研究目的の適切な設定又は理解、研究方法の適切な選択、適切な情報収集・情報分析・情報統合、新しい研究の方向性の提案 -実践:研究目的や研究方法についての大学と企業との違いへの理解、安全確保、コンプライアンス、情報管理への適切な理解と実践、資金、時間の制約への適切な理解とその制約に応じた研究の実践 -対人・チームワーク:業務遂行に当たっての適切な他者とのコミュニケーション、上司、同僚との適切なチームワーク。 						
授業方法						
長期間(2ヶ月)かつ有給の研究インターンシップである。各企業が提示するジョブディスクリプションにより示される。マッチングする企業により様々である為、詳細についてはガイドラインや関連する資料等を参照すること。						
授業内容						
長期間(2ヶ月)かつ有給の研究インターンシップである。各企業が提示するジョブディスクリプションにより示される。マッチングする企業により様々である為、詳細についてはガイドラインや関連する資料等を参照すること。						
成績評価の方法						
<p>評価は、原則ガイドラインに基づき企業が作成する評価書・評価証明書等により行われる。</p> <p>別途、レポートを課す場合もある。レポートを課す場合は評価書(50%)・レポート(50%)とする。</p>						
準備学習等についての具体的な指示						
<ul style="list-style-type: none"> ・本インターンシップは、アルバイトとは異なり、教育目的であることを理解する。 ・本インターンシップは、実践力の育成や企業に対する理解促進が主目的であり、企業への就職活動が主目的ではないことを理解する。 ・企業の新入社員として働くというくらいの意識で、責任感を持って、事前教育や本インターンシップの職務に当たる。 ・秘密保持、知財・ノウハウの取扱い、安全確保についてリテラシー向上に努める。 						
履修上の注意事項						
<p>ガイドラインによると、ジョブ型研究インターンシップは、以下の要件をすべて満たすインターンシップと定義されている。 ・ 研究遂行の基礎的な素養・能力を持った大学院学生が対象 ・ 長期間(2ヶ月以上)かつ有給の研究インターンシップ ・ 正規の教育課程の単位科目として実施 ・ 本ガイドラインに沿ったジョブディスクリプション(業務内容、必要とされる知識・能力等)を提示 ・ インターンシップ終了後、学生に対し面談評価を行い、評価書・評価証明書を発行 ・ インターンシップの成果は、企業が適切に評価し、採用選考活動に反映することが可能</p> <p>また、ジョブ型研究インターンシップは、アルバイトとは異なり、教育目的である。また、実践力の育成や企業に対する理解促進が主目的であり、企業への就職活動が主目的ではない。企業の新入社員として働くというくらいの意識で、責任感を持って、事前教育や本インターンシップの職務に当たることが求められる。さらに、秘密保持、知的財産・ノウハウの取扱い、安全確保についてリテラシー向上に努める必要がある。・なお、インターンシップ先とマッチングしなかった場合は、自動的に履修取消になります。</p>						

備考

連絡先(メールアドレス)

Science Tokyo SPRING (MD)総合窓口 : wise-ura@ml.tmd.ac.jp

時間割番号	041024				
科目名	先制医歯理工学概論 I			科目ID	
担当教員	石川 欽也, 田中 敏博, 永田 有希, 高橋 健太郎, 大川 龍之介, 茂榎 薫, 飯谷 健太, 那波 伸敏[ISHIKAWA Kinya, TANAKA Toshihiro, NAGATA Yuki, TAKAHASHI Kentaro, OKAWA Ryunosuke, MOGUSHI Kaoru, IITANI Kenta, NAWA Nobutoshi]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目
英語授業を別日程で開講している。					
主な講義場所					
ZOOM(Web 遠隔講義システム)					
授業の目的、概要等					
【授業目的】					
ゲノムなどのオミックス情報、環境要因情報、臨床情報、生活習慣情報、を収集し、がんや生活習慣病などの疾患の因子やメカニズムを発見、予測モデルを立て、個人に指導や介入することで予防を実現する、先制医療のための学問体系である先制医歯理工学の基本的概念を理解すること。					
【概要】					
健康な状態から疾患に至るまでの生物学的過程、遺伝要因と環境要因やエピジェネティクスなどとの基本的な関係、オミックスや生体情報などの取得方法の基本的概念、疾患発症リスクの見積もり方法、指導や介入の基本的な方法、倫理や遺伝カウンセリングについて理解する。					
授業の到達目標					
先制医歯理工学における現状と課題の体系的な理解と鳥瞰的な視点の獲得を到達目標とする。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	8/4	15:00-16:30	ライブ	先制医療や個別化医療の概念、健康から病気に至る過程及び指導介入	石川 欽也
2	8/17	08:50-10:20	ライブ	オミックスデータに基づく健康管理アルゴリズム構築の基礎	石川 欽也
3	8/17	15:00-16:30	ライブ	ゲノム医療とパイオインフォマティクス	茂榎 薫
4	8/20	13:00-14:30	疾患バイオリソースセンター	先制医療のためのパイオバンク構築とオミックスプロファイリング、パイオバンク見学	田中 敏博, 永田 有希, 高橋 健太郎
5	8/25	15:00-16:30	ライブ	生体情報モニタリングデバイスの基礎	飯谷 健太
6	8/26	13:00-14:30	ライブ	先制医療の基盤としての疫学:理論と実践	那波 伸敏
7	8/28	13:00-14:30	ライブ	先制医療や個別化医療の概念、健康から病気に至る過程及び指導介入 その2	石川 欽也
8	9/1	15:00-16:30	ライブ	リポミクスと生体試料取り扱いのピットフォー	大川 龍之介

				ル	
授業方法					
先制医歯理工学の第一線で活躍する多彩な講師を招聘し、学生参加型の対話型講義を適宜行う。					
成績評価の方法					
講義への参加 50%、講義時の質疑など 20%、レポート 30%として評価する。					
準備学習等についての具体的な指示					
特になし。					
参考書					
特になし。					
履修上の注意事項					
特になし。					
備考					
本科目は先制医歯理工学コース生の選択必修科目である。コース生以外の履修も席数が許す限り受け入れる。					
連絡先(メールアドレス)					
石川 欽也:pico.nuro@tmd.ac.jp					
オフィスアワー					
石川 欽也:毎週月曜日 PM.0:00-PM.3:00 3号館 15階 ゲノム健康医療学分野					

時間割番号	041025				
科目名	先制医歯理工学概論 I (英語)			科目 ID	
担当教員	石川 欽也, 吉田 雅幸, 田中 敏博, 永田 有希, 高橋 健太郎, 大川 龍之介, 茂櫛 薫, 那波 伸敏[ISHIKAWA Kinya, YOSHIDA Masayuki, TANAKA Toshihiro, NAGATA Yuki, TAKAHASHI Kentaro, OKAWA Ryunosuke, MOGUSHI Kaoru, NAWA Nobutoshi]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目
全てを英語で行う					
授業の目的、概要等					
【授業目的】					
ゲノムなどのオミックス情報、環境要因情報、臨床情報、生活習慣情報、を収集し、がんや生活習慣病などの疾患の因子やメカニズムを発見、予測モデルを立て、個人に指導や介入することで予防を実現する、先制医療のための学問体系である先制医歯理工学の基本的概念を理解すること。					
【概要】					
健康な状態から疾患に至るまでの生物学的過程、遺伝要因と環境要因やエピジェネティクスなどとの基本的な関係、オミックスや生体情報などの取得方法の基本的概念、疾患発症リスクの見積もり方法、指導や介入の基本的な方法、倫理や遺伝カウンセリングについて理解する。					
授業の到達目標					
先制医歯理工学における現状と課題の体系的な理解と鳥瞰的な視点の獲得を到達目標とする。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	11/5	10:30-12:00	ライブ	Introduction	石川 欽也
2	11/5	13:00-14:30	ライブ	Concepts of preemptive medicine and individualized medicine, the process from the healthy state to disease onset, and instruction/intervention	石川 欽也
3	11/6	10:30-12:00	ライブ	The basics to develop the health management algorithm based on the omics data	石川 欽也
4	11/10	13:00-14:30	ライブ	Genomic Medicine and Bioinformatics	茂櫛 薫
5	11/12	14:00-15:30	ライブ	TBA	吉田 雅幸
6	11/18	10:30-12:00	疾患バイオリソー スセンタ ー	Establishment of biobanks for preemptive medicine and omics profiling (including a touraround Science Tokyo biobank)	田中 敏博, 永田 有希, 高橋 健太郎
7	11/20	10:30-12:00	ライブ	Pitfalls of sample handling and lipidomics	大川 龍之介
8	11/24	17:30-19:00	ライブ	Epidemiology as a Foundation for PrecisionMedicine:	那波 伸敏

				Theory and Practice	
9	11/26	13:00-14:30	ライブ	Practical aspects of personalized medicine for common disease	石川 欽也
授業方法					
先制医歯理工学の第一線で活躍する多彩な講師を招聘し、学生参加型の対話型講義を適宜行う。					
成績評価の方法					
講義への参加 50%、講義時の質疑など 20%、レポート 30%として評価する。					
準備学習等についての具体的な指示					
特になし。					
備考					
本科目は先制医歯理工学コース生の選択必修科目である。コース生以外の履修も席数が許す限り受け入れる。					
連絡先(メールアドレス)					
石川 欽也:pico.nuro@tmd.ac.jp					
オフィスアワー					
石川 欽也:毎週月曜日 PM.0:00-PM.3:00 3号館 15階 ゲノム健康医療学分野					

時間割番号	041026				
科目名	先制医歯理工学概論Ⅱ	科目ID			
担当教員	石川 欽也[ISHIKAWA Kinya]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	1～	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
全て日本語で行う					
主な講義場所 調整中					
授業の目的、概要等 【授業目的】 ゲノムなどのオミックス情報、環境要因情報、臨床情報、生活習慣情報、を収集し、がんや生活習慣病などの疾患の因子やメカニズムを発見、予測モデルを立て、個人に指導や介入することで予防を実現する、先制医療のための学問体系である先制医歯理工学の応用事例について広く理解する。 【概要】 先制医療や個別化医療を推進するための実際の健康・医療情報の利活用事例、次世代シーケンサーなどを用いた先端のオミックス実験・解析方法や、ウェアブルモバイルなどの生体情報センシングの開発現場の話、AI などの解析技術の利活用事例、指導や介入の実例を学ぶ。					
授業の到達目標 先制医歯理工学における現状と課題の体系的な理解と鳥瞰的な視点の獲得を到達目標とする。					
授業方法 先制医歯理工学の第一線で活躍する多彩な講師を招聘し、学生参加型の対話型講義を適宜行う。					
授業内容 調整中					
成績評価の方法 講義への参加 50%、講義時の質疑など 20%、レポート 30%として評価する。					
準備学習等についての具体的な指示 特になし。					
参考書 特になし。					
履修上の注意事項 特になし。					
備考 本科目は先制医歯理工学コース生の選択必修科目である。コース生以外の履修も席数が許す限り受け入れる。 授業日時及び開催場所は、決定次第、履修登録者へ通知する。					

時間割番号	041027				
科目名	データサイエンス特論 I	科目 ID	GC-c6360-L		
担当教員	竹内 勝之, 小島 寛之[TAKEUCHI Katsuyuki, KOJIMA Hiroyuki]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
同じ内容の英語授業を別日程で開講している。					
主な講義場所					
授業スケジュールを参照					
授業の目的、概要等					
授業目的: データサイエンスを学ぶうえで基礎となる統計学のエッセンスを習得する。 概要: 本講義では難しい数式を用いず、統計学(ネイマン・ピアソン統計学)を解説する。					
授業の到達目標					
統計学の主要な項目について理解すること。					
授業方法					
講義形式で実施する。					
授業内容					
授業日程について決定次第履修登録者へアナウンスする。					
成績評価の方法					
講義への参加 70%、講義時の質疑 30%					
準備学習等についての具体的な指示					
なし。					
教科書					
完全独習統計学入門/小島寛之:ダイヤモンド社, 2006					
備考					
本科目は先制医歯理工学コース生の選択必修科目である。コース生以外の履修も席数が許す限り受け入れる。					
連絡先(メールアドレス)					
竹内 勝之:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
オフィスアワー					
竹内 勝之:随時。但し事前にメールで予約。 問合せ先 医療・創薬イノベーション教育開発機構 竹内勝之 E-mail:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					

時間割番号	041028				
科目名	データサイエンス特論 I (英語)			科目 ID	GC-c6360-L
担当教員	高橋 邦彦, 安齋 達彦[TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目
All classes are taught in English					
主な講義場所 Online (Zoom)					
授業の目的、概要等 Course Purpose: Students will acquire the essence of statistics/biostatistics that is necessary to learn data science as its basis. Outline: This course gives lectures on the theoretical frameworks of the basic statistics/biostatistics that is the basis of data analysis methods.					
授業の到達目標 The goal is to have an image of an error (a probabilistic phenomenon) in data, to become to explain the hypothesis testing as a means of evaluating objects of interest in the data, and to be able to interpret the performance of statistical analyses in accordance with the research objectives.					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	10/22	14:30-16:00	ライブ	Concept of statistical inference for data science	高橋 邦彦
2	10/22	16:10-17:40	ライブ	Comparing groups - categorical data	安齋 達彦
3	11/5	14:30-16:00	ライブ	Comparing groups - continuous data	安齋 達彦
4	11/5	16:10-17:40	ライブ	Correlation and regression	高橋 邦彦, 安齋 達彦
5	11/19	14:30-16:00	ライブ	Generalized linear model	高橋 邦彦
6	11/19	16:10-17:40	ライブ	Survival analysis	安齋 達彦
7	12/3	14:30-16:00	ライブ	Classification and prediction	安齋 達彦
8	12/3	16:10-17:40	ライブ	Multivariate methods in data science	高橋 邦彦
授業方法 Lectures on data sciences, mainly statistics/biostatistics.					
成績評価の方法 Participation (40%) and reports (60%). At least five classes must be attended to receive a grade.					
準備学習等についての具体的な指示 Those who feel less knowledge about math are encouraged to personally learn it with introductory textbooks on statistics.					
連絡先(メールアドレス) 高橋 邦彦:biostat.dsc@tmd.ac.jp					
オフィスアワー 高橋 邦彦:平日・随時。ただし事前にメールで日時相談。 M&D データ科学センター生物統計学分野(E-mail: biostat.dsc@tmd.ac.jp)					

時間割番号	041029				
科目名	データサイエンス特論Ⅱ	科目ID	GC-c6370-L		
担当教員	竹内 勝之, 茂榎 薫, 長谷 武志[TAKEUCHI Katsuyuki, MOGUSHI Kaoru, HASE Takeshi]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
同じ内容の英語授業を別日程で開講している。					
主な講義場所					
授業スケジュールを参照					
授業の目的、概要等					
授業目的: R言語は統計処理や機械学習を用いた解析等に必須のツールである。本科目では、R言語のプログラミング技術を習得し、統計処理や機械学習の手法を学ぶ。					
概要: R言語を用いたデータ解析の実習を通じて、統計処理や機械学習を行う際に必要とされる基礎技術を解説する。					
授業の到達目標					
R言語を用いたプログラミング技術、そして、それに関連する統計処理や機械学習の基礎的な知識を習得し、R言語を用いて基礎的な統計処理や機械学習を用いた解析ができること。					
授業方法					
講義と実習を併用する。土曜日に集中講義を実施する。					
授業内容					
授業日程について決定次第履修登録者へアナウンスする。					
成績評価の方法					
講義への参加 70%、実習課題 30%					
準備学習等についての具体的な指示					
教科書を指定しないが、参考書を用いるなどして予習することをお勧めする。					
参考書					
RStudio ではじめる R プログラミング入門 / Garrett Golemund 著, 大橋真也 監訳, 長尾高弘 訳: オライリー・ジャパン, 2015					
備考					
本科目は先制医歯理工学コース生の選択必修科目である。コース生以外の履修も席数が許す限り受け入れる。					
連絡先(メールアドレス)					
竹内 勝之: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
オフィスアワー					
竹内 勝之: 随時。但し事前にメールで予約。					
問合せ先 医療・創薬イノベーション教育開発機構 竹内勝之 E-mail: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					

時間割番号	041030			科目名	データサイエンス特論Ⅱ(英語)	科目ID	GC-c6370-L
担当教員	長谷川 嵩矩[HASEGAWA Takanori]						
開講時期	2026年度前期	対象年次		単位数	1		
実務経験のある教員による授業					授業形態	対面	
Availability in English: All classes are taught in English.							
主な講義場所							
PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.							
授業の目的、概要等							
Course Purpose:							
R (programming language) is an essential tool for statistical analysis, analysis using machine learning, and other analyses. Students will acquire a programming skill of R and learn methods of statistical analysis and machine learning.							
Outline:							
This course gives lectures on the basic skills that are necessary to use statistical analysis and machine learning, through practical data analysis using R.							
授業の到達目標							
The goal is that students acquire the basic knowledge of the programming skill of R and statistical analysis and machine learning so that they can analyse data by means of the basic methods of statistical analysis and machine learning using R.							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	5/12	14:30-16:00	情報検索室	Introduction to Data Science I	1. How to use R for data science and 2. Data Visualization and Comparison	長谷川 嵩矩	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
2	5/12	16:10-17:40	情報検索室	Introduction to Data Science II	1. How to use R for data science and 2. Data Visualization and Comparison	長谷川 嵩矩	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
3	5/26	14:30-16:00	情報検索室	Data science in practice I	3. Correlation, and Regression and 4. Survival analysis	長谷川 嵩矩	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
4	5/26	16:10-17:40	情報検索室	Data science in practice II	3. Correlation, and Regression and 4. Survival analysis	長谷川 嵩矩	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
5	6/16	14:30-16:00	情報検索室	Data science in practice	4. Survival analysis and 5.	長谷川 嵩矩	PC room 2 in

			室	Ⅲ	Classification and Prediction		Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
6	6/16	16:10-17:40	情報検索室	Data science in practice IV	4. Survival analysis and 5. Classification and Prediction	長谷川 嵩矩	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
7	6/30	14:30-16:00	情報検索室	Data science in practice V	6. Multivariate methods in data science	長谷川 嵩矩	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
8	6/30	16:10-17:40	情報検索室	Data science in practice VI	6. Multivariate methods in data science	長谷川 嵩矩	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.

授業方法

The course gives both lectures and practices.

授業内容

1. How to use R for data science
2. Data Visualization and Comparison
3. Correlation and Regression
4. Survival analysis
5. Classification and Prediction
6. Multivariate methods in data science

成績評価の方法

Participation (0%) and assignments (100%)

成績評価の基準

講義ごとにレポートを課し、担当教員が評価する。

準備学習等についての具体的な指示

Students are encouraged to attend "Data Science I".

試験の受験資格

試験は実施しません。毎回、授業の後に課題を出すので、提出してください。

構成ユニット

1. How to use R for data science
2. Data Visualization and Comparison
3. Correlation and Regression
4. Survival analysis
5. Classification and Prediction
6. Multivariate methods in data science

モジュールの単位判定

全てのユニットにおける課題を提出・合格すること。授業資料と課題はWEB上に公開されます。

他科目との関連 "Data Science I" or equivalent level knowledge is assumed.
備考 This is a compulsory elective course for students in the Integrative Biomedical Sciences Programs for Preemptive Medicine. Other students can attend this course as long as seats are available, but the course students are given priority over others.
連絡先(メールアドレス) t.hasegawa.dsc@tmd.ac.jp
オフィスアワー 事前にご連絡ください

時間割番号	041510			科目ID	GC-c6371-L
科目名	データサイエンス特論Ⅲ				
担当教員	竹内 勝之, 下川 朝有[TAKEUCHI Katsuyuki, SHIMOKAWA Asanao]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
全て日本語で行う					
主な講義場所 授業日程の通り					
授業の目的、概要等 目的:Python は機械学習を用いたデータ解析等に必須のツールである。本科目では、Python のプログラミング技術を習得する。 概要:プログラミング初心者を対象に、実習形式で Python のプログラミング技術をマスターする。					
授業の到達目標 Python を用いた基本的なプログラミング技術を習得する。					
授業方法 講義と実習を併用する。土曜日に集中講義を実施する。					
授業内容 授業日程について決定次第履修登録者へアナウンスする。					
成績評価の方法 講義への参加 70%、実習時の質疑 30%					
準備学習等についての具体的な指示 教科書を指定しないが、参考書を用いるなどして予習することをお勧めする。					
参考書 ゼロから学ぶ Python プログラミング : Google Colaboratory でらくらく導入 / 渡辺宙志 著, 渡辺 宙志, 講談社, 2020					
履修上の注意事項 なし。					
備考 本科目は先制医歯理工学コース生の選択必修科目である。コース生以外の履修も席数が許す限り受け入れる。					
連絡先(メールアドレス) 竹内 勝之:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
オフィスアワー 竹内 勝之:随時。但し事前にメールで予約。 問合せ先 医療・創薬イノベーション教育開発機構 竹内勝之 E-mail:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					

時間割番号	041511				
科目名	データサイエンス特論Ⅳ	科目ID	GC-c6372-L		
担当教員	竹内 勝之, 小島 寛之, 飯田 頼嗣[TAKEUCHI Katsuyuki, KOJIMA Hiroyuki, IIDA Yoritsugu]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
全て日本語で行う					
主な講義場所 授業スケジュールを参照					
授業の目的、概要等 目的: データサイエンスを学ぶうえで基礎となる統計学のエッセンスを習得する。 概要: 本講義では難しい数式を用いず、機械学習等のベースとなるベイズ統計学の基本事項を中心に解説する。					
授業の到達目標 ベイズ統計学の主要な項目について理解すること。					
授業方法 講義形式で実施する。					
授業内容 授業日程について決定次第履修登録者へアナウンスする。					
成績評価の方法 講義への参加 70%、実習時の質疑 30%					
準備学習等についての具体的な指示 なし。					
教科書 完全独習ベイズ統計学入門 / 小島寛之: ダイヤモンド社, 2015 完全独習統計学入門 / 小島寛之: ダイヤモンド社, 2006					
連絡先(メールアドレス) 竹内 勝之: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
オフィスアワー 竹内 勝之: 随時。但し事前にメールで予約。 問合せ先 医療・創薬イノベーション教育開発機構 竹内勝之 E-mail: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					

時間割番号	041031					
科目名	疫学	科目ID				
担当教員	那波 伸敏[NAWA Nobutoshi]					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1~	単位数	2	
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面	
<p>Instructor(s): Nobutoshi Nawa, Professor, Department of Global Environmental Health Takeo Fujiwara, Professor, Department of Public Health Hisaaki Nishimura, Assistant Professor, Department of Public Health Yu Par Khin, Specially Appointed Assistant Professor, Department of Public Health Shuhei Terada, Assistant Professor, Department of Public Health</p> <p>Availability in English: All classes are taught in English. Key word: Epidemiology</p>						
主な講義場所						
M&D タワー8階 G-Lab						
授業の目的、概要等						
本科目は統合先制医歯保健学を推進し、個別化先制医療を実現できる人材の養成を目的とする先制医歯理工学コース 臨床統計・バイオインフォマティクスプログラムの基礎を学ぶための授業です。						
授業の到達目標						
a) 集団における健康関連の状態またはイベントを測定する b) DAG、情報バイアス、交絡因子、サンプリングバイアスを理解し、説明する b) 公衆衛生問題に対処するための疫学研究を計画する c) 発表された研究を批判的に評価する d) 査読コメントを書く						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-3	6/22	08:50-15:00	G-Lab	Lecture: Measurement and Sampling	藤原 武男, 那波 伸敏 西村 久明, Y U PAR KHI N, 寺田 周平	
4	6/22	15:25-16:55	G-Lab	Group work A (field work and group presentation): Measurement and Sampling	藤原 武男, 那波 伸敏 西村 久明, Y U PAR KHI N, 寺田 周平	
5-7	6/23	08:50-15:00	G-Lab	Lecture: Study designs and Confounder	藤原 武男, 那波 伸敏 西村 久明, Y U PAR KHI N, 寺田 周平	
8	6/23	15:25-16:55	G-Lab	Group discussion: Critical Appraisal	藤原 武男, 那波 伸敏 西村 久明, Y	Download Yu (2024) from web system and read in

					U PAR KHI N. 寺田 周平	advance
9	6/25	08:50-10:20	G-Lab	Exam: Writing a Review Comment	藤原 武男, 那波 伸敏, 西村 久明, Y U PAR KHI N. 寺田 周平	
10	6/25	10:45-12:15	G-Lab	Comments on answers: Writing a Review Comment	藤原 武男, 那波 伸敏, 西村 久明, Y U PAR KHI N. 寺田 周平	
11-12	6/25	13:30-16:55	G-Lab	Group work B (preparation): Drafting a Research Proposal for a Public Health Issue	藤原 武男, 那波 伸敏, 西村 久明, Y U PAR KHI N. 寺田 周平	
13-14	6/26	08:50-12:15	G-Lab	Lecture Advanced Epidemiology to Apply for the Real World	藤原 武男, 那波 伸敏, 西村 久明, Y U PAR KHI N. 寺田 周平	
15-16	6/26	13:30-16:55	G-Lab	Group work B (group presentation): Drafting a Research Proposal for a Public Health Issue	藤原 武男, 那波 伸敏, 西村 久明, Y U PAR KHI N. 寺田 周平	

授業方法

講義とグループに分かれてケーススタディを行います。

授業内容

疫学とは、定義された集団における健康に関連する状態やイベントの原因と分布を研究し、これらの健康問題に対処するためにその知識を応用する学問と定義されます。コース全体を通して、記述統計および因果推論に必要な知識とスキルの概要を説明します。特に、横断研究、コホート研究、症例対照研究、RCTなどの疫学研究の計画と実施に必要な知識を説明します。また、DAGの作成、情報バイアス、交絡、サンプリングバイアスなど、分析における概念的および実践的な問題にも焦点を当てます。

成績評価の方法

授業への参加状況、課題、試験に基づいて評価します。

授業への参加状況 10%

課題 40%(プレゼン A 20%、プレゼン B 20%)

試験 50%

準備学習等についての具体的な指示

教材を配布しますので、事前に読んでください。

参考書

Epidemiology: with student consult / Gordis L.: Elsevier, 2013

Gordis L. Epidemiology: with student consult. 5th edition. Philadelphia: Elsevier, 2013

Szklo M, Nieto EJ, Epidemiology: Beyond the Basics. 3rd edition, Jones & Bartlett Learning; 2012.

Rothman KJ, Greenland S, Lash T. Modern Epidemiology. LWW; 2012.

履修上の注意事項

For students not in the MPH course, instructor's permission is required before registering to the course. Also, students are required to have

TOEFL iBT with a minimum score of 80 (taken before January 21, 2026), 4.5 (taken on or after January 21, 2026), or IELTS with a minimum score of 6.5. Please submit an email when you receive permission through the Forms below. <https://forms.office.com/r/6HkNqXk111> In addition, priority for course registration is given to MPH students, and registration may be limited depending on the number of applicants.

備考

グループワーク及び試験の際は、PC を持ち込んでください。

授業明細は暫定版です。授業明細の最新版は MPH シラバス『Introduction to Epidemiology』をご確認ください

時間割番号	041032					
科目名	臨床・遺伝統計学	科目ID	GC-c8608-L			
担当教員	高橋 邦彦, 安齋 達彦[TAKAHASHI Kunihiro, ANZAI Tatsuhiko]					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1~	単位数	2	
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目	
<p>Instructor(s): Kunihiro Takahashi, Professor, Department of Biostatistics Tatsuhiko Anzai, Associate Professor, Department of Biostatistics</p> <p>Availability in English: All classes are taught in English. Key word: Biostatistics</p>						
主な講義場所						
遠隔授業(非同期型)						
授業の目的、概要等						
<p>授業の目的: 本授業では、疫学、生物医学(臨床、遺伝領域を含む)、その他公衆衛生学に関連した研究に関する生物統計学の概念や基礎的な手法を紹介する。実践的な問題の解決を通じた統計的推論の方法に重点をおく。</p> <p>概要: 生物統計学は、生物医学、生物学、健康科学データへ適用するための統計学的手法である。また量的研究におけるデータ収集、分析のための重要な技術の一つである。本講義では、基本的な生物統計学の解析手法について、臨床研究、疫学研究、ゲノム研究等の医学データへの応用例を通じて学習する。</p>						
授業の到達目標						
<p>a) 生物統計学の基本的な用語を理解し、正しく説明できる。 b) 統計的推定・検定の前提条件や仮定を理解し、特定の状況についてそれぞれの適否を判断できる。 c) 初歩的な統計手法を理解し、いくつかの課題について手計算や統計ソフトを利用し実行でき、図表作成等を実施できる。 d) 統計解析結果を適切な統計表現を用いて記述することができる。</p>						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	6/1	08:50-10:20	オンデマンド	Lecture: Introduction to Biostatistics (online video)	高橋 邦彦	
2	6/1	10:45-12:15	オンデマンド	Lecture: Data presentation; Numerical summary measures (1) (online video)	安齋 達彦	
3	6/2	08:50-10:20	オンデマンド	Lecture: Data presentation; Numerical summary measures (2) (online video)	安齋 達彦	
4	6/2	10:45-12:15	オンデマンド	Lecture: Probability and Theoretical distributions (1) (online video)	安齋 達彦	
5	6/4	08:50-10:20	オンデマンド	Lecture: Probability and Theoretical distributions	高橋 邦彦	

				(2) (online video)		
6	6/4	10:45-12:15	オンデマ ンド	Lecture: Estimation (online video)	高橋 邦彦	
7	6/4	13:30-15:00	オンデマ ンド	Laboratory session (online video)	高橋 邦彦, 安齋 達彦	Optional 1
8	6/4	15:25-16:55	オンデマ ンド	Laboratory session (online video)	高橋 邦彦, 安齋 達彦	Optional 2
9	6/5	08:50-10:20	オンデマ ンド	Lecture: Comparing groups - continuous data (1) (online video)	高橋 邦彦	
10	6/5	10:45-12:15	オンデマ ンド	Lecture: Comparing groups - continuous data (2) (online video)	高橋 邦彦	
11	6/5	13:30-15:00	オンデマ ンド	Laboratory session (online video)	高橋 邦彦, 安齋 達彦	Optional 3
12	6/5	15:25-16:55	G-Lab, ライブ	Q&A session (In person or via live Zoom)	高橋 邦彦, 安齋 達彦	Optional 4
13	6/8	08:50-10:20	オンデマ ンド	Lecture: Comparing groups - categorical data (online video)	安齋 達彦	
14	6/8	10:45-12:15	オンデマ ンド	Lecture: Analysis of Variance; Multiple comparison (online video)	安齋 達彦	
15	6/8	13:30-15:00	オンデマ ンド	Laboratory session (online video)	高橋 邦彦, 安齋 達彦	Optional 5
16	6/8	15:25-16:55	オンデマ ンド	Laboratory session (online video)	高橋 邦彦, 安齋 達彦	Optional 6
17	6/9	08:50-10:20	オンデマ ンド	Lecture: Correlation; linear regression (online video)	高橋 邦彦	
18	6/9	10:45-12:15	オンデマ ンド	Lecture: Multivariate analysis (1) (online video)	高橋 邦彦	
19	6/9	13:30-15:00	オンデマ ンド	Laboratory session (online video)	高橋 邦彦, 安齋 達彦	Optional 7
20	6/9	15:25-16:55	G-Lab, オンデマ ンド	Q&A session (In person or via live Zoom)	高橋 邦彦, 安齋 達彦	Optional 8
21	6/11	08:50-10:20	オンデマ ンド	Lecture: Multivariate analysis (2) (online video)	安齋 達彦	
22	6/11	10:45-12:15	オンデマ ンド	Lecture: Multivariate analysis (3) (online video)	安齋 達彦	
23	6/11	13:30-15:00	オンデマ ンド	Laboratory session (online video)	高橋 邦彦, 安齋 達彦	Optional 9
24	6/11	15:25-16:55	G-Lab, ライブ	Q&A session (In person or via live Zoom)	高橋 邦彦, 安齋 達彦	Optional 10

25	6/12	08:50-10:20	オンデマ ンド	Lecture: Survival analysis (online video)	安齋 達彦		
26	6/12	10:45-12:15	オンデマ ンド	Lecture: Genomics data analysis (online video)	安齋 達彦		
授業方法							
講義と希望者を対象とした統計演習を行う(非同期型)。オンラインシステムを使用した Q&A など講義内容についての質問ができる方法を設ける予定である。レポート課題を出す。(詳細については後日アナウンス予定)							
授業内容							
授業スケジュール参照							
成績評価の方法							
授業への参加状況、宿題、レポートに基づいて評価する。 ・授業への参加状況 50%(60%以上の視聴は必須) ・レポート 50%							
準備学習等についての具体的な指示							
テキストを配布するため、事前に読んでくれることが望ましい。							
参考書							
Pagano M, Gauvreau K. Principles of Biostatistics. 2nd ed. Belmont: Brooks/Cole; 2000. Rosner B. Fundamentals of Biostatistics. 8th ed. Brooks/Cole; 2015. Altman DG. Practical Statistics for Medical Research. Chapman & Hall; 1991. Armitage P. Statistical Methods in Medical Research. 4th ed. Blackwell Science Ltd; 2002.							
履修上の注意事項							
本授業は全て英語で実施されるため、MPH コース以外の受講者は一定水準の英語能力(詳しくは下記 Forms 参照)、授業責任者から履修許可を得たことがわかるメールの提出が必須です。 受講を希望する場合、下記の Forms から申請を行うこと。 https://forms.office.com/r/iVjqUEipAR In addition, priority for course registration is given to MPH students, and registration may be limited depending on the number of applicants.							
備考							
コース期間中オンライン Q&A システムが利用でき、希望する場合には Q&A セッション(オプション、zoom または対面授業)にも参加可能である。 本授業では、STATA 等の統計ソフトを使用する。STATA についてはコース期間中、各自で利用可能である。 対数や指数などの基本的な計算はできることが望ましい。 シラバスは暫定版ですので、MPH シラバス「生物統計入門(Introduction to Biostatistics)」の「授業明細」を参照してください。							
連絡先(メールアドレス)							
高橋 邦彦 biostat.dsc@tmd.ac.jp							
オフィスアワー							
高橋 邦彦:平日・随時。ただし事前にメールで日時相談。 M&D データ科学センター生物統計学分野(E-mail: biostat.dsc@tmd.ac.jp)							

時間割番号	041033				
科目名	先端バイオセンシングデバイス特論	科目ID	GC-c6418-L		
担当教員	中島 義和, 飯谷 健太, 小椋 俊彦, Friedrich Daniel Dieter[NAKAJIMA Yoshikazu, IITANI Kenta, OGURA Toshihiko, FRIEDRICH Daniel Dieter]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
英語による授業。留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
主な講義場所 すべての講義はオンライン(Zoom)で行います。					
授業の目的、概要等 授業目的、概要等:医学・歯学領域でのバイオセンシングに必要な計測デバイス、生化学、認識材料、MEMS、光計測について最新の知識を学び、研究者に不可欠な論理的な思考の習得を目標とする。 概要:最新のバイオセンシングデバイスおよびその技術について紹介すると共に、医学・歯学領域にて期待される応用の可能性について、議論する。					
授業の到達目標 バイオセンサの基礎から医学・歯学領域におけるセンシングデバイスの最新の知見を広く紹介し、受講者の研究の参考になる講義を目指す。					
授業方法 先端バイオセンシングデバイスの知識を講義を通じて習得する。					
成績評価の方法 講義・議論への参加状況(50%)、発表・発言(30%)に加えて、議論内容の理解度等(20%)に基づいて総合的に評価を行う。					
準備学習等についての具体的な指示 事前学習を行う者は、以下の参考書・文献等を参考にすること。					
参考書 Wearable Biosensing in Medicine and Healthcare / edited by Kohji Mitsubayashi : Springer Nature, 2024 「非接触」が拓く新しいバイタルモニタリング = Non-Contact Vital Signs Monitoring : 革新的な健康管理と医療・介護への応用 / 三林浩二 監修, 三林 浩二, シーエムシー出版, 2021 Chemical, gas, and biosensors for internet of things and related applications / edited by Kohji Mitsubayashi, Osamu Niwa, Yuko Ueno, 三林 浩二, Niwa, Osamu. [丹羽修], Ueno, Yuko. [上野祐子]. : Elsevier, 2019 代謝センシング = Metabolic sensing : 健康, 食, 美容, 薬, そして脳の代謝を知る / 三林浩二 監修, 三林 浩二, : シーエムシー出版, 2018 生体ガス計測と高感度ガスセンシング / 三林浩二監修 / 三林 浩二, : シーエムシー出版, 2017 スポーツバイオ科学と先進スポーツギアの開発 / 三林浩二監修, 三林 浩二, : シーエムシー出版, 2015 スマート・ヒューマンセンシング : 健康ビッグデータ時代のためのセンサ・情報・エネルギー技術 / 三林 浩二, : シーエムシー出版, 2014 ヘルスケアとバイオ医療のための先端デバイス機器 / 三林浩二監修, 三林 浩二, : シーエムシー出版, 2009 Micro Electronic and Mechanical Systems / Kenichi Takahata : IntechOpen, 2009 刺激応答性高分子ハンドブック = Stimuli-responsive polymers handbook / 宮田隆志 監修, 宮田 隆志, : エヌ・ティイー・エス, 2018 授業中に資料を適宜、配布する。					
履修上の注意事項 必要に応じて授業中に連絡する。					
連絡先(メールアドレス) 中島 義和[nakajima.y.8203@m.isct.ac.jp]					
オフィスアワー 中島 義和/毎週月曜日 15:00-16:30 駿河台キャンパス 21号館 4階 409A					

時間割番号	041034				
科目名	医療デバイス・システム機器特論	科目ID	GC-c6419-L		
担当教員	中島 義和, 梶 弘和, 坂内 英夫, 池内 真志, 周 東博, 清水 秀幸[NAKAJIMA Yoshikazu, KAJI Hirokazu, BANNAI Hideo, IKEUCHI Masashi, SHU Tohaku, SHIMIZU Hideyuki]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
<p>英語による授業。留学生が履修登録した場合は英語で行う</p> <p>手術支援を目的とした医療デバイス・システムとして、術中画像計測、AI 解析による手術支援システム、手術支援ロボットなどの最新研究を紹介する。</p>					
<p>主な講義場所</p> <p>すべての講義はオンライン(Zoom)で行います。</p>					
<p>授業の目的、概要等</p> <p>医療機器のIoT化、AI化が進む医療機器の中で、特に手術支援に着目したデバイス・システムの研究開発事例を紹介し、同分野の研究開発を推進するための基礎知識を習得する。</p>					
<p>授業の到達目標</p> <p>本科目では、医療デバイス・システムの研究開発動向や開発事例を通して、今後益々IoT化、AI化やロボット化が進む同分野の研究開発の推進のための基礎知識の習得を目指す。</p>					
<p>授業方法</p> <p>講義形式で行う。</p>					
<p>授業内容</p> <p>別表に記載</p>					
<p>成績評価の方法</p> <p>授業の参加状況(60%)及びレポート(40%)に基づいて総合的に評価を行う。</p>					
<p>成績評価の基準</p> <p>授業の参加状況(60%)及びレポート(40%)</p>					
<p>準備学習等についての具体的な指示</p> <p>初回授業のガイダンスならびに各授業において必要に応じて指示する。</p>					
<p>試験の受験資格</p> <p>制限なし</p>					
<p>構成ユニット</p> <p>中島義和, 梶弘和, 池内真志, 坂内英夫, 清水秀幸, 小野木伸哉, 周東博</p>					
<p>モジュールの単位判定</p> <p>1 単位</p>					
<p>教科書</p> <p>授業中に資料を適宜、配布する。</p>					
<p>参考書</p> <p>必要に応じて適宜、資料を配布する。</p>					
<p>履修上の注意事項</p> <p>特になし。</p>					
<p>備考</p> <p>特になし。</p>					
<p>連絡先(メールアドレス)</p> <p>中島 義和Inakajima.y.8203@m.isct.ac.jp</p>					
<p>オフィスアワー</p> <p>中島 義和/毎週月曜日 15:00-16:30 駿河台キャンパス 21号館 4階 409A</p>					

時間割番号	041035			科目ID	GC-c6420-L
科目名	ウェアラブル IoT 技術特論				
担当教員	池内 真志[KEUCHI Masashi]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
英語による授業。留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
主な講義場所 すべての講義はオンライン(Zoom)で行います。					
授業の目的、概要等 授業目的:医学・歯学領域でのウェアラブル IoT デバイスに必要な計測デバイス機器、IoT の知識&技術、セキュリティ、エネルギーハーベスティングデバイスについて最新の知識を学び、研究者に不可欠な論理的な思考の習得を目標とする。 概要:最新のウェアラブル IoT デバイスおよびその技術について紹介すると共に、医学・歯学領域にて期待される応用の可能性について、議論する。					
授業の到達目標 ウェアラブルセンサの基礎から医学・歯学領域における IoT デバイスの最新の知見を広く紹介し、受講者の研究の参考になる講義を目指す。					
授業方法 ウェアラブル IoT 技術の知識を講義を通じて習得する。					
成績評価の方法 講義・議論への参加状況(50%)、発表・発言(30%)に加えて、議論内容の理解度等(20%)に基づいて総合的に評価を行う。					
準備学習等についての具体的な指示 事前学習を行う者は、以下の参考書・文献等を参考にすること。					
参考書 Wearable Biosensing in Medicine and Healthcare / edited by Kohji Mitsubayashi: Springer Nature, 2024 「非接触」が拓く新しいバイタルモニタリング = Non-Contact Vital Signs Monitoring : 革新的な健康管理と医療・介護への応用 / 三林浩二 監修, 三林, 浩二, シーエムシー出版, 2021 Chemical, gas, and biosensors for internet of things and related applications / edited by Kohji Mitsubayashi, Osamu Niwa, Yuko Ueno, 三林, 浩二, Niwa, Osamu. [丹羽修], Ueno, Yuko. [上野祐子].: Elsevier, 2019 代謝センシング = Metabolic sensing : 健康, 食, 美容, 薬, そして脳の代謝を知る / 三林浩二 監修, 三林, 浩二, シーエムシー出版, 2018 生体ガス計測と高感度ガスセンシング / 三林浩二監修 / 三林, 浩二, シーエムシー出版, 2017 スポーツバイオ科学と先進スポーツギアの開発 / 三林浩二監修, 三林, 浩二, シーエムシー出版, 2015 スマート・ヒューマンセンシング : 健康ビッグデータ時代のためのセンサ・情報・エネルギー技術 / 三林, 浩二, シーエムシー出版, 2014 ヘルスケアとバイオ医療のための先端デバイス機器 / 三林浩二監修, 三林, 浩二, シーエムシー出版, 2009 ユビキタス・バイオセンシング : 健康モニタリング&日常ケアのための計測技術 / 三林浩二 監修, 三林, 浩二, シーエムシー出版, 2006 テレワーク社会を支えるリモートセンシング / 三林, 浩二, 三林浩二 監修: シーエムシー出版, 2021.4 授業中に資料を適宜、配布する。					
履修上の注意事項 必要に応じて授業中に連絡する。					
連絡先(メールアドレス) 池内 真志: keuchi.mech@tmd.ac.jp					
オフィスアワー 池内 真志: 月曜日, 木曜日 10:00-14:00 22 号館 3 階 312 室					

時間割番号	041036				
科目名	疾患分子病態学特論			科目ID	GC-c6422-L
担当教員	佐々木 純子, 鈴木 啓道, 瀬川 勝盛, 小松谷 史香, 小林 芳彦[SASAKI Junko, SUZUKI Hiromichi, SEGAWA Katsumori, KOMATSUYA Fumika, KOBAYASHI Yoshihiko]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目
英語による授業。留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
授業の目的、概要等					
<p>授業目的: 先制医療の展開に必要な、分子生物学、ゲノム科学、生化学などの基礎的な生命科学を駆使した疾患の分子病態解明の現状を学び、疾患の分子病態の解明や、分子病態に即した予防、治療法の開発についての実践的な取り組み方を学ぶ。</p> <p>概要: 分子生物学、ゲノム科学、生化学などの基礎的な生命科学に基づいた、がんや生活習慣病、先天性疾患の分子病態研究の現状を紹介する。さらに、分子病態に即した予防、治療法の開発についての討議を行う。</p>					
授業の到達目標					
疾患の病態を分子レベルで理解する論理的な思考法を習得するとともに、分子病態の今後のさらなる解明と分子病態に即した疾患の治療法や予防法開発の道筋を理解し、展開する能力を深める。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	5/1	13:00-15:15	ライブ	がんの分子病態ーリン脂質代謝を中心にー	佐々木 純子
2	5/7	13:00-15:15	大学院講義室 4	コレステロールと疾患	瀬川 勝盛
3	5/8	13:00-15:15	ライブ	細胞内蛋白質代謝システムとベルオキシソームの恒常性維持	小松谷 史香
4	5/14	13:00-15:15	ライブ	がんゲノム解析の基礎・臨床への応用	鈴木 啓道
5	5/19	13:00-15:15	ライブ	先天性疾患発症メカニズム	小林 芳彦
授業方法					
少人数での講義と質疑応答を行い、最先端の分子病態研究の現状を紹介するとともに、その展望や病態に即した予防、治療法の開発についての双方向的な討議を行う。					
成績評価の方法					
授業への参加状況や、発表・発現等といった参画状況を判断し総合的に評価を行う。					
準備学習等についての具体的な指示					
分子生物学、生化学の基礎を身につけておくこと。					
履修上の注意事項					
出席管理は出欠管理システムを利用する。講義開始前10分前～講義開始時刻までに、講義室後方側ドア横の出欠管理システムに学生証をタッチすること。					

時間割番号	041037				
科目名	先端ケミカルバイオロジー特論			科目ID	GC-c6423-L
担当教員	玉村 啓和, 隅田 有人, 辻 耕平, 花園 祐矢, 藤井 晋也[TAMAMURA Hirokazu, SUMIDA Yuto, TSUJI Kohei, Yuya Hanazono, FUJII Shinya]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目
英語による授業. 留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
授業の目的、概要等					
授業目的: 生命科学、分析化学、有機化学、材料科学などの分野で用いられているケミカルバイオロジーのための基礎知識を習得し、最新の先端研究について理解を深める。 概要: ケミカルバイオロジー研究に必要な基礎的手法を講義し、最新の先端研究成果をもとに講義ならびに討論をする。					
授業の到達目標					
ケミカルバイオロジーは、化学を用いて生命現象を理解し、制御する学問分野であり、創薬化学やナノテクノロジーといった、様々な分野との複合領域研究が行われている。このような研究分野の鍵となるケミカルバイオロジーに着目し、最先端の研究動向について教育する。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	6/6	14:00-16:15	オンデマンド	ケミカルバイオロジー先端研究1	辻 耕平
2	6/13	12:40-14:55	ライブ	ケミカルバイオロジー先端研究2	花園 祐矢
3	6/20	14:00-16:15	ライブ	ケミカルバイオロジー先端研究3	落合 幸太郎
4	6/27	12:40-14:55	ライブ	ケミカルバイオロジー先端研究4	隅田 有人
5	7/4	14:00-16:15	ライブ	ケミカルバイオロジー先端研究5	玉村 啓和
授業方法					
ゼミ形式で教員による講義や演習、履修生によるプレゼンテーションを行い、全体で討議を行うことにより学習を深める。					
成績評価の方法					
授業の参加状況(50%)及びケミカルバイオロジー研究に関するプレゼンテーション(50%)に基づいて総合的に評価を行う。					
準備学習等についての具体的な指示					
基礎有機化学の復習、もしくは次項に示した書籍等による予習をしておくが良い。					
参考書					
ベーシック薬学教科書シリーズ 創薬科学・医薬化学 第2版(橘高敦史編、化学同人)、Chemical Biology(L. Schreiber, T. Kapoor, G. Wess編、WILEY-VCH)、PROTEIN TARGETING WITH SMALL MOLECULES - Chemical Biology Techniques and Applications (Wiley)、生命現象を理解する分子ツール(浜地格、二木史朗編、化学同人)、ケミカルバイオロジー—成功事例から学ぶ研究戦略—(長野哲雄、萩原正敏監訳、丸善)、生体有機化学(橋本祐一、村田道雄編、東京化学同人)、最新 創薬化学—探索研究から開発まで(長瀬博、テクノミック)					
連絡先(メールアドレス)					
玉村 啓和 tamamura.mr@tmd.ac.jp					
オフィスアワー					
玉村 啓和: 授業開始1週間前から授業終了1週間後までの毎週月—金の午後3時から午後5時: 科目責任者 メディシナルケミストリー分野(玉村)教授室 22 号棟 6 階 603B 室					

時間割番号	041038				
科目名	生体分子制御学特論	科目ID	GC-c6424-L		
担当教員	萩原 伸也, 新富 圭史, 渡邊 力也, 安藤 潤[HAGIHARA Shinya, SHINTOMI Keishi, WATANABE Rikiya, ANDO Jun]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
英語による授業. 留学生が履修登録した場合には英語で行う					
主な講義場所 オンラインおよび理化学研究所和光キャンパス					
授業の目的、概要等 授業目的: 化学生物学、有機合成化学、分子細胞病態学などのケミカルバイオロジーに関連する分野で用いられている生体機能分子の探索・創製とこれを用いた高次生命現象の理解のための基礎知識を習得し、医学・生物学への応用研究について理解を深める。 概要: 化学生物学、有機合成化学、分子細胞病態学などのケミカルバイオロジーに関連する分野に必要な基礎的手法を講義し、生体機能分子を用いた最新の研究成果をもとに講義ならびに討論をする。					
授業の到達目標 生体分子制御学は、生体機能を制御する低分子有機化合物から高分子タンパク質・ホルモンを対象として、生物有機化学、化学生物学、構造生物学などのケミカルバイオロジーに関連する分野の基礎と、医学・生物学への応用を理解する学問分野であり、様々な分野との複合領域研究が行われている。このような研究分野の鍵となる生体機能分子に着目し、最先端の研究動向について教育する。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	5/14	13:00-15:15	ライブ	生体機能の化学制御	萩原 伸也
2	5/21	13:00-15:15	理研生物 科学研究 棟 S310	ゲノム3次元構造の分子メカニズム	新富 圭史
3	5/21	15:30-17:45	理研生物 科学研究 棟 S252	生体分子の1分子生物物理学と応用	渡邊 力也, 安藤 潤
4	5/28	13:00-15:15	理研物質 科学研究 棟 S507 大会議室	分子間相互作用を利用したケミカルバイオロジー	上田 彩果
5	6/11	13:00-15:15	ライブ	ケミカルバイオロジーの 新手法開発	江越 脩祐
授業方法 ゼミ形式で教員による講義や学生のプレゼンテーションを行い、全体で討議を行うことにより学習を深める。					
成績評価の方法 授業の参加状況(40%)及びレポート(60%)に基づいて総合的に評価を行う。					
準備学習等についての具体的な指示 なし					
参考書 最新 創薬化学 -探索研究から開発まで(長瀬博、テクノミック)、入門ケミカルバイオロジー(入門ケミカルバイオロジー編集委員会、オーム社)、Chemical Biology(L. Schreiber, T. Kapoor, G. Wess 編、WILEY-VCH)、PROTEIN TARGETING WITH SMALL MOLECULES - Chemical Biology Techniques and Applications (H. Osada 編、Wiley)					
連絡先(メールアドレス) 萩原 伸也:hagi@riken.jp					
オフィスアワー 萩原 伸也:萩原 伸也.授業内容等に関する質問は、開講期間中の毎週火曜日午後3時から午後5時:					

科目担当者 理研生体分子制御学分野(萩原)連携教授室

時間割番号	416016				科目ID	GC-c6430-L
科目名	疫学基礎			科目ID	GC-c6430-L	
担当教員						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1	
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面	
全て日本語で行う						
主な講義場所 アクティブラーニング教室(M&D タワー4 階図書館本館)						
授業の目的、概要等 授業目的 疫学の基礎を理解する。 概要 疫学の基礎を理解し、臨床研究論文を適切に解釈し執筆するための土台をつくる。						
授業の到達目標 臨床疫学研究を実施するにあたり必要となる疫学の知識を身に着ける。						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	
1	5/7	18:00-19:30	アクティブラーニング教室ライブ	疫学概論	谷 友香子	
2	5/13	18:00-19:30	アクティブラーニング教室ライブ	疾患の測定、感度と特異度	谷 友香子	
3	5/20	18:00-19:30	アクティブラーニング教室ライブ	疫学研究のデザイン、生態学的研究	谷 友香子	
4	5/27	18:00-19:30	アクティブラーニング教室ライブ	交絡因子、妥当性と信頼性	谷 友香子	
5	6/3	18:00-19:30	アクティブラーニング教室ライブ	サンプリング、横断研究	谷 友香子	
6	6/10	18:00-19:30	アクティブラーニング教室ライブ	コホート研究、ケースコントロール研究	谷 友香子	
7	6/17	18:00-19:30	アクティブラーニング教室ライブ	ランダム化比較試験、バイアス	谷 友香子	
8	6/24	18:00-19:30	アクティブラーニング教室ライブ	Critical Appraisal	谷 友香子	

			ング教室 ライブ			
授業方法						
科目担当者の講義による。						
授業内容						
別表のとおり。						
成績評価の方法						
8回のうち 5 回以上の出席が必要で、成績評価は提出レポート内容(50 点)と参加状況(50 点)を総合して評価する。						
準備学習等についての具体的な指示						
講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書や文献などを参照して事前に予習することを勧める。また、事前に動画視聴などが必要な授業があるので、注意すること。						
参考書						
日本疫学会, はじめて学ぶやさしい疫学 第 3 版. 南江堂, 2018.						
木原正博. 疫学 -医学的研究と実践のサイエンス. メディカルサイエンスインターナショナル. 2010						
Gordis L. Epidemiology. 6th edition. Philadelphia: Elsevier; 2018						
履修上の注意事項						
講義への出席は必須である。また、課されたレポート等は必ず提出すること。						

時間割番号	416017			科目ID	GC-c6431-L
科目名	生物統計学基礎				
担当教員					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
全て日本語で行う					
主な講義場所 アクティブラーニング教室(M&D タワー4 階図書館本館) (オンライン参加も可能)					
授業の目的、概要等 授業目的 生物統計学の基礎を復習し理解する。 概要 生物統計学の基本的な解析手法についての復習および理解を深め、臨床疫学研究における適用について学習する。					
授業の到達目標 問題に応じて適切な統計手法を選択、適用できるとともに、解析結果を解釈できる。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	4/28	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	生物統計学概論	高橋 邦彦, 安齋 達彦
2	5/12	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	平均の比較	高橋 邦彦, 安齋 達彦
3	5/19	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	頻度の比較	高橋 邦彦, 安齋 達彦
4	5/26	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	分散分析, 検定の多重 性, 多重比較	高橋 邦彦, 安齋 達彦
5	6/2	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	相関と回帰	高橋 邦彦, 安齋 達彦
6	6/9	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	交絡調整のための多変 量解析1:共分散分析, 重 回帰分析	高橋 邦彦, 安齋 達彦
7	6/16	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	交絡調整のための多変 量解析 2:Mantel-Haenszel, ロジ スティック回帰分析	高橋 邦彦, 安齋 達彦
8	6/23	18:00-19:30	アクティ ブラーニ	生存時間解析: Kaplan-Meier 法, ログラ	高橋 邦彦, 安齋 達彦

			ング教室 ライブ	ンク検定, Cox 比例ハザ ードモデル		
授業方法						
科目担当者の講義による。						
授業内容						
別表のとおり。						
成績評価の方法						
成績評価は提出レポート内容(50%)と参加状況(50%)を総合して評価する。 成績評価には5回以上の出席を必要とする。						
準備学習等についての具体的な指示						
講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書や文献などを参照して事前に予習することを勧める。						
参考書						
<ul style="list-style-type: none"> ・古川俊之(監修), 丹後俊郎(著). 医学への統計学. 第3版. 朝倉書店. 2013. ・Pagano M, Gauvreau K. Principles of Biostatistics. 2nd ed. CRC Press. 2000. 						

時間割番号	416018				
科目名	生物統計学応用 I	科目ID	GC-c6432-L		
担当教員	星野 崇宏, 野間 久史, 服部 聡[HOSHINO Takahiro, NOMA Hisashi, HATTORI Satoshi]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
全て日本語で行う					
主な講義場所 アクティブラーニング教室(M&D タワー4 階図書館本館) (オンライン参加も可能)					
授業の目的、概要等 授業目的 生物統計学の発展的な内容であるベイズ統計学およびメタアナリシスについて理解する。 概要 生物統計学を応用した発展的な課題として、ベイズ統計学およびメタアナリシスの基本的事項と実践について学習する。					
授業の到達目標 ベイズ統計学を適用した推論, および少数例のメタアナリシスの実践を行うことができるようになる。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	9/16	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	ベイズ統計学の基礎1	高橋 邦彦
2	9/30	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	ベイズ統計学の基礎2	安齋 達彦
3	10/7	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	空間疫学研究における ベイズ統計学の応用	高橋 邦彦
4	10/14	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	ベイズアプローチによる 因果効果推定と疫学への応用	星野 崇宏
5	10/21	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	メタアナリシスの基礎1	高橋 邦彦
6	11/4	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	メタアナリシスの基礎2	高橋 邦彦
7	11/11	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	メタアナリシスの実践1: 診断法のメタアナリシス	服部 聡
8	11/18	18:00-19:30	アクティ	メタアナリシスの実践2:	野間 久史

			ブラーニング教室 ライブ	ネットワークメタアナリシス		
授業方法 科目担当者の講義による。						
授業内容 別表のとおり。						
成績評価の方法 成績評価は提出レポート内容(50%)と参加状況(50%)を総合して評価する。 成績評価には5回以上の出席を必要とする。						
準備学習等についての具体的な指示 講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書や文献などを参照して事前に予習することを勧める。						
参考書 <ul style="list-style-type: none"> ・Lesaffre E, Lawson AB. Bayesian Biostatistics. Wiley. 2012. ・Spiegelhalter DJ, Abrams KR, Myles JP. Bayesian Approaches to Clinical Trials and Health-Care Evaluation. Wiley. 2004. ・丹後俊郎, 横山徹爾, 高橋邦彦. 空間疫学への招待. 朝倉書店. 2007. ・丹後俊郎. 新版メタアナリシス入門. 朝倉書店. 2016. ・Borenstein M, et al. Introduction to Meta-Analysis. 2nd ed. Wiley. 2021. 						

時間割番号	416019			科目ID	GC-c6433-L																																																
科目名	生物統計学応用Ⅱ																																																				
担当教員																																																					
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1																																																
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面																																																
全て日本語で行う																																																					
主な講義場所 アクティブラーニング教室(M&D タワー4 階図書館本館) (オンライン参加も可能)																																																					
授業の目的、概要等 授業目的 生物統計学の発展的な課題である薬剤疫学及び医療分野における AI の活用について理解する。 概要 生物統計学を応用した発展的な課題として、薬剤疫学および医療分野における AI の活用について、その基本的事項と実践について学習する。																																																					
授業の到達目標 薬剤疫学を適用した医薬品のリスク評価および医療分野における AI 分析結果の評価を行うことができるようになる。																																																					
授業計画 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>授業題目</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>9/15</td> <td>18:00-19:30</td> <td>アクティブラーニング教室 ライブ</td> <td>薬剤疫学の研究デザインと評価指標(1)</td> <td>高橋 邦彦</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>9/29</td> <td>18:00-19:30</td> <td>アクティブラーニング教室 ライブ</td> <td>薬剤疫学の研究デザインと評価指標(2)</td> <td>高橋 邦彦</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>10/6</td> <td>18:00-19:30</td> <td>アクティブラーニング教室 ライブ</td> <td>薬剤のリスクマネージメントとシグナル検出</td> <td>安齋 達彦</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>10/13</td> <td>18:00-19:30</td> <td>アクティブラーニング教室 ライブ</td> <td>薬剤疫学研究の実践</td> <td>漆原 尚巳</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10/20</td> <td>18:00-19:30</td> <td>アクティブラーニング教室 ライブ</td> <td>医療 AI のための基礎(1)</td> <td>高橋 邦彦, 安齋 達彦</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>11/10</td> <td>18:00-19:30</td> <td>アクティブラーニング教室 ライブ</td> <td>医療 AI のための基礎(2)</td> <td>高橋 邦彦, 安齋 達彦</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>11/17</td> <td>18:00-19:30</td> <td>アクティブラーニング教室 ライブ</td> <td>医療 AI の実践(1)</td> <td>清水 秀幸</td> </tr> </tbody> </table>						回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	1	9/15	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	薬剤疫学の研究デザインと評価指標(1)	高橋 邦彦	2	9/29	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	薬剤疫学の研究デザインと評価指標(2)	高橋 邦彦	3	10/6	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	薬剤のリスクマネージメントとシグナル検出	安齋 達彦	4	10/13	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	薬剤疫学研究の実践	漆原 尚巳	5	10/20	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	医療 AI のための基礎(1)	高橋 邦彦, 安齋 達彦	6	11/10	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	医療 AI のための基礎(2)	高橋 邦彦, 安齋 達彦	7	11/17	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	医療 AI の実践(1)	清水 秀幸
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員																																																
1	9/15	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	薬剤疫学の研究デザインと評価指標(1)	高橋 邦彦																																																
2	9/29	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	薬剤疫学の研究デザインと評価指標(2)	高橋 邦彦																																																
3	10/6	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	薬剤のリスクマネージメントとシグナル検出	安齋 達彦																																																
4	10/13	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	薬剤疫学研究の実践	漆原 尚巳																																																
5	10/20	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	医療 AI のための基礎(1)	高橋 邦彦, 安齋 達彦																																																
6	11/10	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	医療 AI のための基礎(2)	高橋 邦彦, 安齋 達彦																																																
7	11/17	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	医療 AI の実践(1)	清水 秀幸																																																

8	11/24	18:00-19:30	共用講義 室2, ライ ブ	医療 AI の実践(2)	清水 秀幸	
授業方法 科目担当者の講義による。						
授業内容 別表のとおり。						
成績評価の方法 成績評価は提出レポート内容(50%)と参加状況(50%)を総合して評価する。 成績評価には5回以上の出席を必要とする。						
準備学習等についての具体的な指示 講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書や文献などを参照して事前に予習することを勧める。						
参考書 <ul style="list-style-type: none"> ・くすりの適正使用協議会. 実例で学ぶ薬剤疫学の第一歩. レーダー出版センター. 2008. ・佐藤俊哉, 山口拓洋, 石黒智恵子(編). これからの薬剤疫学. 朝倉書店. 2021. ・景山茂, 久保田潔(編). 薬剤疫学の基礎と実践. 改訂第3版. ライフサイエンス出版. 2021. ・Naqa I, Murphy M (eds). Machine and Deep Learning in Oncology, Medical Physics and Radiology. Springer. 2022. 						

時間割番号	416020				
科目名	臨床試験方法論基礎	科目ID			
担当教員					
開講時期	2026年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目
全て日本語で行う。					
主な講義場所 遠隔講義(ZOOM)					
授業の目的、概要等 授業目的 エビデンス創出に必要な臨床試験方法論の基本的考え方と臨床試験の計画と解析に必要な統計的事項を学習する。 概要 エビデンス創出に必要な臨床試験方法論の基本的考え方と臨床試験の計画と解析に必要な統計的事項(試験デザイン、ランダム化、盲検化、エンドポイント、解析対象集団、サンプルサイズ設計等)を体系的に学習する。					
授業の到達目標 研究目的や実施可能性を踏まえて、適切な臨床試験をデザインできるようになる。臨床試験の論文からそのエビデンスレベルを読み解けるようになる。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	6/25	18:00-19:30	ライブ	臨床研究概論と様々な試験デザイン	平川 晃弘
2	6/30	18:00-19:30	ライブ	優越性試験と非劣性試験	平川 晃弘
3	7/2	18:00-19:30	ライブ	ランダム化と盲検化	平川 晃弘
4	7/7	18:00-19:30	ライブ	連続型・二値型エンドポイントとそのデータ解析法	平川 晃弘
5	7/9	18:00-19:30	ライブ	時間イベント型(生存時間)エンドポイントとそのデータ解析法	平川 晃弘
6	7/21	18:00-19:30	ライブ	解析対象集団と欠測データの処理(経時データ解析の基礎を含む)	平川 晃弘
7	7/23	18:00-19:30	ライブ	サンプルサイズ設計の考え方	平川 晃弘
8	7/28	18:00-19:30	ライブ	Innovative clinical trial methodology 入門	平川 晃弘
授業方法 科目担当者の講義による。					
授業内容 別表のとおり。					
成績評価の方法 8回のうち5回以上の出席が必要で、成績評価は提出レポート内容(50点)と参加状況(50点)を総合して評価する。					
準備学習等についての具体的な指示 臨床試験方法論の基礎から学習するカリキュラムのため事前学習は必要としないが、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針やICH E9(臨床試験のための統計的原則)を理解していることが望ましい。					

教科書

臨床試験方法論:エビデンス創出のための試験デザインと統計解析／平川晃弘:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2025

臨床試験方法論:エビデンス創出のための試験デザインと統計解析(メディカル・サイエンス・インターナショナル)に沿って講義を進める。

時間割番号	416021			科目ID	GC-c6435-L
科目名	臨床試験方法論応用				
担当教員	佐藤 宏征[SATO Hiroyuki]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目
全て日本語で行う。					
主な講義場所 遠隔講義(ZOOM)					
授業の目的、概要等 授業目的 エビデンス創出に必要な臨床試験方法論の基本的考え方と臨床試験の計画と解析に必要な統計的事項を学習する。 概要 エビデンス創出に必要な臨床試験方法論の基本的考え方と臨床試験の計画と解析に必要な統計的事項(試験デザイン、ランダム化、盲検化、エンドポイント、解析対象集団、サンプルサイズ設計等)を体系的に学習する。					
授業の到達目標 研究目的や実施可能性を踏まえて、適切な臨床試験をデザインできるようになる。臨床試験の論文からそのエビデンスレベルを読み解けるようになる。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	10/1	18:00-19:30	ライブ	中間解析と群逐次デザイン	平川 晃弘 佐藤 宏征
2	10/8	18:00-19:30	ライブ	アダプティブ臨床試験デザイン	平川 晃弘 佐藤 宏征
3	10/15	18:00-19:30	ライブ	ベイズ流臨床試験デザイン	平川 晃弘 佐藤 宏征
4	10/22	18:00-19:30	ライブ	がん臨床試験デザイン	平川 晃弘 佐藤 宏征
5	10/29	18:00-19:30	ライブ	マスタープロトコル試験	平川 晃弘 佐藤 宏征
6	11/5	18:00-19:30	ライブ	診断性能試験(ROC 解析による診断能評価)	平川 晃弘 佐藤 宏征
7	11/19	18:00-19:30	ライブ	予後・治療効果予測アルゴリズムの構築と検証法	平川 晃弘 佐藤 宏征
8	11/26	18:00-19:30	ライブ	これからの臨床試験(最近の話題)	平川 晃弘 佐藤 宏征
授業方法 科目担当者の講義による。					
授業内容 別表のとおり。					
成績評価の方法 8 回のうち 5 回以上の出席が必要で、成績評価は提出レポート内容(50 点)と参加状況(50 点)を総合して評価する。					
準備学習等についての具体的な指示 臨床試験方法論(基礎)を必ず受講すること。					
教科書 臨床試験方法論:エビデンス創出のための試験デザインと統計解析/平川晃弘:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2025					

臨床試験方法論:エビデンス創出のための試験デザインと統計解析(メディカル・サイエンス・インターナショナル)に沿って講義を行う。

連絡先(メールアドレス)

佐藤 宏征 h-sato.crc@tmd.ac.jp

時間割番号	416022				
科目名	口腔疫学基礎	科目ID	GC-c6436-L		
担当教員					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目
全て日本語で行う					
主な講義場所					
Zoom					
授業の目的、概要等					
授業目的 歯科疫学の基礎を理解する。					
概要 歯科口腔疾患の疫学の基礎を理解する。国際的なコンテキストを理解して論文がかける土台をつくる。					
授業の到達目標					
歯科・口腔保健分野で臨床疫学研究を実施するにあたり、基礎的な素養を身に着ける。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	6/29	18:00-19:30	オンデマンド	論文のコンテキスト: 歯科の記述疫学やEBMの理解	相田 潤
2	7/1	18:00-19:30	ライブ	観察研究を口腔保健領域の研究から理解する	相田 潤
3	7/6	18:00-19:30	オンデマンド	社会疫学を口腔保健領域の研究から理解する	木野 志保
4	7/8	18:00-19:30	オンデマンド	口腔保健分野のリアルワールドデータの解析	石丸 美穂
5	7/22	18:00-19:30	ライブ	口腔と全身の健康の関連とその批判	相田 潤
6	7/27	18:00-19:30	オンデマンド	既存データを利用した歯科疫学研究	松山 祐輔
7	7/29	18:00-19:30	ライブ	研究デザインを明確にした研究計画の立案	相田 潤 松山 祐輔
8	8/3	18:00-19:30	ライブ	研究計画発表	相田 潤 松山 祐輔 木野 志保 石丸 美穂
授業方法					
科目担当者の講義による。					
授業内容					
別表のとおり。					
成績評価の方法					
8回のうち5回以上の出席が必要で、成績評価は提出レポート内容(50点)と参加状況(50点)を総合して評価する。					
準備学習等についての具体的な指示					
講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書や文献などを参照して事前に予習することを勧める。また、事前に動画視聴などが必要な授業があるので、注意すること。					
履修上の注意事項					
講義への出席は必須である。また、課されたレポート等は必ず提出すること。					

時間割番号	416023			科目ID	GC-c6437-L
科目名	疫学応用				
担当教員					
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目
全て日本語で行う					
主な講義場所					
Zoom					
授業の目的、概要等					
授業目的					
疫学の発展的な内容を理解する。					
概要					
疫学の発展的な内容を理解するために、統計ソフトを用いた解析の実際や発展的な内容を学習する。					
授業の到達目標					
疫学研究を実施するにあたり、発展的な知識や実践的な技術を身に着ける。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	9/18	18:00-19:30	情報検索室1	傾向スコアを利用した解析1	谷 友香子
2	9/25	18:00-19:30	情報検索室1	傾向スコアを利用した解析2	谷 友香子
3	10/2	18:00-19:30	ライブ	媒介分析と Structural Equation Modeling	伊角 彩 土井 理美
4	10/9	18:00-19:30	オンデマンド	マルチレベル分析	木野 志保
5	10/16	18:00-19:30	オンデマンド	欠損値補完1	相田 潤
6	10/23	18:00-19:30	情報検索室1	欠損値補完2	相田 潤 松山 祐輔
7	11/6	18:00-19:30	オンデマンド	因果推論(DAG、IV、RD、DID など)1	松山 祐輔
8	11/20	18:00-19:30	オンデマンド	因果推論(DAG、IV、RD、DID など)2	木野 志保 石丸 美穂
授業方法					
科目担当者の講義による。					
授業内容					
別表のとおり。					
成績評価の方法					
8回のうち 5 回以上の出席が必要で、成績評価は提出レポート内容(50 点)と参加状況(50 点)を総合して評価する。					
準備学習等についての具体的な指示					
講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書や文献などを参照して事前に予習することを勧める。また、事前に動画視聴などが必要な授業があるので、注意すること。					
参考書					
Szklo M, Nieto FJ. 木原正博, 木原雅子訳 アドバンスト分析疫学. メディカルサイエンスインターナショナル. 2020					
履修上の注意事項					
講義への出席は必須である。また、課されたレポート等は必ず提出すること。					

時間割番号	416024			科目ID	GC-c6438-L
科目名	臨床疫学解析演習			科目ID	GC-c6438-L
担当教員	西村 久明, 谷 友香子[NISHIMURA Hisaaki, TANI Yukako]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	2~	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
全て日本語で行う					
主な講義場所					
図書館 情報検索室					
授業の目的、概要等					
授業目的 臨床データの疫学的解析法を習得する。					
概要 臨床研究のデータ解析で頻用される統計的手法について習得する。学生が解析したいと思っているデータを実際にハンズオンで解析し、リサーチクエスションの作成、データクリーニング、欠損値の処理、共変量の選択、Table 1 の作成、多変量解析、Table 2 の作成までを行う。交互作用、傾向スコア法、多重補完法の実際のやり方にも触れる。					
授業の到達目標					
実際のデータを解析し、記述統計をまとめ、多変量解析を行いその結果をまとめることができるようになること。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	4/7	18:00-19:30	情報検索室1	2次データを用いたリサーチクエスションの立て方	藤原 武男, 西村 久明
2	4/9	18:00-19:30	アクティブラーニング教室	説明変数、目的変数、共変量(交絡因子、媒介因子、修飾因子)の決め方	藤原 武男, 西村 久明
3	4/14	18:00-19:30	情報検索室1	データクリーニング、欠損値の考え方、交互作用	藤原 武男, 西村 久明
4	4/16	18:00-19:30	情報検索室1	Table 1 の作成	藤原 武男, 西村 久明
5	4/21	18:00-19:30	情報検索室1	多変量解析(回帰分析、ロジスティック回帰分析)	藤原 武男, 西村 久明
6	4/23	18:00-19:30	情報検索室1	傾向スコア法	藤原 武男, 西村 久明
7	4/28	18:00-19:30	情報検索室1	多重補完法	藤原 武男, 西村 久明
8	4/30	18:00-19:30	情報検索室1	Table2の作成	藤原 武男, 西村 久明
授業方法					
科目担当者の講義による。					
授業内容					
別表の通り					
成績評価の方法					
8 回のうち 5 回以上の出席が必要で、成績評価は提出レポート内容(80 点)と参加状況(20 点)を総合して評価する。					
準備学習等についての具体的な指示					
Stataを使います。図書館の情報解析室にインストールしておきますが、自分で購入し自分のPCにインストールしたものを持参することも可能です。自分のデータをなるべく持参するようにしてください。					

参考書

浦島充佳. Stata による医療系データ分析入門. 東京図書. 2014

連絡先(メールアドレス)

谷 友香子:fujiwara.hlth@tmd.ac.jp

西村 久明:nishimura.hlth@tmd.ac.jp

オフィスアワー

谷 友香子:オフィスアワーは特に定めませんが、事前連絡してから訪問すること。

Lecture No	041001			
Subject title	Initial Research Training	Subject ID		
Instructors				
Semester	Spring 2026	Level		Units 1
Course by the instructor with practical experiences			Mode of Instruction	Face-to-face

Same classes are offered in English on different schedules.

For those who want to register this subject, please let us know by Wednesday, April 8.

<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=Ibgl9w4edUa-MyJ2PTalPXan4S81oTVMv6r4VDGRTfhUNkVDMk9TOFBSRU00Q0RaUjNVRkJMNURVUCQIQCNjPTEkJUAjdD1n>

or

<https://forms.office.com/r/gPWQ6uDLL0>

※If you want to register for a course, you must go through not only the registration form for the course but also registration procedures separately.

※Basic Research ID don't get to take the course from 2024.

Please contact the Research Safety Unit about details on "Basic Research ID,".

The 2026 edition of the course will be announced by info mail. So please check it.

home > 研究・連携 > 研究手続き > 研究に必要な講習会案内

<https://www.tmd.ac.jp/tmd-research/safety/koushoukaiannai/>

Course Purpose and Outline

Research work should be done in accordance with various rules and regulations including those related to ethics, and those related to handling of toxic substances, radioactive materials and animals. This series of lectures introduce rules and regulations that the students should follow during research work. Also, the students learn how to use libraries and data bases, and how to avoid scientific misconducts.

Grading System

Attendance (more than 50%), and achievement of assignments given in the course (less than 50%).

Prerequisite Reading

Important Course Requirements

When you register for "Initial Research Training", you must Lecture No.041002. If you are the Japanese or the international students who are fluent speakers of Japanese, you should be advised to take part in "Initial Research Training for Japanese" (Lecture No: 041001). For those who want to register this subject, please let us know by Wednesday, April 8.

Lecture No	041002			
Subject title	Initial Research Training	Subject ID		
Instructors				
Semester	Spring 2026	Level		Units 1
Course by the instructor with practical experiences			Mode of Instruction	Face-to-face

Same classes are offered in English on different schedules.

For those who want to register this subject, please let us know by Wednesday, April 8.

<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=Ibgl9w4edUa-MyJ2PTalPXan4S81oTVMv6r4VDGRTfhUNkVDMk9TOFBSRU00Q0RaUjNVRkJMNURVUCQIQCNjPTEkJUAjdD1n>

or

<https://forms.office.com/r/gPWQ6uDLL0>

※If you want to register for a course, you must go through not only the registration form for the course but also registration procedures separately.

※Basic Research ID don't get to take the course from 2024.

Please contact the Research Safety Unit about details on "Basic Research ID,".

The 2026 edition of the course will be announced by info mail. So please check it.

home > 研究・連携 > 研究手続き > 研究に必要な講習会案内

<https://www.tmd.ac.jp/tmd-research/safety/koushoukaiannai/>

Course Purpose and Outline

Research work should be done in accordance with various rules and regulations including those related to ethics, and those related to handling of toxic substances, radioactive materials and animals. This series of lectures introduce rules and regulations that the students should follow during research work. Also, the students learn how to use libraries and data bases, and how to avoid scientific misconducts.

Grading System

Attendance (more than 50%), and achievement of assignments given in the course (less than 50%).

Prerequisite Reading

Important Course Requirements

When you register for "Initial Research Training", you must Lecture No.041002. If you are the Japanese or the international students who are fluent speakers of Japanese, you should be advised to take part in "Initial Research Training for Japanese" (Lecture No: 041001). For those who want to register this subject, please let us know by Wednesday, April 8.

Lecture No	041003			
Subject title	Special Lecture of Global Medical and Dental Study	Subject ID		
Instructors				
Semester	YearLong 2026	Level		Units 2
Course by the instructor with practical experiences			Mode of Instruction	Face-to-face
Partial classes are taught in English				
Prerequisite Reading				

Lecture No	041004			
Subject title	Special Lecture of Advanced Medical and Dental Study	Subject ID		
Instructors				
Semester	YearLong 2026	Level		Units 4
Course by the instructor with practical experiences			Mode of Instruction	Face-to-face
Partial classes are taught in English				
Prerequisite Reading				

Lecture No	041005				
Subject title	Basic-Clinical Borderless Education			Subject ID	
Instructors					
Semester	YearLong 2026	Level	1st - 3rd year	Units	6
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
原則英語で行う/Most of the classes are taught in English					
Lecture place					
For venues and other detailed information, please access the website and bulletin board. For the research progress meeting, the students arrange the venue by themselves.					
Course Purpose and Outline					
This course consists of "course lectures", "special lectures", "research progress meetings" and "attendance at a basic science conference". At the end of the course, understanding and exploring the interrelation between the basic and clinical research is achieved.					
Lecture Style					
Course Lectures and group discussion (research progress meeting)					
•Course Lectures (1st year)					
Students should fill out the attendance sheet at the end of each lecture. The course which you attended the most is regarded as the selected course.					
•Take 5 classes from the on-demand lecture series "Fundamentals of science writing and presentation"					
•Group discussion - research progress meeting - (2nd year ~)					
Research progress meeting is held after deciding the research theme and three supervisors. You receive a notification from Educational Planning Section, then you arrange a meeting. Please submit the report to the administrator after the meeting. The research report is evaluated for grading and progress of your research by course instructors.					
•Attendance to a basic science conference.					
Course Outline					
Course Outline: We will post this information on our website as soon as it is finalized. Please refer to the orientation materials for further details. https://www.tmd.ac.jp/faculties/graduate_school/seminar/2026/					
Grading System					
Evaluation is made according to the participation in the lecture series, taking special course classes, attendance to a basic science conference and report submission of the research progress meetings. The attendance for the lecture series is required during the first year. The progress of research is evaluated at the end of the 3rd year (except for long-term Course students). The research progress meeting report needs to be submitted more than twice by the end of the 3rd year. (in the 2nd and the 3rd years in principle).					
Course outline is introduced at the first lecture of each lecture series, therefore registered students are asked to attend it.					
Prerequisite Reading					
Taking the classes from the on-demand lecture series "Fundamentals of science writing and presentation" is used for preparing research progress meeting presentation.					
Application what you study from taking course lectures and attendance to a scientific meeting to your research should be considered.					
Note(s) to Students					
In case of postponement of the research progress meeting, consult with the main-supervisor and inform Educational Planning Section. Change of the supervisor shall be discussed with the professor of affiliated section and informed to Educational Planning Section.					

Lecture No	041006				
Subject title	Comprehensive dental clinical practice			Subject ID	
Instructors	金澤 学, 濱 洋平[KANAZAWA Manabu, HAMA Yohei]				
Semester	YearLong 2026	Level	1st – 4th year	Units	8
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
Prerequisite Reading					
Email KANAZAWA Manabu:m.kanazawa.gerd@tmd.ac.jp					
Instructor's Contact Information KANAZAWA Manabu:Tue-Fri, 16:00-18:00 Building 1 East 3F, Gerodontology and Oral Rehabilitation Lab9					

Lecture No	416001				
Subject title	Essential Expertise for Clinical Dentistry (EECD)			Subject ID	
Instructors	關 奈央子, 金澤 学, 駒田 亘, 駒ヶ嶺 友梨子, 水谷 幸嗣, 米滿 郁男, 前川 祥吾, 田澤 建人, 畑山 貴志, 金森 ゆうな, 服部 麻里子, 村瀬 舞, 永田 瑞, 牧 圭一郎, 原口 美穂子, 大石 晋也, 平野 恵子, 保坂 啓一, 矢野 孝星, Richard Foxton, 畑山 貴志, 保坂 啓一[SEKI Naoko, KANAZAWA Manabu, KOMADA Wataru, KOMAGAMINE Yuriko, MIZUTANI Koji, YONEMITSU Ikuo, MAEKAWA Shogo, TAZAWA Kento, HATAYAMA Takashi, KANAMORI Yuna, HATTORI Mariko, MURASE Mai, NAGATA Mizuki, MAKI Keiichiro, HARAGUCHI Mihoko, OISHI Shinya, HIRANO Keiko, HOSAKA Keiichi, YANO Kosei, Richard Foxton, HATAYAMA Takashi, HOSAKA Keiichi]				
Semester	YearLong 2026	Level	1st - 4th year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
All classes are taught in English.					
Lecture place					
Building #7 3/5floor pre-clinical training rooms					
Course Purpose and Outline					
This course offers you up-to-date dental clinical knowledge and techniques that are often publicized in journals or books. Experts in various fields will provide hands-on sessions.					
This course aims at not only 1) updating participants' dental knowledge but also 2) developing and brushing up clinical techniques. You will have the chance to actually engage in discussions with your peers and join hands-on clinical focused sessions.					
Course Objective(s)					
In this course, you will:					
<ul style="list-style-type: none"> Learn dental knowledge through interactive lectures and discussion. Practice clinical techniques and skills in the hands-on sessions. 					
After this course, you will be able to:					
<ul style="list-style-type: none"> Have dental knowledge and new approaches for future treatments. Consider your clinical cases from a critical perspective. Use skills for clinical procedures. 					
Lecture plan					
No	Date	Time	Room	Staff	
1	8/27	17:00-20:00	7号館3階歯学科実習室1	KANAZAWA Manabu, KOMAGAMINE Yuriko	
2	8/28	17:00-20:00	7号館5階歯学科実習室3	HATTORI Mariko, HARAGUCHI Mihoko, MURASE Mai	
3	8/31	17:00-20:00	7号館5階歯学科実習室3	TAZAWA Kento, MAKI Keiichiro, HIRANO Keiko	
4	9/1	17:00-20:00	7号館5階歯学科実習室3	MIZUTANI Koji, MAEKAWA Shogo, YANO Kosei, NAGATA	

				Mizuki
5	9/3	17:00-20:00	7号館5 階歯学科 実習室3	HATAYAMA Takashi
6	11/30	17:00-20:00	7号館3 階歯学科 実習室1	KOMAGAMIN E Yuriko, KANAZAWA Manabu
7	12/3	17:00-20:00	7号館5 階歯学科 実習室3	MIZUTANI Koji, MAEKAWA Shogo, NAGATA Mizuki, YANO Kosei
8	12/4	17:00-20:00	7号館5 階歯学科 実習室3	KOMADA Wataru, OISHI Shinya
9	12/7	17:00-20:00	7号館5 階歯学科 実習室3	HATAYAMA Takashi, HOSAKA Keiichi
10	12/8	16:00-19:00	7号館5 階歯学科 実習室3	YONEMITSU Ikuo
11	12/9	18:30-20:00	遠隔授業 (同期型)	KANAZAWA Manabu, SEKI Naoko, KOMADA Wataru, KOMAGAMIN E Yuriko, MIZUTANI Koji, MAEKAWA Shogo, HATAYAMA Takashi, NAGATA Mizuki, YONEMITSU Ikuo, YANO Kosei, HOSAKA Keiichi, Richard Foxton, KANAMORI Yuna
Lecture Style				
Practice (hands-on) sessions.				
Grading System				

Combination of participation in discussion/case-study and performance in hands-on.
Prerequisite Reading Designated parts in the textbook or literature, if any (informed).
Reference Materials Instructor will provide the materials, if any.
Important Course Requirements •Only those who have graduated from dental school can take this course. •Only those who can participate in all dates should register for the course.
Note(s) to Students <ul style="list-style-type: none"> • Maximum enrollment for this course is 20–25. • Kindly keep in mind, that because of enrollment limitation, there may be cases where we cannot accept your participation.
Email SEKI Naoko:seki.n.03df@m.isct.ac.jp MAEKAWA Shogo:maekawa.peri@tmd.ac.jp HATAYAMA Takashi:060371ds@gmail.com KANAMORI Yuna:kanamori.ope@tmd.ac.jp HATTORI Mariko:sasamp@tmd.ac.jp KANAZAWA Manabu:m.kanazawa.gerd@tmd.ac.jp MIZUTANI Koji:mizutani.peri@tmd.ac.jp
Instructor's Contact Information SEKI Naoko:Mondays, 15:00 – 16:00 M&D Tower 7th floor (office) MAEKAWA Shogo:Every weekday except for Wednesday, PM.17:00–18:00, 3rd room in the 7th floor, 10th Building HATTORI Mariko:Teams or Slack message to make an appointment, Building D 11F Advanced Prosthodontics #3 KANAZAWA Manabu:Tue–Fri, 16:00–18:00 Building 1 East 3F, Gerodontology and Oral Rehabilitation Lab9

Lecture No	041007				
Subject title	Overview of Public Health Medicine in Disease Prevention			Subject ID	
Instructors	石野 智子, 藤原 武男, 具 芳明, 瀬川 勝盛, 白銀 勇太, 那波 伸敏, 秋田 恵一, 中村 桂子[ISHINO Tomoko, FUJIWARA Takeo, GU Yoshiaki, SEGAWA Katsumori, SHIROGANE Yuta, NAWA Nobutoshi, AKITA Keiichi, NAKAMURA Keiko]				
Semester	YearLong 2026	Level	1st – 3rd year	Units	2
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
Lectures and all communications are in English.					
Lecture place					
The lecture classes will be conducted either in an onsite classroom at Ochanomizu Campus and/or by ZOOM (web remote lecture system). ZOOM ID/PWD will be notified by e-mail from Graduate Student Affairs Group 1 to the registered students. Students are required to attend class on time.					
Course Purpose and Outline					
This course offers a general introduction to public health medicine, addressing fundamental topics and basic measures required for a global leader in disease prevention and data science medicine. The course focuses on development of essential knowledge and skills for global disease prevention and implementation science through lectures and discussions based on selected case studies.					
Course Objective(s)					
At the end of the course, participants will be able to:					
1) Describe the roles and responsibilities of public health in disease prevention					
2) Describe development in basic, clinical, and public health research using data science					
3) Describe theory and application of implementation medical science					
4) Describe and apply the basic principles and methods of medical research to disease prevention					
5) Describe the main ethical issues in international medical research					
6) Describe cross-border health issues in relation to globalization					
7) Describe history of medical research					
8) Describe leadership in medical education and medical research					
Lecture plan					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	11/6	16:00–19:10	大学院講義室 2	Prevention and control of tropical disease	ISHINO Tomoko
2	11/12	08:50–12:15	ライブ	Life-course epidemiology	FUJIWARA Takeo
3	11/17	16:00–19:10	大学院講義室 2	Prevention of infectious disease	GU Yoshiaki
4	12/1	16:00–19:10	大学院講義室 2	Recent advances in medical research	SEGAWA Katsumori
5	12/3	16:00–19:10	大学院講義室 2	Introduction to viral infections	SHIROGANE Yuta
6	12/8	16:00–19:10	大学院講義室 1	Issues Related to Healthcare Access for Foreign Residents in Japan	NAWA Nobutoshi
7	1/12	16:00–19:10	ライブ	History of anatomy and body donation	AKITA Keiichi
8	1/19	16:00–19:10	大学院講義室 2	Planetary health	NAKAMURA Keiko

<p>Lecture Style</p> <p>Lectures, group discussions, and team projects. All programs are conducted in English.</p> <p>International students and Japanese students attend the same class and use English in the classroom.</p> <p>Students from the Medical and Dental Science or Biomedical Science departments are both welcome to the course.</p> <p>Attendance on time (synchronous learning) is the default style of attending class.</p>
<p>Course Outline</p> <p>As in the a separate table.</p>
<p>Grading System</p> <p>Grades are based on attendance at lectures, performances during group discussions and team projects as well as on assignments, and levels of attitude, skills, and knowledge.</p>
<p>Grading Rule</p> <p>Grades are based on attendance at lectures, performances during group discussions and team projects as well as on assignments, and levels of attitude, skills, and knowledge.</p>
<p>Prerequisite Reading</p> <p>When reading materials are distributed or specified in advance, participants are expected to read those materials beforehand.</p>
<p>Reference Materials</p> <p>To be announced before or during individual classes, when relevant.</p>
<p>Important Course Requirements</p> <p>This is a required course for students of the “Global Infectious Disease Research Leadership Initiative through Data Science (GID-Leadership Initiative)” or “Data Science Medicine Global Leader Program”, PhD candidates at departments of Medical and Dental Science who are enrolled in this program through a special selection must attain credits from this course. PhD candidates at the Departments of Medical and Dental Science who registered for this course must attain credits from this course. PhD candidates of general selection at departments of Medical and Dental Science and Biomedical Science can also participate in this course. Both international and Japanese students participate in the same program provided in English and learn together about public health medicine in disease prevention. The course is a core part of nurturing global leaders in disease prevention and datascience medical research that Institute of Science Tokyo provides. In cases where students cannot attend in person due to unavoidable circumstances, they may participate online or submit a report after watching the lecture video. Prior notification to the Graduate Student Affairs Group 1 (grad01@ml.tmd.ac.jp) and approval from the Chief Instructor (Prof. Ishino: tishino.vip@tmd.ac.jp) are required. All reports must be submitted by January 31, 2027.</p>
<p>Note(s) to Students</p> <p>Both international and Japanese students participate in the same program provided in English and learn together about public health medicine in disease prevention. The course is a core part of nurturing global leaders in disease prevention and datascience medical research that Science Tokyo provides.</p>

Lecture No	041008				
Subject title	Management	Subject ID		GC-c6331-L	
Instructors	竹内 勝之, 板越 正彦, 今村 健, 吉野 宏志[TAKEUCHI Katsuyuki, ITAGOSHI Masahiko, IMAMURA Ken, YOSHINO Hiroshi]				
Semester	YearLong 2026	Level	1st - year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
Same classes are offered in English on different schedules.					
Lecture place					
Please check the course schedule.					
Course Purpose and Outline					
Course Purpose: Students will acquire a set of basic knowledge and skills of management (project management, career management, business communication, and so on) and will get training so that they apply it to daily medical and research activities.					
Outline: The course provides lectures explaining management skills necessary for students to make success in the medical, research or business world in the future, focusing mainly on project management, career management, and business communication.					
Course Objective(s)					
Students will understand the essence of management skills and acquire basic skills so that they apply it to daily medical and research activities.					
Lecture Style					
Lectures on the essence of management skills, and workshops for practical skills.					
Course Outline					
The course schedule will be announced to the course registrants as soon as it is decided.					
Grading System					
Participation (70%) and discussion and attitude (30%).					
Prerequisite Reading					
None.					
Email					
TAKEUCHI Katsuyuki:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
Instructor's Contact Information					
TAKEUCHI Katsuyuki:Weekdays only. Advanced appointments are required.					
Contact to Katsuyuki Takeuchi in Center for Education in Healthcare Innovation (E-mail: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp)					

Lecture No	041009			
Subject title	Management	Subject ID	GC-c6331-L	
Instructors	竹内 勝之, 板越 正彦, 吉野 宏志[TAKEUCHI Katsuyuki, ITAGOSHI Masahiko, YOSHINO Hiroshi]			
Semester	Fall 2026	Level	1st - year	Units
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction Face-to-face
Availability in English: All classes are taught in English.				
Course Purpose and Outline				
Course Purpose: Students will acquire a set of basic knowledge and skills of management (project management, career management, business communication, and so on) and will get training so that they apply it to daily medical and research activities.				
Outline: The course provides lectures explaining management skills necessary for students to make success in the medical, research or business world in the future, focusing mainly on project management, career management, and business communication.				
Course Objective(s)				
Students will understand the essence of management skills and acquire basic skills so that they apply it to daily medical and research activities.				
Lecture Style				
Lectures on the essence of management skills, and workshops for practical skills.				
Course Outline				
The course schedule will be announced to the course registrants as soon as it is decided.				
Grading System				
Participation (70%) and discussion and attitude (30%).				
Prerequisite Reading				
None.				
Email				
TAKEUCHI Katsuyuki:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp				
Instructor's Contact Information				
TAKEUCHI Katsuyuki:Weekdays only. Advanced appointments are required.				
Contact to Katsuyuki Takeuchi in Center for Education in Healthcare Innovation (E-mail: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp)				

Lecture No	041012				
Subject title	Intellectual Property			Subject ID	GC-c6351-L
Instructors	竹内 勝之, 杉光 一成, 川瀬 真, 平井 佑希[TAKEUCHI Katsuyuki, SUGIMITSU Kazunari, KAWASE Makoto, HIRAI Yuki]				
Semester	YearLong 2026	Level	1st - year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
All classes are taught in Japanese.					
Lecture place Please check the course schedule.					
Course Purpose and Outline Course Purpose : Students will acquire a basic knowledge of intellectual property necessary to engage in research and business activities. Outline : The course gives lectures on the essence of intellectual property that is required to know in research and business activities, such as patents and copyrights. In addition, it gives case studies of intellectual property strategies in research and business activities so that students develop their understanding of intellectual property.					
Course Objective(s) The goal is that students acquire a basic knowledge of 'patents' and 'copyrights' and a set of basic skills of the patent search.					
Lecture Style Lectures on the basic knowledge of intellectual property, workshops, and case studies.					
Course Outline The course schedule will be announced to the course registrants as soon as it is decided.					
Grading System Participation (70%), discussion and attitude (30%)					
Prerequisite Reading None.					
Email TAKEUCHI Katsuyuki:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
Instructor's Contact Information TAKEUCHI Katsuyuki: Weekdays only. Advanced appointments are required. Contact to Katsuyuki Takeuchi in Center for Education in Healthcare Innovation (E-mail: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp)					

Lecture No	041015				
Subject title	Biomedical Science			Subject ID	GC-c6426-L
Instructors	二階堂 愛, 笹川 洋平, 後藤 利保, 仁科 博史, 小藤 智史, 松田 憲之, 瀬川 勝盛[NIKAIDO Itoshi, SASAGAWA Yohei, GOTO Toshiyasu, NISHINA Hiroshi, KOFUJI Satoshi, MATSUDA Noriyuki, SEGAWA Katsumori]				
Semester	YearLong 2026	Level	1st - year	Units	2
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
Lecture place Online (Zoom) or on-demand video lecture					
Course Purpose and Outline Course purpose: The Bioscience Program offers lectures on several important topics in Molecular Biology, Genetics, Epigenetics, Bioinformatics, Developmental Biology and Engineering, Cell Biology and Biochemistry. The major purpose of the program is to obtain the latest information on these fields of science and to train scientific mind as well as logical thinking skills necessary to become independent researchers. Outline: Molecular mechanisms on several fundamental biological phenomena related to embryonic development, cell differentiation and immune system are introduced and several human diseases due to breakdown of normal regulation, such as genomic imprinting diseases, cancers, immunodeficiency and allergy, will be discussed.					
Course Objective(s) Understand useful and critical information from basic to the latest biological sciences and medicine.					
Lecture Style Lecture by the lecturer, discussion with students, and writing reports.					
Grading System Attendance to lectures (80 %) and reports (20 %) are evaluated.					
Prerequisite Reading Instruct at first lecture if necessary.					
Exam eligibility More than 75% of attendance to the lectures					
Reference Materials Molecular cell biology/Harvey Lodish ... [et al.],Lodish, Harvey F.,:W.H. Freeman, 2016 Epigenetics/C. David Allis, Marie-Laure Caparros, Thomas Jenuwein, Danny Reinberg, editors ; Monika Lachner, associate editor,Allis, C. David,Caparros, Marie-Laure,Jenuwein, Thomas,Reinberg, Danny,Lachner, Monika,:Cold Spring Harbor Laboratory Press, 2015 エッセンシャル免疫学/ピーター・パーラム著,Parham, Peter,笹月, 健彦,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2016 ゲノム : 生命情報システムとしての理解/T.A. ブラウン著,Brown, T. A. (Terence Austen),石川, 冬木,中山, 潤一,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2018 “The immune system” (Third edition),Peter Parham, Garland Science Molecular Cell Biology Eighth Edition, Harvey Lodish et al, ISBN-13: 978-1-4641-8339-3 Genome 4, Garland Science, 978-0815345084					

Lecture No	041016				
Subject title	Advanced Biofunctional Molecules			Subject ID	GC-c6427-L
Instructors	伊藤 幸裕, 吉岡 広大[ITOU Yukihiro, YOSHIOKA Hiromasa]				
Semester	Spring 2026	Level	1st - year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
Availability in English: When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
Course Purpose and Outline					
Course Purpose: Fundamental knowledge and technology on the functional molecules and the recent topics on their applications will be educated.					
Outline: Various topics related to the functional molecules in the fields of medicinal chemistry, chemical biology, and materials sciences will be discussed, including the presentation by the students. There is some experimental practice.					
Course Objective(s)					
Chemical knowledge and technology is significant in various fields including chemical biology, sensing biology, medicinal chemistry, and materials sciences. This course deals with fundamentals and applications of biofunctional molecules.					
Lecture Style					
This course includes seminar-type lectures, including the presentation by the students.					
Course Outline					
See the table.					
Grading System					
Attendance (50%) and Presentation or Report (50%)					
Prerequisite Reading					
Fundamental organic chemistry and biochemistry should be reviewed. The books listed in #9 are useful for understanding the topics in this course.					
Reference Materials					
The Practice of Medicinal Chemistry (C. G. Wermuth, D. Aldous, P. Raboisson, D. Rognan eds, Academic Press); Chemical Biology (L. Schreiber, T. Kapoor, G. Wess Eds, WILEY-VCH); The Nuclear Receptors FactsBook (Laudet, V & Gronemeyer, H., Academic Press).					
Email					
ITOU Yukihiro: itoh.yukihiro@tmd.ac.jp					
Instructor's Contact Information					
ITOU Yukihiro: Every Monday, 2:00-5:00 PM					
Surugadai Campus, Building 21, 3rd Floor, Room 302					

Lecture No	041017				
Subject title	Development of Functional Molecules			Subject ID	GC-c6428-L
Instructors	細谷 孝充, 玉村 啓和, 小早川 拓也, 田口 純平, 辻 耕平, 隅田 有人, 落合 幸太郎[HOSOYA Takamitsu, TAMAMURA Hirokazu, KOBAYAKAWA Takuya, TAGUCHI Jumpei, TSUJI Kohei, SUMIDA Yuto, OCHIAI Kotaro]				
Semester	YearLong 2026	Level	1st - year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
Course Purpose and Outline					
Course Purpose:Fundamental knowledge and technology on the functional molecules and the recent topics on their applications will be educated.					
Outline: Various topics related to the functional molecules in the fields of medicinal chemistry, chemical biology, and materials sciences will be discussed, including the presentation by the students. There is some experimental practice.					
Course Objective(s)					
Chemical knowledge and technology is significant in various fields including chemical biology, sensing biology, medicinal chemistry, and materials sciences. This course deals with fundamentals and applications of biofunctional molecules.					
Lecture plan					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	5/23	15:00-17:15	1F 第2会議室		HOSOYA Takamitsu, SUMIDA Yuto, TAGUCHI Jumpei
2	5/30	15:00-17:15	1F 第2会議室		HOSOYA Takamitsu, SUMIDA Yuto, TAGUCHI Jumpei
3	6/13	15:00-17:15	1F 第2会議室		HOSOYA Takamitsu, KANEMOTO Kazuya, TAGUCHI Jumpei
4	6/27	15:00-17:15	1F 第2会議室		TAMAMURA Hirokazu, TSUJI Kohei, KOBAYAKAWA Takuya
5	7/11	15:00-17:15	1F 第2会議室		ITOU Yukihiko, YOSHIOKA Hiromasa
Lecture Style					
This course includes seminar-type lectures, including the presentation by the students.					
Course Outline					
See the table.					
Grading System					

Attendance (50%) and Presentation or Report (50%)

Prerequisite Reading

Fundamental organic chemistry and biochemistry should be reviewed. The books listed in #9 are useful for understanding the topics in this course.

Reference Materials

The Practice of Medicinal Chemistry (C. G. Wermuth, D. Aldous, P. Raboisson, D. Rognan eds, Academic Press); Chemical Biology (L. Schreiber, T. Kapoor, G. Wess Eds, WILEY-VCH); The Nuclear Receptors FactsBook (Laudet, V & Gronemeyer, H., Academic Press).

Email

HOSOYA Takamitsu: thosoya.cb@tmd.ac.jp

Lecture No	041018				
Subject title	Reconstitution Materials Science			Subject ID	GC-c6405-L
Instructors	仲井 正昭[NAKAI Masaaki]				
Semester	Spring 2026	Level	1st - year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
Availability in English: When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
Lecture place					
Department of Metallic Biomaterials, Laboratory for Biomaterials and Bioengineering					
Course Purpose and Outline					
Course Purpose: This course provides a fundamental understanding of metallic biomaterials and the knowledge required for new material development and property improvement.					
Outline: This course covers the principles and technologies underlying the functional properties of metallic biomaterials and examines recent research trends in new material and process developments based on the latest literature.					
Course Objective(s)					
Students will learn how the functions of metallic biomaterials are governed by factors such as crystal structure, lattice defects, metastable phases, and surface states, and will acquire the knowledge needed to design materials and manufacturing processes for enhanced performance.					
Lecture Style					
Lectures by instructors, Presentation by students, and Discussion					
Grading System					
Grading is judged from participation and presentation during lectures.					
Participation: 60%, Presentation: 40%.					
Prerequisite Reading					
Review of basic chemistry and physical chemistry and preparation of metallurgical engineering are desirable.					
Reference Materials					
医療用金属材料概論 = Metals for medicine / 埴隆夫編 埴 隆夫: 日本金属学会, 2010					
金属バイオマテリアル / 埴隆夫, 米山隆之共著 埴 隆夫, 米山 隆之: コロナ社, 2007					
Metals for Medical Devices / M. Niinomi ed.: Woodman, 2019					
Textbooks, references, and papers are suggested during lectures.					
Important Course Requirements					
Difficulty and problem in your research must be extracted and prepare to discuss on them are desirable.					
Email					
nakai.masaaki@tmd.ac.jp					

Lecture No	041019				
Subject title	Tissue Regenerative Bioceramic Materials Science			Subject ID	GC-c6406-L
Instructors	横井 太史, 川下 将一, 島袋 将弥[YOKOI Taishi, KAWASHITA Masakazu, SHIMABUKURO Masaya]				
Semester	Spring 2026	Level	1st - year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
Availability in English: When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
Lecture place					
Face-to-face lectures will be held in Department of Inorganic Biomaterials, Institute of Biomaterials and Bioengineering, TMDU (Bldg. 21, 3rd floor).					
Course Purpose and Outline					
Course Purpose: Students will understand how bioceramics are designed and manufactured, and understand that bioceramics are clinically applied in various fields based on their structures and properties.					
Outline: Students will conduct a presentation summarizing literature on bioceramics, and if necessary, faculty members from the field of inorganic biomaterials will provide explanations.					
Course Objective(s)					
Students will understand that various bioceramics are clinically applied in various fields according to their structures and characteristics.					
Lecture Style					
Students will conduct a presentation summarizing literature on bioceramics. All participants will discuss the contents of the literature. Additional explanations by teachers will be given as needed.					
Course Outline					
Students will read the literature on bioceramics and related fields and discuss the contents of the literature. The typical topics are the following.					
(1) Novel bioceramics					
(2) Bioceramic-tissue adhesion					
(3) Bioinert bioceramics					
(4) Porous ceramics					
(5) Bioactive glasses and glass-ceramics					
(6) Interfacial reaction kinetics					
(7) Clinical applications of bioactive glasses and glass-ceramics					
(8) Calcium phosphate ceramics					
(9) Composites					
(10) Coatings					
(11) Materials for cancer treatment					
(12) Dental materials					
Grading System					
Grading is based on class participation and quality of final presentation.					
Class participation: 70%, Final presentation: 30%.					
Prerequisite Reading					
none					
Reference Materials					
Textbooks, references, and papers are suggested during lectures.					
Email					
YOKOI Taishi:yokoi.taishi.bcr@tmd.ac.jp					
Instructor's Contact Information					
YOKOI Taishi:Monday, PM3:00-PM5:00, Building 21, 3rd floor, room 301B					

Lecture No	041020				
Subject title	Organic Biomaterials Science	Subject ID		GC-c6407-L	
Instructors	松元 亮 堀 真緒[MATSUMOTO Akira, HORI Mao]				
Semester	Spring 2026	Level	1st - year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
Course Purpose and Outline					
Course Purpose: To offer lectures on several important aspects in self-organization and hierarchical structuring found in biomolecules and tissues along with their bioengineering applications. The major purpose of the program is to train scientific mind as well as logical thinking required for independent researchers.					
Outline: To deepen our understanding of the above and discuss on the expected future of organic biomaterials.					
Course Objective(s)					
Introduce useful information on organic biomaterials from basis to possible applications to attendants.					
Lecture Style					
Lecture, discussion and presentation					
Grading System					
Participation to lectures (50 %) and question during the class (50 %) are evaluated.					
Prerequisite Reading					
Previous credits on Advanced Biomaterials Science and Applied Biomaterials Science or the equal academic level is required (preferable) .					
TextBook					
Biomaterials Science : An Introduction to Materials in Medicine / edited by Buddy D. Ratner ... [et al.], Ratner, B. D. (Buddy D.), Hoffman, Allan S., Schoen, Frederick J., Lemons, Jack E. : Academic Press, 2013					
Reference Materials					
Advice appropriately.					
Email					
MATSUMOTO Akira:matsumoto.bsr@tmd.ac.jp					

Lecture No	041021				
Subject title	Medical Materials Engineering			Subject ID	GC-c6408-L
Instructors	鳴瀧 彩絵, 宮本 昂明, 沖田 ひかり[NARUTAKI Ayae, MIYAMOTO Takaaki, OKITA Hikari]				
Semester	Spring 2026	Level	1st - year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
Not offered in 2026					
Prerequisite Reading					

Lecture No	041022				
Subject title	Mathematical and numerical methods for biomedical information analysis	Subject ID	GC-c6429-L		
Instructors	中島 義和, 杉野 貴明, 周 東博, 小野木 真哉[NAKAJIMA Yoshikazu, SUGINO Takaaki, SHU Tohaku, ONOGI Shinya]				
Semester	Spring 2026	Level	1st - year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
Availability in English: If an/some international students register this lecture series for credits, this course will be done in English.					
Lecture place All lectures are given online (zoom).					
Course Purpose and Outline Technologies for biomedical measurement and diagnosis are improved rapidly. It highlights expectation for integrative analyses of biomedical information and establishment of numerical computing theory. The lecture classes will provide principles, which are needed to research and develop systems, and introduce advanced applications.					
Course Objective(s) The students will understand principle methods for biomedical informatics and data processing. In addition, they will learn advanced technologies.					
Lecture Style Lecture and discussion					
Course Outline The lecture series will introduce statistical analyses, mathematical and numerical simulations and artificial-intelligence (AI) analyses for biomedical information. In addition, it will introduce fundamental methods to develop medical systems, as well.					
Grading System Class attendance, contribution for the lecture such as question and comments, and report quality will be considered on the assessment.					
Grading Rule The grade will consider class attendance and performance (50%) and reports (50%).					
Prerequisite Reading The students having this lecture will be required to study fundamental knowledge of mathematics to understand statistic analyses and data processing. Details will be introduced at the lecture guidance in the first class. As well, some introductions will be shown when necessary.					
Exam eligibility No restriction.					
Composition Unit Yoshikazu Nakajima, Shinya Onogi, Dongbo Zhou, Kenta Ichikawa					
Module Unit Judgment Grading will be done with the comprehensive consideration of lecture attendance and report quality.					
TextBook Handout will be provided if necessary.					
Reference Materials Handouts will be provided if necessary.					

Important Course Requirements Nothing.
Note(s) to Students Nothing.
Email NAKAJIMA Yoshikazu:nakajima.y.8203@m.isct.ac.jp
Instructor's Contact Information NAKAJIMA Yoshikazu:15:00-16:30 on every Monday at Room 409A on the 4th floor, Building 21, Surugadai campus

Lecture No	041023				
Subject title	Lecture of RIKEN Molecular and Chemical Somatology			Subject ID	GC-c6190-L
Instructors	谷内 一郎, 田中 元雅, 三好 知一郎, 田上 俊輔, 今見 考志 [Ichiroh Taniuchi, Motomasa Tanaka, MIYOSHI Tomoichiro, Shunsuke Tagami, IMAMI Kohshi]				
Semester	YearLong 2026	Level	1st - year	Units	2
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
Availability in English: When non-Japanese students register this course, English will be used in all of the lectures.					
Lecture place					
Next Page					
Course Purpose and Outline					
Course Purpose: Students aim to understand the basis of Cellular Pathology, Therapeutic in vivo Synthetic Chemistry, Molecular Immunology, Molecular Neuropathology and Genome Biology, as well as their applications to Medicine and Biology by discussing about a variety of biomolecules, including proteins, sugars, and hormones, which regulate cellular functions.					
Outline: Molecular and Chemical Somatology is an interdisciplinary field for understanding the basis of Cellular Pathology, Therapeutic in vivo Synthetic Chemistry, Molecular Immunology, and Molecular Neuropathology, as well as their applications to Medicine and Biology. Students will learn and discuss about the outlines and/or the latest topics on key biomolecules in each lecture, and are expected to deepen their understanding of various biomolecules.					
Course Objective(s)					
Students will learn and discuss about the latest topics from each instructor.					
Lecture plan					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	6/18	09:45-12:00	和光理研 脳中央棟 5F セミナ 一室 S505	Plant molecular cell biology	IZUMI Masanori
2	6/18	13:00-15:15	和光理研 脳中央棟 5F セミナ 一室 S505	Structural biology	NOMURA Takashi
3	6/18	15:30-17:45	和光理研 脳中央棟 5F セミナ 一室 S505	Molecular Neurobiology	Ryo Endoh
4	8/19	13:00-15:15	和光理研 脳中央棟 5F セミナ 一室 S505	Molecular Neuropathology	Motomasa Tanaka
5	8/19	15:00-17:15	和光理研 脳中央棟 5F セミナ 一室 S505	Molecular Basis of Chemical Senses	Nobuhiko Miyasaka

6	8/25	09:45-12:00	横浜理研 北研究棟 5F 会議 室	Biomacromolecular engineering	Shunsuke Tagami
7	8/25	13:00-15:15	横浜理研 北研究棟 5F 会議 室	Immune Molecular Regulation-1	Ichiroh Taniuchi
8	8/25	15:30-17:45	横浜理研 北研究棟 5F 会議 室	Advanced proteomics	IMAMI Koshi
9	9/3	13:00-15:15	横浜理研 北研究棟 5F 会議 室	Genome Biology	MIYOSHI Tomoichiro
10	9/3	15:30-17:45	横浜理研 北研究棟 5F 会議 室	Non-coding RNAs and Epigenetics	Gailhouste, Luc Nicolas

Lecture Style

Lectures by instructors, Presentation by students, and Discussion

Grading System

Attendance (40%) and Report (60%)

Prerequisite Reading

None

Reference Materials

Introduction to Glycobiology Third Edition (Maureen E. Taylor and Kurt Drickamer, Oxford University Press), Fundamentals of Protein Structure and Function (Buxbaum and Engelbert, Springer), Neuroscience: Exploring the Brain 4th Edition (Mark F. Bear, Barry Connors and Mike Paradiso, Wolters Kluwer), Immunobiology, 10th ed. (K.Murphy, C.Weaver & L.Berg)

Email

Ichiroh Taniuchi:ichiro.taniuchi@riken.jp

Instructor's Contact Information

Ichiroh Taniuchi: Questions regarding the course content should be directed to the course instructor as needed.

Course Instructor: RIKEN Molecular and Chemical Somatology (Prof. Taniuchi), Collaborative Professor (available via email at any time).

Lecture No	416012			
Subject title	Special Lectures for Advanced Oral Healthcare Sciences	Subject ID	GCc6411	
Instructors				
Semester	YearLong 2026	Level	1st - year	Units
Course by the instructor with practical experiences			Mode of Instruction	Face-to-face
<p>Partial classes are taught in English. When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English. Contact: Educational Planning Section, TEL:03-5803-4534, Email: grad02@ml.tmd.ac.jp Yuji Kabasawa Email: kabasawa.ocsh@tmd.ac.jp Availability in English: Partial classes are taught in English or When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.</p>				
Lecture place				
Mainly Home for remote lectures				
Course Purpose and Outline				
<p>Course Purpose: This course is designed to provide students with the latest basic and clinical knowledge necessary for research in oral health sciences. The course is designed to provide students with the necessary knowledge not only in the fields of medicine and dentistry The course also covers the need for integration with related fields such as science, engineering, laboratory medicine (health science), and social welfare.</p>				
Course Objective(s)				
The goal is for students to attend at least 2/3 of the lectures, understand the content of the lectures, and be able to formulate their own research themes.				
Lecture Style				
The lectures will be given mainly by remote lectures using web classes and ZOOM.				
Course Outline				
<p>The course will focus on the latest findings in oral health science, and fusion research with related fields.</p> <p>Application of oral health science in community and hospital settings.</p> <p>Advanced clinical research in oral health</p> <p>Social epidemiology, health disparities, and oral health studies</p> <p>Oral health studies in public health</p>				
Grading System				
Students will be evaluated comprehensively based on discussions, enthusiasm of efforts, and post-lecture assignments in each lecture.				
Prerequisite Reading				
Refer to the announcement of each lecture and seminar.				
TextBook				
Assigned by each lecturer.				
Reference Materials				
Assigned by each lecturer.				
Important Course Requirements				
Since most lectures are given remotely, if you have difficulty attending a lecture due to the communication environment, etc., be sure to contact the course instructor (Kabasawa).				

Lecture No	416013				
Subject title	Advanced Oral Healthcare Sciences			Subject ID	Gc6412
Instructors	松尾 浩一郎, 吉田 直美, 日高 玲奈, 竹内 康雄, 伊藤 奏, 安達 奈穂子[MATSUO Koichiro, YOSHIDA Naomi, HIDAKA Rena, TAKEUCHI Yasuo, ITO Kanade, ADACHI Naoko]				
Semester	YearLong 2026	Level	1st - year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
Lecture place TMDU Hospital, Oral Health Center					
Course Purpose and Outline TMDU Graduate School and Hospital have established the Health Care Assistant (HCA) system, an internship program for graduate students qualified as dental hygienists, to provide training while actually working as part-time employees. This training is designed for students who wish to work at the Oral Health Center among the new HCA applicants, mainly to acquire the knowledge and skills necessary to perform perioperative and other oral health management.					
Course Objective(s) By the end, each student will: 1) To understand the outline of the work of the Oral Health Center. 2) Acquire the basics of patient care and how to deal with problems required of dental hygienists. 3) Understand the duties of an oral health center and perform the required duties appropriately under guidance.					
Lecture Style Lectures and exercises will be given at the oral health center. Some of the lectures and exercises will incorporate active learning, such as case conferences and ZOOM.					
Prerequisite Reading					
Important Course Requirements During your lesson in the hospital, take care of your manners as a medical staff.					
Email TAKEUCHI Yasuo:takeuchi.peri@tmd.ac.jp MATSUO Koichiro:matsuo.ohcw@tmd.ac.jp					
Instructor's Contact Information TAKEUCHI Yasuo:PM.5:00-PM.6:30 Building 1, 8th floor, room 812B MATSUO Koichiro:Monday 16:00-18:00 1st Building 8F Room 818B					

Lecture No	416014					
Subject title	Advanced Oral Health Engineering			Subject ID	GCC6413	
Instructors	池田 正臣, 大木 明子, 岩城 麻衣子, 土田 優美, 塩沢 真穂, 佐藤 隆明, 高市 敦士 [IKEDA Masaomi, OKI Meiko, IWAKI Maiko, TSUCHIDA Yumi, SHIOZAWA Maho, SATO Takaaki, TAKAICHI Atsushi]					
Semester	YearLong 2026	Level	1st - year	Units	1	
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Media-enhanced courses	
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English. /Key words: Dental laboratory work, dental treatment, CAD/CAM, Dental materials						
Course Purpose and Outline						
Course Purpose: The goal of this course is to understand actual applications of various basic researches and technique supporting oral health engineering, and to obtain knowledge for solving objects in a wide range. Outline: Various topics related to various basic researches and technique supporting oral health engineering will be introduced through recent textbooks and papers by instructors of Departments of Basic Oral Health Engineering, Oral Biomaterials Development Engineering, and Oral Prosthetic Engineering.						
Course Objective(s)						
Students will acquire the fundamental knowledge regarding basic researches and technique supporting oral health engineering, discuss their development, application, function, and problems, and learn the strategy for promoting fundamental knowledge to specific application.						
Lecture plan						
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Lecture content	Staff
1	10/2	16:00-17:00	オンデマ ンド			TAKAICHI Atsushi
2	10/9	16:00-17:00	オンデマ ンド			TAKAICHI Atsushi
3	10/16	16:00-17:00	オンデマ ンド			IWAKI Maiko
4	10/23	16:00-17:00	オンデマ ンド			IWAKI Maiko
5	11/6	16:00-17:00	オンデマ ンド			TSUCHIDA Yumi
6	11/13	16:00-17:00	オンデマ ンド			TSUCHIDA Yumi
7	11/20	16:00-17:00	オンデマ ンド			IKEDA Masaomi
8	11/27	16:00-17:00	オンデマ ンド			IKEDA Masaomi
9	12/4	16:00-17:00	ライブ			OKI Meiko
10	12/11	16:00-17:00	オンデマ ンド			SATO Takaaki
11	12/18	16:00-17:00	ライブ			OKI Meiko
12	1/8	16:00-17:00	オンデマ ンド			SHIOZAWA Maho
13	1/15	16:00-17:00	オンデマ ンド			SHIOZAWA Maho
14	1/22	16:00-17:00	オンデマ ンド			IKEDA Masaomi
15	1/29	16:00-17:00	オンデマ			SATO Takaaki

			ンド			
Lecture Style						
Several professors give series of lectures in various themes. The students learn the content of the lecture through the question and discussions.						
Grading System						
The grading is comprehensively evaluated based on participation (50%), question and reports (50%).						
Prerequisite Reading						
None. However, there may be reference texts and books announced beforehand so please check before each lesson.						
Reference Materials						
Some references may be introduced by instructors prior to their lectures.						
Note(s) to Students						
Schedule will be changed depending on the number of students.						
Email						
IKEDA Masaomi: ikeda.csoe@tmd.ac.jp						
Instructor's Contact Information						
IKEDA Masaomi: Send an email to confirm the appointment.						

Lecture No	416015						
Subject title	Advanced Bone Histomorphometry in the Hard Tissue Research		Subject ID	GCc6414			
Instructors	青木 和広, 野中 希一, 上條 真吾, Masud Khan[AOKI Kazuhiro, NONAKA Kiichi, KAMIJO Shingo, MASUD Khan]						
Semester	YearLong 2026	Level	1st - year		Units		
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Media-enhanced courses		
English is also used for international students who register for courses.							
Lecture place							
Synchronous remote teaching							
Course Purpose and Outline							
Purpose of the course: To learn the theory and practice of bone mineral density analysis, undecalcified section preparation, and bone histomorphometry, which are indispensable for hard tissue research, and to apply bone morphometry to one's research.							
Abstract: The actual preparation of undecalcified sections and bone morphometry will be practiced using rodents, i.e., mice and rats. In the lecture, students will learn bone histomorphometry of jawbone, regenerated bone, bone histomorphometry, including remodeling animals such as dogs and monkeys, and also learn the current analyses of bone densitometry.							
Course Objective(s)							
1. To explain the role of bone histomorphometry in hard tissue research.							
2. To distinguish between osteoclasts and osteoblasts in the undecalcified sections.							
3. To explain bone histomorphometry in trabecular and cortical bone.							
4. To explain bone histomorphometry in modeling and remodeling animals.							
5. To explain bone histomorphometry in regenerated bone and jawbone.							
6. To explain bone densitometry.							
7. To be able to apply bone histomorphometry to own research.							
Lecture plan							
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Lecture content	Staff	Learning objectives* Learning methods* Instructions
1	4/16	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	Bone Histomorphometry: A Comprehensive Overview Part 1	Significance of Bone Histomorphometry in Hard Tissue Research	AOKI Kazuhiro	Explain the significance of bone morphometry TBL format
2	4/30	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	Bone Histomorphometry: A Comprehensive Overview Part 1(Including Dr. Amano's lecture)	Bone Histomorphometry in Hard Tissue Research	AOKI Kazuhiro, AMANO Hitoshi	Explain the significance of bone morphometry in relation to bone remodeling TBL format
3	5/15	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	Bone Morphometry Society Commentary	Preparation for the Society for Bone Morphometry	AOKI Kazuhiro	
4	6/5	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	BMD measurement Radiological Analysis: Part 1	MTheory and practice of bone densitometry (DXA, pQCT, ultrasound, etc.)	AOKI Kazuhiro, NONAKA Kiichi	Describe non-invasive bone mineral density

							analysis TBL format
5	6/18	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	Importance of Bone Morphometry in Papers Meeting ID: 946 6960 9953 Passcode: 804145	Journal club	AOKI Kazuhiro, NONAKA Kiichi	Explain the significance of bone morphometry TBL format
6	7/2	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	Importance of Bone Morphometry in Papers Meeting ID: 946 6960 9953 Passcode: 804145	Journal club	AOKI Kazuhiro	Explain the significance of bone morphometry TBL format
7	7/16	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	Bone Histomorphometry: A Comprehensive Overview Part 2(Including Dr. Amano's lecture)		AOKI Kazuhiro, AMANO Hitoshi	Explain the significance of bone morphometry in relation to bone remodeling TBL format
8	9/3	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	Importance of Bone Morphometry in Papers Meeting ID: 946 6960 9953 Passcode: 804145	Journal club	AOKI Kazuhiro	Explain the significance of bone morphometry TBL format
9	9/17	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	Bone Morphometry: A Comprehensive Overview (Part 1) Meeting ID: 946 6960 9953 Passcode: 804145	Methods for making undecalcified sections (both thin and grinding sections)	AOKI Kazuhiro, AMANO Hitoshi	Explain how to prepare non-decalcified sections TBL format Including Dr. Amano's lecture
10	10/1	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	Importance of Bone Morphometry in Papers Meeting ID: 946 6960 9953 Passcode: 804145	Journal club	AOKI Kazuhiro	Explain the significance of bone morphometry TBL format
11	11/6	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	Radiological Analysis: Part 1	Micro-CT imaging and its practice	AOKI Kazuhiro, AMANO Hitoshi	Describe the principles and imaging methods of μ CT TBL format
12	11/19	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	Importance of Bone Morphometry in Papers Meeting ID: 946 6960 9953 Passcode: 804145	Journal club	AOKI Kazuhiro	Explain the significance of bone morphometry TBL format
13	12/3	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	Bone Morphometry: A Comprehensive Overview (Part 3) Meeting	Cortical bone measurements and measurements of bone regeneration sites and jaw bones	AOKI Kazuhiro	Explain the difference between

				ID: 946 6960 9953 Passcode: 804145			measuring cancellous bone and cortical bone TBL format
14	12/17	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	Importance of Bone Morphometry in Papers Meeting ID: 946 6960 9953 Passcode: 804145	Journal club	AOKI Kazuhiro	Explain the significance of bone morphometry TBL format
15	1/14	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	Summary (Part 1) Meeting ID: 946 6960 9953 Passcode: 804145	All students enrolled in this special course will present what they have learned in this special course and share their results.	AOKI Kazuhiro	Can explain bone morphometry and apply it to his/her own research Prepare presentation materials
16	1/28	08:00-08:45	遠隔授業 (同期型)	Summary (Part 2) Meeting ID: 946 6960 9953 Passcode: 804145	All students enrolled in this special course will present what they have learned in this special course and share their results.	AOKI Kazuhiro	Can explain bone morphometry and apply it to his/her own research Prepare presentation materials

Lecture Style

The course will be based on synchronous teleclasses.

If the teaching method changes, we will notify you in advance.

Students are required to watch the basic explanation videos prepared in advance before attending the lectures.

In the last two classes, each student will give a 5-minute presentation.

Please prepare in advance.(Refer to the evaluation method).

Course Outline

The methods for measuring bone remodeling activity in long-tubular bone are not similar to those for quantifying bone dynamics in regenerated bone. Also, the measurement methods for cortical and trabecular bone in long bones are different from those for jaw bones, and the effects of physiological changes or interventions can be quantified by using measurement methods that understand the characteristics of each type of bone. In the lectures and exercises, students will learn about the limitations of bone morphometry and how to deal with them. They will also learn about radiological analysis and bone densitometry, which are essential for hard tissue research.

(Omnibus / 8 sessions)

(Kazuhiro Aoki/4 times) Bone Morphometry: General and Specific Theories/Student Presentations (final session)

(Hitoshi Amano/2times) Radiographic analysis (μ CT), non-decalcified sectioning, bone remodeling

(Kiichi Nonaka/1 meeting) Bone densitometry (DXA, pQCT, Ultrasonic bone densitometry) + lecture in person

Grading System

Grading will be based on participation in lectures and the final presentation, with the following percentages as a guide

○Participation in lectures and practical training: 70% (This is the number of attendance evaluation points for the seven classes other than the last class where the presentation is given, with a maximum score of 10 points per class.)

○Final presentation: 30%.

(You will be asked to present how you were able to think about applying and developing what you have learned in your research)

Prerequisite Reading

(1) Read through the materials when they are uploaded in advance before coming to class.

(2) Be sure to attend the final presentation. If you have no choice but to be absent, notify the instructor before the class starts.

The presentation should be about 5 minutes in length.

The presentation should include: 1) a description of the purpose of your research, 2) the area of interest, and 3) what parameters you will

measure.

(4) Keep the presentation simple and concise so that students from other fields can understand the purpose of the research.

5) For the abstract reading session, select five papers with IF 9 or higher, four of which you will outline and one of which you will abstract (about 25 minutes).

Reference Materials

新しい骨形態計測／山本智章編集,遠藤, 直人,山本, 智章.:ウイネット, 2014

骨形態計測からヒトの骨組織を見る、知る、学ぶ／山本智章, 平野徹, 田中伸哉編集,遠藤, 直人,山本, 智章,平野, 徹,田中, 伸哉.:ウイネット, 2019

Email

AOKI Kazuhiro:kazuhiro_aoki.bhoe@tmd.ac.jp

Instructor's Contact Information

AOKI Kazuhiro:16:00-18:00 on every Monday, Room 216, 2nd floor, Bldg. 2 (Department of Oral Basic Engineering)

please contact me by e-mail.

Lecture No	416002				Subject ID	GC-c6200-L
Subject title	Epidemiology II			Subject ID	GC-c6200-L	
Instructors	相田 潤[AIDA Jun]					
Semester	Fall 2026	Level	1st - year		Units	2
Course by the instructor with practical experiences					Mode of Instruction	Face-to-face
<p>Instructor(s):</p> <p>Jun Aida, Professor, Department of Dental Public Health</p> <p>Takeo Fujiwara, Professor, Department of Public Health</p> <p>Shino Kino, Professor, Department of Preventive Oral Health Care Sciences</p> <p>Ichiro Kawachi, John L. Loeb and Frances Lehman Loeb Professor of Social Epidemiology, Chair, Department of Social and Behavioral Sciences, Harvard T.H. Chan School of Public Health</p> <p>Naoki Kondo, Professor, Department of Social Epidemiology, Kyoto University</p> <p>Fumiaki Imamura, Senior Investigator Scientist, MRC Epidemiology Unit, Institute of Metabolic Science, University of Cambridge School of Clinical Medicine</p> <p>Availability in English: All classes are taught in English.</p> <p>Key word: Epidemiology</p>						
Lecture place						
Refer to the course schedule						
Course Purpose and Outline						
<p>Course Purpose:</p> <p>This course applies advanced epidemiological methodologies to explore the health effects of major social variables.</p> <p>Outline:</p> <p>We will focus on social determinants of health, including social class, race, gender, poverty, income distribution, social networks/support, community cohesion, work and neighborhood environment, behavioral economics, and nutritional epidemiology. We also address the health consequences of social and economic policies, and the potential role of specific social interventions, including innovative methods based on behavioral economics. To deepen understanding of social epidemiology, oral health outcomes, their distributions in the populations, and its common determinants will be taught. Lectures by Professor Ichiro Kawachi from Harvard T.H. Chan School of Public Health form part of the Harvard/ Johns Hopkins Lecture Series (HJLS).</p>						
Course Objective(s)						
<p>By the end of this course, students will be able to logically and scientifically:</p> <p>a) Define social determinant of health, explain measurement methods of them, and describe mechanisms through which social determinant of health influence health.</p> <p>b) Explain high risk and population strategies of prevention, and contrast benefit and drawbacks of two strategies.</p> <p>c) Explain oral health outcome measurements, its distribution and common determinants of oral health.</p> <p>d) Explain how can we incorporate novel insights from behavioral economics to improve the success of behavior change.</p>						
Lecture plan						
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff	
1-2	11/9	08:50-12:15	G-Lab	Lecture: Oral Epidemiology 1	AIDA Jun	
3	11/9	13:30-15:00	G-Lab, オンデマ ンド	Lecture: Socioeconomic status and health (Video lecture)	KONDO Naoki	

4	11/9	15:25-16:55	G-Lab, オンデマ ンド	Neighborhood and health (Ondemand)	ICHIRO Kawachi
5	11/10	08:50-10:20	G-Lab	Preparation for the group presentation	AIDA Jun
6	11/10	10:45-12:15	G-Lab	Presentation for the group presentation	AIDA Jun, KINO Shiho
7	11/10	13:30-15:00	G-Lab	Q & A session: Socioeconomic status and health	KONDO Naoki, AIDA Jun
8	11/10	13:30-15:00	G-Lab	Lecture: Social epidemiology	AIDA Jun, FUJIWARA Takeo, ICHIRO Kawachi, KINO Shiho
9	11/12	08:50-10:20	G-Lab, オンデマ ンド	Lecture: Life-course epidemiology (On-demand)	FUJIWARA Takeo
10	11/12	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Life-course epidemiology	FUJIWARA Takeo
11	11/12	13:30-15:00	G-Lab	Lecture for the final exam presentation	AIDA Jun
12	11/12	15:25-16:55	G-Lab	Lecture: Nutritional Epidemiology 1	IMAMURA Fumiaki, AIDA Jun
13	11/13	08:50-10:20	G-Lab	Case and group activity: Preparation for the final exam presentation	AIDA Jun
14	11/13	10:45-12:15	G-Lab	Case and group activity: Final exam presentation.	AIDA Jun, KINO Shiho
15	11/13	13:30-15:00	G-Lab	Case and group activity: Final exam presentation.	AIDA Jun, KINO Shiho
16	11/13	15:25-16:55	G-Lab	Lecture: Nutritional Epidemiology 2	IMAMURA Fumiaki, AIDA Jun

Lecture Style

This course will consist of lectures and case-based class activities. Students will be required to write a final report.

Course Outline

Refer to the course schedule

Grading System

Grades will be based on the following elements:

Participation 10%

Presentations 35%

Final paper 55%

Prerequisite Reading

Reading materials will be available online on the course webpage. Students are expected to have worked through the materials before attending the corresponding class.

Reference Materials

Reading materials will be available online at the course webpage. Students are expected to have worked through the materials before attending

the corresponding class.

The book is recommended for those whose research interests are related to social determinants of health.

Berkman LF, Kawachi I, Glymour MM, editor. Social Epidemiology. 2nd ed. New York: Oxford University Press; 2014.

Important Course Requirements

For students not in the MPH course, instructor's permission is required before registering to the course. Also, students are required to have TOEFL iBT with a minimum score of 80 (taken before January 21, 2026), 4.5 (taken on or after January 21, 2026), or IELTS with a minimum score of 6.5. Please submit an email when you receive permission through the Forms below. <https://forms.office.com/r/3qSAXRwJbN>

In addition, priority for course registration is given to MPH students, and registration may be limited depending on the number of applicants.

Note(s) to Students

An explanation of the assignment will be given in the lecture.

Syllabus is tentative so please refer to the "Schedule" in the MPH syllabus "Social Epidemiology"

Email

AIDA Jun:aida.ohp@tmd.ac.jp

Instructor's Contact Information

AIDA Jun:Department of Dental Public Health, Graduate School of Medical and Dental Sciences. Prof. Aida at

aida.ohp@tmd.ac.jp

Every Tuesday, 4:30-5:30 PM, Department of Dental Public Health, 10th floor, Dental Building North

Lecture No	416003				Subject ID	GC-c6210-L
Subject title	Biostatistics II			Subject ID	GC-c6210-L	
Instructors	藤原 武男[FUJIWARA Takeo]					
Semester	Fall 2026	Level	1st - year		Units	2
Course by the instructor with practical experiences					Mode of Instruction	Face-to-face
<p>Instructor(s):</p> <p>Takeo Fujiwara, Professor, Department of Public Health</p> <p>Hisaaki Nishimura, Assistant Professor, Department of Public Health</p> <p>Availability in English: All classes are taught in English.</p> <p>Key word: Biostatistics</p>						
Lecture place						
Refer to the course schedule						
Course Purpose and Outline						
<p>Course Purpose:</p> <p>To be able to analyze existing questionnaire data and/or clinical data quantitatively.</p> <p>Outline:</p> <p>Be able to make research question</p> <p>Be able to select exposure, outcome, and covariates</p> <p>Be able to do data-cleaning, define analytic sample</p> <p>Be able to handle missing data (dummy variable)</p> <p>Be able to describe sample characteristics as Table 1</p> <p>Be able to use simple regression</p> <p>Be able to use multivariate regression</p> <p>Be able to report the main outcome as Table 2</p> <p>Be able to interpret the interaction term</p> <p>Be able to use propensity score (propensity score matching, inverse probability weighting)</p> <p>Be able to use multiple imputation for missing data</p>						
Course Objective(s)						
By the end of this course, students will be able to choose appropriate statistical analyses, perform them using statistical software (STATA), interpret results and propose research and policy implication.						
Lecture plan						
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff	
1	10/5	08:50-10:20	情報検索室 1	Session 1: Make clear, specific research question	NISHIMURA Hisaaki, FUJIWARA Takeo	
2	10/5	10:45-12:15	情報検索室 1	Session 2: Select exposure, outcome, covariates	NISHIMURA Hisaaki, FUJIWARA Takeo	
3	10/5	13:30-15:00	情報検索室 1	Session 3: Data cleaning	NISHIMURA Hisaaki, FUJIWARA	

					Takeo
4	10/5	15:25-16:55	情報検索 室 1	Hands-on activity (1)	NISHIMURA Hisaaki, FUJIWARA Takeo
5	10/6	08:50-10:20	情報検索 室 1	Session 4: Summarize and report characteristics of data as Table 1	NISHIMURA Hisaaki, FUJIWARA Takeo
6	10/6	10:45-12:15	情報検索 室 1	Session 5: Correlations	NISHIMURA Hisaaki, FUJIWARA Takeo
7	10/6	13:30-15:00	情報検索 室 1	Session 6: Simple linear regression	NISHIMURA Hisaaki, FUJIWARA Takeo
8	10/6	15:25-16:55	情報検索 室 1	Hands-on activity (2)	NISHIMURA Hisaaki, FUJIWARA Takeo
9	10/8	08:50-10:20	情報検索 室 1	Session 7: Simple logistic regression	NISHIMURA Hisaaki, FUJIWARA Takeo
10	10/8	10:45-12:15	情報検索 室 1	Session 8: Multivariate regression	NISHIMURA Hisaaki, FUJIWARA Takeo
11	10/8	13:30-15:00	情報検索 室 1	Session 9: Making Table 2	NISHIMURA Hisaaki, FUJIWARA Takeo
12	10/8	15:25-16:55	情報検索 室 1	Hands-on activity (3)	NISHIMURA Hisaaki, FUJIWARA Takeo
13	10/9	08:50-10:20	情報検索 室 1	Session 10: Interaction	NISHIMURA Hisaaki, FUJIWARA Takeo
14	10/9	10:45-12:15	情報検索 室 1	Session 11: Propensity score	NISHIMURA Hisaaki, FUJIWARA Takeo
15	10/9	13:30-15:00	情報検索 室 1	Session 12: Multiple impulation	NISHIMURA Hisaaki, FUJIWARA Takeo

16	10/9	15:25-16:55	情報検索 室 1	Final Q&A	NISHIMURA Hisaaki, FUJIWARA Takeo
Lecture Style					
This course will consist of lectures and case-based class activities. Students will be required to submit assignments.					
Course Outline					
Refer to the course schedule					
Grading System					
Grades will be based on the following elements:					
Participation 20%					
Assignments 80% (10 assignments, 8% each)					
Prerequisite Reading					
If you want to analyze your own data, please prepare in Excel format or stata format. If not, we will provide data for this course.					
Module Unit Judgment					
2 units					
Reference Materials					
Hayes-Larson E, Kezios KL, Mooney SJ, Lovasi G. Who is in this study, anyway? Guidelines for a useful Table 1. J Clin Epidemiol. 2019 Oct;114:125-132.					
Westreich D, Greenland S. The table 2 fallacy: presenting and interpreting confounder and modifier coefficients. Am J Epidemiol. 2013 Feb 15;177(4):292-8.					
Important Course Requirements					
For students not in the MPH course, instructor's permission is required before registering to the course. Also, students are required to have TOEFL iBT with a minimum score of 80 (taken before January 21, 2026), 4.5 (taken on or after January 21, 2026), or IELTS with a minimum score of 6.5. Please submit an email when you receive permission through the Forms below. https://forms.office.com/r/ZfAaDzZn0S In addition, priority for course registration is given to MPH students, and registration may be limited depending on the number of applicants.					
Note(s) to Students					
1. During the course, you will be asked to log onto the library computer, zoom, Webmail, websystem, and Microsoft365. Please make sure that you know Togo-ID, Science Tokyo-ID/passwords and user IDs and passwords for each tool before the course week starts.					
- Zoom login: https://zoom.us/ja/signin#/login					
- Webmail login/ https://webmail.tmd.ac.jp/cgi-bin/index.cgi					
- Science Tokyo ID: https://tmdu.ex-tic.com/auth/session					
- Science Tokyo ID Portal (LMS, Microsoft 365): https://isct.ex-tic.com/auth/session					
*In case that you forgot your Togo-ID password, please ask for help from IT help desk (ithelp@ml.tmd.ac.jp). They cannot reset a password in a day so please ask for help beforehand.					
2. The library computer will be automatically reset at the end of the day so you cannot save your work (report, modified dataset etc.) on the computer. Please bring your USB.					
Email					
FUJIWARA Takeo:fujiiwara.hth@tmd.ac.jp					

Lecture No	416004			
Subject title	Public Health Biology	Subject ID	GC-c6220-L	
Instructors	藤原 武男, 長谷川 久紀[FUJIWARA Takeo, HASEGAWA Hisanori]			
Semester	Spring 2026	Level	1st - year	Units
Course by the instructor with practical experiences				2
Mode of Instruction				Media-enhanced courses
<p>(Course director) Takeo Fujiwara, Professor, Department of Public Health</p> <p>(Instructors) Hisanori Hasegawa, MD, PhD Junior Associate Professor, Office of Global Affairs Yoshimitsu Akiyama, PhD Junior Associate Professor, Department of Molecular Oncology Takasato Fujiwara, MD Hospital Director, Tanaka Clinic Sadakatsu Ikeda, MD, PhD Professor, Cancer Center, Medical Hospital Janelle Moross, RN Associate Professor, Office of Education Shun Nakagama, MD, PhD Clinical Lecturer, Department of Virology & Parasitology, Osaka Metropolitan University Hiroshi Noto, MD, PhD Director, Endocrinology Department, St. Luke's International Hospital Koh Okamoto, MD, PhD Associate Professor, Department of Infectious Diseases Yasuaki Tagashira, MD, PhD Junior Associate Professor, Department of Infectious Diseases Kentaro Takahashi, MD, PhD Assistant Professor, Department of Human Genetics and Disease Diversity Akihito Uezato, MD, PhD Professor, Center for Basic Medical Research, International University of Health and Welfare</p> <p>Availability in English: All classes are taught in English. Key word: Public Health</p>				
Lecture place				
-All lectures will be delivered on-demand (asynchronous).				
Course Purpose and Outline				
<p>Course Purpose: The goals of this course are to provide students with a fundamental understanding of the biology and pathophysiology underlying major human diseases which cause significant morbidity or mortality that are necessary for the practice of public health. This course is mandatory for MPH students without MD, DDS, DMD, or RN.</p> <p>Outline: Discusses the molecular, cellular, physiological, genetic and immunological determinants of human diseases and disease susceptibility, including infectious disease, pulmonary diseases related to air pollution, diabetes and obesity, cardiovascular diseases, stress-related conditions, psychiatric diseases, perinatal complications, and cancer. Focuses on how biological principles help to understand the development, treatment and prevention of disease, and to assess risk from potentially hazardous agents and behaviors.</p>				
Course Objective(s)				
<p>Upon successfully completing this course, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Describe the public health strategies for the prevention of the infectious diseases of public health concern worldwide 2) Explain how a vaccine works to achieve resistance to an infectious organism, define the term herd immunity, and explain how it provides protection for the non-immunized person as well as its philosophical consideration 3) Describe the psychophysiological effector mechanisms that represent the stress response and the effect of the stress response on the target organ systems and its public health implications 4) Describe the prevalence, clinical manifestations, natural history and societal impact, pathophysiology, and management of mood and anxiety disorders, schizophrenia, developmental disorders, and dementia 				

- 5) Outline normal pregnancy and parturition and describe the effects of host environment on fetus
- 6) Describe the public health strategies for the prevention of the pulmonary diseases related to air pollution and the respiratory tract infection of public-health concerns
- 7) Describe the public health burden (domestic and global) of and the public health strategies for the prevention of cardiovascular diseases
- 8) Describe the public health burden (domestic and global) of and the public health strategies for the prevention of diabetes/obesity
- 9) Define genetics and its relationship to the health of individuals and populations, and define major ethical, legal, and social implications of genetics as applied in the clinical setting and in public health
- 10) Describe the effects of epigenetic states on health outcomes related to cardiovascular and respiratory disease, aging, reproductive health, neurological and neuropsychological diseases, and cancer
- 11) Describe the public health burden (domestic and global) of and the public health strategies for various cancer

Lecture plan

No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff	Learning objectives* Learning methods* Instructions
1	4/21	08:50-10:20	オンデマ ンド	Host response to infection: the immune response and vaccination	HASEGAWA Hisanori	Objectives:2) Pre-Assignments: Refer course syllabus on the LMS
2	4/21	10:45-12:15	オンデマ ンド	Host response to infection: the immune response and vaccination	HASEGAWA Hisanori	Objectives:2) Pre-Assignments: Refer course syllabus on the LMS
3	4/21	13:30-15:00	オンデマ ンド	Pulmonary diseases related to air pollution and respiratory tract infection of public-health concern	FUJIWARA Takasato	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
4	4/23	08:50-10:20	オンデマ ンド	Genetics for public health students	TAKAHASHI Kentaro	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
5	4/23	10:45-12:15	オンデマ ンド	Genetics for public health students	TAKAHASHI Kentaro	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
6	4/24	13:30-15:00	オンデマ ンド	Cardiovascular diseases for public health students	NAKAGAMA Shunn	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
7	4/24	15:25-16:55	オンデマ ンド	Cardiovascular diseases for public health students	NAKAGAMA Shunn	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
8	4/27	13:30-15:00	オンデマ ンド	Diabetes and obesity for public health students	NOTO Hiroshi	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
9	4/27	15:25-16:55	オンデマ ンド	Diabetes and obesity for public health students	NOTO Hiroshi	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS

10	4/28	10:45-12:15	オンデマ ンド	Essentials of obstetrics for public health students	JANELLE RENEE MOROSS	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
11	4/28	13:30-15:00	オンデマ ンド	Cancer for public health students	IKEDA Sadakatsu	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
12	4/30	13:30-15:00	オンデマ ンド	Pathogens, infection, and infectious diseases	OKAMOTO Koh	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
13	4/30	15:25-16:55	オンデマ ンド	Pathogens, infection, and infectious diseases	TAGASHIRA Yasuaki	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
14	5/1	08:50-10:20	オンデマ ンド	Epigenetics for public health students	AKIYAMA Yoshimitsu	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
15	5/7	08:50-10:20	オンデマ ンド	Stress Response / Essentials of neuroscience and psychiatric illnesses	UEZATO Akihito	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS
16	5/7	10:45-12:15	オンデマ ンド	Stress Response / Essentials of neuroscience and psychiatric illnesses	UEZATO Akihito	Pre-Assignments: Refer syllabus on the LMS

Lecture Style

- All lectures will be delivered on-demand (asynchronous).
- Lecture videos will be uploaded to the
“Public Health Biology 2026 (Spring semester)” course in the Science Tokyo LMS.

Course Outline

Refer to the course schedule

Grading System

The final grade will be based on the sum of all points granted. For those students who fail to meet the requirements for grading or those students who did not fulfill attendance requirements or other necessary requirements, the grade will be marked as credit not granted.

Grading Criteria

Grades are finalized by considering the sum of all points granted for the following items.

(1) Class Attendance: 30% of the total course points

(2) Final Report: 70% of the total course points

Evaluation of the Final Report will be based NOT on the quantity (the length) but on the quality (content and organization) by taking into account the following factors:

- Analytical ability and insights
- Reasoning skills
- Ability to develop and evaluate hypotheses
- Comprehension of learned concepts and frameworks
- Strength of the argument presented

Prerequisite Reading

Preparation (reading, viewing, assignments, etc) will be specified in the course syllabus which will be provided to registered students on the LMS.

<p>Exam eligibility</p> <p>There will be no final exams in this course. Course gradings will be based on the sum of all points granted from the Preparation Assignment, Class Participation and Final Report.</p>
<p>Module Unit Judgment</p> <p>2 units</p>
<p>TextBook</p> <p>Human Genetic Diversity / Julian C. Knight: Oxford University Press, 2009</p> <p>Please purchase the above textbooks before the session “Genetics for public health students”(Sessions 4 and 5)</p>
<p>Reference Materials</p> <p>All other reference materials will be specified in the course syllabus on the LMS.</p>
<p>Important Course Requirements</p> <p>(1) Lecture style ·All the other lectures will be delivered on-demand (asynchronous). ·Lecture videos will be uploaded on the LMS. ·Videos will be only available on the LMS during April 20th~June 8th, 2026. (2) Self Introduction Set your concrete goal for taking this course and post it, along with your self-introduction, to the course mailing list (phb@ml.tmd.ac.jp) by 20th of Apr (Mon) 19:00. (3) Attendance · Attendance of at least 11 out of 16 sessions. ·Attendance will be checked through your browsing history of each session’s video. ·75% or more viewing per video on the LMS is required for attendance. (4) Preparation Assignments Students are required to do preparation assignments as specified by each session in this syllabus. Preparation Assignments assist you in understanding the topic for the class. (5) Preparation and Class Participation All sessions are conducted with the assumption that all students are fully prepared. Students attending class without having prepared will not benefit themselves. Therefore, all students are expected to prepare thoroughly. (6) Submission of Final Report A report is required for the completion of the course and its deadline will be specified in the course syllabus. The most important point in completing the Final Report is to develop and explain your own opinions which should be thought through thoroughly and lead you to make your own conclusion. Merely summarizing cases, methods or frameworks is not sufficient. Explain your thoughts clearly and concisely. Use simple and clear expressions. If you use any charts in your Report, clarify and explain what information those can tell readers. Detailed direction for Final Report will be given at the end of this course syllabus. Final report is due at 23:59 pm on June 8th (Mon), 2026. Note: Measures against cheating and plagiarism When writing your Final Report, it is strictly forbidden to copy or use ideas from Final Reports of your classmates or those students who took this course in past terms, handouts from other courses, or materials from past terms. Students should refrain from sharing solutions for Final Report exercises and any other information that could impact the outcome of it through any forms of communication. Both the provider and beneficiary of relevant information shall become disqualified from completing the course in the case of such cheating and plagiarism.</p>
<p>Note(s) to Students</p> <p>Preparation assignments, dates, time, location of each session are subject to change. Please check with the most updated course syllabus.</p> <p>For students not in the MPH course, instructor’s permission is required before registering to the course. Also, students are required to have TOEFL iBT with a minimum score of 80 (taken before January 21, 2026), 4.5 (taken on or after January 21, 2026), or IELTS with a minimum score of 6.5. Please submit an email when you receive permission through the Forms below. https://forms.office.com/r/5S5i8Xwhit</p> <p>In addition, priority for course registration is given to MPH students, and registration may be limited depending on the number of applicants.</p> <p>For the most recent update, please refer to the web page. The times shown in the “Lecture plan” may differ from the actual times.</p>
<p>Email</p> <p>HASEGAWA Hisanori:hasegawa.rheu@tmd.ac.jp</p>
<p>Instructor’s Contact Information</p> <p>HASEGAWA Hisanori:Please call 81600 or mail hasegawa.rheu@tmd.ac.jp if contact needed.</p>

Lecture No	416005					
Subject title	Health System and Management			Subject ID	GC-c6230-L	
Instructors	森田 彩子[MORITA Ayako]					
Semester	Spring 2026	Level	1st - year	Units	2	
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face	
<p>Instructors:</p> <p>Ayako Morita, Associate Professor, Department of Public Health</p> <p>Ali Shehzad, Canada Research Chair and Professor, Department of Epidemiology & Biostatistics, Western University</p> <p>Daisuke Shinjo, Associate Professor, Department of Health Policy and Informatics Section</p> <p>Miho Ishimaru, Lecturer, Department of Dental Public Health</p> <p>Tsuguhiko Kato, Associate Professor, Graduate School of Public Health, St. Lukes International University</p> <p>Yuiko Nagamine, Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan</p> <p>Takeo Fujiwara, Professor, Department of Public Health</p> <p>Nobutoshi Nawa, Professor, Department of Global Environmental Health</p> <p>Yu Par Khin, Specially Appointed Assistant Professor, Department of Public Health</p> <p>Availability in English: All classes are taught in English.</p> <p>Keyword: Public Health</p>						
Lecture place						
G-lab, 8F, M&D tower						
Course Purpose and Outline						
This course provides an overview of the Japanese health care system and introduces cost-benefit analysis methods used in medical and public health interventions.						
Course Objective(s)						
By the end of this course, students will be able to:						
1) Describe the key features of the Japanese health care system.						
2) Explain the basic concepts of cost-benefit analysis in health care.						
3) Apply cost-benefit analysis methods to medical and public health interventions.						
4) Interpret economic evaluation results for policy decision-making critically in a logical manner.						
Lecture plan						
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff	Learning objectives* Learning methods* Instructions
1	4/13	08:50-10:20	G-Lab	Course Overview and Syllabus Review, Lecture: Healthcare Systems in Japan and Beyond	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, MORITA Ayako, YU PAR KHIN, SHINJO Daisuke	
2	4/13	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Dental Healthcare System in Japan	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi,	

					MORITA Ayako, YU PAR KHIN, ISHIMARU Miho	
3	4/13	13:30-15:00	G-Lab	Lecture: Maternal and Child Health Care System in Japan	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, MORITA Ayako, YU PAR KHIN	Guest lecturer: Tuguhiko Kato
4	4/13	15:25-16:55	G-Lab	Lecture: Longevity Health Care System in Japan	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, MORITA Ayako, YU PAR KHIN	Guest lecturer: Yuiko Nagamine
5	4/14	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (1)	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, MORITA Ayako, YU PAR KHIN	Guest professor: Ali Shehzad
6	4/14	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (2)	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, MORITA Ayako, YU PAR KHIN	Guest professor: Ali Shehzad
7	4/14	13:30-15:00	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (3)	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, MORITA Ayako, YU PAR KHIN	Guest professor: Ali Shehzad
8	4/14	15:25-16:55	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (4)	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, MORITA Ayako, YU PAR KHIN	Guest professor: Ali Shehzad
9	4/16	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (5)	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, MORITA Ayako, YU PAR KHIN	Guest professor: Ali Shehzad
10	4/16	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (6)	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi,	Guest professor: Ali Shehzad

					MORITA Ayako, YU PAR KHIN	
11	4/16	13:30–15:00	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (7)	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, MORITA Ayako, YU PAR KHIN	Guest professor: Ali Shehzad
12	4/16	15:25–16:55	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (8)	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, MORITA Ayako, YU PAR KHIN	Guest professor: Ali Shehzad
13	4/17	08:50–10:20	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (9)	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, MORITA Ayako, YU PAR KHIN	Guest professor: Ali Shehzad
14	4/17	10:45–12:15	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (10)	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, MORITA Ayako, YU PAR KHIN	Guest professor: Ali Shehzad
15	4/17	13:30–15:00	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (11)	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, MORITA Ayako, YU PAR KHIN	Guest professor: Ali Shehzad
16	4/17	15:25–16:55	G-Lab	Lecture: Health Cost Benefit Analysis (12)	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, MORITA Ayako, YU PAR KHIN	Guest professor: Ali Shehzad

Lecture Style

This four-day course will consist of lectures, discussion, breakout sessions for group work and daily group presentations of the previous day's group work.

Course Outline

Refer to the course schedule

Grading System

Grades will be based on the following elements:

Participation (Attendance and Active Class Engagement such as asking questions and involving in discussion) 20%

Individual report 30%

Group project 50%

<p>Prerequisite Reading</p> <p>Required and recommended readings will be introduced in class and will be made available on the web page.</p>
<p>Module Unit Judgment</p> <p>2 units</p>
<p>Reference Materials</p> <p>To be specified in the class.</p>
<p>Important Course Requirements</p> <p>For students not in the MPH course, instructor's permission is required before registering to the course. Also, students are required to have TOEFL iBT with a minimum score of 80 (taken before January 21, 2026), 4.5 (taken on or after January 21, 2026), or IELTS with a minimum score of 6.5. Please submit an email when you receive permission through the Forms below. https://forms.office.com/r/xnqsvRfWT In addition, priority for course registration is given to MPH students, and registration may be limited depending on the number of applicants.</p>
<p>Note(s) to Students</p> <p>For the most recent update, please refer to Webclass</p>
<p>Email</p> <p>MORITA Ayakomorita.hth@tmd.ac.jp</p>

Lecture No	416007					
Subject title	Global Health	Subject ID		GC-c6250-L		
Instructors	那波 伸敏[NAWA Nobutoshi]					
Semester	Spring 2026	Level	1st - year	Units	4	
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face	
Instructor(s): Nobutoshi Nawa, Professor, Department of Global Environmental Health Takeo Fujiwara, Professor, Department of Public Health Pamela Surkan, Professor, Department of International Health, Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health Ayako Morita, Associate Professor, Department of Public Health Yui Yamaoka, Project Assistant Professor, Department of Public Health Aya Goto, Professor, Department of International Health and Population Studies, Harvard School of Public Health Yugo Shobugawa, Professor, Center for Well-being Research Advancement (CWRA) Yu Par Khin, Adjunct Assistant Professor, Department of Public Health Yoshiaki Gu, Professor, Department of Infectious Diseases, Institute of Science Tokyo Shinjiro Nozaki, Regional Compliance and Risk Management Officer, Regional Office for the Western Pacific, World Health Organization Masami Fujita, Director, Office of Partnership and Coordination, Bureau of Global Health Cooperation, Japan Institute for Health Security Akimi Ota, Toke Studio Akihiro Koido, Professor, Faculty of International Relations, Department of Multicultural Communication, Asia University Availability in English: All classes are taught in English. Key word: Global Health						
Lecture place						
G-Lab, M&D Tower 8F						
Course Purpose and Outline						
This course provides an overview of some of the major global health issues facing the world today, including conflict, migration, infectious disease pandemics and road traffic injuries. Students will also learn about questionnaire development and qualitative research methods to obtain data on these issues.						
Course Objective(s)						
By the end of this course, students are expected to be able to:						
a) Explain the relationship between population dynamics, cultural, ethnic, and historical backgrounds, natural resources, human and socio-economic movements, and health status of a specific region.						
b) Discuss impact of activities of governmental, intergovernmental, and nongovernmental institutions on the process of dealing with public health and human right.						
c) Describe current global health challenges on the aspects of medicine, public health and social sciences.						
Lecture plan						
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff	Learning objectives* Learning methods* Instructions
1	6/29	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Qualitative method in global health (1)	PAMELA JEAN SURKAN, NAWA	

					Nobutoshi, YU PAR KHIN	
2	6/29	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Qualitative method in global health (2)	PAMELA JEAN SURKAN, NAWA Nobutoshi, YU PAR KHIN	
3	6/29	13:30-15:00	G-Lab	Lecture & groupwork: Qualitative method in global health (3)	PAMELA JEAN SURKAN, NAWA Nobutoshi, YU PAR KHIN	
4	6/29	15:25-16:55	G-Lab	Lecture & groupwork: Qualitative method in global health (4)	PAMELA JEAN SURKAN, NAWA Nobutoshi, YU PAR KHIN	
5	6/30	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Qualitative method in global health (5)	PAMELA JEAN SURKAN, NAWA Nobutoshi, YU PAR KHIN	
6	6/30	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Qualitative method in global health (6)	PAMELA JEAN SURKAN, NAWA Nobutoshi, YU PAR KHIN	
7	6/30	13:30-15:00	G-Lab	Lecture & groupwork: Qualitative method in global health (7)	PAMELA JEAN SURKAN, NAWA Nobutoshi, YU PAR KHIN	
8	6/30	15:25-16:55	G-Lab	Lecture & groupwork: Qualitative method in global health (8)	PAMELA JEAN SURKAN, NAWA Nobutoshi, YU PAR KHIN	
9	7/2	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Qualitative method in global health (9)	PAMELA JEAN SURKAN, NAWA Nobutoshi, YU PAR KHIN	

10	7/2	10:45-12:15	G-Lab	Lecture & groupwork: Qualitative method in global health (10)	PAMELA JEAN SURKAN, NAWA Nobutoshi, YU PAR KHIN	
11	7/2	13:30-15:00	G-Lab	Lecture & groupwork: Qualitative method in global health (11)	PAMELA JEAN SURKAN, NAWA Nobutoshi, YU PAR KHIN	
12	7/2	15:25-16:55	G-Lab	Lecture & groupwork: Qualitative method in global health (12)	PAMELA JEAN SURKAN, NAWA Nobutoshi, YU PAR KHIN	
13	7/3	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Qualitative method in global health (13)	PAMELA JEAN SURKAN, NAWA Nobutoshi, YU PAR KHIN	
14	7/3	10:45-12:15	G-Lab	Lecture & groupwork: Qualitative method in global health (14)	PAMELA JEAN SURKAN, NAWA Nobutoshi, YU PAR KHIN	
15	7/3	13:30-15:00	G-Lab	Lecture & groupwork: Qualitative method in global health (15)	PAMELA JEAN SURKAN, NAWA Nobutoshi, YU PAR KHIN	
16	7/3	15:25-16:55	G-Lab	Lecture & groupwork: Qualitative method in global health (16)	PAMELA JEAN SURKAN, NAWA Nobutoshi, YU PAR KHIN	
17	7/6	08:50-10:20	G-Lab	Lecture & Group activity: How to make a questionnaire ①	MORITA Ayako, FUJIWARA Takeo, YAMAOKA Yui, YU PAR KHIN	
18	7/6	10:45-12:15	G-Lab	Lecture & Group activity:	MORITA	

				How to make a questionnaire ②	Ayako, FUJIWARA Takeo, YAMAOKA Yui, YU PAR KHIN	
19	7/6	13:30-15:00	G-Lab	Lecture: Intersection of visual anthropology and public health	NAWA Nobutoshi	OTA Akimi
20	7/6	15:25-16:55	G-Lab	Lecture: Infectious disease control in hospital	GU Yoshiaki	
21-23	7/7	08:50-15:00	G-Lab, ライブ	Lecture: Human development in developing countries	GOTO Aya	
24	7/7	15:25-16:55	G-Lab	Lecture: Immigrants' Access to Healthcare	MORITA Ayako, YAMAOKA Yui, YU PAR KHIN, FUJIWARA Takeo	FUJITA Masami
25	7/9	08:50-10:20	G-Lab, ライブ	Lecture: Immigration Policy	NAWA Nobutoshi	KOIDO Akihiro
26	7/9	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Methodologies for migrant studies	YU PAR KHIN	
27	7/9	13:30-15:00	G-Lab, ライブ	Lecture & Group activity: How to make a questionnaire ③	MORITA Ayako, YAMAOKA Yui, YU PAR KHIN, FUJIWARA Takeo	
28	7/9	15:25-16:55	G-Lab	Lecture: Health in fragile and conflict-affected area - a case study in Myanmar	SHOBUGAWA Yugo	
29	7/10	08:50-10:20	G-Lab	Lecture & Group activity: How to make a questionnaire ④: Pre-checking	FUJIWARA Takeo, MORITA Ayako, YAMAOKA Yui, YU PAR KHIN	
30	7/10	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: WHO	FUJIWARA Takeo, MORITA Ayako, YAMAOKA Yui, YU PAR	NOZAKI Shinjiro

					KHIN	
31	7/10	13:30–15:00	G-Lab	Lecture & Group activity: How to make a questionnaire ④: Preparation for presentation	FUJIWARA Takeo, MORITA Ayako, YAMAOKA Yui, YU PAR KHIN	
32	7/10	15:25–16:55	G-Lab	Individual presentation	FUJIWARA Takeo, MORITA Ayako, YAMAOKA Yui, YU PAR KHIN	

Lecture Style

Throughout the course we will review and discuss evidence, theory, and methods related to global health and approaches used to design, implement and evaluate policies to address global health problems.

Course Outline

This course will consist of lectures and case-based class activities. Students will be required to write a final report.

Grading System

Grades will be based on the following elements:

Participation 10%

Individual-based assignment (Create original questions) 50%

Group-based qualitative study report 40%

Prerequisite Reading

Reading materials will be available online at the course webpage. Students are expected to have worked through the materials before attending the corresponding class.

Important Course Requirements

For students not in the MPH course, instructor's permission is required before registering to the course. Also, students are required to have TOEFL iBT with a minimum score of 80 (taken before January 21, 2026), 4.5 (taken on or after January 21, 2026), or IELTS with a minimum score of 6.5. Please submit an email when you receive permission through the Forms below. <https://forms.office.com/r/TQQW1Arwxc> In addition, priority for course registration is given to MPH students, and registration may be limited depending on the number of applicants.

Note(s) to Students

Syllabus is tentative so please refer to the "Schedule" in the MPH syllabus "Global Health"

Email

NAWA Nobutoshi:nawa.ioe@tmd.ac.jp

Lecture No	416008																																														
Subject title	Maternal and Child Health			Subject ID	GC-c6260-L																																										
Instructors	山岡 祐衣, 伊角 彩[YAMAOKA Yui, ISUMI Aya]																																														
Semester	Fall 2026	Level	1st - year		Units	2																																									
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face																																										
<p>Instructor(s):</p> <p>Takeo Fujiwara, Professor, Department of Public Health</p> <p>Yui Yamaoka, Associate Professor, Institute of Future Science (Chair)</p> <p>Aya Isumi, Lecturer, Department of Health Policy</p> <p>Availability in English: All classes are taught in English.</p> <p>Key word: Public Health, Maternal and Child Health</p>																																															
<p>Lecture place</p> <p>Refer to the course schedule</p>																																															
<p>Course Purpose and Outline</p> <p>Course Purpose:</p> <p>This course has been designed to provide students with a conceptual grounding in theoretical approaches and emerging research topics in maternal and child health.</p> <p>Outline:</p> <p>This course introduces emerging issues in maternal and child health, such as child maltreatment and nutrition. It provides students with basic knowledge and skills needed to apply a life course approach to solve these issues.</p>																																															
<p>Course Objective(s)</p> <p>Upon successfully completing this course, students will be able to understand and explain that childhood is the critical period of health issues. Also, students will obtain skills to develop research plans for emerging issues in maternal and child health, along with life-course perspectives.</p>																																															
<p>Lecture plan</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>Date</th> <th>Time</th> <th>Room</th> <th>Lecture theme</th> <th>Staff</th> <th>Learning objectives* Learning methods* Instructions</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1/18</td> <td>08:50-10:20</td> <td>G-Lab</td> <td>Lecture: Theories and Models of Human Development</td> <td>ISUMI Aya</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1/18</td> <td>10:45-12:15</td> <td>G-Lab</td> <td>Lecture: MCH in Japan</td> <td>FUJIWARA Takeo</td> <td>KATO Tsuguhiko</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1/18</td> <td>13:30-15:00</td> <td>G-Lab</td> <td>Lecture: Developmental Origins of Health and Disease</td> <td>TERADA Shuhei</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1/18</td> <td>15:25-16:55</td> <td>G-Lab</td> <td>Instructions for assignments (作業) Group preparation for assignment</td> <td>YAMAOKA Yui, ISUMI Aya, FUJIWARA Takeo</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1/19</td> <td>08:50-10:20</td> <td>G-Lab</td> <td>Lecture: Injury prevention</td> <td>FUJIWARA Takeo</td> <td>KAWAHARA</td> </tr> </tbody> </table>						No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff	Learning objectives* Learning methods* Instructions	1	1/18	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Theories and Models of Human Development	ISUMI Aya		2	1/18	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: MCH in Japan	FUJIWARA Takeo	KATO Tsuguhiko	3	1/18	13:30-15:00	G-Lab	Lecture: Developmental Origins of Health and Disease	TERADA Shuhei		4	1/18	15:25-16:55	G-Lab	Instructions for assignments (作業) Group preparation for assignment	YAMAOKA Yui, ISUMI Aya, FUJIWARA Takeo		5	1/19	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Injury prevention	FUJIWARA Takeo	KAWAHARA
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff	Learning objectives* Learning methods* Instructions																																									
1	1/18	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Theories and Models of Human Development	ISUMI Aya																																										
2	1/18	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: MCH in Japan	FUJIWARA Takeo	KATO Tsuguhiko																																									
3	1/18	13:30-15:00	G-Lab	Lecture: Developmental Origins of Health and Disease	TERADA Shuhei																																										
4	1/18	15:25-16:55	G-Lab	Instructions for assignments (作業) Group preparation for assignment	YAMAOKA Yui, ISUMI Aya, FUJIWARA Takeo																																										
5	1/19	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Injury prevention	FUJIWARA Takeo	KAWAHARA																																									

6	1/19	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Paternal Origins of Health and Disease	MAEDA Yuto	
7-8	1/19	13:30-16:55	G-Lab	Group presentation preparation (consultations and feedback) 個別相談とFB? Or brief presentation?	YAMAOKA Yui, ISUMI Aya, FUJIWARA Takeo	
9	1/21	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Brain development and mental health	KOYAMA Yuna	
10	1/21	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Early childhood intervention	YAMAOKA Yui	
11-12	1/21	13:30-16:55	G-Lab	Group preparation for assignment	YAMAOKA Yui, ISUMI Aya, FUJIWARA Takeo	
13-14	1/22	08:50-12:15	G-Lab	Lecture: Child maltreatment, Developmental disabilities	FUJIWARA Takeo	Makiko Okuyama
15-16	1/22	13:30-16:55	G-Lab	Group presentations	YAMAOKA Yui, ISUMI Aya, FUJIWARA Takeo	

Lecture Style

Lectures, readings and case-studies

Course Outline

Refer to the course schedule

Grading System

Grades will be based on the following elements:

Participation 30%

Individual presentation 40%

Reflection paper (regarding lectures) 30%

Prerequisite Reading

Reading materials will be available online at the course webpage. Students are expected to have worked through the materials before attending the corresponding class.

Module Unit Judgment

2 units

Reference Materials

To be specified in the class.

Important Course Requirements

For students not in the MPH course, instructor's permission is required before registering to the course. Also, students are required to have TOEFL iBT with a minimum score of 80 (taken before January 21, 2026), 4.5 (taken on or after January 21, 2026), or IELTS with a minimum score of 6.5. Please submit an email when you receive permission through the Forms below. <https://forms.office.com/r/ZxwMUJT5yz> In addition, priority for course registration is given to MPH students, and registration may be limited depending on the number of applicants.

Note(s) to Students

Participation in Zoom is permitted to participants with exceptional circumstances. Please inform and receive permission from the course instructor in advance.

Syllabus is tentative so please refer to the "Schedule" in the MPH syllabus "Maternal and Child Health"

Email

YAMAOKA Yui:yamaoka.hlth@tmd.ac.jp

Instructor's Contact Information

YAMAOKA Yui:Weekday from AM9:00 – PM5:00 at MD tower 16th floor (room: S1665)

Lecture No	416010			Subject ID	GC-c6280-L	
Subject title	Behavioral Sciences					
Instructors	森田 彩子[MORITA Ayako]					
Semester	Fall 2026	Level	1st - year	Units	2	
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face	
<p>Instructors</p> <p>Ayako Morita, Associate Professor, Department of Public Health Satomi Doi, Assistant Professor, Department of Health Policy Takeo Fujiwara, Professor, Department of Public Health (Chair) Yoshitake Takebayashi, Lecturer, Fukushima Medical University Tsuyoshi Okuhara, Associate Professor, The University of Tokyo Kota Katanoda, Chief, Division of Cancer Statistics Integration, National Cancer Center, Center for Cancer Control and Information Services Masamitsu Kamada, Lecturer, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo</p> <p>Availability in English: All classes are taught in English. Key word: Public Health</p>						
Lecture place						
Refer to the course schedule						
Course Purpose and Outline						
<p>Course Purpose:</p> <p>This course has been designed to provide students with a conceptual grounding in theoretical approaches and hot research topics in health behaviors.</p> <p>Outline:</p> <p>This course provides students with basic knowledge and skills needed to understand individual, group, and community behaviors and change processes in cross-cultural contexts in order to design health promoting behavioral interventions.</p>						
Course Objective(s)						
Upon successfully completing this course, students will be able to apply theories and models in diagnosing community and designing effective public health intervention in a logical manner.						
Lecture plan						
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Lecture content	Staff
1	10/19	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Basic Theories and Models of Behavioral Change	Reflexive, Cognitive-Behavioral, and Ecological Models	MORITA Ayako
2	10/19	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Health Behavior Change Intervention in Clinical Practice	How to facilitate behavior change in patients through a patient-centered approach	TAKEBAYAS HI Yoshitake
3	10/19	13:30-15:00	G-Lab	Lecture: Tobacco Control	How to introduce behavioral change in citizens with regulatory policies	KATANODA Kota
4	10/19	15:25-16:55	G-Lab	Group activity #1: Developing a theory-informed behaviour change interventions	"Who needs to do what, differently? Which barriers and enablers need to be addressed?"	MORITA Ayako, FUJIWARA Takeo, DOI Satomi, KATANODA Kota

5	10/20	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Mass Health Communication (1)	Basic Principles of Health Communication	OKUHARA Tsuyoshi
6	10/20	10:45-12:15	G-Lab	Lecture: Mass Health Communication (2)	Designing Affective Appeals in Health Communication	OKUHARA Tsuyoshi
7	10/20	13:30-15:00	G-Lab	Lecture: Social Networks	How Social Networks Influence Health Behaviors	MORITA Ayako
8	10/20	15:25-16:55	G-Lab	Group activity #2: Developing a theory-informed behaviour change interventions	"Which intervention components could overcome the modifiable barriers and enhance the enablers?"	MORITA Ayako, DOI Satomi, FUJIWARA Takeo
9	10/21	08:50-10:20	G-Lab	Lecture: Population strategies for promoting physical activity (1)	Social marketing and gamification techniques	KAMADA Masamitsu
10	10/21	10:45-12:15	G-Lab	Group activity #2: Developing a theory-informed behaviour change interventions	Social marketing and gamification techniques	KAMADA Masamitsu
11	10/21	13:30-15:00	G-Lab	Lecture: Strategic persuasive communication	How to communicate with key persons in the fields	DOI Satomi, KAMADA Masamitsu
12	10/21	15:25-16:55	G-Lab	Group activity #3: Strategic persuasive communication	"How to Present Yourself and Your Intervention to Key Stakeholders?"	DOI Satomi
13	10/23	08:50-10:20	G-Lab	Group activity #4 & 5: Time to finalize presentation		FUJIWARA Takeo, MORITA Ayako, DOI Satomi, NAWA Nobutoshi
14	10/23	10:45-12:15	G-Lab	Group activity #4 & 5: Time to finalize presentation		FUJIWARA Takeo, MORITA Ayako, DOI Satomi, NAWA Nobutoshi
15	10/23	13:30-15:00	G-Lab	Presentation		FUJIWARA Takeo, MORITA Ayako, DOI Satomi

Lecture Style

This four-day course will consist of lectures, discussion, breakout sessions for group work and daily group presentations of the previous day's group work, and individual works.

Course Outline

Refer to the course schedule

Grading System

Grades will be based on the following elements:

Participation (Attendance + Classroom Engagement such as asking questions and participating in discussions) 20%		
Assignment #1	#1	30%
Assignment #2 50%		
Prerequisite Reading		
Reading materials are available online at the course webpage. Students are recommended to read the materials before the corresponding lectures.		
Module Unit Judgment		
2 units		
Reference Materials		
To be specified in the class.		
Important Course Requirements		
For students not in the MPH course, instructor's permission is required before registering to the course. Also, students are required to have TOEFL iBT with a minimum score of 80 (taken before January 21, 2026), 4.5 (taken on or after January 21, 2026), or IELTS with a minimum score of 6.5. Please submit an email when you receive permission through the Forms below. https://forms.office.com/r/42Z2XGgncy In addition, priority for course registration is given to MPH students, and registration may be limited depending on the number of applicants.		
Note(s) to Students		
Guidance on the course assignments will be given during the lecture No.1		
Email		
MORITA Ayako:morita.hth@tmd.ac.jp		

Lecture No	416025					
Subject title	Environmental Planetary Health			Subject ID	GC-c6291-L	
Instructors	那波 伸敏[NAWA Nobutoshi]					
Semester	Spring 2026	Level	1st - year		Units	
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face	
<p>Instructor(s): Nobutoshi Nawa, Professor, Department of Global Environmental Health Hisaaki Nishimura, Assistant Professor, Department of Public Health Takeo Fujiwara, Professor, Department of Public Health Brian Schwartz, Professor, Department of Environmental Health and Engineering, Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health</p> <p>Availability in English: All classes are taught in English. Key word: Global Health</p>						
Lecture place						
G-lab, 8F, M&D Tower						
Course Purpose and Outline						
This course introduces current topics in environmental health issues, scientific understanding of their causes, and possible future approaches toward control of the major environmental health problems.						
Course Objective(s)						
By the end of this course, students are expected to be able to:						
a) Define environmental exposures important in public health and describe how they may cause illness or promote health scientifically and logically.						
b) Describe specific factors (e.g., gene, demography, socioeconomic status, nutrition, etc.) that influence the likelihood of exposure and the risk of health outcomes scientifically and logically.						
c) Explain how to identify environmental hazards, assess effects of hazards on health, control hazards, and monitor the control efforts scientifically and logically.						
Lecture plan						
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff	Learning objectives* Learning methods* Instructions
1-2	7/27	08:50-12:15	G-Lab	Lecture: Introduction to environmental health and guidance for group activity	NISHIMURA Hisaaki	
3-4	7/27	13:30-16:55	G-Lab	Case and group activity: Preparation for the presentation	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, NISHIMURA Hisaaki	
5-6	7/28	08:50-12:15	G-Lab	Lecture: Minamata disease	YORIFUJI Takashi	
7-8	7/28	13:30-16:55	G-Lab	Case and group activity: Preparation for the	FUJIWARA Takeo, NAWA	

				presentation	Nobutoshi, NISHIMURA Hisaaki	
9-10	7/30	08:50-12:15	G-Lab	Lecture: Water resources and health	NAWA Nobutoshi	Keisuke Fukushi
11-12	7/30	13:30-16:55	G-Lab	Case and group activity: Preparation for the presentation	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, NISHIMURA Hisaaki	
13-14	7/31	08:50-12:15	G-Lab	Lecture: Global environmental change	NISHIMURA Hisaaki	
15-16	7/31	13:30-16:55	G-Lab	Case and group activity: Presentation	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, NISHIMURA Hisaaki	

Lecture Style

This course will consist of lectures and case-based class activities. Students will be required to write a final report.

Course Outline

Throughout the course we will review and discuss topics including toxicology, exposure assessment, environmental epidemiology, risk assessment/management, air pollution, water pollution, and environmental justice.

Grading System

Grades will be based on the following elements:

Participation 10%

Presentation 35%

Final paper 55%

Prerequisite Reading

Reading materials will be available online at the course webpage. Students are expected to have worked through the materials before attending the corresponding class.

TextBook

Frumkin H, editor. Environmental health: from global to local. San Francisco: Jossey-Bass; 2016.

Important Course Requirements

For students not in the MPH course, instructor's permission is required before registering to the course. Also, students are required to have TOEFL iBT with a minimum score of 80 (taken before January 21, 2026), 4.5 (taken on or after January 21, 2026), or IELTS with a minimum score of 6.5. Please submit an email when you receive permission through the Forms below. <https://forms.office.com/r/njk8XDjuvL>. In addition, priority for course registration is given to MPH students, and registration may be limited depending on the number of applicants.

Note(s) to Students

Syllabus is tentative so please refer to the "Schedule" in the MPH syllabus "Environmental Planetary Health"

Email

NAWA Nobutoshi:nawa.ioe@tmd.ac.jp

Lecture No	417005				
Subject title	Job-type research internship	Subject ID			
Instructors					
Semester	YearLong 2026	Level	1st – 4th year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
All classes are taught in Japanese.					
Lecture place face to face					
Course Purpose and Outline This course is a long-term (2 months or more) paid research internship for doctoral students as part of their graduate school education. This internship is conducted based on the ``Job-type Research Internship (Advanced/Trial Initiatives) Implementation Policy (Guidelines) (hereinafter referred to as the ``Guidelines”) and related materials established by the Higher Education Bureau of the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. This is an internship. Please note that these guidelines and related materials are subject to revision, so please always refer to the latest version if necessary. For job-type research internships conducted based on the guidelines, credits will be recognized by taking this subject.					
Course Objective(s) – Improvements must be seen in each of the following items and their overall performance. –Research: Appropriate setting or understanding of research objectives, appropriate selection of research methods, appropriate information collection/analysis/integration, proposal of new research directions –Practice: Understanding the differences between universities and companies regarding research objectives and research methods, appropriate understanding and practice of safety, compliance, and information management, and appropriate understanding and implementation of financial and time constraints. Practicing research according to your needs –Interpersonal/Teamwork: Appropriate communication with others and appropriate teamwork with superiors and colleagues when performing work.					
Course Outline This is a long-term (2 months) paid research internship. This is indicated by the job description provided by each company. Please refer to the guidelines and related materials for details, as they vary depending on the matching company.					
Grading System Evaluations are conducted using evaluation reports and evaluation certificates prepared by companies based on principle guidelines. A separate report may be required. If a report is required, it will be an evaluation report (50%) and a report (50%).					
Prerequisite Reading •Understand that this internship is for educational purposes, unlike a part-time job. •Understand that the main purpose of this internship is to develop practical skills and promote understanding of companies, and not to job search for companies. •Act out your pre-training and main internship duties with a sense of responsibility, as if you were working as a new employee at a company. •Strive to improve literacy regarding confidentiality, handling of intellectual property and know-how, and ensuring safety.					
Important Course Requirements According to the guidelines, a job-type research internship is defined as an internship that meets all of the following requirements: · Targeted at graduate school students who have the basic knowledge and ability to carry out research. · Long-term (2 months or more) and paid research internships. · Implemented as a credit subject in the regular curriculum · Present job descriptions (job content, required knowledge and abilities, etc.) in accordance with these guidelines · After completing the internship, conduct an interview evaluation with the student and issue an evaluation report/certificate. · The results of internships can be appropriately evaluated by companies and reflected in recruitment					

selection activities. In addition, job-type research internships, unlike part-time jobs, are for educational purposes. In addition, the main purpose is to develop practical skills and promote understanding of companies, not job hunting for companies. You are expected to perform your pre-training and main internship duties with a sense of responsibility, as if you were working as a new employee at a company. Furthermore, it is necessary to strive to improve literacy regarding confidentiality, handling of intellectual property and know-how, and ensuring safety. If a student registers for the relevant course but does not match with an internship site, the course will be automatically cancelled.

Note(s) to Students

Science Tokyo SPRING (MD)TDMU-SPRING Support Team General Contact: wise-ura@ml.tmd.ac.jp

Lecture No	041024				
Subject title	Integrative Biomedical Sciences for Preemptive Medicine I			Subject ID	
Instructors	石川 欽也, 田中 敏博, 永田 有希, 高橋 健太郎, 大川 龍之介, 茂榑 薫, 飯谷 健太, 那波 伸敏[ISHIKAWA Kinya, TANAKA Toshihiro, NAGATA Yuki, TAKAHASHI Kentaro, OKAWA Ryunosuke, MOGUSHI Kaoru, IITANI Kenta, NAWA Nobutoshi]				
Semester	YearLong 2026	Level	1st - year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Media-enhanced courses

Same classes are offered in English on different schedules.

Lecture place

ZOOM(Web)

Course Purpose and Outline

【Course Purpose】

To understand the basic concepts of integrative biomedical sciences for preemptive medicine, a learning system for preemptive medicine that enables prevention of diseases by collecting omics information such as genome information, information about environmental factors, clinical information and lifestyle information, discovering the factors and mechanism involved in diseases including cancer and lifestyle-related diseases, developing the predictive models and instructing/intervening in individuals.

【Outline】

To understand the following topics: the biological process from the healthy state to disease onset, the basic relationship between the genetic factors and environmental factors/epigenetics, the basic concepts regarding acquiring methods of omics and biological information, the method to estimate the risk of developing diseases, the basic method for instruction or intervention, ethics and genetic counseling.

Course Objective(s)

This course will provide a broad-based education that helps to develop a comprehensive overview of the field of Integrative Biomedical Sciences for Preemptive Medicine.

Lecture plan

No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	8/4	15:00-16:30	ライブ		ISHIKAWA Kinya
2	8/17	08:50-10:20	ライブ		ISHIKAWA Kinya
3	8/17	15:00-16:30	ライブ		MOGUSHI Kaoru
4	8/20	13:00-14:30	疾患バイオリソースセンター		TANAKA Toshihiro, NAGATA Yuki, TAKAHASHI Kentaro
5	8/25	15:00-16:30	ライブ		IITANI Kenta
6	8/26	13:00-14:30	ライブ		NAWA Nobutoshi
7	8/28	13:00-14:30	ライブ		ISHIKAWA Kinya
8	9/1	15:00-16:30	ライブ		OKAWA Ryunosuke

Lecture Style

The leading experts in Integrative Biomedical Sciences for Preemptive Medicine will be invited and the course will focus on student participation

and discussion.
Grading System Participation (50%), question and answer (20%), and reports (30%).
Prerequisite Reading None.
Reference Materials None.
Important Course Requirements None.
Note(s) to Students This is compulsory elective course for Integrative Biomedical Sciences Programs for Preemptive Medicine students. Enrollment will be limited, with priority given to the course students.
Email ISHIKAWA Kinya:pico.nuro@tmd.ac.jp
Instructor's Contact Information ISHIKAWA Kinya:0:00PM–3:00PM, every Monday, at Personalized Genomic Medicine for Health, 15th Floor, Building 3, Yushima Campus

Lecture No	041025				
Subject title	Integrative Biomedical Sciences for Preemptive Medicine I			Subject ID	
Instructors	石川 欽也, 吉田 雅幸, 田中 敏博, 永田 有希, 高橋 健太郎, 大川 龍之介, 茂櫛 薫, 那波 伸敏[ISHIKAWA Kinya, YOSHIDA Masayuki, TANAKA Toshihiro, NAGATA Yuki, TAKAHASHI Kentaro, OKAWA Ryunosuke, MOGUSHI Kaoru, NAWA Nobutoshi]				
Semester	YearLong 2026	Level	1st - year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Media-enhanced courses

Lectures and all communications are in English.

Course Objective(s)

This course will provide a broad-based education that helps to develop a comprehensive overview of the field of Integrative Biomedical Sciences for Preemptive Medicine.

Lecture plan

No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	11/5	10:30-12:00	ライブ	Introduction	ISHIKAWA Kinya
2	11/5	13:00-14:30	ライブ	Concepts of preemptive medicine and individualized medicine, the process from the healthy state to disease onset, and instruction/intervention	ISHIKAWA Kinya
3	11/6	10:30-12:00	ライブ	The basics to develop the health management algorithm based on the omics data	ISHIKAWA Kinya
4	11/10	13:00-14:30	ライブ	Genomic Medicine and Bioinformatics	MOGUSHI Kaoru
5	11/12	14:00-15:30	ライブ	TBA	YOSHIDA Masayuki
6	11/18	10:30-12:00	疾患バイオリソー スセンタ ー	Establishment of biobanks for preemptive medicine and omics profiling (including a touraround Science Tokyo biobank)	TANAKA Toshihiro, NAGATA Yuki, TAKAHASHI Kentaro
7	11/20	10:30-12:00	ライブ	Pitfalls of sample handling and lipidomics	OKAWA Ryunosuke
8	11/24	17:30-19:00	ライブ	Epidemiology as a Foundation for PrecisionMedicine: Theory and Practice	NAWA Nobutoshi
9	11/26	13:00-14:30	ライブ	Practical aspects of personalized medicine for common disease	ISHIKAWA Kinya

Lecture Style

<p>The leading experts in Integrative Biomedical Sciences for Preemptive Medicine will be invited and the course will focus on student participation and discussion.</p>
<p>Grading System Participation (50%), question and answer (20%), and reports (30%).</p>
<p>Prerequisite Reading None.</p>
<p>Note(s) to Students This is compulsory elective course for Integrative Biomedical Sciences Programs for Preemptive Medicine students. Enrollment will be limited, with priority given to the course students.</p>
<p>Email ISHIKAWA Kinya:pico.nuro@tmd.ac.jp</p>
<p>Instructor's Contact Information ISHIKAWA Kinya:0:00PM–3:00PM, every Monday, at Personalized Genomic Medicine for Health, 15th Floor, Building 3, Yushima Campus</p>

Lecture No	041026				
Subject title	Integrative Biomedical Sciences for Preemptive Medicine II			Subject ID	
Instructors	石川 欽也[ISHIKAWA Kinya]				
Semester	YearLong 2026	Level	1st - year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
All classes are taught in English.					
Course Purpose and Outline					
【Course Purpose】 To widely understand the applications for integrative biomedical sciences for preemptive medicine, a learning system for preemptive medicine that enables prevention of diseases by collecting omics information such as genome information, information about environmental factors, clinical information and lifestyle information, discovering the factors and mechanism involved in diseases such as cancer and lifestyle related diseases, developing the predictive models and instructing/intervening in individuals.					
【Outline】 To learn the following case examples, instruction, and intervention: utilization of the practical health/medical information to promote preemptive medicine and individualized medicine, advanced omics experiment/analysis methods using the next-generation sequencers, topics about the development story of biological information sensing such as wearable mobile, utilization of analytical technologies including AI.					
Course Objective(s) This course will provide a broad-based education that helps to develop a comprehensive overview of the field of disease prevention sciences.					
Lecture Style The leading experts in Integrative Biomedical Sciences for Preemptive Medicine will be invited and the course will focus on student participation and discussion.					
Course Outline TBA					
Grading System Participation (50%), question and answer (20%), and reports (30%).					
Prerequisite Reading None.					
Reference Materials None.					
Important Course Requirements None.					
Note(s) to Students This is compulsory elective course for Integrative Biomedical Sciences Programs for Preemptive Medicine students. Enrollment will be limited, with priority given to the course students. We will inform the students who registered these lectures as soon as the date, time and venue have been decided upon conclusively.					

Lecture No	041027				
Subject title	Data Science I	Subject ID	GC-c6360-L		
Instructors	竹内 勝之, 小島 寛之[TAKEUCHI Katsuyuki, KOJIMA Hiroyuki]				
Semester	Spring 2026	Level	1st - year		Units
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
Same classes are offered in English on different schedules.					
Lecture place					
Please check the course schedule.					
Course Purpose and Outline					
Course Purpose : Students will acquire the essence of statistics that is necessary to learn data science as its basis.					
Outline : This course gives lectures on the Neyman-Pearson statistics without using difficult formulae.					
Course Objective(s)					
The goal is that students acquire the key knowledge of the statistics.					
Lecture Style					
The course consists of lectures.					
Course Outline					
The course schedule will be announced to the course registrants as soon as it is decided.					
Grading System					
Participation (70%), and discussion (30%)					
Prerequisite Reading					
None.					
TextBook					
完全独習統計学入門 / 小島寛之:ダイヤモンド社, 2006					
Note(s) to Students					
This is a compulsory elective course for students in the Integrative Biomedical Sciences Programs for Preemptive Medicine. Other students can attend this course as long as seats are available, but the course students are given priority over others.					
Email					
TAKEUCHI Katsuyuki:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
Instructor's Contact Information					
TAKEUCHI Katsuyuki: Weekdays only. Advanced appointments are required.					
Contact to Katsuyuki Takeuchi in Center for Education in Healthcare Innovation (E-mail: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp)					

Lecture No	041028				
Subject title	Data Science I			Subject ID	GC-c6360-L
Instructors	高橋 邦彦, 安齋 達彦[TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko]				
Semester	Fall 2026	Level	1st - year		Units
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Media-enhanced courses
All classes are taught in English					
Lecture place Online (Zoom)					
Course Purpose and Outline Course Purpose: Students will acquire the essence of statistics/biostatistics that is necessary to learn data science as its basis. Outline: This course gives lectures on the theoretical frameworks of the basic statistics/biostatistics that is the basis of data analysis methods.					
Course Objective(s) The goal is to have an image of an error (a probabilistic phenomenon) in data, to become to explain the hypothesis testing as a means of evaluating objects of interest in the data, and to be able to interpret the performance of statistical analyses in accordance with the research objectives.					
Lecture plan					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	10/22	14:30-16:00	ライブ	Concept of statistical inference for data science	TAKAHASHI Kunihiko
2	10/22	16:10-17:40	ライブ	Comparing groups - categorical data	ANZAI Tatsuhiko
3	11/5	14:30-16:00	ライブ	Comparing groups - continuous data	ANZAI Tatsuhiko
4	11/5	16:10-17:40	ライブ	Correlation and regression	TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko
5	11/19	14:30-16:00	ライブ	Generalized linear model	TAKAHASHI Kunihiko
6	11/19	16:10-17:40	ライブ	Survival analysis	ANZAI Tatsuhiko
7	12/3	14:30-16:00	ライブ	Classification and prediction	ANZAI Tatsuhiko
8	12/3	16:10-17:40	ライブ	Multivariate methods in data science	TAKAHASHI Kunihiko
Lecture Style Lectures on data sciences, mainly statistics/biostatistics.					
Grading System Participation (40%) and reports (60%). At least five classes must be attended to receive a grade.					
Prerequisite Reading Those who feel less knowledge about math are encouraged to personally learn it with introductory textbooks on statistics.					
Email					

TAKAHASHI Kunihiko:biostat.dsc@tmd.ac.jp

Instructor's Contact Information

TAKAHASHI Kunihiko:Weekdays only. Advanced appointments are required.

Contact to Department of Biostatistics, M&D Data Science Center (E-mail: biostat.dsc@tmd.ac.jp).

Lecture No	041029			
Subject title	Data Science II	Subject ID	GC-c6370-L	
Instructors	竹内 勝之, 茂籾 薫, 長谷 武志[TAKEUCHI Katsuyuki, MOGUSHI Kaoru, HASE Takeshi]			
Semester	Spring 2026	Level	1st - year	Units
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction Face-to-face
Same classes are offered in English on different schedules.				
Lecture place Please check the course schedule.				
Course Purpose and Outline Course Purpose: R (programming language) is an essential tool for statistical analysis, analysis using machine learning, and other analyses. Students will acquire a programming skill of R and learn methods of statistical analysis and machine learning. Outline: This course gives lectures on the basic skills that are necessary to use statistical analysis and machine learning, through practical data analysis using R.				
Course Objective(s) The goal is that students acquire the basic knowledge of the programming skill of R and statistical analysis and machine learning so that they can analyse data by means of the basic methods of statistical analysis and machine learning using R.				
Lecture Style The course gives both lectures and practices. The course lectures will be held only on Saturday.				
Course Outline The course schedule will be announced to the course registrants as soon as it is decided.				
Grading System Participation (70%) and assignments (30%)				
Prerequisite Reading Students are recommended to prepare their classes with Reference Materials.				
Reference Materials RStudio ではじめる R プログラミング入門 / Garrett Golemund 著, 大橋真也 監訳, 長尾高弘 訳: オライリー・ジャパン, 2015				
Note(s) to Students This is a compulsory elective course for students in the Integrative Biomedical Sciences Programs for Preemptive Medicine. Other students can attend this course as long as seats are available, but the course students are given priority over others.				
Email TAKEUCHI Katsuyuki: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp				
Instructor's Contact Information TAKEUCHI Katsuyuki: Weekdays only. Advanced appointments are required. Contact to Katsuyuki Takeuchi in Center for Education in Healthcare Innovation (E-mail: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp)				

Lecture No	041030			Subject title	Data Science II	Subject ID	GC-c6370-L	
Instructors	長谷川 嵩矩[HASEGAWA Takanori]							
Semester	Spring 2026	Level		Units	1			
Course by the instructor with practical experiences						Mode of Instruction	Face-to-face	
Availability in English: All classes are taught in English.								
Lecture place PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.								
Course Purpose and Outline Course Purpose: R (programming language) is an essential tool for statistical analysis, analysis using machine learning, and other analyses. Students will acquire a programming skill of R and learn methods of statistical analysis and machine learning. Outline: This course gives lectures on the basic skills that are necessary to use statistical analysis and machine learning, through practical data analysis using R.								
Course Objective(s) The goal is that students acquire the basic knowledge of the programming skill of R and statistical analysis and machine learning so that they can analyse data by means of the basic methods of statistical analysis and machine learning using R.								
Lecture plan								
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Lecture content	Staff	Learning objectives・ Learning methods・ Instructions	
1	5/12	14:30-16:00	情報検索室	Introduction to Data Science I	1. How to use R for data science and 2. Data Visualization and Comparison	HASEGAWA Takanori	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.	
2	5/12	16:10-17:40	情報検索室	Introduction to Data Science II	1. How to use R for data science and 2. Data Visualization and Comparison	HASEGAWA Takanori	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.	
3	5/26	14:30-16:00	情報検索室	Data science in practice I	3. Correlation, and Regression and 4. Survival analysis	HASEGAWA Takanori	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.	
4	5/26	16:10-17:40	情報検索室	Data science in practice II	3. Correlation, and Regression and 4. Survival analysis	HASEGAWA Takanori	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or	

							student can access to class materials remotely.
5	6/16	14:30-16:00	情報検索室	Data science in practice III	4. Survival analysis and 5. Classification and Prediction	HASEGAWA Takanori	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
6	6/16	16:10-17:40	情報検索室	Data science in practice IV	4. Survival analysis and 5. Classification and Prediction	HASEGAWA Takanori	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
7	6/30	14:30-16:00	情報検索室	Data science in practice V	6. Multivariate methods in data science	HASEGAWA Takanori	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
8	6/30	16:10-17:40	情報検索室	Data science in practice VI	6. Multivariate methods in data science	HASEGAWA Takanori	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.

Lecture Style

The course gives both lectures and practices.

Course Outline

1. How to use R for data science
2. Data Visualization and Comparison
3. Correlation and Regression
4. Survival analysis
5. Classification and Prediction
6. Multivariate methods in data science

Grading System

Participation (0%) and assignments (100%)

Grading Rule

A report will be imposed for each lecture and evaluated by the instructor.

Prerequisite Reading

Students are encouraged to attend "Data Science I".

Exam eligibility

No tests will be conducted. Please submit the assignments given after each class.

Composition Unit

1. How to use R for data science
2. Data Visualization and Comparison
3. Correlation and Regression
4. Survival analysis

5. Classification and Prediction 6. Multivariate methods in data science
Module Unit Judgment Submit and pass assignments for all units. Class materials and assignments will be published on the web.
Relationship With Other Subjects "Data Science I" or equivalent level knowledge is assumed.
Note(s) to Students This is a compulsory elective course for students in the Integrative Biomedical Sciences Programs for Preemptive Medicine. Other students can attend this course as long as seats are available, but the course students are given priority over others.
Email t.hasegawa.dsc@tmd.ac.jp
Instructor's Contact Information Please contact me in advance.

Lecture No	041510			
Subject title	Data Science III	Subject ID	GC-c6371-L	
Instructors	竹内 勝之, 下川 朝有[TAKEUCHI Katsuyuki, SHIMOKAWA Asanao]			
Semester	Spring 2026	Level	1st - year	
Course by the instructor with practical experiences			Mode of Instruction	Face-to-face
All classes are taught in Japanese.				
Lecture place Please check the course schedule.				
Course Purpose and Outline Course Purpose: Python is the essential tool for data analyses using the Machine Learning. Students will acquire the Python programming skills in this course. Outline: This course gives the practical training for beginners to master the Python programming skills.				
Course Objective(s) The goal is that students learn the basic Python programming skills.				
Lecture Style The course consists of lectures and practices. It will be held only on Saturday.				
Course Outline The course schedule will be announced to the course registrants as soon as it is decided.				
Grading System Participation (70%), and discussion (30%)				
Prerequisite Reading Students are recommended to prepare their classes with Reference Materials.				
Reference Materials ゼロから学ぶ Python プログラミング : Google Colaboratory でらくらく導入 / 渡辺宙志 著, 渡辺 宙志, 講談社, 2020				
Important Course Requirements None				
Note(s) to Students This is a compulsory elective course for students in the Integrative Biomedical Sciences Programs for Preemptive Medicine. Other students can attend this course as long as seats are available, but the course students are given priority over others.				
Email TAKEUCHI Katsuyuki: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp				
Instructor's Contact Information TAKEUCHI Katsuyuki: Weekdays only. Advanced appointments are required. Contact to Katsuyuki Takeuchi in Center for Education in Healthcare Innovation (E-mail: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp)				

Lecture No	041511			
Subject title	Data Science IV	Subject ID	GC-c6372-L	
Instructors	竹内 勝之, 小島 寛之, 飯田 頼嗣[TAKEUCHI Katsuyuki, KOJIMA Hiroyuki, IIDA Yoritsugu]			
Semester	YearLong 2026	Level	1st - year	Units
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction
				Face-to-face
All classes are taught in Japanese.				
Lecture place				
Please check the course schedule.				
Course Purpose and Outline				
Course Purpose : Students will acquire the essence of the statistics, which is the basis of learning data science.				
Outline : This course gives lectures on the Bayesian statistics, which is the basis of the Artificial Intelligence and other technologies, without using difficult formulae.				
Course Objective(s)				
The goal is that students acquire the key knowledge of the Bayesian statistics.				
Lecture Style				
The course consists of lectures.				
Course Outline				
The course schedule will be announced to the course registrants as soon as it is decided.				
Grading System				
Participation (70%), and discussion (30%)				
Prerequisite Reading				
None				
TextBook				
完全独習ベイズ統計学入門 / 小島寛之:ダイヤモンド社, 2015				
完全独習統計学入門 / 小島寛之:ダイヤモンド社, 2006				
Email				
TAKEUCHI Katsuyuki:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp				
Instructor's Contact Information				
TAKEUCHI Katsuyuki: Weekdays only. Advanced appointments are required.				
Contact to Katsuyuki Takeuchi in Center for Education in Healthcare Innovation (E-mail: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp)				

Lecture No	041031					
Subject title	Epidemiology			Subject ID		
Instructors	那波 伸敏[NAWA Nobutoshi]					
Semester	Spring 2026	Level	1st - year	Units	2	
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face	
<p>Instructor(s): Nobutoshi Nawa, Professor, Department of Global Environmental Health Takeo Fujiwara, Professor, Department of Public Health Hisaaki Nishimura, Assistant Professor, Department of Public Health Yu Par Khin, Specially Appointed Assistant Professor, Department of Public Health Shuhei Terada, Assistant Professor, Department of Public Health</p> <p>Availability in English: All classes are taught in English. Key word: Epidemiology</p>						
Lecture place						
G-Lab, M&D Tower 8F						
Course Purpose and Outline						
This course is a lesson to learn the basics of the Clinical Statistics and Bioinformatics Graduate Program of the Integrative Biomedical Sciences Programs for Preemptive Medicine aiming at the training of personnel who can promote precision medicine.						
Course Objective(s)						
By the end of this course, students will be able to:						
a) measure health-related conditions or events in defined populations						
b) understand and explain DAGs, information bias, confounding factors and sampling bias.						
b) design an epidemiological study to address a public health issue						
c) critically appraise published work						
d) write peer review comments						
Lecture plan						
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff	Learning objectives* Learning methods* Instructions
1-3	6/22	08:50-15:00	G-Lab	Lecture: Measurement and Sampling	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, NISHIMURA Hisaki, YU PAR KHIN, TERADA Shuhei	
4	6/22	15:25-16:55	G-Lab	Group work A (field work and group presentation): Measurement and Sampling	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, NISHIMURA Hisaki, YU	

					PAR KHIN, TERADA Shuhei	
5-7	6/23	08:50-15:00	G-Lab	Lecture: Study designs and Confounder	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, NISHIMURA Hisaaki, YU PAR KHIN, TERADA Shuhei	
8	6/23	15:25-16:55	G-Lab	Group discussion: Critical Appraisal	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, NISHIMURA Hisaaki, YU PAR KHIN, TERADA Shuhei	Download Yu (2024) from web system and read in advance
9	6/25	08:50-10:20	G-Lab	Exam: Writing a Review Comment	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, NISHIMURA Hisaaki, YU PAR KHIN, TERADA Shuhei	
10	6/25	10:45-12:15	G-Lab	Comments on answers: Writing a Review Comment	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, NISHIMURA Hisaaki, YU PAR KHIN, TERADA Shuhei	
11-12	6/25	13:30-16:55	G-Lab	Group work B (preparation): Drafting a Research Proposal for a Public Health Issue	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, NISHIMURA Hisaaki, YU PAR KHIN, TERADA Shuhei	
13-14	6/26	08:50-12:15	G-Lab	Lecture Advanced Epidemiology to Apply for the Real World	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, NISHIMURA Hisaaki, YU PAR KHIN, TERADA	

					Shuhei	
15-16	6/26	13:30-16:55	G-Lab	Group work B (group presentation); Drafting a Research Proposal for a Public Health Issue	FUJIWARA Takeo, NAWA Nobutoshi, NISHIMURA Hisaaki, YU PAR KHIN, TERADA Shuhei	

Course Outline

Epidemiology is defined as the study of the causes and distribution of health-related conditions or events in defined populations, and the application of this knowledge to address these health problems. Throughout the course we will provide an overview of the knowledge and skills required for descriptive statistics and causal inference. In particular, we will explain the knowledge required to design and conduct epidemiological studies, such as cross-sectional studies, cohort studies, case-control studies and RCTs. We will also focus on conceptual and practical issues in analysis, such as drawing directed acyclic graphs (DAGs), information bias, confounding, and sampling bias.

Grading System

Grades will be based on the following elements:

1. Attendance 10%
2. Assignments 40% (Group-based presentation A 20%, Group-based presentation B 20%)
3. Exam 50%

Prerequisite Reading

Please read relevant pre-reading materials uploaded on Websystem before the lectures.

Reference Materials

Epidemiology: with student consult / Gordis L.: Elsevier, 2013
 Gordis L. Epidemiology: with student consult. 5th edition. Philadelphia: Elsevier; 2013
 Szklo M, Nieto EJ, Epidemiology: Beyond the Basics. 3rd edition, Jones & Bartlett Learning; 2012.
 Rothman KJ, Greenland S, Lash T. Modern Epidemiology. LWW; 2012.

Important Course Requirements

For students not in the MPH course, instructor's permission is required before registering to the course. Also, students are required to have TOEFL iBT with a minimum score of 80 (taken before January 21, 2026), 4.5 (taken on or after January 21, 2026), or IELTS with a minimum score of 6.5. Please submit an email when you receive permission through the Forms below. <https://forms.office.com/r/6HkNqXk111> In addition, priority for course registration is given to MPH students, and registration may be limited depending on the number of applicants.

Note(s) to Students

Please bring your laptop for group works and exam.

Syllabus is tentative so please refer to the "Schedule" in the MPH syllabus "Introduction to Epidemiology"

Lecture No	041032					
Subject title	Clinical Biostatistics and Statistical Geneticsm			Subject ID	GC-c8608-L	
Instructors	高橋 邦彦, 安齋 達彦[TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko]					
Semester	Spring 2026	Level	1st - year	Units	2	
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Media-enhanced courses	
<p>Instructor(s): Kunihiko Takahashi, Professor, Department of Biostatistics Tatsuhiko Anzai, Associate Professor, Department of Biostatistics</p> <p>Availability in English: All classes are taught in English. Key word: Biostatistics</p>						
Lecture place						
Online video						
Course Purpose and Outline						
<p>Course Purpose: This course introduces the basic techniques important for analyzing data from epidemiologic, biomedical (including clinical and genetic) and other public health related research. Statistical reasoning will be emphasized through problem solving and practical applications.</p> <p>Outline: Biostatistics is the application of statistical methods to data in biological, biomedical and health sciences. It is a key technique for the collection, analysis, and presentation of data especially in quantitative studies. This course gives lectures on fundamental biostatistical methods through their applications to data in medical research field including clinical and epidemiological studies.</p>						
Course Objective(s)						
<p>By the end of this course, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> Interpret basic statistical terminologies. Explain assumptions and conditions for basic statistical techniques, and judge which statistical technique to use in a given situation. Conduct basic statistical techniques both by hand and using a statistical software, and present results using publication quality tables. Describe results of statistical analysis using standard statistical expressions. 						
Lecture plan						
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff	Learning objectives* Learning methods* Instructions
1	6/1	08:50-10:20	オンデマンド	Lecture: Introduction to Biostatistics (online video)	TAKAHASHI Kunihiko	
2	6/1	10:45-12:15	オンデマンド	Lecture: Data presentation; Numerical summary measures (1) (online video)	ANZAI Tatsuhiko	
3	6/2	08:50-10:20	オンデマンド	Lecture: Data presentation; Numerical summary measures (2) (online video)	ANZAI Tatsuhiko	

4	6/2	10:45-12:15	オンデマ ンド	Lecture: Probability and Theoretical distributions (1) (online video)	ANZAI Tatsuhiko	
5	6/4	08:50-10:20	オンデマ ンド	Lecture: Probability and Theoretical distributions (2) (online video)	TAKAHASHI Kunihiko	
6	6/4	10:45-12:15	オンデマ ンド	Lecture: Estimation (online video)	TAKAHASHI Kunihiko	
7	6/4	13:30-15:00	オンデマ ンド	Laboratory session (online video)	TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	Optional 1
8	6/4	15:25-16:55	オンデマ ンド	Laboratory session (online video)	TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	Optional 2
9	6/5	08:50-10:20	オンデマ ンド	Lecture: Comparing groups - continuous data (1) (online video)	TAKAHASHI Kunihiko	
10	6/5	10:45-12:15	オンデマ ンド	Lecture: Comparing groups - continuous data (2) (online video)	TAKAHASHI Kunihiko	
11	6/5	13:30-15:00	オンデマ ンド	Laboratory session (online video)	TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	Optional 3
12	6/5	15:25-16:55	G-Lab, ライブ	Q&A session (In person or via live Zoom)	TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	Optional 4
13	6/8	08:50-10:20	オンデマ ンド	Lecture: Comparing groups - categorical data (online video)	ANZAI Tatsuhiko	
14	6/8	10:45-12:15	オンデマ ンド	Lecture: Analysis of Variance; Multiple comparison (online video)	ANZAI Tatsuhiko	
15	6/8	13:30-15:00	オンデマ ンド	Laboratory session (online video)	TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	Optional 5
16	6/8	15:25-16:55	オンデマ ンド	Laboratory session (online video)	TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	Optional 6
17	6/9	08:50-10:20	オンデマ ンド	Lecture: Correlation; linear regression (online video)	TAKAHASHI Kunihiko	
18	6/9	10:45-12:15	オンデマ	Lecture: Multivariate	TAKAHASHI	

			ンド	analysis (1) (online video)	Kunihiko	
19	6/9	13:30-15:00	オンデマ ンド	Laboratory session (online video)	TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	Optional 7
20	6/9	15:25-16:55	G-Lab, オンデマ ンド	Q&A session (In person or via live Zoom)	TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	Optional 8
21	6/11	08:50-10:20	オンデマ ンド	Lecture: Multivariate analysis (2) (online video)	ANZAI Tatsuhiko	
22	6/11	10:45-12:15	オンデマ ンド	Lecture: Multivariate analysis (3) (online video)	ANZAI Tatsuhiko	
23	6/11	13:30-15:00	オンデマ ンド	Laboratory session (online video)	TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	Optional 9
24	6/11	15:25-16:55	G-Lab, ライブ	Q&A session (In person or via live Zoom)	TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	Optional 10
25	6/12	08:50-10:20	オンデマ ンド	Lecture: Survival analysis (online video)	ANZAI Tatsuhiko	
26	6/12	10:45-12:15	オンデマ ンド	Lecture: Genomics data analysis (online video)	ANZAI Tatsuhiko	

Lecture Style

This course will consist of lectures and optional laboratory sessions (online video). Q&A system on web system and some optional hours will be prepared. There will be some reports. (Details will be announced later.)

Course Outline

Refer to the course schedule

Grading System

Grades will be based on the following elements:

Participation (Watch online video (Lecture) : 60% or more) 50%

Reports 50%

Prerequisite Reading

Reading textbook will be available online at the course webpage. Students are expected to have worked thorough the materials before attending the corresponding class.

Reference Materials

Pagano M, Gauvreau K. Principles of Biostatistics. 2nd ed. Belmont: Brooks/Cole; 2000.

Rosner B. Fundamentals of Biostatistics. 8th ed. Brooks/Cole; 2015.

Altman DG. Practical Statistics for Medical Research. Chapman & Hall; 1991.

Armitage P. Statistical Methods in Medical Research. 4th ed. Blackwell Science Ltd; 2002.

Important Course Requirements

For students not in the MPH course, instructor's permission is required before registering to the course. Also, students are required to have TOEFL iBT with a minimum score of 80 (taken before January 21, 2026), 4.5 (taken on or after January 21, 2026), or IELTS with a minimum

score of 6.5. Please submit an email when you receive permission through the Forms below. <https://forms.office.com/r/iVjqUEipAR> In addition, priority for course registration is given to MPH students, and registration may be limited depending on the number of applicants.

Note(s) to Students

Online Q&A system is available during the course, and a realtime Q&A session (optional, via zoom or face-to-face class) is prepared.

This course uses the Stata and other statistical software. Stata is available for each student during the course.

Students are expected to perform basic algebra, including logarithms and exponentials, by hand or using calculator.

Syllabus is tentative so please refer to the "Schedule" in the MPH syllabus "Introduction to Biostatistics".

Email

TAKAHASHI Kunihiro:biostat.dsc@tmd.ac.jp

Instructor's Contact Information

TAKAHASHI Kunihiro:Weekdays only. Advanced appointments are required.

Contact to Department of Biostatistics, M&D Data Science Center (E-mail: biostat.dsc@tmd.ac.jp).

Lecture No	041033				
Subject title	Advanced Biosensing Devices	Subject ID	GC-c6418-L		
Instructors	中島 義和, 飯谷 健太, 小椋 俊彦, Friedrich Daniel Dieter[NAKAJIMA Yoshikazu, IITANI Kenta, OGURA Toshihiko, FRIEDRICH Daniel Dieter]				
Semester	Spring 2026	Level	1st - year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
Lecture place					
All lectures are given online (zoom).					
Course Purpose and Outline					
Course Purpose:This program offers lectures on several important topics in Sensing devices, Biochemistry, Recognition materials, MEMS and Optics for Biosensing in the medicaland dental fields. The major purpose of the program is to obtain the latest information and to train scientific mind as well as logical thinking skills necessary to become independent researchers.					
Outline:Several types of the advanced biosensing devices and technologies are introduced and some potential applications in the medical and dentalfields will be discussed.					
Course Objective(s)					
Introduce useful information from the basic biosensors to latest biochemical sensing devices in the medical and dental fields to attendants.					
Lecture Style					
Lectures on the essence of advanced biosensing devices.					
Grading System					
Grading is given by taking all activities of the students into account such as participation of lecture class and discussion (50%), quality of discussion and presentation (30%), as well as willingness and understanding of discussion (20%).					
Prerequisite Reading					
Any students who prepare for this course, they can refer to the following books and paper.					
Reference Materials					
Wearable Biosensing in Medicine and Healthcare / edited by Kohji Mitsubayashi :Springer Nature, 2024					
「非接触」が拓く新しいバイタルモニタリング = Non-Contact Vital Signs Monitoring : 革新的な健康管理と医療・介護への応用 / 三林浩二 監修,三林, 浩二,:シーエムシー出版, 2021					
Chemical, gas, and biosensors for internet of things and related applications / edited by Kohji Mitsubayashi, Osamu Niwa, Yuko Ueno,三林, 浩二,Niwa, Osamu. [丹羽修],Ueno, Yuko. [上野祐子]:Elsevier, 2019					
代謝センシング = Metabolic sensing : 健康, 食, 美容, 薬, そして脳の代謝を知る / 三林浩二 監修,三林, 浩二,:シーエムシー出版, 2018					
生体ガス計測と高感度ガスセンシング / 三林浩二監修 / 三林, 浩二,:シーエムシー出版, 2017					
スポーツバイオ科学と先進スポーツギアの開発 / 三林浩二監修,三林, 浩二,:シーエムシー出版, 2015					
スマート・ヒューマンセンシング : 健康ビッグデータ時代のためのセンサ・情報・エネルギー技術 / 三林, 浩二,:シーエムシー出版, 2014					
ヘルスケアとバイオ医療のための先端デバイス機器 / 三林浩二監修,三林, 浩二,:シーエムシー出版, 2009					
Micro Electronic and Mechanical Systems / Kenichi Takahata :IntechOpen, 2009					
刺激応答性高分子ハンドブック = Stimuli-responsive polymers handbook / 宮田隆志 監修,宮田, 隆志,:エヌ・ティー・エス, 2018					
To be distributed during the lecture.					
Important Course Requirements					
To be announced during the lecture.					
Email					
NAKAJIMA Yoshikazu:nakajima.y.8203@m.isct.ac.jp					
Instructor's Contact Information					
NAKAJIMA Yoshikazu:15:00-16:30 on every Monday at Room 409A on the 4th floor, Building 21, Surugadai campus					

Lecture No	041034				
Subject title	Advanced Medical Device and System			Subject ID	GC-c6419-L
Instructors	中島 義和, 梶 弘和, 坂内 英夫, 池内 真志, 周 東博, 清水 秀幸[NAKAJIMA Yoshikazu, KAJI Hirokazu, BANNAI Hideo, IKEUCHI Masashi, SHU Tohaku, SHIMIZU Hideyuki]				
Semester	Spring 2026	Level	1st - year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
<p>Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.</p> <p>Introduce latest research and development of medical devices and systems such as real time image measurement device, image analysis technology with AI, and assist robot for surgery.</p>					
Lecture place					
All lectures are given online (zoom).					
Course Purpose and Outline					
The course will introduce the latest research topics and development of medical devices and systems to assist surgery that integrate IoT or AI. The students will acquire the basic knowledge to promote the development of medical devices and systems.					
Course Objective(s)					
The aim of the course is to understand the basic knowledge to promote the development of medical devices and systems integrated IoT and AI.					
Lecture Style					
Lecture and discussion					
Course Outline					
The details are shown in another table.					
Grading System					
Attendance to lectures (60 %) and reports (40 %) will be evaluated.					
Grading Rule					
Attendance to lectures (60 %) and reports (40 %)					
Prerequisite Reading					
Instruction will be done at the first lecture. It will be done in any class if necessary.					
Exam eligibility					
No restriction.					
Composition Unit					
Yoshikazu Nakajima, Hirokazu Kaji, Masashi Ikeuchi, Hideo Bannai, Hideyuki Shimizu, Shinya Onogi, Dongbo Zhou					
Module Unit Judgment					
1 unit					
TextBook					
Handout will be provided in each class if necessary.					
Reference Materials					
Handouts will be provided if necessary.					
Important Course Requirements					
Nothing.					
Note(s) to Students					
Nothing.					

Email

NAKAJIMA Yoshikazu:nakajima.y.8203@m.isct.ac.jp

Instructor's Contact Information

NAKAJIMA Yoshikazu:15:00-16:30 on every Monday at Room 409A on the 4th floor, Building 21, Surugadai campus

Lecture No	041035				
Subject title	Wearable & IoT Devices and Applications			Subject ID	GC-c6420-L
Instructors	池内 真志[IKEUCHI Masashi]				
Semester	Spring 2026	Level	1st - year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
Lecture place All lectures are given online (zoom).					
Course Purpose and Outline Course Purpose:The program offers lectures on several important topics in Sensing devices & instruments, IoT technologies & Security and Energy harvesting devices in the medical and dental fields. The major purpose of the program is to obtain the latest information and to train scientific mind as well as logical thinking skills necessary to become independent researchers. Outline:Several types of the advanced wearable IoT devices and technologies are introduced and some potential applications in the medical and dentalfields will be discussed.					
Course Objective(s) Introduce useful information from the basic wearable sensors to latest IoT devices in the medical and dental fields to attendants.					
Lecture Style Lectures on the essence of wearable IoT technologies.					
Grading System Grading is given by taking all activities of the students into account such as participation of lecture class and discussion (50%), quality of discussion and presentation (30%), as well as willingness and understanding of discussion (20%).					
Prerequisite Reading Any students who prepare for this course, they can refer to the following books and paper.					
Reference Materials Wearable Biosensing in Medicine and Healthcare / edited by Kohji Mitsubayashi :Springer Nature, 2024 「非接触」が拓く新しいバイタルモニタリング = Non-Contact Vital Signs Monitoring : 革新的な健康管理と医療・介護への応用 / 三林浩二 監修,三林, 浩二,:シーエムシー出版, 2021 Chemical, gas, and biosensors for internet of things and related applications / edited by Kohji Mitsubayashi, Osamu Niwa, Yuko Ueno,三林, 浩二,Niwa, Osamu. [丹羽修],Ueno, Yuko. [上野祐子]:Elsevier, 2019 代謝センシング = Metabolic sensing : 健康, 食, 美容, 薬, そして脳の代謝を知る / 三林浩二 監修,三林, 浩二,:シーエムシー出版, 2018 生体ガス計測と高感度ガスセンシング / 三林浩二監修 / 三林, 浩二,:シーエムシー出版, 2017 スポーツバイオ科学と先進スポーツギアの開発 / 三林浩二監修,三林, 浩二,:シーエムシー出版, 2015 スマート・ヒューマンセンシング : 健康ビッグデータ時代のためのセンサ・情報・エネルギー技術 / 三林, 浩二,:シーエムシー出版, 2014 ヘルスケアとバイオ医療のための先端デバイス機器 / 三林浩二監修,三林, 浩二,:シーエムシー出版, 2009 ユビキタス・バイオセンシング : 健康モニタリング&日常ケアのための計測技術 / 三林浩二 監修,三林, 浩二,:シーエムシー出版, 2006 テレワーク社会を支えるリモートセンシング / 三林, 浩二,三林浩二 監修:シーエムシー出版, 2021.4 To be distributed during the lecture.					
Important Course Requirements To be announced during the lecture.					
Email IKEUCHI Masashi:ikeuchi.mech@tmd.ac.jp					
Instructor's Contact Information IKEUCHI Masashi:10:00-14:00 Mon. & Thu. @ Building#22, Room312					

Lecture No	041036				
Subject title	Molecular Pathophysiology			Subject ID	GC-c6422-L
Instructors	佐々木 純子, 鈴木 啓道, 瀬川 勝盛, 小松谷 史香, 小林 芳彦[SASAKI Junko, SUZUKI Hiromichi, SEGAWA Katsumori, KOMATSUYA Fumika, KOBAYASHI Yoshihiko]				
Semester	Spring 2026	Level	1st year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Media-enhanced courses

Availability in English: When an international student registers this course for credits, this course is done in English.

Course Purpose and Outline

Course Purpose: The purpose of this course is to obtain an overview of the current progress in the research on molecular pathophysiology of diseases based on the basic biosciences including molecular biology, genome science, and biochemistry, and also a practical approach to the development of prevention and therapies of the diseases.

Outline: This course offers lectures on the molecular pathophysiology of diseases such as cancer, metabolic diseases, and congenital diseases based on basic biosciences including molecular biology, genome science, and biochemistry. Developing novel and rational prevention and therapies according to molecular physiology will also be discussed.

Course Objective(s)

To obtain an overview of the molecular pathophysiology of cancer, metabolic diseases and congenital heart diseases, and to discuss the development of rational prevention and therapies for these diseases. Introduce useful information from the latest biology to basic medicine to attendants.

Lecture plan

No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	5/1	13:00-15:15	ライブ	Molecular pathophysiology of cancer: Lessons from phospholipids	SASAKI Junko
2	5/7	13:00-15:15	大学院講義室 4	Cholesterol and diseases: from plaques to genes to drugs	SEGAWA Katsumori
3	5/8	13:00-15:15	ライブ	Mechanism for mitochondrial quality control	KOMATSUYA Fumika
4	5/14	13:00-15:15	ライブ	Cancer genome analysis for basic and translational research	SUZUKI Hiromichi
5	5/19	13:00-15:15	ライブ	Molecular pathophysiology of congenital heart diseases	KOBAYASHI Yoshihiko

Lecture Style

Lecture, discussion and presentation

Grading System

Participation to lectures is evaluated.

Prerequisite Reading

Basic knowledge on molecular biology and biochemistry is required.

Important Course Requirements

•Your attendance will be taken by the attendance system. Please make sure to pass your student ID card over the card reader of system roughly 10 minutes prior to each lecture starts. Usually, the card reader is on the wall by the back door of the lecture room.

Lecture No	041037				
Subject title	Advanced Chemical Biology			Subject ID	GC-c6423-L
Instructors	玉村 啓和, 隅田 有人, 辻 耕平, 花園 祐矢, 藤井 晋也[TAMAMURA Hirokazu, SUMIDA Yuto, TSUJI Kohei, Yuya Hanazono, FUJII Shinya]				
Semester	Spring 2026	Level	1st - year		Units
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Media-enhanced courses
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
Course Purpose and Outline					
Course Purpose:Fundamental knowledge and technology on the development of chemical biology used in several research fields (life science, analytical chemistry, organic chemistry, material science, etc) and the recent topics on their advanced researches will be educated.					
Outline:Various basic methods required for chemical biology researches will be discussed based on recent advanced results.					
Course Objective(s)					
Chemical biology is a research field, in which biological phenomena are analyzed and regulated, and is complicatedly correlated to several research fields such as medicinal chemistry and nanotechnologies. This course deals with their up-to-date advanced research tendencies.					
Lecture plan					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	6/6	14:00-16:15	オンデマンド	Advanced Chemical Biology Research1	TSUJI Kohei
2	6/13	12:40-14:55	ライブ	Advanced Chemical Biology Research2	Yuya Hanazono
3	6/20	14:00-16:15	ライブ	Advanced Chemical Biology Research3	OCHIAI Kotaro
4	6/27	12:40-14:55	ライブ	Advanced Chemical Biology Research4	SUMIDA Yuto
5	7/4	14:00-16:15	ライブ	Advanced Chemical Biology Research5	TAMAMURA Hirokazu
Lecture Style					
This course includes seminar-type lectures, exercises about organic chemistry, and practices about chemical biology techniques.					
Grading System					
Attendance (50%) and Presentation (50%)					
Prerequisite Reading					
Fundamental organic chemistry should be reviewed. The books listed in #9 are useful for understanding the topics in this course.					
Reference Materials					
Chemical Biology (L. Schreiber, T. Kapoor, G. Wess Eds, WILEY-VCH); PROTEIN TARGETING WITH SMALL MOLECULES - Chemical Biology Techniques and Applications (Wiley)					
Email					
TAMAMURA Hirokazu:tamamura.mr@tmd.ac.jp					
Instructor's Contact Information					
TAMAMURA Hirokazu:Mon-Fri, 3-5 pm Bldg22, F16, Rm603B					

Lecture No	041038				
Subject title	Molecular and Chemical Somatology			Subject ID	GC-c6424-L
Instructors	萩原 伸也, 新富 圭史, 渡邊 力也, 安藤 潤[HAGIHARA Shinya, SHINTOMI Keishi, WATANABE Rikiya, ANDO Jun]				
Semester	Spring 2026	Level	1st - year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
Availability in English: When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
Lecture place Online or RIKEN Wako campus.					
Course Purpose and Outline Course Purpose: We aim to understand basis of Bioorganic Chemistry, Chemical Biology as well as their applications to Medicine and Biology by dealing with variety of molecules that regulate cellular functions including low molecular organic compounds, proteins, and hormones. Outline: Molecular and Chemical Somatology is an interdisciplinary fields to understand basis of Bioorganic Chemistry, Chemical Biology as well as their applications to Medicine and Biology by dealing with variety of molecules that regulate cellular functions including low molecular organic compounds, proteins, and hormones. Students will hear and discuss about outlines and/or latest topics on discovery, structure, synthesis, biology, and management of these key molecules/factors, and deepen their understanding this new study field.					
Course Objective(s) Students will hear and discuss about latest topics from each instructor.					
Lecture plan					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	5/14	13:00-15:15	ライブ	Regulation of physiological function with synthetic molecules	HAGIHARA Shinya
2	5/21	13:00-15:15	理研生物 科学研究 棟 S310	Three-dimensional structure of the genome	SHINTOMI Keishi
3	5/21	15:30-17:45	理研生物 科学研究 棟 S252	Single molecule biophysics and its application	WATANABE Rikiya, ANDO Jun
4	5/28	13:00-15:15	理研物質 科学研究 棟 S507 大会議室	in vivo synthesis of functional molecule	UEDA Ayaka
5	6/11	13:00-15:15	ライブ	Development of Novel Methodologies for Chemical Biology	EGOSHI Syusuke
Lecture Style Lectures by instructors, Presentation by students, and Discussion					
Grading System Attendance (40%) and Report (60%)					
Prerequisite Reading None					
Reference Materials Chemical Biology (L. Schreiber, T. Kapoor, G. Wess Eds., WILEY-VCH), PROTEIN TARGETING WITH SMALL MOLECULES - Chemical Biology Techniques and Applications (H. Osada Ed, Wiley)					
Email					

HAGIHARA Shinya:hagi@riken.jp

Instructor's Contact Information

HAGIHARA Shinya:HAGIHARA Shinya:3:00–5:00 pm, every Tuesday to :

Dr. Shinya Hagihara, Chief Instructor of Molecular and Chemical Somatology

Lecture No	416016				
Subject title	Epidemiology: Basic			Subject ID	GC-c6430-L
Instructors					
Semester	Spring 2026	Level	1st year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
All classes are taught in Japanese.					
Lecture place Library Active Learning Room(4th floor of M&D Tower)					
Course Purpose and Outline Course Objectives To understand the fundamentals of epidemiology and learn the basics of properly interpreting and writing clinical research papers.					
Course Objective(s) Acquire the knowledge of epidemiology to conduct clinical epidemiological studies.					
Lecture plan					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	5/7	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	Introduction to Epidemiology	TANI Yukako
2	5/13	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	Disease measurement, sensitivity and specificity	TANI Yukako
3	5/20	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	Epidemiological study design, ecological studies	TANI Yukako
4	5/27	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	confounding factors, validity and reliability	TANI Yukako
5	6/3	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	Sampling, Cross-sectional studies	TANI Yukako
6	6/10	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	Cohort and case-control studies	TANI Yukako
7	6/17	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	Randomized controlled trials, bias	TANI Yukako
8	6/24	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室	Critical Appraisal	TANI Yukako

			ライブ			
Lecture Style						
Depends on the lectures of the course instructor.						
Course Outline						
See table.						
Grading System						
Attendance at least 5 out of 8 sessions is required.						
Grading will be based on the content of the submitted report (50 points) and participation (50 points).						
Prerequisite Reading						
It is recommended that students prepare in advance for the lectures of each instructor listed in the lecture outline by referring to the reference books and literature listed below. Also, please note that some classes require students to watch video clips in advance.						
Reference Materials						
日本疫学会, はじめて学ぶやさしい疫学 第3版. 南江堂, 2018.						
木原正博. 疫学 -医学的研究と実践のサイエンス. メディカルサイエンスインターナショナル. 2010						
Gordis L. Epidemiology. 6th edition. Philadelphia: Elsevier, 2018						
Important Course Requirements						
Attendance at lectures is mandatory. All assigned reports and other materials must be submitted.						

Lecture No	416017				
Subject title	Biostatistics: Basic			Subject ID	GC-c6431-L
Instructors					
Semester	Spring 2026	Level	1st year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
All classes are taught in Japanese.					
Lecture place					
Library Active Learning Room(4th floor of M&D Tower)(or via zoom)					
Course Purpose and Outline					
Course Purpose: This course aims to review fundamentals of biostatistics.					
Outline: This course gives lectures on the basis of biostatistical methods and their application to studies in clinical epidemiology.					
Course Objective(s)					
The goal is to be able to apply appropriate statistical methods to data and, to be able to interpret the performance of statistical analyses in accordance with the research objectives.					
Lecture plan					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	4/28	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko
2	5/12	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko
3	5/19	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko
4	5/26	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko
5	6/2	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko
6	6/9	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko
7	6/16	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko

8	6/23	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	
Lecture Style						
Lectures						
Course Outline						
Refer to the course schedule						
Grading System						
Participation (50%) and report (50%). At least five classes must be attended to receive a grade.						
Prerequisite Reading						
Students are expected to have worked through the materials in accordance with the topics before attending the class.						
Reference Materials						
<ul style="list-style-type: none"> ・古川俊之(監修), 丹後俊郎(著). 医学への統計学. 第3版. 朝倉書店. 2013. ・Pagano M, Gauvreau K. Principles of Biostatistics. 2nd ed. CRC Press. 2000. 						

Lecture No	416018				
Subject title	Biostatistics: Advanced I			Subject ID	GC-c6432-L
Instructors	星野 崇宏, 野間 久史, 服部 聡[HOSHINO Takahiro, NOMA Hisashi, HATTORI Satoshi]				
Semester	Fall 2026	Level	1st year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face

All classes are taught in Japanese.

Lecture place

Library Active Learning Room(4th floor of M&D Tower)(or via zoom)

Course Purpose and Outline

Course Purpose: This course aims to develop the knowledge on Bayesian statistics and meta-analysis.

Outline: This course gives lectures on fundamentals and applications of Bayesian statistics and meta-analysis as the advanced topics in biostatistics.

Course Objective(s)

The objective of this course is to be able to conduct Bayesian inference and meta-analysis on a small number of studies.

Lecture plan

No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	9/16	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		TAKAHASHI Kunihiko
2	9/30	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		ANZAI Tatsuhiko
3	10/7	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		TAKAHASHI Kunihiko
4	10/14	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		HOSHINO Takahiro
5	10/21	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		TAKAHASHI Kunihiko
6	11/4	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		TAKAHASHI Kunihiko
7	11/11	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		HATTORI Satoshi
8	11/18	18:00-19:30	アクティ		NOMA Hisashi

			ブ ラ ー ニ ン グ 教 室 ラ イ ブ			
Lecture Style						
Lectures						
Course Outline						
Refer to the course schedule						
Grading System						
Participation (50%) and report (50%). At least five classes must be attended to receive a grade.						
Prerequisite Reading						
Students are expected to have worked through the materials in accordance with the topics before attending the class.						
Reference Materials						
<ul style="list-style-type: none"> •Lesaffre E, Lawson AB. Bayesian Biostatistics. Wiley. 2012. •Spiegelhalter DJ, Abrams KR, Myles JP. Bayesian Approaches to Clinical Trials and Health-Care Evaluation. Wiley. 2004. •丹後俊郎, 横山徹爾, 高橋邦彦. 空間疫学への招待. 朝倉書店. 2007. •丹後俊郎. 新版メタアナリシス入門. 朝倉書店. 2016. •Borenstein M, et al. Introduction to Meta-Analysis. 2nd ed. Wiley. 2021. 						

Lecture No	416019				
Subject title	Biostatistics: Advanced II			Subject ID	GC-c6433-L
Instructors					
Semester	Fall 2026	Level	1st year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
All classes are taught in Japanese.					
Lecture place Library Active Learning Room(4th floor of M&D Tower)(or via zoom)					
Course Purpose and Outline Course Purpose: This course aims to develop the knowledge on pharmacoepidemiology and artificial intergence in the medical research as the advanced topics in biostatistics. Outline: This course gives lectures on fundamentals and applications in pharmacoepidemiology, and artificial intergence in the medical research.					
Course Objective(s) The goal is to be able to conduct the risk assessment of drug use in pharmacoepidemiology, and to be able to interpret the performance of artificial intergence analysis in the medical research.					
Lecture plan					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	9/15	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		TAKAHASHI Kunihiko
2	9/29	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		TAKAHASHI Kunihiko
3	10/6	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		ANZAI Tatsuhiko
4	10/13	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		URUSHIHARA Hisashi
5	10/20	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko
6	11/10	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ		TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko
7	11/17	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室		SHIMIZU Hideyuki

			ライブ		
8	11/24	18:00-19:30	共用講義 室2, ライ ブ		SHIMIZU Hideyuki
Lecture Style					
Lectures					
Course Outline					
Refer to the course schedule					
Grading System					
Participation (50%) and report (50%). At least five classes must be attended to receive a grade.					
Prerequisite Reading					
Students are expected to have worked through the materials in accordance with the topics before attending the class.					
Reference Materials					
<ul style="list-style-type: none"> ・くすりの適正使用協議会. 実例で学ぶ薬剤疫学の第一歩. レーダー出版センター. 2008. ・佐藤俊哉, 山口拓洋, 石黒智恵子(編). これからの薬剤疫学. 朝倉書店. 2021. ・景山茂, 久保田潔(編). 薬剤疫学の基礎と実践. 改訂第3版. ライフサイエンス出版. 2021. ・Naqa I, Murphy M (eds). Machine and Deep Learning in Oncology, Medical Physics and Radiology. Springer. 2022. ・ 					

Lecture No	416020					
Subject title	Clinical Trial Methodology: Basic			Subject ID		
Instructors						
Semester	Spring 2026	Level	1st year	Units	1	
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Media-enhanced courses	
All classes are taught in Japanese.						
Lecture place online lesson (by Zoom)						
Course Purpose and Outline Course Objectives To learn the basic concepts of clinical trial methodology and statistical considerations for planning and analyzing clinical trials. Outline To learn the basic concepts of clinical trial methodology and statistical considerations (e.g., study design, randomization, blinding, endpoints, analysis population, sample size calculation).						
Course Objective(s) Be able to design appropriate clinical trials based on research objectives and feasibility. Be able to assess the level of evidence from clinical trial publication.						
Lecture plan						
	No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
	1	6/25	18:00-19:30	ライブ		HIRAKAWA Akihiro
	2	6/30	18:00-19:30	ライブ		HIRAKAWA Akihiro
	3	7/2	18:00-19:30	ライブ		HIRAKAWA Akihiro
	4	7/7	18:00-19:30	ライブ		HIRAKAWA Akihiro
	5	7/9	18:00-19:30	ライブ		HIRAKAWA Akihiro
	6	7/21	18:00-19:30	ライブ		HIRAKAWA Akihiro
	7	7/23	18:00-19:30	ライブ		HIRAKAWA Akihiro
	8	7/28	18:00-19:30	ライブ		HIRAKAWA Akihiro
Lecture Style Lectures						
Grading System Attendance at least 5 out of 8 sessions required. Participations (50%) and essay (50%)						
Prerequisite Reading To read the Ethical Guidelines for Medical and Health Research Involving Human Subjects and ICH E9 (Statistical Principles for Clinical Trials).						
TextBook 臨床試験方法論:エビデンス創出のための試験デザインと統計解析/平川晃弘:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2025						

Lecture No	416021				
Subject title	Clinical Trial Methodology: Advanced			Subject ID	GC-c6435-L
Instructors	佐藤 宏征[SATO Hiroyuki]				
Semester	Fall 2026	Level	1st year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Media-enhanced courses
All classes are taught in Japanese.					
Lecture place online lesson (by Zoom)					
Course Purpose and Outline Course Objectives To acquire innovative clinical trial designs Overview To learn group sequential design, adaptive design, Bayesian design, platform studies, along with clinical trial designs in oncology.					
Course Objective(s) Be able to design appropriate clinical trials based on research objectives and feasibility. Be able to assess the level of evidence from clinical trial publication.					
Lecture plan					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	10/1	18:00-19:30	ライブ		HIRAKAWA Akihiro, SATO Hiroyuki
2	10/8	18:00-19:30	ライブ		HIRAKAWA Akihiro, SATO Hiroyuki
3	10/15	18:00-19:30	ライブ		HIRAKAWA Akihiro, SATO Hiroyuki
4	10/22	18:00-19:30	ライブ		HIRAKAWA Akihiro, SATO Hiroyuki
5	10/29	18:00-19:30	ライブ		HIRAKAWA Akihiro, SATO Hiroyuki
6	11/5	18:00-19:30	ライブ		HIRAKAWA Akihiro, SATO Hiroyuki
7	11/19	18:00-19:30	ライブ		HIRAKAWA Akihiro, SATO Hiroyuki
8	11/26	18:00-19:30	ライブ		HIRAKAWA Akihiro, SATO Hiroyuki
Lecture Style Lectures					

Grading System

Attendance at least 5 out of 8 sessions required.

Participations (50%) and essay (50%)

Prerequisite Reading

Required to participate in course of Clinical Trial Methodology (Basic).

TextBook

臨床試験方法論:エビデンス創出のための試験デザインと統計解析/平川晃弘:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2025

Lecture No	416022				
Subject title	Oral epidemiology: Basic			Subject ID	GC-c6436-L
Instructors					
Semester	Spring 2026	Level	1st year	Units	1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Media-enhanced courses
All classes are taught in Japanese.					
Lecture place					
Zoom					
Course Purpose and Outline					
Course Objectives					
To understand the basics of dental epidemiology.					
Overview					
To understand the fundamentals of dental epidemiology. To understand the international context and build a foundation for writing papers.					
Course Objective(s)					
Acquire basic knowledge in conducting clinical epidemiological research in the field of dentistry and oral health.					
Lecture plan					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	6/29	18:00-19:30	オンデマ ンド		AIDA Jun
2	7/1	18:00-19:30	ライブ		AIDA Jun
3	7/6	18:00-19:30	オンデマ ンド		KINO Shiho
4	7/8	18:00-19:30	オンデマ ンド		ISHIMARU Miho
5	7/22	18:00-19:30	ライブ		AIDA Jun
6	7/27	18:00-19:30	オンデマ ンド		MATSUYAMA Yusuke
7	7/29	18:00-19:30	ライブ		AIDA Jun, MATSUYAMA Yusuke
8	8/3	18:00-19:30	ライブ		AIDA Jun, MATSUYAMA Yusuke, KINO Shiho, ISHIMARU Miho
Lecture Style					
Depends on the lectures of the course instructor.					
Course Outline					
See table.					
Grading System					
Attendance at least 5 out of 8 sessions is required. Grading will be based on the content of the submitted report (50 points) and participation (50 points).					
Prerequisite Reading					
It is recommended that students prepare in advance for the lectures of each instructor listed in the lecture outline by referring to the reference books and literature listed below. Also, please note that some classes require the viewing of videos, etc., prior to the lecture.					

Lecture No	416023				Subject ID	GC-c6437-L
Subject title	Epidemiology: Advanced			Subject ID	GC-c6437-L	
Instructors						
Semester	Fall 2026	Level	1st year		Units	1
Course by the instructor with practical experiences					Mode of Instruction	Media-enhanced courses
All classes are taught in Japanese.						
Lecture place						
Zoom						
Course Purpose and Outline						
Course Objectives						
To understand the development of epidemiology.						
Overview						
In order to understand the advanced contents of epidemiology, students will learn the actual and advanced contents of analysis using statistical software.						
Course Objective(s)						
Acquire developmental knowledge and practical skills in conducting epidemiological studies.						
Lecture plan						
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff	
1	9/18	18:00-19:30	情報検索室1		TANI Yukako	
2	9/25	18:00-19:30	情報検索室1		TANI Yukako	
3	10/2	18:00-19:30	ライブ		ISUMI Aya, DOI Satomi	
4	10/9	18:00-19:30	オンデマンド		KINO Shiho	
5	10/16	18:00-19:30	オンデマンド		AIDA Jun	
6	10/23	18:00-19:30	情報検索室1		AIDA Jun, MATSUYAMA Yusuke	
7	11/6	18:00-19:30	オンデマンド		MATSUYAMA Yusuke	
8	11/20	18:00-19:30	オンデマンド		KINO Shiho, ISHIMARU Miho	
Lecture Style						
Depends on the lectures of the course instructor.						
Course Outline						
See table.						
Grading System						
Attendance at least 5 out of 8 sessions is required. Grading will be based on the content of the submitted report (50 points) and participation (50 points).						
Prerequisite Reading						
It is recommended that students prepare in advance for the lectures of each instructor listed in the lecture outline by referring to the reference books and literature listed below. Also, please note that some classes require the viewing of videos, etc., prior to the lecture.						

Reference Materials

Epidemiology: Beyond the Basics 4th edition, Jones & Bartlett Learning

Important Course Requirements

Attendance at lectures is mandatory. All assigned reports and other materials must be submitted.

Lecture No	416024				
Subject title	Statistical Analysis of Clinical Data			Subject ID	GC-c6438-L
Instructors	西村 久明, 谷 友香子[NISHIMURA Hisaaki, TANI Yukako]				
Semester	YearLong 2026	Level	2nd - year		Units
					1
Course by the instructor with practical experiences				Mode of Instruction	Face-to-face
All classes are taught in Japanese.					
Lecture place					
Library Information Search Room(4th floor of M&D Tower)					
Lecture plan					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	4/7	18:00-19:30	情報検索室1		FUJIWARA Takeo, NISHIMURA Hisaaki
2	4/9	18:00-19:30	アクティブラーニング教室		FUJIWARA Takeo, NISHIMURA Hisaaki
3	4/14	18:00-19:30	情報検索室1		FUJIWARA Takeo, NISHIMURA Hisaaki
4	4/16	18:00-19:30	情報検索室1		FUJIWARA Takeo, NISHIMURA Hisaaki
5	4/21	18:00-19:30	情報検索室1		FUJIWARA Takeo, NISHIMURA Hisaaki
6	4/23	18:00-19:30	情報検索室1		FUJIWARA Takeo, NISHIMURA Hisaaki
7	4/28	18:00-19:30	情報検索室1		FUJIWARA Takeo, NISHIMURA Hisaaki
8	4/30	18:00-19:30	情報検索室1		FUJIWARA Takeo, NISHIMURA Hisaaki
Lecture Style					
Depends on the lectures of the course instructor.					
Course Outline					
See table.					

Grading System

Attendance at least 5 out of 8 sessions is required.

Grading will be based on the content of the submitted report (80 points) and participation (20 points).

Prerequisite Reading**Reference Materials**

浦島充佳. Stata による医療系データ分析入門. 東京図書. 2014

Email

TANI Yukako:fujiwara.hlth@tmd.ac.jp

NISHIMURA Hisaaki:nishimura.hlth@tmd.ac.jp

Instructor's Contact Information

TANI Yukako:Let me know in advance if you are coming.

7. 諸規則

目次

- 第1章 総則（第1条—第12条）
- 第2章 入学、進学、再入学、転入学及び編入学（第13条—第24条）
- 第3章 休学、留学、退学、転学並びに転学院及び転系等（第25条—第30条）
- 第4章 授業科目、単位数及び履修方法等（第31条—第38条）
- 第5章 履修の認定及び学位等（第39条—第49条）
- 第6章 入学料及び授業料（第50条—第56条）
- 第7章 表彰及び懲戒並びに除籍（第57条—第59条）
- 第8章 科目等履修生等（第60条—第66条）
- 第9章 寄宿舍（第67条）
- 第10章 国際連携専攻の特例（第68条—第73条）

附則

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この学則は、学校教育法（昭和22年法律第26号。以下「学教法」という。）第100条及び国立大学法人東京科学大学組織運営規則（令和6年規則第1号。次条において「組織運営規則」という。）第22条第1項及び第23条第1項の規定に基づき東京科学大学（以下「本学」という。）大学院（以下「本学大学院」という。）に置く学院並びに研究科及び研究科に置く専攻の標準修業年限、教育課程その他の学生の修学上必要な事項を定めるものとする。

（学院並びに研究科及び専攻）

第2条 本学大学院に置く学院及び研究科は、次のとおりとする。

理学院

工学院

物質理工学院

情報理工学院

生命理工学院

環境・社会理工学院

医歯学総合研究科

保健衛生学研究科

2 研究科に置く専攻は、別表1のとおりとする。

3 前項の専攻には、大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第35条に定める国際連携専攻を含むものとする。

4 第1項及び第2項に規定する学院並びに研究科及び研究科に置く専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的及び位置は、組織運営規則第22条第2項及び第23条第2項の定めるところによる。

（課程）

第3条 本学大学院に、次の課程を置く。

- 一 修士課程
- 二 博士課程
- 三 専門職学位課程（学教法第99条第2項に規定する専門職大学院の課程をいう。以下同じ。）

2 前項第2号の博士課程の種類は、次のとおりとする。

- 一 前期2年の課程及び後期3年の課程に区分するもの（以下「区分制博士課程」という。）
- 二 前期及び後期の区分を設けないもの（次号を除く。以下「一貫制博士課程」という。）
- 三 大学院設置基準第44条に規定する医学又は歯学を履修するもの（以下「医学又は歯学を履修する博士課程」という。）
- 四 後期の課程のみのもの（以下「後期3年博士課程」という。）

3 前項第1号に規定する前期2年の課程は、これを修士課程として取り扱うものとする。

4 第2項第1号に規定する前期2年の課程は、「修士課程」といい、後期3年の課程は、「博士後期課程」という。

5 第2項第1号に規定する区分制博士課程は、教育研究上の必要がある場合に限り、前期2年の課程を置かず、後期3年の課程のみを置くことができる。
（入学定員及び収容定員並びに系及びコース等）

第4条 本学大学院の入学定員及び収容定員は、別表1のとおりとする。

2 学院に、教育上の目的に応じて、専門教育実施の基本的な単位として系を置く。

3 前項の系のほか、環境・社会理工学院に、イノベーション創出のリーダーとして科学技術を活用し、自ら理論を構築して産業や社会の発展に貢献する実務家を養成するため、技術経営専門職学位課程（前条第1項第3号に規定する専門職学位課程として置かれるものをいう。以下同じ。）を置く。

4 第2項の系に、教育プログラムとしてコースを置く。

5 前項に規定するコースのうち、新たに社会が求める学術分野の人材を育成するために設けられた複数の学問領域からなる学際的教育プログラムとしてのコース（第12条第2項、別表1(1)及び別表2(1)において「複合系コース」という。）は、複数の系に跨って置くことができる。

6 研究科又は研究科に置く専攻に、別に定めるところにより、教育研究分野を置く。

7 学院に置く第2項から第5項までの系及びコース並びに技術経営専門職学位課程は、別表1のとおりとする。

8 医歯学総合研究科医歯理工保健学専攻に、医療管理政策学コース及びグローバルヘルスリーダー養成コースを置く。

9 前項の医療管理政策学コースは、これを次のコースに区分するものとする。

- 一 医療管理学コース
- 二 医療政策学コース

(課程の目的)

第5条 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が要求される職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。

2 博士課程は、専攻分野について、独創的研究によって従来の学術水準に新しい知見を加えるとともに、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

3 専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする。

(標準修業年限等)

第6条 本学大学院の標準修業年限は、次のとおりとする。

学院・研究科	課程	専攻・コース	標準修業年限
学院	区分制	—	5年
	博士課程	修士課程	2年
		博士後期課程	3年
	専門職学位課程	—	2年
医歯学総合研究科	修士課程	医歯理工保健学専攻	2年
		医療管理政策学コース	—
		医療管理学コース	1年
		医療政策学コース	2年
		グローバルヘルスリーダー養成コース	2年
	医学又は歯学を履修する博士課程	医歯学専攻	4年
		東京科学大学・チリ大学国際連携医学系専攻	5年
		東京科学大学・チュラロンコン大学国際連携歯学系専攻	5年
		東京科学大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻	4年
	後期3年博士課程	生命理工医療科学専攻	3年
保健衛生学研	一貫制博士課程	看護先進科学専攻	5年

究科			
----	--	--	--

2 前項の規定にかかわらず、第38条第3項に規定する清華大学との大学院合同プログラムを履修する者の標準修業年限は、2年6月とする。

3 第1項の規定にかかわらず、専門職学位課程においては、主として実務の経験を有する者に対して教育を行う場合であつて、かつ、昼間と併せて夜間その他特定の時間又は時期において授業を行う等の適切な方法により教育上支障を生じない場合は、その標準修業年限を1年以上2年未満の期間とすることができる。

4 前3項の規定にかかわらず、再入学者、転入学者及び編入学者の標準修業年限は、過去に本学大学院又は他の大学の大学院において在学していた期間及び当該期間に修得した授業科目等を考慮して定める。

(標準修業年限を超える期間にわたる教育課程の履修)

第7条 学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、当該学院及び研究科において支障のない場合に限り、その計画的な履修(次項において「長期履修」という。)を認めることがある。

2 長期履修に関し必要な事項は、別に定める。

(在学年限)

第8条 学院における在学年限は、各課程の標準修業年限の2倍の年数とする。

2 研究科における在学年限は、次のとおりとする。ただし、学生が標準修業年限を超えて在学しようとするときは、指導教員及び研究科長を経て、学長の許可を得なければならない。

一 研究科(次号及び第3号に掲げる専攻を除く。) 各課程の標準修業年限の2倍の年数

二 東京科学大学・チリ大学国際連携医学系専攻 6年

三 東京科学大学・チュラロンコーン大学国際連携歯学系専攻 8年

3 前2項の規定にかかわらず、再入学者、転入学者及び編入学者の在学年限は、過去に本学大学院又は他の大学の大学院において在学していた期間及び当該期間に修得した授業科目等を考慮して定める。

(学年)

第9条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第10条 学年を、次の2学期に分ける。

前期 4月1日から毎年度において学長が定める9月中の日まで

後期 前期最終日の翌日から翌年3月31日まで

2 前項に定める各学期を、前半及び後半に分けることができるものとする。

(休業日)

第11条 学生の休業日は、次に掲げるとおりとする。

一 日曜日

二 土曜日

三 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

四 春期休業日、夏期休業日及び冬期休業日

2 前項の規定にかかわらず、教育上必要がある場合には、休業日に授業を行うことができる。

3 第1項第4号の休業日は、その都度、学長が別に定める。

4 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

（教授会又は研究科委員会の審議及び学長の決定事項）

第12条 入学、修了、学位の授与その他学生の在籍に関する事項及び教育課程の編成に関する事項は、学院の教授会又は研究科の研究科委員会の議を経て、学長が決定する。

2 前項の規定にかかわらず、複合系コースを選択する学生に係る入学、修了、学位の授与その他学生の在籍に関する事項については、当該学生の所属する学院の教授会の議を経て、学長が決定する。

第2章 入学、進学、再入学、転入学及び編入学

（修士課程、専門職学位課程及び一貫制博士課程の入学資格）

第13条 修士課程、専門職学位課程及び一貫制博士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

一 学教法第83条に規定する大学（第10号及び第11号において同じ。）を卒業した者

二 学教法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者

三 外国において学校教育における16年の課程を修了した者

四 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

五 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

六 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者

七 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

八 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）

九 学教法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本学大学院

- において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- 十 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者
- 十一 大学に3年以上在学し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
- 十二 外国において学校教育における15年の課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
- 十三 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
- 十四 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
- （博士後期課程及び後期3年博士課程の入学資格）

第14条 博士後期課程及び後期3年博士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 修士の学位又は専門職学位を有する者
 - 二 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - 三 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - 四 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - 五 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
 - 六 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
 - 七 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
 - 八 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者
- （医学又は歯学を履修する博士課程のうち医歯学専攻の入学資格）

第15条 医学又は歯学を履修する博士課程医歯学専攻（以下「博士課程医歯学専攻」という。）に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 大学の医学、歯学、薬学又は獣医学（修業年限が6年のものに限る。）を履修する課程を卒業した者
- 二 外国において、学校教育における18年の課程（最終の課程は医学、歯学、薬学又は獣医学）を修了した者
- 三 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程（最終の課程は医学、歯学、薬学又は獣医学）を修了した者
- 四 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程（最終の課程は、医学、歯学、薬学又は獣医学）を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- 五 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が5年以上である課程（最終の課程は、医学、歯学、薬学又は獣医学）を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設（前号の指定を受けたものに限る。）において課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- 六 文部科学大臣の指定した者（昭和30年文部省告示第39号）
- 七 学教法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、当該者を本学大学院において大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- 八 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学（医学、歯学、薬学（修業年限が6年のものに限る。）又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者
- 九 大学（医学、歯学、薬学（修業年限が6年のものに限る。）又は獣医学）に4年以上在学し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- 十 外国において学校教育における16年の課程（最終の課程は医学、歯学、薬学又は獣医学）を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- 十一 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程（最終の課程は医学、歯学、薬学又は獣医学）を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- 十二 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程（最終の課程は、医学、歯学、薬学又は獣医学）を修了した

とされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

(医学又は歯学を履修する博士課程のうち国際連携専攻の入学資格)

第16条 医学又は歯学を履修する博士課程国際連携専攻(以下「博士課程国際連携専攻」という。)に入学することのできる者は、前条各号のいずれかに該当し、かつ、共同で教育課程を編成した外国の大学院(以下「国際連携大学」という。)の入学資格を満たす者とする。

(進学)

第17条 学院の修士課程又は専門職学位課程を修了して、引き続き学院の博士後期課程に進学(志願する学院又は系が、修士課程又は専門職学位課程における学院又は系若しくは技術経営専門職学位課程と異なる場合も含む。)することを願ひ出た者に対しては、選考の上、進学を許可する。

2 研究科の修士課程を修了して、引き続き研究科の医学又は歯学を履修する博士課程又は後期3年博士課程に進学することを願ひ出た者に対しては、選考の上、進学を許可する。

(入学の時期)

第18条 入学の時期は、学期の始めとする。

(入学志願の手続)

第19条 入学志願者は、入学願書に所定の書類と別に定める検定料を添えて、願ひ出なければならない。

2 前項の検定料は、別に定めるところにより、免除することがある。

3 一度納付した検定料は、別に定めがある場合を除き返還しない。

4 入学志願の時期は、その都度決定して公告する。

(入学者選考)

第20条 入学志願者に対しては、学力その他に基づき選考の上、入学者を決定する。

2 前項の入学者選考の方法、期日等については、その都度決定して公告する。

3 入学者選考に関し必要な事項は、別に定める。

(再入学)

第21条 本学大学院を修了した者又は第27条の規定により退学した者が再び入学を願ひ出たときは、前条の規定にかかわらず、収容定員に余裕がある場合に限り、別に定めるところにより、選考の上、入学を許可することがある。

(転入学)

第22条 他の大学の大学院に在学している者で、本学大学院に転入学を願ひ出る者があるときは、収容定員に余裕がある場合に限り、別に定めるところにより、学力その他に基づき選考の上、入学を許可することがある。

(編入学)

第23条 第14条各号のいずれかに該当する者で、本学大学院の一貫制博士課程に

編入学を願い出る者があるときは、別に定めるところにより、学力その他に基づき選考の上、入学を許可することがある。

(誓約書)

第24条 入学を許可された者は、所定の誓約書を提出し、これに記載された事項を守らなければならない。

第3章 休学、留学、退学、転学並びに転学院及び転系等

(休学)

第25条 傷病その他やむをえない理由のため一定期間以上学修することができないときは、許可を受けて休学することができる。

2 傷病のため学修することが不相当と認められる学生及び行方不明の学生に対しては、休学を命ずることがある。

3 休学した期間は、在学期間に算入しない。

4 休学に関し必要な事項は、別に定める。

(留学)

第26条 外国の大学又はこれに相当する高等教育機関等に留学しようとするときは、願い出て留学することができる。

2 留学した期間は、在学期間に算入する。

3 留学に関し必要な事項は、別に定める。

(願いによる退学)

第27条 傷病その他やむをえない事情があるときは、願い出て退学することができる。

(転学)

第28条 他の大学の大学院に転学しようとするときは、あらかじめ許可を受けなければならない。

(転学院、転系及びコースの変更並びに転専攻)

第29条 学院に所属する者のうち、転学院若しくは転系（技術経営専門職学位課程を含む。）又は選択するコースの変更を志願するものについては、別に定めるところにより、許可することがある。

2 研究科に所属する者のうち、転専攻を志願するものについては、別に定めるところにより、許可することがある。

(教育研究分野の変更)

第30条 研究科に所属する者が教育研究分野の変更を願い出たときは、やむを得ない理由があると研究科長が判断した場合に限り、変更を許可することがある。

第4章 授業科目、単位数及び履修方法等

(授業科目、単位数及び履修方法等)

第31条 本学大学院の教育上の目的を達成するために必要な授業科目、単位数及び履修方法等については、別に定める。

(教育方法)

第32条 本学大学院の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行う。

2 前項に定めるもののほか、専門職学位課程の教育は、専攻分野に応じ体系的かつ実践的な教育課程を編成し、第5条第3項に規定する目的を達成するために適切な方法によって行う。

(教育方法の特例)

第33条 本学大学院において教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育を行うことができる。

(研究指導委託)

第34条 学生が国内外の他の大学院、研究所又は高度の水準を有する病院（以下「他の大学院等」という。）において研究指導を受けることが教育上有益であると本学大学院において認めるときは、別に定めるところにより、あらかじめ、当該他の大学院等と協議の上、学生が当該他の大学院等において研究指導の一部を受けることを認めることがある。ただし、修士課程の学生にあっては、その期間は1年を超えないものとする。

(授業の方法)

第35条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの方法の併用により行う。

2 前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。ただし、専門職学位課程においては、十分な教育効果が得られる専攻分野に関して、当該効果が認められる授業について、これを行うことができるものとする。

3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

4 第1項の授業及び研究指導の一部を、本学の校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

5 前各項に定めるもののほか、専門職学位課程においては、その目的を達成し得る実践的な教育を行うことができるよう専攻分野に応じ事例研究、現地調査又は、双方向若しくは多方向に行われる討論若しくは質疑応答その他の適切な方法により授業を行う等適切に配慮しなければならない。

6 授業の方法に関し必要な事項は、別に定める。

(成績評価基準等の明示等)

第36条 本学大学院においては、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに1年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学大学院においては、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行うものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第37条 本学大学院においては、学生に対する教育の充実を図るため、授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するも

のとする。

(学院に置く教育プログラム等及び研究科に置くコース等)

第38条 本学大学院に、学院における修士課程及び博士後期課程の一貫教育プログラムとして、次の教育課程を置く。

リーダーシップ教育課程

グローバルリーダー教育課程

環境エネルギー協創教育課程

情報生命博士教育課程

物質・情報卓越教育課程

超スマート社会卓越教育課程

エネルギー・情報卓越教育課程

2 前項の教育課程に関し必要な事項は、別に定める。

3 本学大学院に、学院と清華大学が共同して実施する大学院の合同プログラム(以下「清華大学との大学院合同プログラム」という。)を置く。

4 医歯学総合研究科に、履修上の区分として、次のコース又はプログラムを置く。

先制医療学コース

先制医歯理工学コース

臨床疫学プログラム

5 保健衛生学研究科看護先進科学専攻に、履修上の区分として、災害看護グローバルリーダー養成コースを置く。

第5章 履修の認定及び学位等

(授業科目の履修の認定)

第39条 授業科目の履修の認定については、別に定める。

(他の研究科における研究指導)

第40条 本学大学院の研究科において教育上有益と認めるときは、学生が本学大学院の他の研究科において研究指導の一部を受けることを認めることがある。

(他の大学院における授業科目の履修等)

第41条 本学大学院において教育上有益と認めるときは、学生が他の大学の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、15単位(区分制博士課程にあっては、修士課程及び博士後期課程を通じて15単位)を超えない範囲で本学大学院における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

2 前項の規定は、学生が、第25条の規定により休学し、当該休学期間中に外国の大学において授業科目を履修する場合、第26条の規定により外国の大学に留学する場合、外国の大学等が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学等の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

(入学前の既修得単位の認定)

第42条 本学大学院において教育上有益と認めるときは、学生が本学大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位(大学院設置

基準第15条において準用する大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第31条第1項に規定する科目等履修生及び同条第2項に規定する特別の課程の履修（いわゆる履修証明プログラムをいう。）により修得した単位を含む。）を、本学大学院における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

2 前項の規定により本学大学院（専門職学位課程を除く。以下この項において同じ。）において認定することができる単位数は、編入学及び転入学の場合を除き、本学大学院において修得した単位以外のものについては、15単位を超えないものとし、かつ、前条第1項（同条第2項において準用する場合を含む。）の規定により本学大学院において修得したものとして認定する単位数と合わせて20単位を超えないものとする。

3 第1項の規定により専門職学位課程において認定することができる単位数は、転入学の場合を除き、当該課程において修得した単位以外のものについては、前条第1項（同条第2項において準用する場合を含む。）の規定により本学専門職学位課程において修得したものとして認定する単位数と合わせて15単位を超えないものとする。ただし、別に定めがある場合はこの限りでない。

（修士課程修了の要件）

第43条 修士課程の修了の要件は、当該課程に2年（清華大学との大学院合同プログラムを履修する者にあつては2年6月、第4条第9項第1号に規定する医療管理学コースを履修する者にあつては1年）以上在学し、所定の授業科目について30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

2 前項の場合において、学院又は研究科が修士課程の目的に応じ適当と認めるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

3 第1項の規定にかかわらず、学院に所属する者の在学期間に関しては、前条の規定により当該学院の修士課程に入学する前に修得した単位（学教法第102条第1項の規定により入学資格を有した後、修得したものに限る。）を当該課程において修得したものとして認定する場合であつて、当該単位の修得により当該課程の教育課程の一部を履修したと教授会が認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して1年を超えない範囲で当該課程に在学したものとみなすことができる。ただし、この場合においても、当該課程に少なくとも1年以上在学するものとする。

（学院の博士課程修了の要件）

第44条 区分制博士課程の修了の要件は、本学大学院の学院に5年（修士課程又は専門職学位課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学し、所定の授業科目について54単位以上（博士後期課程における24単位以上の修得単位を含む。）修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、3年（修

士課程又は専門職学位課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。

2 前条第1項ただし書の規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の区分制博士課程の修了の要件については、前項中「5年(修士課程又は専門職学位課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)」とあるのは「修士課程における在学期間に3年を加えた期間」と、「3年(修士課程又は専門職学位課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)」とあるのは「3年(修士課程における在学期間を含む。)」と読み替えて、同項の規定を適用する。

3 前2項の規定にかかわらず、第14条各号のいずれかに該当する者(第17条に規定する進学を許可された者を除く。)が、博士後期課程に入学した場合の区分制博士課程の修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、所定の授業科目について24単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年(2年未満の在学期間をもって修士課程を修了した者にあつては、当該在学期間を含めて3年)以上在学すれば足りるものとする。

4 第1項ただし書及び前項ただし書の規定による在学期間をもって修了する場合の修了の要件としての修得すべき単位数は、別に定める。

(研究科の博士課程修了の要件)

第45条 博士課程医歯学専攻の修了の要件は、当該専攻に4年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、3年以上在学すれば足りるものとする。

2 博士課程国際連携専攻の修了の要件は、当該専攻に第6条第1項に定める標準修業年限以上在学し、研究科が定めた所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、修了に必要な単位数には、第41条及び第42条の規定により修得したものとみなす単位を含まないものとする。

3 後期3年博士課程の修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、所定の授業科目について20単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年(2年未満の在学期間をもって修士課程を修了した者にあつては、当該在学期間を含めて3年)以上在学すれば足りるものとする。

4 一貫制博士課程の修了の要件は、当該課程に5年(修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、所定の授業科目について38単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、3年(修士課程に2年

以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。

- 5 前項の規定にかかわらず、標準修業年限を1年以上2年未満とした修士課程を修了した者及び優れた研究業績を上げ1年以上の在学期間をもって修士課程を修了した者で、当該研究科が優れた研究業績を上げたと認めるものの在学期間に関しては、当該課程に修士課程における在学期間(2年を限度とする。)を含めて3年以上在学すれば足りるものとする。

(専門職学位課程修了の要件)

第46条 専門職学位課程の修了の要件は、当該課程に2年以上在学し、所定の授業科目について40単位以上の修得その他の教育課程の履修により課程を修了することとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、在学期間に関しては、第42条の規定により専門職学位課程に入学する前に修得した単位(学教法第102条第1項の規定により入学資格を有した後、修得したものに限る。)を当該課程において修得したものとして認定する場合であつて、当該単位の修得により当該課程の教育課程の一部を履修したと教授会が認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して1年を超えない範囲で当該課程に在学したものとみなすことができる。

(学位)

第47条 本学大学院を修了した者には、別表2の区分により学位を授与する。

- 2 前項に定めるもののほか保健衛生学研究科看護先進科学専攻においては、第43条第1項及び第2項に規定する修士課程の修了に相当する要件を満たした者に対しても、修士(看護学)の学位を授与することができる。
- 3 第1項に定めるもののほか、学院においては、学際領域等の分野を専攻した者で、当該学院が適当と認めるときは、学位に付記する専攻分野の名称を学術とすることができる。

(学位の授与)

第48条 学位の授与については、東京科学大学学位規程(令和6年規程第91号)による。

(教育職員免許状)

第49条 学院において教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に規定する所定の単位を修得した者が取得できる教育職員免許状の種類及び免許教科は、別表3のとおりとする。

第6章 入学料及び授業料

(入学料)

第50条 入学、再入学、転入学及び編入学の選考に合格した者で入学のため所要の手續をとらうとする者は、所定の期日までに別に定める入学料を納付しなければならない。ただし、第55条の規定により入学料の免除又は徴収猶予を申請した者については、免除又は徴収猶予を許可し、又は不許可とするまでの間、入学料の徴収を猶予する。

(授業料)

第51条 授業料の額は、別に定めるところによるものとし、各年度に係る授業料について、次の区分で納付しなければならない。この場合において、それぞれの学期において納付する額は、年額の2分の1に相当する額とする。

納付区分	納期
前期分	5月31日まで
後期分	11月30日まで

2 前項の規定にかかわらず、学生の申出があったときは、前期分の授業料を徴収するときに、当該年度の後期分の授業料を併せて徴収するものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、研究科の入学を許可される者の申出があったときは、入学年度の前期分又は前期分及び後期分の授業料を、入学を許可するときに併せて徴収するものとする。

(既納の入学料及び授業料)

第52条 一度納付した入学料及び授業料は返還しない。

(休学者及び復学者の授業料)

第53条 学生が休学を許可され、又は命ぜられ、次の各号のいずれかに該当する場合は、月割(前期の最終月は9月1日から前期の最終日まで、後期の初月は後期の開始日から10月末日までとみなす。以下同じ。)により、休学当月の翌月(休学の開始日が月の初日である場合にあっては、休学当月)から復学当月の前月までの授業料を免除する。

一 第51条第1項に規定する授業料の納期までに休学を願い出た場合

二 第55条の規定により、授業料の徴収猶予の許可を受けている場合

2 前項の規定により、授業料の免除を受けた学生が、第51条第1項に規定する授業料の納期より後に復学した場合にあっては、復学当月から当該学期末までに係る授業料を、直ちに納付しなければならない。

(退学者等の授業料)

第54条 退学又は除籍の場合であっても、その学期に属する分の授業料は、納付しなければならない。ただし、学生が退学を許可され、次の各号のいずれかに該当する場合は、月割により、退学当月の翌月以降の授業料を免除する。

一 第51条第1項に規定する授業料の納期までに退学を願い出た場合

二 次条の規定により、授業料の徴収猶予の許可を受けている場合

2 停学を命ぜられた場合であっても、その期間中の授業料は、納付しなければならない。

3 前2項の規定にかかわらず、第59条第7号に規定する死亡による除籍となった者その他別に定める者の除籍日の属する学期の未納の授業料は、全額を免除することがある。

(入学料及び授業料の免除又は徴収猶予)

第55条 入学料及び授業料は、別に定める基準により、免除又は徴収猶予することができる。

(授業料返還の特例)

第56条 第52条の規定にかかわらず、第51条第3項の規定に基づき授業料を納付した者が、入学年度の前年度の3月31日までに入学を辞退した場合には、納付した者の申出により、当該授業料を返還する。

2 第52条の規定にかかわらず、授業料を納付した者において、当該授業料に係る期間に、休学した者については、月割により、休学当月の翌月（休学の開始日が月の初日である場合にあつては、休学当月）から復学当月の前月までの授業料を、修了、退学又は除籍により在籍しなくなった者については、月割により、修了日、退学日又は除籍日の属する月の翌月以降の授業料を返還する。

第7章 表彰及び懲戒並びに除籍

（表彰）

第57条 学生に表彰に値する行為があつたときは、表彰することがある。

2 表彰に関し必要な事項は、別に定める。

（懲戒）

第58条 学生が法令若しくは本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為を行ったときは、懲戒する。

2 懲戒は、退学、停学及び訓告とする。

3 懲戒に関し必要な事項は、別に定める。

（除籍）

第59条 次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。

一 学力劣等で成業の見込みがないと認められるとき。

二 在学期間が第8条に定める在学年限（研究科の学生については、同条第2項ただし書きにより学長が在学を許可した期間）を超えるとき

三 休学期間が第25条第4項に基づき別に定める期間を超えるとき。

四 入学料の免除若しくは徴収猶予を許可されなかつた者又は半額免除若しくは徴収猶予を許可された者が、納付すべき入学料を所定の期日までに納付しなかつたとき。

五 授業料の納付を怠り、督促しても、なお、納付しなかつたとき。

六 第25条第2項の規定により休学を命ぜられた行方不明の学生が、別に定める休学期間を経過しても復学できないとき。

七 死亡したとき。

第8章 科目等履修生等

（科目等履修生）

第60条 本学大学院の学生以外の者で、本学大学院が開設する授業科目のうち一又は複数の授業科目を履修することを願ひ出る者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

2 科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

（大学院研究生）

第61条 本学大学院において特定の事項について研究することを願ひ出る者があるときは、本学が適当と認め、かつ、支障のない場合に限り、大学院研究生として入学を許可することがある。

2 大学院研究生に関し必要な事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

第62条 他の大学との協定に基づき、国内の他の大学の大学院の学生で本学大学院が開設する授業科目を履修することを願い出る者がいるときは、特別聴講学生として入学を許可することがある。

2 特別聴講学生に関し必要な事項は、別に定める。

(特別研究学生)

第63条 国内の他の大学の大学院の学生で、本学の学院及び研究科において研究指導を受けることを志願する者がいるときは、当該他の大学の大学院と協議して定めるところにより、特別研究学生として入学を許可することがある。

2 特別研究学生に関し必要な事項は、別に定める。

(海外交流学生)

第64条 本学と外国の大学との学術交流協定等に基づき、本学の教員の下で教育研究指導を受けることについて当該大学の学部学生及び大学院学生から志願がある場合には、海外交流学生として入学を許可することがある。

2 海外交流学生に関し必要な事項は、別に定める。

(海外訪問学生)

第65条 本学と外国の大学との相互了解に基づき、本学の教員の下で教育研究指導を受けることについて当該大学の学部学生及び大学院学生から志願がある場合には、本学において教育研究上有益と認められ、支障のない場合に限り、海外訪問学生として入学を許可することがある。

2 海外訪問学生に関し必要な事項は、別に定める。

(短期交流学生)

第66条 国内の他の大学院等の学生で、本学と国内の他の大学院等との間における学術交流のため、当該他の大学院等の授業科目（別に定めるものを除く。）の一環として本学の教員から指導又は助言を受けることを志願する者がいるときは、支障のない場合に限り、短期交流学生として入学を許可することがある。

2 短期交流学生に関し必要な事項は、別に定める。

第9章 寄宿舍

第67条 本学に、寄宿舍を置く。

2 寄宿舍に関し必要な事項は、別に定める。

第10章 国際連携専攻の特例

(協議及び措置)

第68条 本学大学院に国際連携専攻を設けるときは、国際連携大学と連携した教育課程（以下「国際連携教育課程」という。）を編成し円滑に実施するため、協議の場に関する事項を別に定める。

2 前項の規定による協議の場は、学長又は学長が指名した者により構成する。

3 学長は、博士課程国際連携専攻の維持に関し相手国の状況（天災、騒乱等）により正常な運営を行うことができないと判断した場合には、国際連携大学の長と協議の上、運営に関し緊急に講ずべき措置について決定する。

(共同開設科目)

第69条 博士課程国際連携専攻は、国際連携大学と共同して授業科目（以下「共同開設科目」という。）を開設することができる。

2 前項の共同開設科目を開設した場合、当該国際連携専攻の学生が当該共同開設科目の履修により修得した単位は、5単位を超えない範囲で当該国際連携専攻又は国際連携大学のいずれかにおいて修得した単位とすることができる。ただし、国際連携大学において修得した単位数が第72条の規定により国際連携大学において修得することとされている単位数に満たない場合は、共同開設科目の履修により修得した単位を国際連携大学において修得した単位数とすることはできない。

(国際連携教育課程の単位認定)

第70条 博士課程国際連携専攻は、国際連携大学において履修した国際連携教育課程に係る授業科目について修得した単位を、当該国際連携教育課程に係る授業科目の履修により修得したものとみなす。

(国際連携専攻の研究指導)

第71条 博士課程国際連携専攻は、学生が国際連携大学において受けた国際連携教育課程に係る研究指導を、当該国際連携教育課程に係るものとみなす。

(国際連携専攻の修了要件)

第72条 博士課程国際連携専攻の修了要件は、第45条第2項に定めるもののほか、国際連携専攻において国際連携教育課程に係る授業科目の履修により15単位以上を修得するとともに、それぞれの国際連携大学において当該国際連携教育課程に係る授業科目の履修により10単位以上修得する。

(国際連携専攻の転学、科目等履修生及び大学院研究生に係る規定の適用除外)

第73条 博士課程国際連携専攻については、第28条、第60条及び第61条の規定は適用しない。

附 則

1 この学則は、令和6年10月1日から施行する。

2 次に掲げる学則は、廃止する。

一 東京工業大学大学院学則（平成23年学則第4号）

二 東京医科歯科大学大学院学則（平成16年規程第5号）

3 第2条第2項及び別表1に定める専攻のほか、次表に掲げる研究科に、同表に定める専攻を置く。

研究科	専攻	課程
医歯学総合研究科	医歯学系専攻	医学又は歯学を履修する博士課程
保健衛生学研究科	共同災害看護学専攻（※）	一貫制博士課程

(※) 共同災害看護学専攻は、大学院設置基準第31条に定める共同教育課程を編成する専攻である。

4 令和6年度における保健衛生学研究科共同災害看護学専攻の収容定員は、2人

(構成大学全体の収容定員は10人)とする。

- 5 第3項に定める専攻(以下「旧専攻」という。)は、この学則の施行の日(以下「施行日」という。)前に東京医科歯科大学(保健衛生学研究科共同災害看護学専攻については、当該専攻の構成大学)に入学し、施行日において引き続き当該旧専攻に在学する者が当該旧専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 6 この学則第8章に定めるもののほか、当分の間、社会環境的な要因により、在籍している外国の大学での継続的な学修が困難となった者又は在籍予定の外国の大学での学修が困難となった者については、東京科学大学学則附則第6項及び大学院学則附則第6項に基づく海外特例学生に関する暫定取扱規程(令和7年規程第71号)の規定に基づき、海外特例学生として入学を許可することがある。

附 則 (令7.3.7学1)

- 1 この学則は、令和7年4月1日から施行する。
- 2 ライフエンジニアリングコースは、令和7年3月31日に当該コースを選択する者(令和7年4月1日以降に再入学及び転入学する者並びに選択するコースを変更する者であって、当該コースを選択する者を含む。以下「在学生」という。)が在学生でなくなる日までの間、存続するものとし、在学生については、改正前の東京科学大学大学院学則別表1及び別表2の規定は、なおその効力を有する。

附 則 (令7.7.4学4)

この学則は、令和7年7月4日から施行する。

別表1 (第2条及び第4条関係)

(1) 学院

学院	系・コース	区分制博士課程				専門職学位課程	
		修士課程		博士後期課程			
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
理学院	数学系 数学コース 物理学系 物理学コース 物質・情報卓越コース (博士後期課程のみ) ※ 化学系 化学コース エネルギー・情報コース※ 物質・情報卓越コース	154	308	52	156	—	—

	(博士後期課程のみ) ※ 地球惑星科学系 地球惑星科学コース 地球生命コース※						
工学院	機械系 機械コース エネルギー・情報コース※ エンジニアリングデザインコース※ 人間医療科学技術コース※ 原子核工学コース※ システム制御系 システム制御コース エンジニアリングデザインコース※ 人間医療科学技術コース※ 電気電子系 電気電子コース エネルギー・情報コース※ 人間医療科学技術コース※ 原子核工学コース※ 物質・情報卓越コース (博士後期課程のみ) ※ 情報通信系 情報通信コース エンジニアリングデザインコース※ 人間医療科学技術コース※ 経営工学系 経営工学コース エンジニアリングデザ	477	954	169	507	—	—

	インコース※						
物質理 工学院	材料系 材料コース エネルギー・情報コース※ 人間医療科学技術コース※ 原子核工学コース※ 物質・情報卓越コース (博士後期課程のみ) ※ 応用化学系 応用化学コース エネルギー・情報コース※ 人間医療科学技術コース※ 原子核工学コース※ 地球生命コース※ 物質・情報卓越コース (博士後期課程のみ) ※	347	694	129	387	—	—
情報理 工学院	数理・計算科学系 数理・計算科学コース 知能情報コース※ 情報工学系 情報工学コース 知能情報コース※ 人間医療科学技術コース※ エネルギー・情報コース※ 物質・情報卓越コース (博士後期課程のみ) ※	135	270	50	150	—	—
生命理 工学院	生命理工学系 生命理工学コース 人間医療科学技術コー	168	336	52	156	—	—

	ス※ 地球生命コース※ 物質・情報卓越コース (博士後期課程のみ) ※						
環境・ 社会理 工学院	建築学系 建築学コース 都市・環境学コース※ エンジニアリングデザ インコース※ 土木・環境工学系 土木工学コース 都市・環境学コース※ エンジニアリングデザ インコース※ 融合理工学系 地球環境共創コース エネルギー・情報コー ス※ エンジニアリングデザ インコース※ 原子核工学コース※ 物質・情報卓越コース (博士後期課程のみ) ※ 社会・人間科学系 社会・人間科学コース イノベーション科学系 イノベーション科学コ ース(博士後期課程の み) 人間医療科学技術コー ス(博士後期課程のみ) ※	263	526	115	345	—	—
環境・ 社会理 工学院	技術経営専門職学位課 程	—	—	—	—	40	80
合計		1,544	3,088	567	1,701	40	80

備考：※印は、第4条第5項に規定する複合系コースを示す。

(2) 研究科

研究科	専攻・コース	修士課程		医学又は歯学を履修する博士課程		一貫制博士課程		後期3年博士課程	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
医歯学総合研究科	医歯理工保健学専攻	131	257	—	—	—	—	—	—
	医療管理政策学コース	(5)	(5)						
	(医療管理学コース)	(10)	(20)						
	(医療政策学コース)	(9)	(18)						
	グローバルヘルスリーダー養成コース								
	医歯学専攻	—	—	181	724	—	—	—	—
	東京科学大学・チリ大学国際連携医学系専攻（※）	—	—	3	15	—	—	—	—
東京科学大学・チュラロンコン大学国際連携歯学系専攻（※）	—	—	3	15	—	—	—	—	
東京科学大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻（※）	—	—	3	12	—	—	—	—	
生命理工医療科学専攻	—	—	—	—	—	—	25	75	
保健衛生学研	看護先進科学専攻	—	—	—	—	13	65	—	—

究科									
合計	131	257	190	766	13	65	25	75	
備考： ・*印は、第2条第3項に規定する国際連携専攻を示す。 ・括弧内の数字は、医療管理政策学コース及びグローバルヘルスリーダー養成コースに係る定員の数を内数で示す。									

別表2（第47条関係）

(1) 修士及び博士

学院又は 研究科	系・コース又は専攻	授与する学位（専攻分野）	
		修士	博士
理学院	数学系		
	数学コース	修士（理学）	博士（理学）
	物理学系		
	物理学コース	〃	〃
	物質・情報卓越コース※	-----	〃
	—	—	
	化学系		
	化学コース	修士（理学）	〃
	エネルギー・情報コース※	〃	〃
	物質・情報卓越コース※	-----	〃
—	—		
地球惑星科学系			
地球惑星科学コース	修士（理学）	〃	
地球生命コース※	〃	〃	
工学院	機械系		
	機械コース	修士（理学）又は修士（工学）	博士（理学）又は博士（工学）
	エネルギー・情報コース※	〃	〃
	エンジニアリングデザインコース※	〃	〃
	人間医療科学技術コース※	〃	〃

	原子核工学コース※	〃	〃
	システム制御系		
	システム制御コース	〃	〃
	エンジニアリングデザインコース※	〃	〃
	人間医療科学技術コース※	〃	〃
	電気電子系		
	電気電子コース	〃	〃
	エネルギー・情報コース※	〃	〃
	人間医療科学技術コース※	〃	〃
	原子核工学コース※	〃	〃
	物質・情報卓越コース※	-----	〃
	情報通信系		
	情報通信コース	修士（理学）又は修士（工学）	〃
	エンジニアリングデザインコース※	〃	〃
	人間医療科学技術コース※	〃	〃
	経営工学系		
	経営工学コース	〃	〃
	エンジニアリングデザインコース※	〃	〃
物質理工学院	材料系		
	材料コース	修士（理学）又は修士（工学）	博士（理学）又は博士（工学）
	エネルギー・情報コース※	〃	〃
	人間医療科学技術コース※	〃	〃

	原子核工学コース※ 物質・情報卓越コース※ 応用化学系 応用化学コース エネルギー・情報コース※ 人間医療科学技術コース※ 原子核工学コース※ 地球生命コース※ 物質・情報卓越コース※	〃 ————— — 修士（理学）又は修士（工学） 〃 〃 〃 〃 〃 〃 ————— —	〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
情報理工学院	数理・計算科学系 数理・計算科学コース 知能情報コース※ 情報工学系 情報工学コース 知能情報コース※ 人間医療科学技術コース※ エネルギー・情報コース※ 物質・情報卓越コース※	修士（理学） 〃 修士（理学）又は修士（工学） 〃 〃 〃 〃 〃 〃 ————— —	博士（理学） 〃 博士（理学）又は博士（工学） 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
生命理工学院	生命理工学系 生命理工学コース 人間医療科学技術コース※ 地球生命コース※ 物質・情報卓越コース※	修士（理学）又は修士（工学） 〃 〃 〃 —————	博士（理学）又は博士（工学） 〃 〃 〃

		—	
環境・社会 理工学院	建築学系		
	建築学コース	修士（工学）	博士（工学）
	都市・環境学コース※	〃	〃
	エンジニアリングデザイン ンコース※	〃	〃
	土木・環境工学系		
	土木工学コース	〃	〃
	都市・環境学コース※	〃	〃
	エンジニアリングデザイン ンコース※	〃	〃
	融合理工学系		
	地球環境共創コース	修士（理学）又は修 士（工学）	博士（理学）又は博 士（工学）
	エネルギー・情報コース※	〃	〃
	エンジニアリングデザイン ンコース※	〃	〃
	原子核工学コース※	〃	〃
	物質・情報卓越コース※	————— —	〃
	社会・人間科学系		
社会・人間科学コース	修士（理学）又は修 士（工学）	〃	
イノベーション科学系			
イノベーション科学コー ス	————— —	博士（技術経営）又 は博士（工学）	
人間医療科学技術コース ※	————— —	〃	
医歯学総 合研究科	医歯理工保健学専攻（医療 管理政策学コース及びグロ ーバルヘルスリーダー養成 コースを除く。）	修士（医科学）、修 士（歯科学）、修士 （理学）、修士（工 学）、修士（保健学） 又は修士（口腔保健	————— —

		学)	
	医歯理工保健学専攻（医療管理政策学コース）	修士（医療管理学） 又は修士（医療政策学）	----- —
	医歯理工保健学専攻（グローバルヘルスリーダー養成コース）	修士（グローバル健康医学）	----- —
	医歯学専攻	----- —	博士（医学）、博士（歯学）、博士（数理医科学）又は博士（学術）
	東京科学大学・チリ大学国際連携医学系専攻（*）	----- —	博士（医学）
	東京科学大学・チュラロンコーン大学国際連携歯学系専攻（*）	----- —	博士（歯学）
	東京科学大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻（*）	----- —	博士（医学）
	生命理工医療科学専攻	----- —	博士（理学）、博士（工学）、博士（保健学）又は博士（口腔保健学）
保健衛生学 学研究所	看護先進科学専攻	----- —	博士（看護学）

※印は複合系コース

*印は第2条第3項に規定する国際連携専攻を示す。

(2) 専門職学位

学院	系・コース等	授与する学位（専攻分野）
環境・社会理工学院	技術経営専門職学位課程	技術経営修士（専門職）

別表3（第49条関係）

学院	免許状の種類	免許教科
理学院	中学校教諭専修免許状	数学、理科
	高等学校教諭専修免許状	数学、理科
工学院	高等学校教諭専修免許状	情報、工業

物質理工学院	中学校教諭専修免許状	理科
	高等学校教諭専修免許状	理科、工業
情報理工学院	中学校教諭専修免許状	数学
	高等学校教諭専修免許状	数学、情報
生命理工学院	中学校教諭専修免許状	理科
	高等学校教諭専修免許状	理科
環境・社会理工学院	高等学校教諭専修免許状	工業

(趣旨)

第1条 東京科学大学大学院（以下「大学院」という。）の修士課程、博士課程及び専門職学位課程における学修については、東京科学大学大学院学則（令和6年学則第2号。以下「大学院学則」という。）に定めるもののほか、この規程による。

(研究指導)

第2条 学院に所属する学生が大学院において教育を受けるためには、その所属する系において選択したコース又は所属する技術経営専門職学位課程（以下「コース等」という。）を担当する教員を指導教員としなければならない。

- 2 学修上の理由があるときは、許可を得て、指導教員を変更することができる。
- 3 研究科においては、研究指導を行うことができる教員を別に定める。

(授業科目及び単位数等)

第3条 大学院の授業科目及び単位数は、各学院若しくは各研究科（以下「各学院等」という。）又は学長が認める教育課程の定めるところによる。

- 2 各学院等は、授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分けて体系的に編成するものとし、修了要件として修得を必要としている授業科目のほか、修了要件に算入しない授業科目を置くことができる。
- 3 学院において必要と認める場合は、前項の授業科目のほか、選択必修科目を設けて、体系的に編成することができる。
- 4 授業科目及び単位数等に関し必要な事項は、別に定める。

(単位の計算方法及び授業期間)

第4条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- 一 講義及び演習については、15時間以上30時間以内の別に定める時間数の授業をもって1単位とする。
 - 二 実験、実習、製図及び実技については、30時間以上45時間以内の別に定める時間数の授業をもって1単位とする。
- 2 各授業科目の授業は、各学院では、各クォーター（大学院学則第10条第2項に基づき各学期を前半と後半に分けた期間をいう。）において8週にわたる期間を単位として行うものとし、各研究科では、各学期において10週又は15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上の必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができる認められる場合は、この限りでない。

(履修申告及び再履修)

第5条 学生は、所定の期間内に、履修申告を行うものとする。

- 2 学生は、第7条第2項の規定により不合格となった授業科目を再履修することができる。

3 履修申告及び再履修に関し必要な事項は、別に定める。

(履修申告の上限単位数)

第6条 専門職学位課程の学生の履修申告は、各学期22単位を上限とする。ただし、学院への入学時において次の各号のいずれかに該当すると見込まれる学生にあっては、各学期30単位を上限とすることができる。

一 大学院学則第6条第3項の規定により、標準修業年限を1年とされる者

二 大学院学則第46条第2項の規定により、1年在学したものとみなされる者

2 医歯学総合研究科の医学又は歯学を履修する博士課程の学生のうち、大学院学則第7条に規定する長期履修学生の履修申告は、各年度12単位を上限とする。

(授業科目の履修の認定及び学修の評価)

第7条 授業科目の履修の認定は、授業の目的、形態又は内容に応じ、平常の学修成果や試験等の評価により、総合的に行う。

2 前項の規定による評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格とする。

ただし、点数をもって評価しがたい場合は、合格（到達目標を最低限達成している。）及び不合格（到達目標を達成していない。）の評価をもってこれに代えることがある。

3 前項の評価基準は、次の表のとおりとする。

評価基準	評価	単位認定
当該科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した	90～100	合格
当該科目の到達目標を全て達成した	80～89	
当該科目の到達目標を概ね達成した	70～79	
当該科目の到達目標のうち最低限を達成した	60～69	
当該科目の到達目標を達成していない	0～59	不合格

4 第2項の評価により合格した者には、学期ごとに所定の単位を与える。なお、既修得単位の取り消し及び成績の更新はできない。

5 学生は、第2項の評価の結果に疑義があるときは、別に定めるところにより、成績の確認又は不服申立てを行うことができる。

6 前各項のほか、授業科目の履修の認定及び学修の評価に関し必要な事項は、別に定める。

(学修の評価におけるGrade Point制度)

第8条 Grade Point（以下「GP」という。）とは、前条の学修の評価に基づき算出される0又は0.5から4.5までの数値をいう。

2 GPは、次の計算式により算出するものとする。ただし、学修の評価が59点以下の授業科目については「0」とする。

$$GP = (\text{学修の評価} - 55) / 10$$

3 Grade Point Average（以下「GPA」という。）は、個々の学生の学習到達度を計る数値であって、履修申告した授業科目ごとのGPに単位数を乗じ、その総和を履修申告した授業科目の単位数の総和で除して算出されるものをいう。

4 Grade Point Total（以下「GPT」という。）とは、履修申告した授業科目ごとのGPに単位数を乗じ、その総和を特定の値で除して算出されるものをいう。

5 前各項のほか、GP、GPA及びGPTに関し必要な事項は、別に定める。
（試験等）

第9条 第7条第1項に定める試験等は、学院における期末試験及び独自に実施する試験等並びに研究科における本試験、追試験及び再試験とする。

2 試験方法は、授業の目的、形態に応じ、授業担当教員が決定する。

3 本試験をやむを得ない理由により受けられなかった者については、別に定めるところにより、追試験を行うことがある。

4 本試験又は追試験を受験し、第7条第2項の評価に合格しなかった者については、別に定めるところにより、再試験を行うことがある。

5 前各項のほか、試験等に関し必要な事項は、別に定める。

（他の大学院における授業科目の履修等）

第10条 学生は、大学院学則第41条第1項の規定に基づき、他の大学の大学院（次項において「他大学大学院」という。）の授業科目の履修を希望する場合は、所定の書類により所定の期間内に、所属する学院の長又は研究科の長に申請し、許可を受けなければならない。この場合において、学院に所属する学生においては、所属する学院の長への申請に先立ち、当該授業科目の授業担当教員の承認を得た上で、必要に応じて、指導教員及びコース主任又は技術経営専門職学位課程主任の承認を得るものとする。

2 履修を許可された者は、授業に関する諸事項については、当該授業科目を開設する他大学大学院の指示に従うものとする。

3 前項の授業科目を履修し単位を修得した場合は、所属する学院又は研究科の判断により、修士課程、博士課程又は専門職学位課程いずれかの修了の要件の単位として認める。

（外国の大学における授業科目の履修等）

第11条 大学院学則第41条第2項の規定に基づき、外国の大学における授業科目の履修等を希望する場合の取扱いについては、別に定める。

（入学前の既修得単位の認定）

第12条 大学院学則第42条の規定による単位認定を願い出た学生がある場合は、各学院等において教育上有益と認めるときは、認定することができる。

（修士論文、博士論文及びプロジェクトレポートの審査等）

第13条 修士論文（大学院学則第43条第2項の規定による特定の課題についての研究の成果を含む。）、博士論文及びプロジェクトレポートの審査等については、東京科学大学学位規程（令和6年規程第91号）、東京科学大学大学院の学院における修士、博士及び修士（専門職）学位審査等取扱細則（令和6年細則52号）及び各学院等が定める関連内規等の定めるところによる。

（修士課程、博士課程又は専門職学位課程における単位の修得）

第14条 大学院学則第43条から第46条までに規定する各課程の修了の要件として定める単位の修得については、学院については東京科学大学大学院の学院にお

ける学修に関する細則（令和6年細則第50号）に、研究科については東京科学大学大学院の研究科における学修に関する細則（令和6年細則第51号）に、それぞれ定める。

（博士課程への進学）

第15条 大学院学則第17条に規定する進学にあたっては、各学院等が行う選考試験に合格していなければならない。

（広域学修制度）

第16条 本学に、学生の選択したコース等又は所属する専攻における専門分野以外の分野における幅広い教養及び専門力の涵養を目的として、広域学修制度を設ける。

2 前項の広域学修制度の目的を達成するため、本学に、学生が広域な学修を可能とするプログラムを置くものとする。

3 前項のプログラムは、次の各号に掲げるプログラムに分類するものとし、その趣旨は当該各号に定めるものとする。

一 挑戦的学修プログラム 新たな分野の学修に挑むことで、分野を横断した多様な素養及び幅広い視野や見識を身につけた人材を養成する。

二 特別専門学修プログラム 分野横断的、かつ、機動的に編成された教育拠点において、プロジェクト的に、大学院課程の異なる専門分野を有機的に連携した教育を実施し、先端的分野や社会の課題に対応できる実務的人材を養成する。

三 副専門学修プログラム 学生が選択したコース等又は所属する専攻における高度な専門知識の体系的な修得のほか、選択したコース等又は所属する専攻以外の分野の広範な知識・技能の修得により、複眼的並びに学際的及び俯瞰的な視点を有する人材を養成する。

4 前項の分類に基づき置かれるプログラムの履修要件等については、別に定める。

（雑則）

第17条 この規程に定めるもののほか、大学院の修士課程、博士課程及び専門職学位課程における学修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、令和6年10月1日から施行する。

2 次に掲げる規程は、廃止する。

一 東京工業大学大学院学修規程（平成16年規程第12号）

二 東京医科歯科大学大学院GPA制度に関する要項（平成24年3月12日制定）

3 令和6年9月30日において現に東京医科歯科大学の各研究科に在学する者（以下「在学者」という。）及び令和6年10月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者が適用するGPA制度については、第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

○東京科学大学大学院の研究科における学修に関する細則

令和6年10月1日

細則第51号

(趣旨)

第1条 この細則は、東京科学大学大学院学修規程(令和6年規程第94号。以下「大学院学修規程」という。)第17条の規定に基づき、東京科学大学大学院に置く医歯学総合研究科及び保健衛生学研究科における授業科目の履修等に関し必要な事項を定めるものとする。

第2条 削除

(授業)

第3条 授業は、講義、演習、実験又は実習により行う。

2 授業科目は、必修科目又は選択科目とする。

(1単位当たりの授業時間)

第4条 大学院学修規程第4条に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとし、授業科目ごとに設定する。

一 医歯学総合研究科

イ 講義及び演習については、15時間から30時間まで

ロ 実験及び実習については、30時間から45時間まで

二 保健衛生学研究科

イ 講義及び演習については、15時間から30時間まで

ロ 実験及び実習については、30時間から45時間まで

2 前項の授業時間の設定においては、次の事項に配慮しなければならない。

一 学習目標を十分に満たすこと。

二 自主的学修時間の確保

(雑則)

第5条 この細則に定めるもののほか履修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この細則は、令和6年10月1日から施行する。

2 東京医科歯科大学大学院履修規則(平成22年規則第42号。以下「旧規則」という。)は、廃止する。

3 この細則の施行の日(以下「施行日」という。)の前日において、東京医科歯科大学の各研究科に在学する学生(以下「在学者」という。)であって、施行日以後、引き続き東京科学大学の各研究科に在学する者に係る授業科目の履修等については、旧規則の規定は、なお効力を有する。

附 則(令6.11.5細77)

この細則は、令和6年11月5日から施行し、改正後の東京科学大学大学院の研究科における学修に関する細則の規定は、令和6年10月1日から適用する。

附 則(令7.5.9細13)

この細則は、令和7年5月9日から施行し、改正後の東京科学大学大学院の研究科における学修に関する細則の規定は、令和7年4月1日から適用する。

○東京科学大学大学院医歯学総合研究科博士課程学修内規

令和7年5月9日
医歯学総合研究科長制定

(趣旨)

第1条 この内規は、東京科学大学大学院学則（令和6年学則第2号。以下「大学院学則」という。）第31条、東京科学大学大学院学修規程（令和6年規程第94号。以下「学修規程」という。）第3条及び第7条並びに東京科学大学大学院の研究科における学修に関する細則（令和6年細則第51号。以下「学修細則」という。）第5条の規定に基づき、大学院医歯学総合研究科博士課程における授業科目の履修に関し、必要な事項を定めるものとする。

(授業科目の区分)

第2条 大学院医歯学総合研究科博士課程の授業科目は、次に掲げる主科目及び副科目とする。

一 主科目は、所属分野が開設する授業科目とする。

二 副科目は、前号以外の授業科目及び共通科目とする。

2 大学院医歯学総合研究科博士課程の授業科目及び修得すべき単位数は、別表に定めるものとする。

(履修届)

第3条 学生は、別表に定める授業科目のうちから、履修しようとする授業科目を所定の期日までに届け出なければならない。

(追加履修)

第4条 履修科目の追加を行う学生は、各年度当初に定められた期日までに届け出なければならない。

(履修取消し)

第5条 履修登録済みの授業科目のうち、履修を継続しない科目については、本人からの願い出により取り消すことができる。

2 医歯学専攻において履修取消しを行う学生は、原則として、前期授業科目については5月31日までに、後期授業科目、通年授業科目及び複数年授業科目の取消しについては11月30日までに、集中授業科目については当該科目の履修期間内に、別に定める履修登録科目取消願により研究科長に願い出るものとする。

3 生命理工医療科学専攻において履修取消しを行う学生は、集中講義科目以外の授業科目については各授業科目の第5回目の講義開始までに、集中講義科目については当該科目の履修期間内に、別に定める履修登録科目取消願により研究科長に願い出るものとする。

4 前3項によらず、科目責任者の判断により履修取消しを認める場合がある。

(授業方法等)

第6条 授業方法、内容及び1年間の授業計画は、履修要項において明示するものとする。

(成績評価)

第7条 成績評価について不服がある学生は、所定の期日までに所定の申立書を教

育推進部教務課湯島教務室に提出しなければならない。

(再履修)

第8条 不合格の評価を得た科目については、所定の手続により再履修できるものとする。

2 再履修した科目の成績については、再履修をした年度の成績をもって評価する。

(再入学の単位認定)

第9条 大学院学則第21条に基づき再入学を許可された者の当該大学院における既修得単位については、別表に定める科目の一部又は全部を認定する。

(適用除外)

第9条の2 国際連携専攻については、第2条第1項、第3条から第5条まで及び第7条の規定は適用しない。

(雑則)

第10条 この内規に定めるもののほか、大学院医歯学総合研究科博士課程における授業科目の履修に関する必要事項は、研究科委員会において別に定める。

附 則

1 この内規は、令和7年5月9日から施行し、次項の規定以外の規定は、令和6年10月1日から適用する。

2 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科博士課程履修内規（平成28年1月20日医歯学総合研究科長制定）は、廃止する。

附 則（令7.5.9）

この内規は、令和7年5月9日から施行し、改正後の東京科学大学大学院医歯学総合研究科博士課程学修内規の規定は、令和7年4月1日から適用する。

附 則（令7.9.17）

この内規は、令和7年9月17日から施行し、現に東京科学大学・チリ大学国際連携医学系専攻に所属する学生から適用する。

別表

(1) 大学院医歯学総合研究科博士課程医歯学専攻

科目区分	授業科目の名称	単位数	
		必修	選択
専攻共通科目	初期研究研修＊2		1
	医歯学総合特論（大学院セミナー）＊2		2
	医歯学先端研究特論（大学院特別講義）		4
	医歯学総合研究科コース特論＊2		6
	包括臨床演習		8
	Essential Expertise for Clinical Dentistry(EECD)		1
	疾患予防パブリックヘルス医学概論＊2		2

		マネジメント特論＊1	1
		国際動向特論＊1	1
		知的財産特論＊1	1
		英語ディベート特論＊1	1
		英語プレゼンテーション特論＊1	1
		疾患生命科学特論	2
		先端機能分子特論	1
		機能分子開発技術特論	1
		機能再建材料学特論	1
		組織再生材料学特論	1
		生体機能材料学特論	1
		医用材料工学特論	1
		生体情報数理解析論	1
		理研生体分子制御学特論	2
		先端口腔保健応用学特論	2
		先端口腔保健応用学演習	1
		先端口腔保健工学特論	1
		硬組織研究・骨形態計測学特論	1
		実践疫学	2
		アドバンス生物統計学	2
		公衆衛生のための医学・生物学	2
		医療システム・マネジメント	2
		グローバルヘルス	4
		母子保健	2
		ヘルスケアビジネス	2
		行動科学	2
		地球環境と健康	2
先制 医歯 理工	共通科目	先制医歯理工学概論Ⅰ	1
		先制医歯理工学概論Ⅱ	1
		データサイエンス特論Ⅰ	1

学 科 目		データサイエンス特論Ⅱ	1
		データサイエンス特論Ⅲ	1
		データサイエンス特論Ⅳ	1
	臨床統計・バイオ インフォマテ クス専門科目	疫学 臨床・遺伝統計学	2 2
先進医療デバイ スIoT学専門科目	先端バイオセンシングデバイス特論	1	
	医療デバイス・システム機器特論	1	
	ウェアラブルIoT技術特論	1	
疾患生命創薬科 学専門科目	疾患分子病態学特論	1	
	先端ケミカルバイオロジー特論	1	
	生体分子制御学特論	1	
臨床疫学科目	疫学基礎＊3	1	
	生物統計学基礎＊3	1	
	生物統計学応用Ⅰ＊3	1	
	生物統計学応用Ⅱ＊3	1	
	臨床試験方法論基礎＊3	1	
	臨床試験方法論応用＊3	1	
	口腔疫学基礎＊3	1	
	疫学応用＊3	1	
臨床疫学解析演習＊4	1		
次世代がん医療を担う 多職種人材養成プラン 科目	がんの生物学・解剖学・病理学	1	
	がんゲノム治療学演習	1	
	低侵襲がん治療Ⅰ	1	
	低侵襲がん治療Ⅱ	1	
	臓器別がん	1	
	小児・希少がん	1	
	臨床腫瘍学	1	
	がんゲノム医療	1	
	造血器腫瘍	1	

	腫瘍放射線生物学特論		1
	放射線診断学・核医学特論		1
	腫瘍放射線治療学特論		1
	がん化学療法特論		1
	緩和ケア・緩和医療学		1
	がん病理診断学		1
	口腔がん・がん口腔支持療法		1
	腫瘍循環器		1
	がんゲノム医療実習		4
	造血器腫瘍実践演習		2
	がん病理診断演習		1
	腫瘍循環器実践演習		2
口腔病理学分野科目	口腔病理学特論	6	※
	口腔病理学演習	4	
	研究実習	8	
細菌感染制御学分野科目	細菌感染制御学特論	6	※
	細菌感染制御学演習	4	
	研究実習	8	
口腔生命医科学分野科目	口腔生命医科学特論	6	※
	口腔生命医科学演習	4	
	研究実習	8	
先端材料評価学分野科目	先端材料評価学特論	6	※
	先端材料評価学演習	4	
	研究実習	8	
歯科放射線診断・治療学分野科目	歯科放射線診断・治療学特論	6	※
	歯科放射線診断・治療学演習	4	
	研究実習	8	
顎口腔腫瘍外科学分野科目	顎口腔腫瘍外科学特論	6	※
	顎口腔腫瘍外科学演習	4	
	研究実習	8	

歯科麻酔学分野科目	歯科麻酔学特論	6	※
	歯科麻酔学演習	4	
	研究実習	8	
小児歯科学・障害者歯科学分野科目	小児歯科学・障害者歯科学特論	6	※
	小児歯科学・障害者歯科学演習	4	
	研究実習	8	
咬合機能矯正学分野科目	咬合機能矯正学特論	6	※
	咬合機能矯正学演習	4	
	研究実習	8	
う蝕制御学分野科目	う蝕制御学特論	6	※
	う蝕制御学演習	4	
	研究実習	8	
咬合機能健康科学分野科目	咬合機能健康科学特論	6	※
	咬合機能健康科学演習	4	
	研究実習	8	
歯髄生物学分野科目	歯髄生物学特論	6	※
	歯髄生物学演習	4	
	研究実習	8	
生体補綴歯科学分野科目	生体補綴歯科学特論	6	※
	生体補綴歯科学演習	4	
	研究実習	8	
口腔再生再建学分野科目	口腔再生再建学特論	6	※
	口腔再生再建学演習	4	
	研究実習	8	
口腔デバイス・マテリアル学分野科目	口腔デバイス・マテリアル学特論	6	※
	口腔デバイス・マテリアル学演習	4	
	研究実習	8	
形成・再建外科学分野科目	形成・再建外科学特論	6	※
	形成・再建外科学演習	4	
	研究実習	8	

頭頸部外科学分野科目	頭頸部外科学特論	6	※
	頭頸部外科学演習	4	
	研究実習	8	
腫瘍放射線治療学分野科目	腫瘍放射線治療学特論	6	※
	腫瘍放射線治療学演習	4	
	研究実習	8	
口腔顎顔面解剖学分野科目	口腔顎顔面解剖学特論	6	※
	口腔顎顔面解剖学演習	4	
	研究実習	8	
認知神経生物学分野科目	認知神経生物学特論	6	※
	認知神経生物学演習	4	
	研究実習	8	
分子発生・口腔組織学分野科目	分子発生・口腔組織学特論	6	※
	分子発生・口腔組織学演習	4	
	研究実習	8	
分子細胞機能学分野科目	分子細胞機能学特論	6	※
	分子細胞機能学演習	4	
	研究実習	8	
顎顔面外科学分野科目	顎顔面外科学特論	6	※
	顎顔面外科学演習	4	
	研究実習	8	
顎顔面矯正学分野科目	顎顔面矯正学特論	6	※
	顎顔面矯正学演習	4	
	研究実習	8	
生体組織再建外科学分野科目	生体組織再建外科学特論	6	※
	生体組織再建外科学演習	4	
	研究実習	8	
細胞生物学分野科目	細胞生物学特論	6	※
	細胞生物学演習	4	
	研究実習	8	

病態代謝解析学分野科目	病態代謝解析学特論	6	※
	病態代謝解析学演習	4	
	研究実習	8	
運動器外科学分野科目	運動器外科学特論	6	※
	運動器外科学演習	4	
	研究実習	8	
病態生化学分野科目	病態生化学特論	6	※
	病態生化学演習	4	
	研究実習	8	
分子情報伝達学分野科目	分子情報伝達学特論	6	※
	分子情報伝達学演習	4	
	研究実習	8	
歯周病学分野科目 (歯周病学担当)	歯周病学Ⅰ特論	6	※
	歯周病学Ⅰ演習	4	
	研究実習	8	
歯周病学分野科目 (歯周光線治療学担当)	歯周病学Ⅱ特論	6	※
	歯周病学Ⅱ演習	4	
	研究実習	8	
生体情報継承学分野科目	生体情報継承学特論	6	※
	生体情報継承学演習	4	
	研究実習	8	
無機生体材料学分野科目	無機生体材料学特論	6	※
	無機生体材料学演習	4	
	研究実習	8	
公衆衛生学分野科目	公衆衛生学特論	6	※
	公衆衛生学演習	4	
	研究実習	8	
寄生虫学・熱帯医学分野科目	寄生虫学・熱帯医学特論	6	※
	寄生虫学・熱帯医学演習	4	
	研究実習	8	

法医学分野科目	法医学特論	6	※
	法医学演習	4	
	研究実習	8	
政策科学分野科目	政策科学特論	6	※
	政策科学演習	4	
	研究実習	8	
人体模倣システム分野科目	人体模倣システム特論	6	※
	人体模倣システム演習	4	
	研究実習	8	
医療政策情報学分野科目	医療政策情報学特論	6	※
	医療政策情報学演習	4	
	研究実習	8	
先進倫理医科学分野科目	先進倫理医科学特論	6	※
	先進倫理医科学演習	4	
	研究実習	8	
法歯学分野科目	法歯学特論	6	※
	法歯学演習	4	
	研究実習	8	
歯学教育開発学分野科目	歯学教育開発学特論	6	※
	歯学教育開発学演習	4	
	研究実習	8	
歯科公衆衛生学分野科目	歯科公衆衛生学特論	6	※
	歯科公衆衛生学演習	4	
	研究実習	8	
歯学教育システム評価学分野科目	歯学教育システム評価学特論	6	※
	歯学教育システム評価学演習	4	
	研究実習	8	
教育メディア開発学分野科目	教育メディア開発学特論	6	※
	教育メディア開発学演習	4	
	研究実習	8	

保険医療管理学分野科目	保険医療管理学特論	6	※
	保険医療管理学演習	4	
	研究実習	8	
国際保健医療事業開発学分野科目	国際保健医療事業開発学特論	6	※
	国際保健医療事業開発学演習	4	
	研究実習	8	
臨床統計学分野科目	臨床統計学特論	6	※
	臨床統計学演習	4	
	研究実習	8	
感染症健康危機管理学分野科目	感染症健康危機管理学特論	6	※
	感染症健康危機管理学演習	4	
	研究実習	8	
医療安全管理学分野科目	医療安全管理学特論	6	※
	医療安全管理学演習	4	
	研究実習	8	
リハビリテーション医学分野科目	リハビリテーション医学特論	6	※
	リハビリテーション医学演習	4	
	研究実習	8	
高齢者歯科学分野科目	高齢者歯科学特論	6	※
	高齢者歯科学演習	4	
	研究実習	8	
摂食嚥下リハビリテーション学分野科目	摂食嚥下リハビリテーション学特論	6	※
	摂食嚥下リハビリテーション学演習	4	
	研究実習	8	
臨床検査医学分野科目	臨床検査医学特論	6	※
	臨床検査医学演習	4	
	研究実習	8	
生体集中管理学分野科目	生体集中管理学特論	6	※
	生体集中管理学演習	4	
	研究実習	8	

臨床医学教育開発学分野科目	臨床医学教育開発学特論	6	※
	臨床医学教育開発学演習	4	
	研究実習	8	
救急災害医学分野科目	救急災害医学特論	6	※
	救急災害医学演習	4	
	研究実習	8	
臨床腫瘍学分野科目 (腫瘍内科学・緩和医療学担当)	臨床腫瘍学Ⅰ特論	6	※
	臨床腫瘍学Ⅰ演習	4	
	研究実習Ⅰ	8	
臨床腫瘍学分野科目 (がんゲノム治療学担当)	臨床腫瘍学Ⅱ特論	6	※
	臨床腫瘍学Ⅱ演習	4	
	研究実習Ⅱ	8	
総合診療歯科学分野科目	総合診療歯科学特論	6	※
	総合診療歯科学演習	4	
	研究実習	8	
歯科心身医学分野科目	歯科心身医学特論	6	※
	歯科心身医学演習	4	
	研究実習	8	
総合診療医学分野科目	総合診療医学特論	6	※
	総合診療医学演習	4	
	研究実習	8	
統合臨床感染症学分野科目	統合臨床感染症学特論	6	※
	統合臨床感染症学演習	4	
	研究実習	8	
神経機能形態学分野科目	神経機能形態学特論	6	※
	神経機能形態学演習	4	
	研究実習	8	
システム神経生理学分野科目	システム神経生理学特論	6	※
	システム神経生理学演習	4	
	研究実習	8	

細胞動態学分野科目	細胞動態学特論	6	※
	細胞動態学演習	4	
	研究実習	8	
神経病理学分野科目	神経病理学特論	6	※
	神経病理学演習	4	
	研究実習	8	
眼科学分野科目	眼科学特論	6	※
	眼科学演習	4	
	研究実習	8	
耳鼻咽喉科学分野科目	耳鼻咽喉科学特論	6	※
	耳鼻咽喉科学演習	4	
	研究実習	8	
脳神経病態学分野科目	脳神経病態学特論	6	※
	脳神経病態学演習	4	
	研究実習	8	
精神行動医科学分野科目 (精神行動医科学担当)	精神行動医科学Ⅰ特論	6	※
	精神行動医科学Ⅰ演習	4	
	研究実習	8	
精神行動医科学分野科目 (犯罪精神医科学担当)	精神行動医科学Ⅱ特論	6	※
	精神行動医科学Ⅱ演習	4	
	研究実習	8	
精神行動医科学分野科目 (リエゾン精神医学— 精神腫瘍学担当)	精神行動医科学Ⅲ特論	6	※
	精神行動医科学Ⅲ演習	4	
	研究実習	8	
脳神経機能外科学分野科目	脳神経機能外科学特論	6	※
	脳神経機能外科学演習	4	
	研究実習	8	
血管内治療学分野科目	血管内治療学特論	6	※
	血管内治療学演習	4	

	研究実習	8	
NCNP脳機能病態学分野科目	NCNP脳機能病態学特論 NCNP脳機能病態学演習 研究実習	6 4 8	※
マテリアル神経科学分野科目	マテリアル神経科学特論 マテリアル神経科学演習 研究実習	6 4 8	※
免疫学分野科目	免疫学特論 免疫学演習 研究実習	6 4 8	※
ウイルス制御学分野科目	ウイルス制御学特論 ウイルス制御学演習 研究実習	6 4 8	※
生体防御学分野科目	生体防御学特論 生体防御学演習 研究実習	6 4 8	※
環境生物学分野科目	環境生物学特論 環境生物学演習 研究実習	6 4 8	※
免疫制御学分野科目	免疫制御学特論 免疫制御学演習 研究実習	6 4 8	※
脂質生物学分野科目	脂質生物学特論 脂質生物学演習 研究実習	6 4 8	※
発生発達病態学分野科目	発生発達病態学特論 発生発達病態学演習 研究実習	6 4 8	※
膠原病・リウマチ内科学分野科目	膠原病・リウマチ内科学特論 膠原病・リウマチ内科学演習	6 4	※

	研究実習	8	
皮膚科学分野科目	皮膚科学特論	6	※
	皮膚科学演習	4	
	研究実習	8	
NCCHD成育医学分野科目	NCCHD成育医学特論	6	※
	NCCHD成育医学演習	4	
	研究実習	8	
ハイリスク感染症研究マネジメント学分野科目	ハイリスク感染症研究マネジメント学特論	6	※
	ハイリスク感染症研究マネジメント学演習	4	
	研究実習	8	
人体病理学分野科目	人体病理学特論	6	※
	人体病理学演習	4	
	研究実習	8	
細胞生理学分野科目	細胞生理学特論	6	※
	細胞生理学演習	4	
	研究実習	8	
幹細胞制御分野科目	幹細胞制御特論	6	※
	幹細胞制御演習	4	
	研究実習	8	
統合呼吸器病学分野科目	統合呼吸器病学特論	6	※
	統合呼吸器病学演習	4	
	研究実習	8	
消化器病態学分野科目Ⅰ	消化器病態学特論Ⅰ	6	※
	消化器病態学演習Ⅰ	4	
	研究実習Ⅰ	8	
消化器病態学分野科目Ⅱ	消化器病態学特論Ⅱ	6	※
	消化器病態学演習Ⅱ	4	
	研究実習Ⅱ	8	

総合外科学分野科目 (総合外科学担当)	総合外科学Ⅰ特論 総合外科学Ⅰ演習 研究実習Ⅰ	6 4 8	※
総合外科学分野 (小児外科学担当)	総合外科学Ⅱ特論 総合外科学Ⅱ演習 研究実習Ⅱ	6 4 8	※
循環制御内科学分野科目	循環制御内科学特論 循環制御内科学演習 研究実習	6 4 8	※
心肺統御麻酔学分野科目 (心肺統御麻酔学担当)	心肺統御麻酔学Ⅰ特論 心肺統御麻酔学Ⅰ演習 研究実習Ⅰ	6 4 8	※
心肺統御麻酔学分野科目 (周産期・小児麻酔学担当)	心肺統御麻酔学Ⅱ特論 心肺統御麻酔学Ⅱ演習 研究実習Ⅱ	6 4 8	※
心臓血管外科学分野科目 (心臓血管外科学担当)	心臓血管外科学Ⅰ特論 心臓血管外科学Ⅰ演習 研究実習Ⅰ	6 4 8	※
心臓血管外科学分野科目 (末梢血管外科学担当)	心臓血管外科学Ⅱ特論 心臓血管外科学Ⅱ演習 研究実習Ⅱ	6 4 8	※
腎臓内科学分野科目	腎臓内科学特論 腎臓内科学演習 研究実習	6 4 8	※
生殖機能協関学分野科目	生殖機能協関学特論 生殖機能協関学演習 研究実習	6 4 8	※
腎泌尿器外科学分野科目	腎泌尿器外科学特論 腎泌尿器外科学演習	6 4	※

	研究実習	8	
消化管外科学分野科目	消化管外科学特論 消化管外科学演習 研究実習	6 4 8	※
呼吸器外科学分野科目	呼吸器外科学特論 呼吸器外科学演習 研究実習	6 4 8	※
都医学研疾患分子生物学分野科目	都医学研疾患分子生物学特論 都医学研疾患分子生物学演習 研究実習	6 4 8	※
臨床解剖学分野科目	臨床解剖学特論 臨床解剖学演習 研究実習	6 4 8	※
システム発生・再生医学分野科目	システム発生・再生医学特論 システム発生・再生医学演習 研究実習	6 4 8	※
包括病理学分野科目	包括病理学特論 包括病理学演習 研究実習	6 4 8	※
分子腫瘍医学分野科目	分子腫瘍医学特論 分子腫瘍医学演習 研究実習	6 4 8	※
診断病理学分野科目	診断病理学特論 診断病理学演習 研究実習	6 4 8	※
疾患モデル動物解析学分野科目	疾患モデル動物解析学特論 疾患モデル動物解析学演習 研究実習	6 4 8	※
先端計測開発医学分野科目	先端計測開発医学特論 先端計測開発医学演習	6 4	※

	研究実習	8	
生命機能医学分野科目	生命機能医学特論	6	※
	生命機能医学演習	4	
	研究実習	8	
統合ストレス医科学分野科目	統合ストレス医科学特論	6	※
	統合ストレス医科学演習	4	
	研究実習	8	
血液内科学分野科目	血液内科学特論	6	※
	血液内科学演習	4	
	研究実習	8	
分子内分泌代謝学分野科目	分子内分泌代謝学特論	6	※
	分子内分泌代謝学演習	4	
	研究実習	8	
肝胆膵外科学分野科目	肝胆膵外科学特論	6	※
	肝胆膵外科学演習	4	
	研究実習	8	
整形外科学分野科目	整形外科学特論	6	※
	整形外科学演習	4	
	研究実習	8	
画像診断・核医学分野科目	画像診断・核医学特論	6	※
	画像診断・核医学演習	4	
	研究実習	8	
ゲノム機能多様性分野科目	ゲノム機能多様性特論	6	※
	ゲノム機能多様性演習	4	
	研究実習	8	
疾患多様性遺伝学分野科目	疾患多様性遺伝学特論	6	※
	疾患多様性遺伝学演習	4	
	研究実習	8	
応用再生医学分野科目	応用再生医学特論	6	※
	応用再生医学演習	4	

	研究実習	8	
計算システム生物学分野科目	計算システム生物学特論 計算システム生物学演習 研究実習	6 4 8	※
先端バイオマテリアル分野科目	先端バイオマテリアル特論 先端バイオマテリアル演習 研究実習	6 4 8	※
JFCR腫瘍制御学分野科目	JFCR腫瘍制御学特論 JFCR腫瘍制御学演習 研究実習	6 4 8	※
ゲノム健康医療学分野科目	ゲノム健康医療学特論 ゲノム健康医療学演習 研究実習	6 4 8	※
器官発生・創生学分野科目	器官発生・創生学特論 器官発生・創生学演習 研究実習	6 4 8	※
統合データ科学分野科目	統合データ科学特論 統合データ科学演習 研究実習	6 4 8	※
生物統計学分野科目	生物統計学特論 生物統計学演習 研究実習	6 4 8	※
AIシステム医科学分野科目	AIシステム医科学特論 AIシステム医科学演習 研究実習	6 4 8	※
神経免疫学分野科目	神経免疫学特論 神経免疫学演習 研究実習	6 4 8	※
NIID統合微生物学分野科目	NIID統合微生物学特論 NIID統合微生物学演習	6 4	※

	研究実習	8	
--	------	---	--

1 下記に示す修了要件単位を修得すること。

所属教育研究分野が開設する授業科目（特論、演習、研究実習）18単位、所属教育研究分野以外が開設する特論（※）及び専攻共通科目、先制医歯理工学科目、並びに次世代がん医療を担う多職種人材養成プラン科目から12単位以上。ただし、教育研究分野の改組等に伴う所属異動の場合には、異動前の所属教育研究分野が開設する授業科目の履修をもって、所属教育研究分野が開設する授業科目の履修とみなす。

2 臨床統計・バイオインフォマティクスプログラムを履修する学生は、医歯学専攻の修了要件を満たし、臨床統計・バイオインフォマティクスプログラム指定科目（専攻共通科目（*1及び2）、所属教育研究分野以外が開設する特論（※）、先制医歯理工学科目共通科目、臨床統計・バイオインフォマティクス専門科目、先進医療デバイスIoT学専門科目及び疾患生命創薬科学専門科目から合わせて12単位以上（ただし、専攻共通科目（*1）から1単位以上、先制医歯理工学科目共通科目から1単位以上、臨床統計・バイオインフォマティクス専門科目から2単位以上））を全て履修し、単位を修得した場合、臨床統計・バイオインフォマティクスプログラムに関する学修成果を認定する。

3 次世代がん医療を担う多職種人材養成プランの授業科目を履修する学生は、医歯学専攻の修了要件を満たし、次世代がん医療を担う多職種人材養成プラン授業科目から6単位以上履修し、単位を修得した場合、次世代がん医療を担う多職種人材養成プランに関する学修成果を認定する。

4 臨床疫学プログラムを履修する学生は、医歯学専攻の修了要件を満たし、臨床疫学プログラム指定科目（臨床疫学科目から選択科目（*3）を5単位以上かつ必修科目（*4））を全て履修し、単位を修得した場合、臨床疫学プログラムに関する学修成果を認定する。

(2) 大学院医歯学総合研究科国際連携専攻

①東京科学大学・チリ大学国際連携医学系専攻

科目区分		授業科目の名称	開設大学	単位数	
				必修	選択
共通 科目 群	一般教養科目	癌のゲノムとバイオ情報工学	チリ大学		3
		英語での科学論文ディスカッション	チリ大学		3
		学術英語における文法及び記述コミュニケーションスキル	チリ大学		4
		生体医科学研究の倫理	チリ大学		3

	内科病態生理学基礎	チリ大学		1
	大学間連携成人重症患者 コース	チリ大学		2
	初期研究研修	東京科学大学	1	
基礎科目	細胞生理学	チリ大学		5
	癌に関わる細胞及び分子 生物学	チリ大学		5
	システム生理学	チリ大学		5
	免疫学入門	チリ大学		4
	基礎薬理学	チリ大学		4
	分子微生物学	チリ大学		4
	臨床研究の方法論の基礎	チリ大学		3
	細胞・分子生物学	チリ大学		5
	生物統計学	チリ大学		3
	臨床研究方法論入門	チリ大学		1
	酸化ストレスに関連する 細胞保護と病理学	チリ大学		4
	遺伝学における科学コミ ュニケーション I	チリ大学		1
	ビッグデータ解析学	東京科学大学		1
	総合外科学研究概論	東京科学大学		4
	消化管外科学研究概論	東京科学大学		4
応用科目	細胞・分子生物学上級	チリ大学		3
	器官系統特殊生理病理学	チリ大学		4
	細胞分子免疫学	チリ大学		3
	遺伝医学	チリ大学		4
	人類生化学	チリ大学		5
	生体医科学における細胞 シグナル伝達	チリ大学		3
	診断・臨床研究への応用 分子生物学	チリ大学		3

		疫学	チリ大学		2
		バイオインフォマティクス1	チリ大学		2
		バイオインフォマティクス2	チリ大学		2
		生体医学の分子生物学	チリ大学		3
		臨床薬理学	チリ大学		3
		システム生理学Ⅱ	チリ大学		4
		機能分子化学	東京科学大学		2
		疾患予防パブリックヘルス医学概論	東京科学大学		2
		臨床腫瘍学研究特論	東京科学大学		4
研究演習		基礎研究演習	チリ大学	15	
		臨床研究演習	チリ大学	15	
文献ゼミナール		文献ゼミナール	チリ大学	3	
専門 科目 群	上部消化管外科	上部消化管外科臨床基礎	チリ大学		20
		上部消化管外科臨床応用	チリ大学		27
		上部消化管外科臨床基礎	東京科学大学		20
		上部消化管外科臨床応用Ⅰ	東京科学大学		35
		上部消化管外科臨床応用Ⅱ	東京科学大学		8
	大腸肛門外科	大腸肛門外科臨床基礎	チリ大学		20
		大腸肛門外科臨床応用	チリ大学		27
		大腸肛門外科臨床基礎	東京科学大学		20
		大腸肛門外科臨床応用Ⅰ	東京科学大学		35
		大腸肛門外科臨床応用Ⅱ	東京科学大学		8
	胃腸病内科	胃腸病内科臨床基礎	チリ大学		20
		胃腸病内科臨床応用	チリ大学		27
		胃腸病内科臨床基礎	東京科学大学		20
		胃腸病内科臨床応用Ⅰ	東京科学大学		35

		胃腸病内科臨床応用Ⅱ	東京科学大学		8
特別研究	特別研究		チリ大学	56	
	特別研究		東京科学大学	56	

下記の1から4に示す修了要件を全て満たし、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

- 1 共通科目群のうち、必修科目である一般教養科目の初期研究研修（1単位）、研究演習2科目（30単位）及び文献ゼミナール1科目（3単位）を修得すること。
- 2 共通科目群のうち、選択科目である一般教養科目1科目（3単位）以上、基礎科目3科目（9単位）以上、応用科目3科目（6単位）以上を修得すること。
- 3 専門科目群のうち、「上部消化管外科」、「大腸肛門外科」、「胃腸病内科」の3分野から1分野を選択し、学生の医師資格に応じて選択した分野の指定科目（55単位）（※）を修得すること。

※指定科目については以下のとおり

- 一 チリ国医師資格を持つ学生の場合、臨床基礎（チリ大学）、臨床応用（チリ大学）及び臨床応用Ⅱ（東京科学大学）の3科目。
 - 二 日本国医師資格を持つ学生の場合、臨床基礎（東京科学大学）、臨床応用Ⅰ（東京科学大学）の2科目。
- 4 必修科目である特別研究を2科目（112単位）修得すること。

②東京科学大学・チュラロンコーン大学国際連携歯学系専攻

科目区分	授業科目の名称	開設大学	単位数	
			必修	選択
基礎科目	歯科矯正学総論	チュラロンコーン大学	1	
	歯科矯正学基礎	チュラロンコーン大学	2	
	基礎歯科矯正学セミナー	チュラロンコーン大学	1	
	骨生物学	チュラロンコーン大学		2
専門科目	論文・博士論文セミナー	チュラロンコーン大学	24	
	咬合機能矯正学特論	東京科学大学		6
	咬合機能矯正学研究実習	東京科学大学		8

	咬合機能矯正学実験・論文作成	東京科学大学		10
	顎顔面矯正学特論	東京科学大学		6
	顎顔面矯正学研究実習	東京科学大学		8
	顎顔面矯正学実験・論文作成	東京科学大学		10
臨床科目	歯科矯正学技法	チュラロンコーン 大学	3	
	包括的治療手順	チュラロンコーン 大学	2	
	上級歯科矯正学セミナー	チュラロンコーン 大学	1	
	矯正演習	チュラロンコーン 大学	1	
	矯正臨床トレーニング1	チュラロンコーン 大学	2	
	矯正臨床トレーニング2	チュラロンコーン 大学	1	
	矯正臨床トレーニング3	チュラロンコーン 大学	4	
	上級矯正臨床トレーニング1	チュラロンコーン 大学	1	
	上級矯正臨床トレーニング2	チュラロンコーン 大学	3	
	上級矯正臨床トレーニング3	チュラロンコーン 大学	1	
	歯科矯正学における写真とコンピューター	チュラロンコーン 大学		1
	歯科矯正学教育実習	チュラロンコーン 大学		1
	歯学研究提案書作成	チュラロンコーン 大学		1
	歯学研究報告書作成	チュラロンコーン 大学		1

下記の1から3に示す修了要件を全て満たし、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

- 1 基礎科目、専門科目、臨床科目のうち、必修科目である47単位を修得すること。
- 2 専門科目のうち、咬合機能矯正学の授業科目である咬合機能矯正学特論（6単位）、咬合機能矯正学研究実習（8単位）、咬合機能矯正学実験・論文作成（10単位）の組合せ、又は顎顔面矯正学の授業科目である顎顔面矯正学特論（6単位）、顎顔面矯正学研究実習（8単位）、顎顔面矯正学実験・論文作成（10単位）の組合せ、どちらかを選択し24単位を修得すること。
 なお、咬合機能矯正学の授業科目と顎顔面矯正学の授業科目とを併せた組み合わせはできない。
- 3 臨床科目のうち、歯科矯正学における写真とコンピューター（1単位）、歯科矯正学教育実習（1単位）、アカデミック・ライティング（1単位）の3科目のうち1科目（1単位）以上を修得すること。

③東京科学大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻

科目区分	授業科目の名称	開設大学	単位数	
			必修	選択
臨床基幹科目	臨床基幹科目Ⅰ（Science Tokyo）	東京科学大学		2
	臨床基幹科目Ⅰ（MU）	マヒドン大学		2
	臨床基幹科目Ⅱ	東京科学大学・マヒドン大学	5	
臨床統計・情報医科学関連専門科目	疾患予防パブリックヘルス医学概論	東京科学大学		2
	疫学	東京科学大学		2
	臨床・遺伝統計学	東京科学大学		2
	生物医学研究法	マヒドン大学		2
	生物医学統計概論	マヒドン大学		2
がん医療専門科目	がん生物学・解剖学・病理特論	東京科学大学		1
	低侵襲がん治療Ⅰ	東京科学大学		1
	低侵襲がん治療Ⅱ	東京科学大学		1
	臓器別がん	東京科学大学		1
	小児・希少がん	東京科学大学		1
	臨床腫瘍学	東京科学大学		1
	がんゲノム	東京科学大学		1

		緩和ケア・緩和医療学	東京科学大学		1	
		がんの生物学とがんの免疫学概論	マヒドン大学		1	
		幹細胞治療学概論	マヒドン大学		1	
		標準検査学概論	マヒドン大学		1	
		がんの画像診断学概論	マヒドン大学		1	
		泌尿器科ロボット支援手術	マヒドン大学		1	
		基礎鏡視下手術概論	マヒドン大学		1	
		消化器癌における学際的内視鏡診学	マヒドン大学		1	
		周術期患者管理学概論	マヒドン大学		1	
		婦人科がん治療学概論	マヒドン大学		1	
研究基幹 科目	外科 系専 門分 野	総合外科学特論	東京科学大学		4	
		消化管外科学特論	東京科学大学		4	
		肝胆膵外科学特論 (Science Tokyo)	東京科学大学		4	
		頭頸部外科学特論	東京科学大学		4	
		腎泌尿器外科学特論 (Science Tokyo)	東京科学大学		4	
		婦人科腫瘍学特論 (Science Tokyo)	東京科学大学		4	
		上部消化管外科学特論	マヒドン大学		4	
		下部消化管外科学特論	マヒドン大学		4	
		肝胆膵外科学特論(MU)	マヒドン大学		4	
		血管外科学特論	マヒドン大学		4	
		頭頸部・乳腺外科学特論	マヒドン大学		4	
		泌尿器外科学特論(MU)	マヒドン大学		4	
		婦人科腫瘍学特論(MU)	マヒドン大学		4	
			外科 系関	幹細胞制御特論	東京科学大学	
			臨床解剖学特論	東京科学大学		4

	連医 科学 分野	発生再生生物学特論	東京科学大学		4
		バイオメカニクス特論	東京科学大学		4
		臨床腫瘍学特論	東京科学大学		4
		システム薬理学特論	マヒドン大学		4
		幹細胞科学特論	マヒドン大学		4
研究実践と論 文作成		研究実践と論文作成	東京科学大学	24	
		(Science Tokyo) 研究実践と論文作成(MU)	マヒドン大学	24	

下記の1から6に示す修了要件を全て満たし、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

- 1 臨床基幹科目群から、選択科目である「臨床基幹科目Ⅰ（2単位）」を本学、又はマヒドン大学で修得すること。
- 2 共同開設科目である「臨床基幹科目Ⅱ（5単位）」を、学生の移動に合わせて本学及びマヒドン大学で修得すること。
- 3 臨床統計・情報医科学関連専門科目群から、選択科目4単位以上修得すること。
- 4 がん医療専門科目群から、選択科目5単位以上修得すること。
- 5 研究基幹科目群から、選択科目である外科系専門分野の科目8単位、又は外科系専門分野の科目4単位と外科関連医科学分野の科目4単位を修得すること。
- 6 必修科目である「研究実践と論文作成（24単位）（Science Tokyo）、（MU）」を両大学で履修し、合計48単位修得すること。

(3) 大学院医歯学総合研究科後期3年博士課程生命理工医療科学専攻

科目区分	授業科目の名称	単位数	
		必修	選択
一般科目	マネジメント特論*1, *2		1
	国際動向特論*1, *2		1
	知的財産特論*1, *2		1
	英語ディベート特論*1, *2		1
	英語プレゼンテーション特論*1, *2		1
専門科目	疾患生命科学特論*1, *2		2
	先端機能分子特論*1, *2		1
	機能分子開発技術特論*1, *2		1
	機能再建材料学特論*1, *2		1

		組織再生材料学特論 * 1, * 2	1
		生体機能材料学特論 * 1, * 2	1
		医用材料工学特論 * 1, * 2	1
		生体情報数理解析論 * 1, * 2	1
		理研生体分子制御学特論 * 1, * 2	2
		病態推論特論 * 1, * 2	2
		高度臨床実践特別演習入門 * 1, * 2	1
		高度臨床実践特別演習 I * 1, * 2	2
		高度臨床実践特別演習 II * 1, * 2	2
		疾患予防パブリックヘルス医学概論 * 1, * 2	2
		臨床・遺伝統計学	2
		先端口腔保健応用学特論	2
		先端口腔保健応用学演習	1
		先端口腔保健工学特論	1
		硬組織研究・骨形態計測学特論	1
先制医歯理工学科 目	共通科目	先制医歯理工学概論 I * 1, * 2	1
		先制医歯理工学概論 II * 1, * 2	1
		データサイエンス特論 I * 1, * 2	1
		データサイエンス特論 II * 1, * 2	1
		データサイエンス特論 III * 1, * 2	1
		データサイエンス特論 IV * 1, * 2	1
		Advanced Human Pathology for Graduate Students * 1, * 2	1
	先進医療 デバイス IoT学専 門科目	先端バイオセンシングデバイス特論 * 1	1
		医療デバイス・システム機器特論 * 1	1
		ウェアラブルIoT技術特論 * 1	1
臨床検査法開発学特論 * 1		1	
疾患生命 創薬科学	疾患分子病態学特論 * 2	1	
	先端ケミカルバイオロジー特論 * 2	1	

	専門科目	生体分子制御学特論＊2	1
臨床疫学科目		疫学基礎＊3	1
		生物統計学基礎＊3	1
		生物統計学応用Ⅰ＊3	1
		生物統計学応用Ⅱ＊3	1
		臨床試験方法論基礎＊3	1
		臨床試験方法論応用＊3	1
		口腔疫学基礎＊3	1
		疫学応用＊3	1
		臨床疫学解析演習＊4	1
演習科目		センサ医工学演習	6
		情報医工学演習	6
		精密医工学演習	6
		物質医工学演習	6
		薬化学演習	6
		生命有機化学演習	6
		ソフトマター医工学演習	6
		有機生体材料学演習	6
		診断治療システム医工学演習	6
		セラミックバイオマテリアル演習	6
		先進バイオ分子医学演習	6
		分子細胞生物学演習	6
		発生再生生物学演習	6
		先端ナノ医工学演習	6
		分子構造情報演習	6
		機能分子病態学演習	6
		生体情報薬理学演習	6
		疾患ゲノム機能演習	6
		ゲノム機能情報演習	6
	医化学演習	6	

	恒常性医学演習	6	
	計算創薬科学演習	6	
	理研生体分子制御学演習	6	
	メディシナルケミストリー演習	6	
	NCC腫瘍医科学演習	6	
	細胞分子医学演習	6	
	領域創成科学演習	6	
	データ科学アルゴリズム設計・解析演習	6	
	AI技術開発演習	6	
	分子機構免疫学演習	6	
	ロボット科学演習	6	
	形態情報解析学演習	5	
	血液・生体システム解析学演習	5	
	生命情報応用学演習	5	
	疾患生理機能解析学演習	5	
	臨床分析・分子生物学演習	5	
	微生物・感染免疫解析学演習	5	
	生体検査科学セミナーⅡ	1	
	生涯口腔保健衛生学演習	5	
	健康支援口腔保健衛生学演習	5	
	口腔疾患予防学演習	5	
	地域・福祉口腔機能管理学演習	5	
	口腔健康教育学演習	5	
	口腔基礎工学演習	5	
	口腔デジタルプロセス学演習	5	
	口腔医療工学演習	5	
	口腔保健学セミナー	1	
	生命理工医療科学先端研究特論	2	
必修科目	研究実習	6	

1 下記に示す修了要件単位を修得すること。

一 一般科目、先制医歯理工学科目及び専門科目から6単位以上（ただし、一般科目は1単位以上を必ず履修する。）

二 所属教育研究分野が開設する演習科目6単位（ただし、演習科目が5単位の場合、生体検査科学講座に所属する学生は併せて生体検査科学セミナーⅡ1単位、口腔保健学講座に所属する学生は併せて口腔保健学セミナー1単位を履修する。）ただし、教育研究分野の改組等に伴う所属異動の場合には、異動前の所属教育研究分野が開設する授業科目の履修をもって、所属教育研究分野が開設する授業科目の履修とみなす。

三 必修科目8単位

2 *1：先進医療デバイスIoT学プログラムを履修する学生は、生命理工医療科学専攻の修了要件を満たし、先進医療デバイスIoT学プログラム指定科目（一般科目、専門科目、先制医歯理工学科目共通科目及び先制医歯理工学科目先進医療デバイスIoT学専門科目から合わせて6単位以上（ただし、一般科目から1単位以上、先制医歯理工学科目共通科目から1単位以上、先制医歯理工学科目先進医療デバイスIoT学専門科目から3単位以上））を全て履修し、単位を修得した場合、先進医療デバイスIoT学プログラムに関する学修成果を認定する。

3 *2：疾患生命創薬科学プログラムを履修する学生は、生命理工医療科学専攻の修了要件を満たし、疾患生命創薬科学プログラム指定科目（一般科目、専門科目、先制医歯理工学科目共通科目及び先制医歯理工学科目疾患生命創薬科学専門科目から合わせて6単位以上（ただし、一般科目から1単位以上、先制医歯理工学科目共通科目から1単位以上、先制医歯理工学科目疾患生命創薬科学専門科目から1単位以上））を全て履修し、単位を取得した場合、疾患生命創薬科学プログラムに関する学修成果を認定する。

4 *3及び4：臨床疫学プログラム（Clinical Epidemiology Program）を履修する学生は、生命理工医療科学専攻の修了要件を満たし、臨床疫学プログラム指定科目（臨床疫学科目から選択科目（*3）を5単位以上かつ必修科目（*4））を全て履修し、単位を修得した場合、臨床疫学プログラム（Clinical Epidemiology Program）に関する学修成果を認定する。

(4) 大学院共通履修科目

授業科目の名称	単位数
ポストコロナ社会における感染症対策	1
ジョブ型研究インターンシップ*1	1

1 これらの科目は、大学院医歯学総合研究科に開設するものとし、大学院医歯学総合研究科に在学する学生であれば履修できるものとする。

2 *1：JST次世代研究者挑戦的研究プログラムの支援を受けている学生を対象とする。

(5) 大学院人間医療科学技術コース科目

授業科目の名称	単位数
---------	-----

人間医療科学技術博士論文研究計画論第一*1	2
人間医療科学技術博士論文研究計画論第二*1	2
人間医療科学技術教育指導法	2

- 1 これらの科目は人間医療科学技術コースを履修する学生が選択できる授業科目とする。
- 2 *1：人間医療科学技術コースを履修する学生は、各専攻の修了要件を満たし、人間医療科学技術コース科目から必修科目（*1）を全て履修し、単位を修得した場合、人間医療科学技術コースに関する学修成果を認定する。

(趣旨)

第1条 学位規則（昭和28年文部省令第9号）第13条第1項の規定に基づき、東京科学大学（以下「本学」という。）が授与する学位については、東京科学大学学位規則（令和6年学則第1号）及び東京科学大学大学院学則（令和6年学則第2号。以下「大学院学則」という。）に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(学位及び専攻分野の名称)

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士、博士及び修士（専門職）とする。

2 学位を授与するに当たっては、次の区分により、専攻分野の名称を付記するものとする。

学位	専攻分野の名称
学士	理学 工学 医学 看護学 保健学 歯学 口腔保健学
修士	理学 工学 医科学 歯科学 医療管理学 医療政策学 グローバル健康医学 看護学 保健学 口腔保健学 学術
博士	理学 工学 技術経営 医学 歯学

	数理医科学 看護学 保健学 口腔保健学 学術
修士（専門職）	技術経営

（学士の学位授与の要件）

第3条 学士の学位は、本学を卒業した者に授与する。

（修士の学位授与の要件）

第4条 修士の学位は、修士課程を修了した者に授与する。

2 前項に定めるもののほか、修士の学位は、大学院保健衛生学研究科看護先進科学専攻の一貫制博士課程において、修士課程の修了に相当する要件を満たした者にも授与することができる。

（博士の学位授与の要件）

第5条 博士の学位は、博士課程を修了した者に授与する。

2 前項に定めるもののほか、博士の学位は、本学大学院の行う学位論文審査に合格し、かつ、本学大学院の博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された者にも授与することができる。

（修士（専門職）の学位授与の要件）

第6条 修士（専門職）の学位は、専門職学位課程を修了した者に授与する。

（学位論文又はレポート等の提出）

第7条 修士及び第5条第1項の規定による博士の学位の授与を申請する者は、学位論文（大学院学則第43条第2項の規定による特定の課題についての研究の成果を含む。以下同じ。）に所定の書類を添えて、又は修士（専門職）の学位の授与を申請する者は、特定研究課題の成果をまとめたプロジェクトレポート（以下「レポート」という。）に所定の書類を添えて、所属する学院又は研究科の長を経て、学長に提出するものとする。

2 第5条第2項の規定による博士の学位の授与を申請する者は、学位論文に所定の書類を添えて、学長に提出するものとする。

3 第5条第2項の規定による博士の学位の授与を申請する者は、別に定める論文審査手数料を納付しなければならない。

4 第1項又は第2項の規定により提出した申請書類及び前項の規定により納付した論文審査手数料は、返還しない。

（審査機関等）

第8条 修士、博士及び修士（専門職）の学位に係る審査は、学院教授会又は研究科委員会において行うものとする。

2 学長は、前条第1項の規定により学位論文又はレポートの提出があったときは、申請者の所属する学院又は研究科の長に審査を付託するものとする。

3 学長は、前条第2項の規定により学位論文の提出があったときは、学院又は研

究科を指定し、当該学院長又は研究科長に審査を付託するものとする。

(審査委員会)

第9条 学院長又は研究科長は、前条第2項又は第3項の規定により学位論文又はレポートの審査を付託されたときは、学院長は申請者が選択するコースのコース担当教員会議に、研究科長は研究科委員会に、それぞれ審査員の指名及び審査委員会の設置を依頼するものとする。

2 コース担当教員会議又は研究科委員会は、学位論文又はレポートごとに、本学の教員3人以上の審査員を指名し、審査委員会を設置するものとする。この場合において、審査員のうち1人を審査員主査として指名するものとする。

3 学院長又は研究科長は、専攻分野に応じて特に必要と認めるときは、あらかじめ3人を超える審査員の数を指定して、審査員の指名を依頼することができる。

4 指名した審査員主査及び審査員について、コース担当教員会議は学院長及び学院教授会に、研究科委員会は研究科長に報告する。

5 前各項の規定にかかわらず、国際連携専攻にあつては、前条第2項の規定により学位論文審査を付託された研究科長は、共同で教育課程を編成した外国の大学院（以下「国際連携大学」という。）と協議の上、学位論文ごとに選出する審査員で構成される合同の審査委員会を設置するものとする。

6 第2項及び前項の審査員として指名又は選出できる者については、学院長又は研究科長が別に定める。

(審査期間)

第10条 第4条及び第6条の規定に係る学位論文又はレポートの審査期間は3月以内、第5条の規定に係る学位論文の審査期間は1年以内とする。ただし、特別の事情があるときは、学院教授会又は研究科委員会の議を経て審査期間を延長することができる。

(最終試験及び学力の確認)

第11条 大学院学則第43条から第45条までの規定による最終試験及び第5条第2項の規定による学力の確認は、専攻分野の学識及び外国語能力を有することを確認するために、学位論文に関連のある学術分野について、口頭又は筆答により行うものとする。

2 大学院学則第46条に規定する専門職学位課程の修了のための学力の確認については、専攻分野の学識及び外国語能力を有することを確認するために、レポートの発表及びレポートに関連のある学術分野について口頭又は筆答による最終試験を行うものとする。

3 第1項の規定にかかわらず、国際連携専攻における最終試験は、学位論文に関連のある学術分野についてのみ行う。

(審査等の結果報告)

第12条 学位論文又はレポートの審査が終了したときは、審査員主査は、その結果に第4条、第5条第1項又は第6条の規定による者については最終試験の結果を、第5条第2項の規定による者については学力の確認の結果を添えて、学院教授会又は研究科委員会に報告しなければならない。

(学位授与の審議)

第13条 学院教授会又は研究科委員会は、前条の規定による報告を基にして、修士、博士及び修士(専門職)の学位を授与すべきか否かを審議する。

(博士の学位授与の審議)

第14条 博士の学位授与の審議については、学院教授会又は研究科委員会の構成員の3分の2以上の出席を必要とし、かつ、審議結果を可とするには、可とする者が当該出席者の3分の2以上でなければならない。

2 学院教授会又は研究科委員会が特に認めた事由で出席できない者は、前項の構成員数に算入しない。

(学位授与の審議の結果報告)

第15条 学院教授会又は研究科委員会において、修士、博士及び修士(専門職)の学位授与に関する審議を行ったときは、学院長又は研究科長は、学位審査及び最終試験又は学力の確認の結果を学長に報告しなければならない。

(学位の授与)

第16条 学長は、前条の報告に基づき、修士、博士及び修士(専門職)の学位授与の可否を決定し、当該結果を申請者に通知する。

2 学長は、学位を授与すべき者には、学位記を授与する。

(学位記の様式)

第17条 学位記の様式は、別紙のとおりとする。

(論文要旨等の公表)

第18条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び学位論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

第19条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 博士の学位を授与された者が行う前2項の規定による公表は、本学の協力を得てインターネットの利用により行うものとする。

(学位の名称)

第20条 本学の学位を授与された者が、学位の名称を用いるときは、本学名を付記するものとする。ただし、国際連携専攻に係る学位にあつては本学名に加えて、国際連携大学名を付記するものとする。

(学位授与の取消し)

第21条 学位を授与された者が次の各号のいずれかに該当するときは、学長は、学院教授会、学部教授会又は研究科委員会の議を経て、学位の授与を取り消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表するものとする。

- 一 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき。
- 二 学位の榮譽を汚す行為があったとき。

2 前項の審議を行う場合の定足数及び議決については、第14条の規定を準用する。
(学位授与の報告)

第22条 本学において博士の学位を授与したときは、学長は、当該学位を授与した日から3月以内に、文部科学大臣に報告するものとする。
(雑則)

第23条 この規程に定めるもののほか、学位審査等に関し必要な事項は、別に定める。ただし、国際連携専攻にあつては、国際連携大学と協議し、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、令和6年10月1日から施行する。
- 2 次に掲げる規程及び規則は、廃止する。
 - 一 東京工業大学学位規程(平成16年規程第13号。以下「旧東工大規程」という。)
 - 二 東京医科歯科大学学位規則(平成16年規則第56号。以下「旧医科歯科大規則」という。)
- 3 この規程施行の日(以下「施行日」という。)の前日において、東京工業大学学部又は東京医科歯科大学院保健衛生学研究科共同災害看護学専攻に所属する学生であつて、施行日以降、引き続き東京科学大学に在学する学生については、当該学生が東京科学大学に在学しなくなるまでの間、旧東工大規程又は旧医科歯科大規則の規定は、なおその効力を有する。

附 則 (令7.3.7程29)

この規程は、令和7年3月7日から施行し、改正後の東京科学大学学位規程の規定は、令和6年10月1日から適用する。

別紙

1 学士課程を卒業した場合（第3条関係）

<i>Institute of Science Tokyo</i>		○学第 号
THE PRESIDENT AND CHIEF ACADEMIC OFFICER HEREBY CONFERS UPON		学 位 記
○○ ○○ BORN ○○ ○. ○○		氏 名
THE DEGREE OF ○○○○		年 月 日生 (東京工業(東京医科歯科)大学入学)
upon affirming recognition by the Dean of the successful completion of the course of study in the	Department of ○○○○ School of ○○○○	本学○学院(学部)○系(学科)所定の課程を修めたことを認める
being of Tokyo Institute of Technology (Tokyo Medical and Dental University) at the time of enrollment		年 月 日
and for fulfilling all the requirements prescribed by the Institute for that degree	○○ ○. ○○ Signature President and Chief Academic Officer	大 学 之 印
	Signature President and Chief Executive Officer	東京科学大学○学院(学部)長 氏 名
	Signature Dean of the School	本学○学院(学部)長の認定により本学を卒業したことを認め学士(○ ○)の学位を授与する
		東京科学大学長 氏 名
		国立大学法人東京科学大学理事長 氏 名

2 大学院の課程を修了した場合（第4条及び第5条関係）

<p><i>Institute of Science Tokyo</i></p> <p>THE PRESIDENT AND CHIEF ACADEMIC OFFICER HEREBY CONFERS UPON</p> <p>○○ ○○ BORN ○○ ○, ○○ THE DEGREE OF ○○○○</p> <p>in recognition of the completion of the course of study in the</p> <p>Department of ○○○○ School of ○○○○ (Graduate School of ○○○○)</p> <p>being of Tokyo Institute of Technology (Tokyo Medical and Dental University) at the time of enrollment and for fulfilling all the requirements prescribed by the Institute for that degree</p> <p>○○ ○, ○○</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">大 学 之 印</td> <td style="width: 100px;">Signature President and Chief Academic Officer</td> <td style="width: 100px;">Signature President and Chief Executive Officer</td> </tr> </table>	大 学 之 印	Signature President and Chief Academic Officer	Signature President and Chief Executive Officer	<p style="text-align: right;">○修（博）第 号</p> <p>学 位 記</p> <p>氏 名 年 月 日生 (東京工業（東京医科歯科）大学大学院入学)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">大 学 之 印</td> <td style="width: 300px;"> 本学○○○学院（研究科）○○系○○コース（専攻）の修士（博士）課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したので修士（博士）（○○）の学位を授与する </td> </tr> </table> <p>年 月 日</p> <p>東京科学大学長 氏 名</p> <p>国立大学法人東京科学大学理事長 氏 名</p>	大 学 之 印	本学○○○学院（研究科）○○系○○コース（専攻）の修士（博士）課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したので修士（博士）（○○）の学位を授与する
大 学 之 印	Signature President and Chief Academic Officer	Signature President and Chief Executive Officer				
大 学 之 印	本学○○○学院（研究科）○○系○○コース（専攻）の修士（博士）課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したので修士（博士）（○○）の学位を授与する					

備考 大学院学則第38条第1項に定める教育課程、同条第4項に定めるコース又はプログラム及び同条第5項に定める災害看護グローバルリーダー養成コースを修了した場合を除く。

3 大学院学則第 38 条第 4 項に定めるコース又はプログラムを修了した場合（第 4 条及び第 5 条関係）

<p><i>Institute of Science Tokyo</i></p> <p>THE PRESIDENT AND CHIEF ACADEMIC OFFICER HEREBY CONFERS UPON</p> <p>○○ ○○ BORN ○○ ○. ○○ THE DEGREE OF ○○○○</p> <p>in recognition of the completion of the course of study in the</p> <p>Department of ○○○○ Graduate School of Medical and Dental Sciences</p> <p>being of Tokyo Medical and Dental University at the time of enrollment and for fulfilling all the requirements prescribed by the Institute for that degree</p> <p>This is also to certify that the above-named person has completed all the requirements of □□□□</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">大 学 之 印</div> <div style="text-align: center;"> <p>○○ ○. ○○</p> <p>Signature Signature</p> <p>President and Chief Academic President and Chief Executive</p> <p>Officer Officer</p> </div> </div>	<p style="text-align: right;">○修（博）第 号</p> <p style="text-align: center;">学 位 記</p> <p style="text-align: center;">氏 名</p> <p style="text-align: center;">年 月 日生</p> <p style="text-align: center;">(東京医科歯科大学大学院入学)</p> <div style="margin-top: 20px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">大 学 之 印</div> <div style="text-align: center;"> <p>本学大学院医歯学総合研究科○○専攻の修士（博士）課程に おいて所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合 格したので修士（博士）（○○）の学位を授与する</p> <p>本学□□□□を修了したことを証する</p> <p>年 月 日</p> <p>東京科学大学長 氏 名</p> <p>国立大学法人東京科学大学理事長 氏 名</p> </div> </div> </div>
--	---

備考 □□□□には、大学院学則第 38 条第 4 項に定めるコース又はプログラムの名称を記入する。

4 大学院学則第 38 条第 1 項に定める教育課程を修了した場合（第 5 条関係）

<i>Institute of Science Tokyo</i>		○博第 号
THE PRESIDENT AND CHIEF ACADEMIC OFFICER HEREBY CONFERS UPON		学 位 記
○○ ○○ BORN ○○ ○. ○○ THE DEGREE OF ○○○○		氏 名 年 月 日生 (東京工業大学大学院入学)
in recognition of the completion of the course of study in the		大 学 之 印
Department of ○○○○ School of ○○○○		
being of Tokyo Institute of Technology at the time of enrollment and for fulfilling all the requirements prescribed by the Institute for that degree		本学□□□□を修了したことを証する 年 月 日
This is also to certify that the above-named person has completed all the requirements of □□□□		東京科学大学長 氏 名
○○ ○. ○○		国立大学法人東京科学大学理事長 氏 名
大 学 之 印	Signature President and Chief Academic Officer	Signature President and Chief Executive Officer

備考 □□□□には、大学院学則第 38 条第 1 項に定める教育課程の名称を記入する。

5 大学院学則第 38 条第 5 項に定める災害看護グローバルリーダー養成コースを修了した場合（第 5 条関係）

<i>Institute of Science Tokyo</i>		○博第 号
THE PRESIDENT AND CHIEF ACADEMIC OFFICER HEREBY CONFERS UPON		学 位 記
○○ ○○ BORN ○○ ○. ○○ THE DEGREE OF Doctor of Philosophy in Nursing Science		氏 名 年 月 日生 (東京医科歯科大学大学院入学)
in recognition of the completion of the course of study in the Department of Nursing Innovation Science Graduate School of Health Care Sciences being of Tokyo Medical and Dental University at the time of enrollment and for fulfilling all the requirements prescribed by the Institute for that degree This is also to certify that the above-named person has completed all the requirements of the Disaster Nursing Global Leader degree program	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 大 学 之 印 </div> 本学大学院保健衛生学研究科看護先進科学専攻の博士課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したので博士（看護学）の学位を授与する	本学災害看護グローバルリーダー養成コース (Disaster Nursing Global Leader) を修了したことを証する 年 月 日 東京科学大学長 氏 名 国立大学法人東京科学大学理事長 氏 名
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 大 学 之 印 </div> ○○ ○. ○○ Signature President and Chief Academic Officer	Signature President and Chief Executive Officer	

6 大学院の課程を修了した場合（第6条関係）

<p><i>Institute of Science Tokyo</i></p> <p>THE PRESIDENT AND CHIEF ACADEMIC OFFICER HEREBY CONFERS UPON</p> <p>○○ ○○ BORN ○○ ○. ○○ THE DEGREE OF Master of Management of Technology</p> <p>in recognition of the completion of the course of study in the</p> <p>Department of Technology and Innovation Management School of Environment and Society</p> <p>being of Tokyo Institute of Technology at the time of enrollment</p> <p>and for fulfilling all the requirements prescribed by the Institute for that degree</p> <p>○○ ○. ○○</p>	<p style="text-align: right;">専第 号</p> <p style="text-align: center;">学 位 記</p> <p>氏 名 年 月 日生 (東京工業大学大学院入学)</p> <p>年 月 日</p> <p>東京科学大学長 氏 名</p> <p>国立大学法人東京科学大学理事長 氏 名</p>
<p>大 学 之 印</p>	<p>大 学 之 印</p> <p>本学環境・社会理工学院技術経営専門職学位課程を修了したことを認め技術経営修士（専門職）の学位を授与する</p>
<p>Signature President and Chief Academic Officer</p>	<p>Signature President and Chief Executive Officer</p>

7 論文提出による場合（第2項関係）

<i>Institute of Science Tokyo</i>		○学位第 号						
THE PRESIDENT AND CHIEF ACADEMIC OFFICER HEREBY CONFERS UPON ○○○○○ BORN ○○ ○, ○○		学 位 記 氏 名 年 月 日生						
having submitted a dissertation and having passed the required examinations the degree of Doctor of ○○○○		<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 2px;">大 学 之 印</td> <td style="padding: 2px;">本学に学位論文を提出し所定の審査及び試験に合格したので博士（○○）の学位を授与する</td> </tr> </table> 年 月 日	大 学 之 印	本学に学位論文を提出し所定の審査及び試験に合格したので博士（○○）の学位を授与する				
大 学 之 印	本学に学位論文を提出し所定の審査及び試験に合格したので博士（○○）の学位を授与する							
with all the rights, privileges, and honors pertaining thereto ○○ ○, ○○								
<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 2px;">大 学 之 印</td> <td style="padding: 2px;">Signature</td> <td style="padding: 2px;">Signature</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;"></td> <td style="padding: 2px;">President and Chief Academic Officer</td> <td style="padding: 2px;">President and Chief Executive Officer</td> </tr> </table>	大 学 之 印	Signature	Signature		President and Chief Academic Officer	President and Chief Executive Officer	東京科学大学長 氏 名 国立大学法人東京科学大学理事長 氏 名	
大 学 之 印	Signature	Signature						
	President and Chief Academic Officer	President and Chief Executive Officer						

○東京科学大学大学院医歯学総合研究科委員会博士（医学・歯学・学術・数理医科学）に係る学位論文審査及び試験内規

令和7年10月2日
医歯学総合研究科長制定

（趣旨）

第1条 この内規は、東京科学大学学位規程（令和6年規程第91号）第23条の規定に基づき、東京科学大学（以下「本学」という。）大学院医歯学総合研究科における博士（医学）、博士（歯学）、博士（学術）及び博士（数理医科学）（国際連携専攻に係るものを除く。）の学位論文の審査及び試験に関し必要な事項を定めるものとする。

（学位論文提出の資格）

第2条 学位論文提出の資格を有する者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 本学大学院に在学する学生で、東京科学大学大学院学則（令和6年規程第2号。以下「大学院学則」という。）第3条第2項第3号に規定する博士課程に3年以上在学し、大学院学則第45条第1項に規定する所定の単位を修得した者
- 二 次表に示す研究歴等を満たした者で、人格識見に非難すべき点のない者

最終学歴		研究歴等の年数			
医学・歯学・獣医学・薬学（6年制）の学部卒業	基礎	学部6年		研究歴5年	
	臨床	学部6年		研究歴6年	
理系大学院博士課程修了		学部4年	修士2年	博士3年	研究歴2年
理系大学院修士課程修了		学部4年	修士2年	研究歴5年	
4年制学部卒業 （理系以外の大学院修了者を含む。）		学部4年	研究歴8年		
備考：研究歴のうち2年以上は、本学における研究歴（東京医科歯科大学における研究歴を含む。）であることを要する。ただし、最終学歴が4年制学部卒業（理系以外の大学院修了者を含む。）である者については、研究歴のうち4年以上は、本学の推薦教員の下での研究歴であることを要する。					

2 前項第2号の研究歴とは、次の各号に該当するものとする。

- 一 大学の専任教員として研究に従事した期間
- 二 大学院を退学した者の場合は大学院に在学した期間又は専攻科（全日制の研究生及び専攻生等を含む。）に在学した期間
- 三 科学研究費補助金取扱規程（昭和40年文部省告示第110号。以下「告示」という。）第2条で定める研究機関（大学を除く。）において専任職員として研究に従事した期間

四 本学が前3号と同等以上と認める、次に掲げる施設において研究に従事した期間

イ 大学の附属病院の医員（研修医）・医員として従事した期間

ロ 告示第2条で定める研究機関となっている病院（大学の附属病院を除く。）の研修医・医員、一般勤務医として従事した期間

ハ 本学で受託研究員又は外国人研究者として従事した期間

ニ 本学の技術職員として勤務し、研究に従事した期間

ホ 外国の研究機関において従事した期間

五 その他研究科長が、前各号と同等以上と認めた期間
（学位論文）

第3条 学位論文は原著論文とし、単著を原則とする。ただし、次の各号の全てを満たした場合は、英文で作成した論文に限り、共著とすることができる。

一 筆頭著者であること。

二 指導教員又は推薦教員から、論文作成にあたり申請者が主要な役割を果たしたことを認めた証明書（別紙様式9）が提出されたこと。

三 共著者全員から、学位論文に使用することに同意した同意書（別紙様式10）が提出されたこと。

2 学位論文の提出は、査読制度のある学術雑誌に投稿し、原則として印刷公表されたものにより行うこととする。ただし、第2条第1項第1号に該当する者にあつては、掲載証明書を添付した場合は、当該証明を受けた時点の論文の写しにより行うことができるものとする。

3 前項の規定にかかわらず、MD—PhD（医学研究者早期育成）コースに在学している学生の学位論文の提出は、英文で作成したThesis形式の論文により行うことができるものとする。

4 研究科長が認めた場合は、第1項第1号を「筆頭著者又は責任著者であること」と読み替えるものとする。

（予備審査）

第4条 前条第3項の規定により、学位論文を提出する場合は、予備審査を申請しなければならない。

2 予備審査の詳細は別に定める。

（学位論文に添付する書類並びに論文審査手数料）

第5条 学位論文に添付する書類は、次の各号に掲げるとおりとする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

一 本学大学院学生（第2条第1項第1号該当者をいう。以下同じ。）の場合

イ 申請書（別紙様式1）

ロ 履歴書（別紙様式3）

ハ 論文目録（別紙様式5）

ニ 学位論文要旨（4千字以内）

ホ 審査員候補者記入表（別紙様式7）

二 学位論文提出による学位申請者（第2条第1項第2号該当者をいう。以下同

じ。) の場合

イ 申請書 (別紙様式 2)

ロ 履歴書 (別紙様式 3)

ハ 卒業証明書

ニ 研究歴証明書 (別紙様式 4)。ただし、修士課程又は博士課程の修了者等は、それを証明する書類をもってその間の研究歴証明書にかえることができる。

ホ 論文目録 (別紙様式 5)

ヘ 学位論文要旨 (4 千字以内)

ト 推薦教員からの推薦状 (別紙様式 6)

チ 審査員候補者記入表 (別紙様式 7)

2 学位論文提出による学位申請者は、前項第 2 号に定める書類のほか、論文審査手数料として 5 万 7 千円を学位論文提出と同時に納付しなければならない。

(資格等審査)

第 6 条 学位論文を提出しようとする者は、医学系研究科運営委員会及び歯学系研究科運営委員会が設置する学位に係る専門事項を審議する委員会において、学位論文提出の資格及び論文形式等について、事前に審査を受けるものとする。

2 前項の場合において、本学以外 (外国を含む。) の研究機関において研究に従事した期間又は第 2 条第 2 項第 4 号ハ若しくはニの期間を研究歴とする者は、当該期間に係る在籍証明書又は在職証明書及び業績一覧 (別紙様式 8) 等を、前条第 1 項第 2 号の書類に加え提出するものとする。

(学位授与の審議)

第 7 条 大学院医歯学総合研究科における博士 (医学)、博士 (歯学)、博士 (学術) 及び博士 (数理医科学) の学位授与の審議は、医学系研究科運営委員会及び歯学系研究科運営委員会の議を経て、研究科委員会において行う。

2 各研究科運営委員会で行う学位授与の審議は、次のとおりとする。

一 医学系研究科運営委員会 博士 (医学)、博士 (学術) 及び博士 (数理医科学)

二 歯学系研究科運営委員会 博士 (歯学)、博士 (学術) 及び博士 (数理医科学)

3 医学系研究科運営委員会に所属する分野の教員を指導教員とする申請者が、博士 (歯学) の学位論文を提出する場合又は歯学系研究科運営委員会に所属する分野の教員を指導教員とする申請者が、博士 (医学) の学位論文を提出する場合は、指導教員が所属する研究科運営委員会は、当該研究内容が申請する学位の専攻分野の名称に合致するかについて審議の上、当該学位を審査する研究科運営委員会に審査を依頼するものとする。

(審査委員会)

第 8 条 審査委員会は、主査 1 人及び副査 2 人により構成する。

2 主査は、本学大学院医歯学総合研究科の教授のうちから選出する。ただし、指導教員、推薦教員又は学位論文提出者と同じ分野に所属する教員及び当該学位論

文の共著者は、主査となることができない。

- 3 副査は、博士の学位を有する本学の教授、准教授、講師及び連携大学院分野を構成する教員のうちから選出するものとし、1人以上を本学の教授又は連携教授とする。ただし、指導教員又は学位論文提出者と同じ分野に所属する教員及び当該学位論文の共著者は副査となることができない。
- 4 副査のうち1人以上は本学の専任教員とする。
- 5 必要があるときは、第1項に定める者のほか、副査2人以内を加えることができる。
- 6 医学系研究科運営委員会及び歯学系研究科運営委員会は、学位に係る専門事項を審議する委員会を選出された審査員候補者について審議し、審査委員会を設置する。
- 7 審査委員会は、学位論文の審査を行う。
- 8 前項の審査は、学位論文提出者及び審査委員会審査員が一堂に会して、セミナー形式により公開で行う。
- 9 審査委員会が必要と認めた場合には、学位論文の訳文及び標本等の提出を求めることができるほか、審査員以外の者の出席を求め質疑を行うことができる。
- 10 博士（学術）及び博士（数理医科学）については、当該研究内容が博士（医学）及び博士（歯学）の学位と同水準の総括的な研究に該当するかについても併せて審査するものとする。

（最終試験）

第9条 審査委員会は、本学大学院学生に係る学位論文の審査を終了した後、専攻分野の学識及び外国語能力を有することを確認するために、学位論文に関連のある学術分野について、口頭又は筆答による最終試験を行う。

- 2 最終試験は、研究科運営委員会において特別の事由があると認められた場合を除き、外国語を課すものとする。
- 3 最終試験の期日、内容及び問題等最終試験の方法は、審査委員会が決定する。

（学力の確認）

第10条 審査委員会は、学位論文提出による学位申請者に係る学位論文の審査を終了した後、専攻分野の学識及び外国語能力を有することを確認するために、学位論文に関連のある学術分野について、口頭又は筆答により学力の確認を行うものとする。

- 2 学力の確認は、研究科委員会において特別の事由があると認められた場合を除き、外国語を課すものとする。
- 3 学力の確認の方法は、審査委員会が決定する。
- 4 第1項の規定にかかわらず、本学大学院の博士課程に4年以上在学し、大学院学則第45条第1項に規定する博士課程における所定の単位を修得して退学した者が、学位論文提出による学位申請者は、本学大学院博士課程入学後10年以内に学位を申請するときは、口頭又は筆答による学力の確認を免除する。

（審査委員会の報告）

第11条 審査委員会は、研究科運営委員会において審査委員会が設置された後1

年以内に、学位論文の審査及び最終試験又は学力の確認を行い、研究科委員会に審査結果を報告するものとする。

2 審査結果の報告は、審査報告書に次に掲げる書類を添付して行うものとする。

- 一 学位論文の内容の要旨（4千字以内）
- 二 学位論文の審査の要旨（2千字以内）
- 三 最終試験又は学力の確認の結果の要旨

3 前項第3号の最終試験の結果の要旨には、最終試験の方法と結論の要旨を記載するものとし、学力の確認の結果の要旨には、学力の確認の方法と結論の要旨を記載するものとする。

（研究科運営委員会の審議）

第12条 研究科長は、前条の審査報告を受けた後、当該学位を審議する研究科運営委員会を開催し、学位授与の可否について審議するものとする。

2 研究科長は、研究科運営委員会開催日の7日前までに、次に掲げる書類を当該学位を審査する研究科運営委員会委員に配布するものとする。

- 一 学位論文の内容の要旨
- 二 学位論文の審査の要旨（審査委員会主査名を記載したもの）
- 三 最終試験又は学力の確認の結果の要旨（担当者名を記載したもの）
- 四 履歴書
- 五 論文目録
- 六 学位論文

3 第1項の審議を行うには、研究科運営委員会委員の3分の2以上の出席を必要とする。

4 学位を授与できるものと議決するには、出席委員の3分の2以上の賛成を必要とする。

5 研究科運営委員会における審議は、第3条第2項により提出された論文をもって行うことを原則とする。ただし、掲載証明書及び誓約書（別紙様式11）の提出があった場合に限り、採択された投稿論文をもって行うことができる。

6 研究科運営委員会が特に認めた事由で出席できない者は、第3項の構成員数に算入しない。

（3年次修了）

第13条 大学院学則第45条第1項ただし書についての取扱いは、別に定める。

（適宜の処置）

第14条 学位論文の審査及び試験等に関し、この内規を適用し得ない場合は、研究科委員会の議を経て、適宜の処置をとるものとする。

附 則

1 この内規は、令和7年10月2日から施行し、次項の規定以外の規定は、令和6年10月1日から適用する。

2 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科博士（医学・歯学・学術・数理医科学）に係る学位論文審査及び試験内規（平成16年4月1日研究科長制定）は、廃止する。

(別紙様式1)

年 月 日

研究科長 殿

年度入学 大学院医歯学総合研究科 学系 分野

氏 名 印(※)

(※)本人が自署しない場合は、記名押印してください。

学 位 論 文 審 査 申 請 書

わたくしは、このたび博士()に係る学位論文の審査を受けたいので、学位規程
第7条第1項により、学位論文に所定の書類を添えて提出いたします。

(別紙様式2)

年 月 日

東京科学大学長 殿

氏 名 印(※)

(※)本人が自署しない場合は、記名押印してください。

学 位 申 請 書

私は、このたび博士()の学位を請求いたしたいので、貴学学位規程第7条第2項により、学位論文に所定の書類を添えて提出いたします。

別紙様式 3

履 歴 書

氏 名 生年月日	ふりがな 年 月 日生	男 女
本 籍 (都道府県名)		
現 住 所	〒 Tel :	

学歴

職歴

研究歴

研究歴証明書

氏 名

年 月 日生

上記の者は、下記のとおり
において研究を行ったことを証明いたします。

記

1 研究題名

1 研究期間

年 カ月間

年 月 日

(研究機関名・所属部署)

(職名・氏名)



(別紙様式5)

論文目録

学位論文

題名 (印刷公表の方法及び年月日)

発表雑誌名 (巻・号)

最新のインパクトファクター:

発表年月日 年 月 日

参 考 論 文

題 名 (印刷公表の方法及び年月日)

発表雑誌名 (巻・号)

発表年月日

年

月

日

年 月 日

氏 名 :

別紙様式 6

年 月 日

東京科学大学長 殿

東京科学大学
(所属部署)
(推薦教員名)

印

推 薦 状

この度、
が本学学位規程第 7 条第 2 項の規定により学位請求を行
うにあたり、提出する論文が学位授与に値すると思しますので推薦申し上げます。
なお、同人は、履歴書のとおり 年 以上（うち当教室において 年 ヶ月）の研究
歴を有するもので、人格識見について私が保証いたします。

(甲 ・ 乙)

審査員候補者記入表

申請者氏名

氏 名	分 野 名

指導（推薦）教員氏名： _____ 印

- ・ 共著者である
- ・ 共著者でない

※原則として4名以上をあいうえお順に記入願います。

※審査委員会

甲： 指導教員及び当該学位論文の共著者は審査委員になることが出来ない。

乙： 推薦教員が共著者の場合は審査委員になることはできない。

業 績 一 覧

年 月 日現在

氏名：

論文等の表題（著者名） 学会、研究会発表（発表者名） 受賞等	発行又は発表年月日 （巻・号・頁）	発表雑誌等又は 発表学会等の名称	論文・学会発表等の 内容の概要
※それぞれ発表年代順に記入する。			
[原著]			
1.			
2.			
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
[総説]			
1.			
2.			
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
[著書]			
1.			
2.			
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
[学会]			
1.			
2.			
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
[研究会]			
1.			
2.			
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~

- 注) 1. 著者名は、論文に記載されている順に全著者名を記入する。
 2. 学会等の発表者は、全員記入する。
 3. 学位論文として提出する論文に◎を付けること。

(別紙様式9)

証 明 書

年 月 日

大学院医歯学総合研究科長 殿

指導教員（分野長）又は推薦教員：

_____ ⑩

論文題目

「

」

発表（投稿）雑誌名

年 月 日 巻 号に発表・発表予定

論文提出者
とを証明します。

は、上記論文の共同研究において、主要な役割を果たしたこ

(別紙様式10)

同意書

年 月 日

東京科学大学大学院医歯学総合研究科長 殿

論文提出者氏名（自署）：

共著者勤務先又は現住所：

氏 名（自署捺印）：

印

印

印

印

印

論文題目

「

」

発表（投稿）雑誌名

年 月 日 巻 号に発表・発表予定

上記論文を が、東京科学大学博士（ ）の学位申請の主論文として提出
することに異議ありません。

また、 以外の共著者は上記論文を学位申請の主論文には使用しません。

(別紙様式11)

誓 約 書

年 月 日

大学院医歯学総合研究科長 殿

学位論文審査申請者： _____ 印

私は、研究科運営委員会における学位論文の最終審査時に第3条第2項に規定する論文を提出することが出来ません。

つきましては、採択された投稿論文を用いて学位論文の最終審査を受けたくよろしくお取り計らい願います。

なお、学位論文が学術雑誌に公表され次第、速やかに公表されたものの写し1部を提出することをここに誓約いたします。

私は、上記のことに同意し、責任を持って申請者に学術雑誌に公表されたものの写しを提出させることをここに誓約いたします。

指 導 教 員： _____ 印

別紙様式 1
別紙様式 2
別紙様式 3
別紙様式 4
別紙様式 5
別紙様式 6
別紙様式 7
別紙様式 8
別紙様式 9
別紙様式 1 0
別紙様式 1 1

(趣旨)

第1条 東京科学大学学位規程（令和6年規程第91号）第23条の規定に基づき、東京科学大学（以下「本学」という。）において授与する修士、博士及び修士（専門職）の学位に係る学位論文（東京科学大学大学院学則（令和6年学則第2号）第43条第2項の規定による特定の課題についての研究の成果を含む。以下同じ。）又は特定研究課題の成果をまとめたプロジェクトレポート（以下「レポート」という。）の審査基準について定める。

(修士)

第2条 修士の学位に係る学位論文審査では、本学学位授与の方針（ディプロマポリシー）等を踏まえ、学位論文の内容が、次に掲げる要件を満たし、当該研究領域において、十分な研究能力を修得しているかという観点で審査する。

一 研究目的の適切性

当該研究領域に関する基礎的な知識を有し、先行研究を十分に理解・検討した上で、意義のある研究目的が適切に設定されているか。

二 研究方法の適切性

高い倫理観に裏打ちされた、適切な研究計画、研究方法となっているか。

三 考察の適切性

得られた研究データ・結果を正しく評価し、適切な考察がなされた上で、論理一貫性をもって記述できているか。

(博士)

第3条 博士の学位に係る学位論文審査では、本学学位授与の方針（ディプロマポリシー）等を踏まえ、学位論文の内容が、次に掲げる要件を満たし、当該研究領域において、自立した研究者として高度な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を修得しているかという観点で審査する。

一 研究目的の先駆性・独創性

当該研究領域に関する多面的かつ専門的な知識を有し、先行研究を十分に理解・検討した上で、先駆的又は独創的な発想に基づき研究目的が設定されているか。

二 研究の社会的意義

当該研究領域の発展に寄与し、人類の健康と福祉や、知的発展への貢献につながる研究内容であるか。

三 研究方法の倫理性・論証性

研究計画、研究方法が、高い倫理観と幅広い視野に基づき策定されたものであり、十分な論証性を備えているか。

四 考察の俯瞰性

得られた研究データ・結果を正しく評価し、適切かつ十分な考察がなされた上で、論理一貫性をもって記述できているか。また、当該分野における研究成

果の貢献と、今後の学問的・社会的発展性に関して、俯瞰性を備えた記述となっているか。

(修士(専門職))

第4条 修士(専門職)の学位に係るレポート審査では、本学学位授与の方針(ディプロマポリシー)等を踏まえ、レポートの内容が、次に掲げる要件を満たし、当該研究領域において、十分な研究能力を修得しているかという観点で審査する。

一 研究目的の適切性

当該研究領域に関する基礎的な知識を有し、先行研究を十分に理解・検討した上で、イノベーション実現のための実践力を習得するために意義のある研究目的が適切に設定されているか。

二 研究方法の適切性

高い倫理観に裏打ちされた、適切な研究計画、研究方法となっているか。

三 考察の適切性

得られた研究データ・結果を正しく評価し、適切な考察がなされた上で、論理一貫性をもって記述できているか。

附 則

- 1 この基準は、令和6年10月1日から施行する。
- 2 東京医科歯科大学大学院学位論文審査基準(平成27年2月17日制定)は、廃止する。

○東京科学大学におけるGPA制度に関する要項

令和6年10月1日
制定

(趣旨)

第1条 この要項は、東京科学大学学修規程（令和6年規程第88号。以下「学修規程」という。）第7条第5項及び東京科学大学大学院学修規程（令和6年規程第94号。以下「大学院学修規程」という。）第8条第5項の規定に基づき、東京科学大学（以下「本学」という。）に置く学院並びに医学部、歯学部及び研究科における学修の評価におけるGrade Point Average（以下「GPA」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要項において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 一 Grade Point（以下「GP」という。） 学修規程第7条第1項及び第2項並びに大学院学修規程第8条第1項及び第2項に規定する履修申告した授業科目の成績に基づき算出される0又は0.5から4.5までの数値をいう。
- 二 Grade Point Average（以下「GPA」という。） 学修規程第9条第3項及び大学院学修規程第8条第3項に規定する授業科目のGPと単位数の積の総和を履修申告した授業科目の単位数の総和で除した数値をいう。
- 三 クォーターGPA 各クォーターにおけるGPAをいう。
- 四 学期GPA 各学期におけるGPAをいう。
- 五 年度GPA 各年度におけるGPAをいう。
- 六 通算GPA 在学期間におけるGPAをいう。

(対象学生)

第3条 GPA制度を適用する対象学生は、本学の学士課程、修士課程、博士課程及び専門職学位課程に在学する全ての学生とする。ただし、工学部に在学する学生を除く。

(対象授業科目)

第4条 GPA制度の対象とする授業科目（以下「対象授業科目」という。）は、各課程において卒業又は修了の要件となる全ての授業科目とする。ただし、次に掲げる授業科目は、対象としない。

- 一 学修規程第6条第2項ただし書及び大学院学修規程第7条第2項ただし書の規定により「合格」又は「不合格」をもって学修の評価を行う授業科目
- 二 学修規程第9条から第12条まで並びに大学院学修規程第10条及び第12条の規定により単位を認定された授業科目
- 三 東京科学大学の学院における学修に関する細則（令和6年細則第48号）別表に規定する研究関連科目、横断科目（教養科目）及び横断科目（専門科目）並びに東京科学大学大学院の学院における学修に関する細則（令和6年細則第50号）別表に規定する講究科目、研究関連科目、横断科目（教養科目）及び横断科目（専門科目）に分類される授業科目

(GPAの算出方法)

第5条 学院においては、クォーターGPA、学期GPA、年度GPA及び通算GPAについて、全ての対象授業科目によるGPA並びに専門科目群及び教養科目群のGPAを算出するほか、学院の学士課程の学生については、併せて授業科目区分ごとの対象授業科目によるGPAを算出するものとする。

2 医学部、歯学部及び研究科においては、全ての対象授業科目による年度GPA及び通算GPAを算出するものとする。

3 前2項のGPAは、次の各号の計算式により算出するものとし、その数値に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

一 クォーターGPA = (当該クォーターに履修申告した対象授業科目のGP×単位数)の総和 / (当該クォーターに履修申告した対象授業科目の単位数)の総和

二 学期GPA = (当該学期に履修申告した対象授業科目のGP×単位数)の総和 / (当該学期に履修申告した対象授業科目の単位数)の総和

三 年度GPA = (当該年度に履修申告した対象授業科目のGP×単位数)の総和 / (当該年度に履修申告した対象授業科目の単位数)の総和

四 通算GPA = (在学期間に履修申告した対象授業科目のGP×単位数)の総和 / (在学期間に履修申告した対象授業科目の単位数)の総和

(再履修科目の単位修得時の取扱い)

第6条 不合格とされた授業科目を再履修し、単位を修得した場合は、当該科目の不合格とされた成績をGPAの算出から除外し、修正するものとする。

(GPAの成績証明書等への記載)

第7条 学院においては、成績証明書及び学業成績書、医学部、歯学部及び研究科においては成績証明書に、通算GPAを記載するものとする。

2 学院においては、教務Webシステムに、クォーターGPA、学期GPA、年度GPA及び通算GPAを記載するものとする。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、GPA制度の取扱いに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、令和6年10月1日から施行する。

附 則 (令7.3.7)

1 この要項は、令和7年4月1日から施行する。

2 この要項の施行の日(以下「施行日」という。)の前日において、東京科学大学の各学部_に在学する学生(以下「在学者」という。)であって、施行日以後、引き続き東京科学大学の各学部_に在学する者(施行日以後に在学者の属する年次に再入学、転入学又は編入学する者を含む。)に係る対象授業科目については、改正前の東京科学大学におけるGPA制度に関する要項の規定は、なおその効力を有する。

附 則 (令7.6.16)

この要項は、令和7年6月16日から施行し、改正後の東京科学大学におけるGPA制度に関する要項の規定は、令和7年4月1日から適用する。

(趣旨)

第1条 この規程は、東京科学大学学則（令和6年学則第1号。以下「学則」という。）第45条第3項及び東京科学大学大学院学則（令和6年学則第2号。以下「大学院学則」という。）第58条第3項の規定に基づき、東京科学大学（以下「本学」という。）における学生の懲戒及び教育的措置（以下「懲戒等」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(基本的な考え方)

第2条 懲戒等は、対象となる行為の態様、経緯、結果、影響等を総合的に判断し、教育的配慮を加えて行うものでなければならない。

2 懲戒等によって学生に科せられる不利益は、過重なものとなってはならない。

3 懲戒等の取扱いについては、刑事訴追の有無を処分決定の絶対的な基準とはしないものとする。

(懲戒等の対象となる行為)

第3条 懲戒等の対象となる行為は、次に掲げるとおりとする。

一 犯罪行為又は犯罪未遂行為

二 国立大学法人東京科学大学におけるハラスメントの防止等に関する規則（令和6年規則第57号）第2条第7号に規定する行為

三 国立大学法人東京科学大学情報倫理規則（令和6年規則第69号）第3条に規定する行為

四 試験における不正又は論文の作成における不正等学問的倫理に反する行為

五 本学の教育研究活動を妨害する行為

六 本学の名誉・信用を失墜させる行為

七 本学の規則に違反する行為

八 その他学生の本分に著しく反する行為

(懲戒処分の種類及び内容)

第4条 懲戒処分の種類及び定義は、次に掲げるとおりとする。

一 退学 本学の学生としての身分を喪失させること。

二 停学 6月以下の期間を定めて、又は期間を定めずに、登校を禁ずること。

三 訓告 文書により注意を与え、将来を戒めること。

2 停学期間の計算は、暦日によるものとする。

3 停学期間は、在学期間に算入する。ただし、卒業又は修了に係る在学期間の要件においては、在学期間に算入しない。

4 停学期間が1月以内の場合には、前項ただし書の規定は適用しない。

5 停学又は訓告の懲戒処分を受けた学生は、学長に反省文を提出しなければならない。

(教育的措置)

第5条 学院、学部及び研究科（以下「学院等」という。）の長（以下「学院長等」

という。)は、第3条に規定する行為を行った当該学院等に所属する学生が、懲戒処分に相当しないとされた場合においても、学生の本分についての反省を促すため、当該学生に対し、次に掲げる教育的措置を行うことができる。

一 厳重注意 口頭又は文書により、強く反省を求めること。

二 注意 口頭又は文書により、反省を求めること。

(停学期間中の措置)

第6条 停学期間中の学生は、授業科目等の履修、定期試験等の受験、学位論文審査の申請、大学施設の利用及び課外活動への参加をすることができない。ただし、大学施設の利用については、学院長等が、特に必要と認めた場合は、許可することがある。

2 停学期間中の学生に対しては、当該学院等は、面談等により、更生に向けた指導を適宜行うものとする。

3 前項に規定する面談等は、必要に応じカウンセラー等の専門家の協力を得て行うことができるものとする。

4 停学期間中の休学の願い出は、受理しないものとする。

(定期試験等における不正行為)

第7条 定期試験等における不正行為を行った学生が、当該不正行為を行った学期に受験した定期試験等は全て無効とし、当該学期に履修した授業科目の成績を0点又は不合格とする。ただし、学期又は学年をまたぎ開講される授業科目の取扱いとは別に定める。

2 定期試験等における不正行為を行った学生は、当該不正行為を行った学期において、新たに授業科目の履修は認めないものとする。

(謹慎)

第8条 学生が懲戒に該当する行為を行ったことが明白であり、かつ、停学以上の懲戒がなされることが確実である場合は、学長は、当該学生に懲戒等の決定前に謹慎を命ずることができる。この場合において、謹慎開始日から懲戒等の決定した日までの間は懲戒に準じ、当該学生の登校等を禁止する。

2 謹慎の期間は、その全部又は一部を停学期間に通算することができる。

(自宅待機)

第9条 学院長等は、ハラスメントの防止その他の教育上の配慮が求められる場合は、第3条に規定する行為を行ったことが明白な学生に対し、懲戒等が決定するまでの間、自宅待機を命じることができる。

2 学院長等は、自宅待機を命じた学生に、授業科目の履修、大学施設の利用及び課外活動への参加を制限することができる。

3 自宅待機の期間は停学期間を含めないものとする。

4 自宅待機の期間中に謹慎に変更となる場合は、変更日から謹慎の扱いとする。

(懲戒等の決定前の休学又は自主退学)

第10条 学長は、第3条に規定する行為を行った学生が、懲戒等の決定前に休学又は退学を願い出た場合は、受理しないものとする。

(調査委員会)

第11条 学院長等は、学生の懲戒等の対象となる事案について、事実の確認及び当該学生を含む関係者への事情聴取（以下「事実調査」という。）を行うため、調査委員会を置くものとする。

2 異なる学院等に所属する複数の学生が関与している事案については、当該学生の所属する学院等で合同の調査委員会を置くことができる。合同の調査委員会を置かない場合であっても、各学院等の調査委員会は、相互に連携して事実調査を行うものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、第3条第2号に係る事案については、ハラスメント対策委員会が行う事実調査をもって、同条第3号に係る事案については、情報倫理委員会が行う事実調査をもって、調査委員会及び事実調査に代えるものとする。

（学生懲戒審査委員会）

第12条 懲戒処分の要否及び懲戒処分を要する場合のその内容の案（以下「処分案」という。）、期間の定めのない停学の解除の可否及び不服申立の調査等について審議するため、学長の下に学生懲戒審査委員会（以下「審査委員会」という。）を置く。

2 審査委員会は、次に掲げる委員を持って組織する。

- 一 理事のうちから学長が指名する者 1人
- 二 副学長のうちから学長が指名する者 若干人
- 三 学院を主担当する専任の教授のうちから学長が指名する者 1人
- 四 大学院医歯学総合研究科、大学院保健衛生学研究科、医学部及び歯学部（以下「研究科等」という。）に所属する専任の教授から学長が指名する者 1人
- 五 学長が委嘱する学外有識者 1人
- 六 その他学長が必要と認める者

3 審査委員会に委員長を置き、前項第1号の委員をもって充てる。

4 委員長は、審査委員会を招集し、その議長となる。

5 審査委員会には、必要に応じ班を設けることができる。

6 審査委員会は、必要があると認めた場合は、オブザーバーとして委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

（審査委員会に置ける議決）

第13条 審査委員会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

2 審査委員会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（懲戒等の手続）

第14条 学院長等は、学生について、懲戒等の対象となる事案が生じた場合は、速やかに事実関係を把握し、審査委員会を通じて学長に報告するとともに、調査委員会に、事実調査を行わせるものとする。

2 調査委員会は、調査に当たり当該学生に対し事情聴取を行うものとする。ただし、学生が心身の故障、身柄の拘束その他の事由により直接事情聴取を受けるこ

とができないときは、これに替えて文書による質問、照会等により事情聴取することができる。

- 3 調査委員会は、事情聴取に際し、学生から補佐人の同席及び補佐人からの陳述について求めがあった場合は、これに応じなければならない。ただし、事情聴取の妨げになると調査委員会が認めた場合、補佐人の数を制限することができる。
- 4 調査委員会は、事情聴取に際し、当該学生に口頭又は文書により弁明する機会を与えるものとする。ただし、学生が、正当な理由なく事情聴取に応ぜず、弁明しない場合は、この権利を放棄したものとみなす。
- 5 学生は、本学が行う必要な調査については、誠実に協力しなければならない。
- 6 調査委員会は、事実調査の結果に基づき、調査結果報告書を作成し、学院長等に報告するものとする。
- 7 学院長等は、前項の報告を受けたときは、審査委員会に調査結果報告書を報告するものとする。
- 8 審査委員会は、前項の報告を受けたときは、学長に報告するとともに審査委員会において処分案の審議を開始するものとする。
- 9 審査委員会は、処分案の審議に当たり、事実関係の再調査が必要と認めた場合は、学生又は補佐人等から事情聴取を行うことができる。
- 10 第2項及び第3項の規定は、前項の事情聴取について準用する。
- 11 審査委員会は、処分案を作成し、学長に報告するものとする。
- 12 学長は、前項の報告を受けたときは、審査委員会を通じて学院長等に処分案を通知するものとする。
- 13 学院長等は、前項の規定により通知を受けた処分案が懲戒処分を要するものであったときは、処分案の審議を教授会に付議し、審査委員会を通じてその審議結果を学長に報告するものとする。この場合において、教授会の審議結果が審査委員会の処分案と異なる場合は、その理由を付するものとする。

(懲戒処分の決定)

第15条 学長は、前条第13項の報告に基づき、懲戒処分の要否及び懲戒処分を要する場合のその内容を決定し、審査委員会を通じて学院長等に通知するものとする。

(懲戒等の告知)

第16条 懲戒等の効力は、学生に懲戒等を告知したときに生じるものとする。

- 2 懲戒処分の告知は、前条の通知を受けた学院長等が学生及び保護者等又は連絡先人に懲戒処分通知書を交付して行うものとする。ただし、学生の所在を知ることができない場合においては、公示送達又は他の適切な方法により行うものとする。
- 3 教育的措置の告知は、学院長等が学生に行うものとする。

(懲戒処分の告示等)

第17条 学長は、懲戒処分を行ったときは、教育研究評議会に報告するとともに、学生の氏名を伏して学内に告示するものとする。

- 2 学院長等は、教育的措置を行ったときは、教育研究評議会に報告するものとする。

る。

(懲戒に関する記録)

第18条 懲戒処分を行ったときは、学生の学籍簿の「特記事項」又は累加記録に記載するものとする。

(逮捕・勾留時の取扱い)

第19条 学生が逮捕・勾留され、学生からの事情聴取を行うことができない場合においては、事情聴取及び弁明の機会が付与されないことにより学生の権利を損なうことがないように十分に配慮した上で懲戒等を行うことができる。

(期間を定めない停学の解除)

第20条 学院長等は、期間を定めない停学の処分を受けた学生について、その反省の程度及び学修意欲等を総合的に判断して、処分を解除することが妥当であると認めた場合は、教授会の議を経て、審査委員会を通じて学長に対し、当該処分の解除を申請することができる。

2 学長は、前項の申請があったときは、当該処分の解除の可否の審議を審査委員会に依頼するものとする。

3 審査委員会は、当該処分の解除の可否を審議し、学長に報告するものとする。

4 学長は、前項の報告を受けたときは、審査委員会を通じて学院長等に審査委員会の審議結果を通知するものとする。

5 停学処分解除の告知は、学院長等が学生に停学処分解除通知書を交付して行うものとする。

6 学長は、停学処分の解除を行ったときは、教育研究評議会に報告するものとする。

7 停学処分の解除を行ったときは、学生の学籍簿の「特記事項」又は累加記録に記載するものとする。

8 期間を定めない停学は、6月を経過した後でなければ解除することができないものとする。

(不服申立て)

第21条 懲戒処分を受けた学生は、事実誤認、新事実の発見その他正当な理由がある場合は、懲戒処分通知書を受け取った日の翌日から起算して14日以内に、文書により、学長に対し、審査委員会を通じて不服申立てをすることができる。

2 学長は、前項の不服申立てを受理したときは、不服申立てを却下する場合を除き、審査委員会の議を経て、速やかに再調査の可否を決定しなければならない。

3 前項において、学長が不服申立てを却下する場合又は再調査の必要がないと決定した場合は、速やかに、当該学生に通知するものとする。この場合の通知は、学院長等が学生に文書を交付して行うものとする。

4 第2項において、学長が再調査の必要があると決定した場合の調査等については、第14条から第18条までの規定を準用する。なお、当初の調査等を行った調査委員会の委員となった者については、再調査等を行う調査委員会の委員とすることはできない。

5 不服申立ては、懲戒処分の効力を妨げないものとする。

(科目等履修生等の懲戒等)

第22条 この規程の規定は、科目等履修生、特別聴講学生、海外交流学生、海外訪問学生、短期交流学生、大学院研究生及び特別研究学生の懲戒等について準用する。

(守秘義務)

第23条 学生の懲戒等に関する事項に関わった職員は、職務上知り得た情報を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(事務)

第24条 学生の懲戒等に関する事務は、教育推進部学生支援課において処理する。

(雑則)

第25条 この規程に定めるもののほか、学生の懲戒等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、令和6年10月1日から施行する。
- 2 次に掲げる規程等は、廃止する。
 - 一 東京工業大学学生の懲戒等に関する規程（平成24年規程第1号。以下「旧東工大規程」という。）
 - 二 東京医科歯科大学における学生の懲戒に関する申合せ（平成20年2月8日申合せ。以下「旧医科歯科大申合せ」という。）
- 3 この規程の施行の日前にした行為に係る懲戒等については、旧東工大規程及び旧医科歯科大申合せの規定は、なおその効力を有する。ただし、令和7年4月1日以降、旧東工大規程の適用においては、この規程第12条の学生懲戒審査委員会を、旧東工大申合せ第11条の学生懲戒審査委員会とみなし、旧医科歯科大申合せの適用においては、この規程第12条の学生懲戒審査委員会を、旧医科歯科大申合せ6.(5)の懲戒委員会とみなす。

8. 学生周知事項

1) 連絡・通知

大学からの連絡・通知は掲示板への掲示又は大学のホームページにより行います。

台風等の自然災害や交通機関運休に伴う授業の休講・試験の延長を決定した場合は、本学のホームページまたは Slack に掲載します。

掲示板は 6 号館前大学院掲示板、1 号館西 1 階教務課湯島教務室前及び 5 号館 3 階湯島学生支援室前です。見落としがないように十分注意して下さい。

学生への個別連絡は電話、電子メール又は郵送にて行います。

大学から緊急に連絡する必要が生じて連絡が取れないことがないように入学時と連絡先が変更になった際は、忘れずに届出てください。

2) 学生証

学生証は、本学の学生である旨を証明し、学内で名札として使用するとともに、IC カードとして学内出入口の解錠、出席登録等としても在学中使用しますので、紛失・破損等のないよう大切に取扱って下さい。

また、通学定期券の購入時等に提示を求められたときに提示できるよう、常に携帯するようにして下さい。

(1) 再交付

学生証を紛失又は破損等した場合は、速やかに教務課に申し出て、再交付の手続きをとって下さい。また、再交付を行う場合は、再交付にかかる費用を負担することとなりますので注意して下さい。

(2) 返却

修了、退学、除籍となった場合は、直ちに学生証を教務課に返却して下さい。なお、返却ができない場合は、再交付にかかる費用と同額を負担することとなりますので注意して下さい。

(3) 有効期限の更新

在学期間延長や長期履修により有効期間が経過した場合は、学生証の有効期限の更新が必要となりますので、教務課湯島学位審査グループに申し出てください。

3) 証明書等

証明書等は、教務課で発行するものと、自動発行機で発行するものがあります。

発行場所	種類	受付時間	問い合わせ先
自動発行機 5号館4階 学生談話室	在学証明書 (和文)	8:30-21:00 (発行には学生証が必要)	教務課湯島学位審査グループ
	学生旅客運賃割引証 (学割)		
教務課※ 1号館西1階	在学証明書 (英文)	8:30-17:15	教務課湯島教務室大学院教務第1・第2グループ
	成績証明書 (和文・英文)		
	修了見込証明書【修士・博士(前期)】 (和文・英文)		
	その他諸証明書 (和文・英文)		
教務課※ 1号館西1階	修了見込証明書【博士・博士(後期)】 (和文・英文)	8:30-17:15	教務課湯島学位審査グループ

※教務課発行の証明書の手続きについて

教務課発行の証明書を希望する場合は、「証明書交付願」を各窓口に提出して請求すること。なお、交付には和文で数日、英文で一週間程度を要する。

※修了生の証明書発行は、教務課湯島学位審査グループで行っている。（発行している証明書：「修了証明書」「成績証明書」「単位修得証明書」「在学期間証明書」「学位授与証明書」等。）

郵送での申込みについて

自動発行機以外で発行している証明書に関しては、郵送で申込みができる。その際は、「証明書交付願」と返信用封筒に切手貼付のうえ、請求すること。なお、郵送料が不足する場合は、郵便局からの請求に基づき支払うこと。なお、郵便事情により、到着に時間がかかることが想定されるので余裕をもって申し込むこと。

申込み先

〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45 東京科学大学 教務課

4) 学生旅客運賃割引証（学割証）

(1) 学生が課外活動又は帰省などで JR 線を利用する場合、乗車区間が片道 100km を超えるときに旅客運賃の割引（2割）を受けることができます。

この制度は、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的とするものなので、計画的に使用して下さい。（年間使用限度：10枚／人、有効期間：発行日から3ヶ月間）

(2) 次に掲げる行為があったときは、普通運賃の2倍の追徴金を取られるばかりでなく、本学の全学生に対する学割証の発行が停止されることがありますので、乱用又は不正に使用することのないよう注意して下さい。

- ① 他人名義の学割証を使って乗車券を購入したとき
- ② 名義人が乗車券を購入し、これを他人に使用させたとき
- ③ 使用有効期間を経過したものを使用したとき

(3) 学割証は、学生談話室（5号館4階）に設置されている「自動発行機」にて発行します。

（利用時間：平日 8:30～21:00）

（問い合わせ先）教務課湯島学位審査グループ

5) 住所・氏名等の変更

本人又は連絡先人等の住所・本籍又は氏名等（電話番号を含む）に変更が生じた場合は、速やかに教務課湯島教務室大学院教務第1・第2グループに申し出て所定の手続きをとって下さい。

この手続きを怠った場合、大学から本人又は連絡先人等に緊急に連絡する必要性が生じても連絡が取れないので注意して下さい。

提出・問い合わせ窓口

教務課湯島教務室（1号館西1階）

届出用紙

	届出用紙	添付、提示書類
改姓した場合	改姓（名）届 学生証記載事項変更	改姓（名）を証明する書類を添付
本人・連絡先人等が住所・本籍地を変更した場合	住所・本籍地変更届	住所・本籍地を変更したことを証明する書類を添付
連絡先人を変更した場合	連絡先人変更届	なし

6) 研修・実習依頼

外部の研究機関等に研修・実習を希望する場合は、依頼希望日の2週間前まで（外国での場合には2ヶ月前まで）に教務課湯島教務室大学院教務第1・第2グループへ外部研修・実習届出書を提出してください。また、契約書の締結を伴うものについては1ヶ月前まで（外国での場合には3ヶ月前まで）に教育推進部教務課湯島教務室へ提出してください。

7) 遺失物及び拾得物

学内での遺失物又は拾得物の届出は以下のとおりとなります。

- (1) 医学部内・・・・・・・・・・医学部 業務推進課運営事務グループ（3号館6階：TEL 5803-5096）
- (2) 歯学部内・・・・・・・・・・歯学部業務推進課運営事務グループ（D棟南2階：TEL 5803-5404）
- (3) その他・・・・・・・・・・紛失及び拾得場所（建物）を管理する各事務部

8) 進路調査

大学院を修了（見込みを含む）する場合は、修了日（見込み日）1ヶ月前までに必ず進路届を学生支援課湯島学生支援室に提出して下さい。

（問い合わせ先）学生支援課湯島学生支援室（e-mail：shinro@ml.tmd.ac.jp）

9) 健康相談・メンタルヘルス相談

（湯島保健管理センター）

湯島保健管理センターは本学の学生・職員が心身共に健康な生活を送り、所期の目的を達成することができるよう、助言・助力することを目的としている施設です。必要に応じて医療機関への紹介状の発行も行っています。

(1) 健康相談

健康相談は10時～12時30分、13時30分～15時30分に受け付けます。

時間は変更になる場合があります。

来室前に湯島保健管理センターホームページの「今週の健康相談」を確認のうえ来室ください。

今週の健康相談



(2) メンタルヘルス相談（要予約）

精神科医・臨床心理士へ相談をご希望の場合は、予約をお取りします。

03-5803-5081 までご連絡ください。

(3) 各種健康診断等

実施詳細等は、Slackで周知します。

見落としがないよう普段からよく確認するようにしてください。

※湯島保健管理センターホームページにも健診に関する情報を掲載しています。

※定期健康診断の受診は学生の義務ですので、必ず受けてください。

- | | |
|---------------------|-----------|
| ① 学生一般定期健康診断 | 5月 |
| ② B型肝炎抗原・抗体検査 | 4月 |
| ③ B型肝炎予防接種 | 5月、7月、12月 |
| ④ 有機溶剤・特定化学物質健康診断 | 4月、10月 |
| ⑤ 放射線業務従事者健康診断 | 4月、10月 |
| ⑥ その他 インフルエンザ予防接種 等 | |

(4) 健康診断証明書の発行

各種資格試験受験、病院研修申請、就職・進学などを目的として必要な健康診断証明書を発行しています。

※証明書の発行は定期健診を受診している方に限ります。

湯島保健管理センターホームページ：<https://www.tmd.ac.jp/hsc/>

TEL：03-5803-5081

MAIL：hokencenter.hsc@tmd.ac.jp



10) 学生相談

(湯島学生支援センター：<http://www.tmd.ac.jp/labs/gakuseihokenkikou/scsfs/index.html>)

湯島学生支援センターは、本学の学生に対して、生活・修学・就職・メンタルヘルスやハラスメントに関することなど、キャンパスライフ全般に渡り、全学的に支援を行い、学生支援活動の充実を図ることを目的として設置されています。

下記のような問題、その他大学生活を送るうえで悩みや心配事が起きたときにご相談ください。

また、内容により担当が異なりますので、各ホームページをご参照ください。

<学生生活全般に関すること> e-mail：scenter.stc@tmd.ac.jp

- ・生活に関する相談・・・家族の問題・経済的な問題・恋愛問題など
- ・修学に関する相談・・・勉強の進捗状況・進学・研究室の人間関係など
- ・就職に関する相談・・・卒業後の進路・就職活動など
- ・メンタルに関する相談・・・健康の問題・ストレス・心の問題・対人関係など
- ・ハラスメントに関する相談・・・アカデミックハラスメント・パワーハラスメント・セクシャルハラスメントなど

・その他・・・セクシュアリティやジェンダーに関すること、障害や持病に関することなど
ホームページ <http://www.tmd.ac.jp/stdc/index.html>



11) キャリア相談・ライフイベント（妊娠・出産・育児等）相談

(キャリア・ライフ相談室：<https://www.tmd.ac.jp/ang/counsel/index.html>)

キャリア・ライフ相談室は、本学の学生・職員が、自分らしく学業と仕事に臨めるよう、対話を通じたご相談に応じています。

ライフイベントと学業・仕事の両立に関すること、キャリアに関すること、ライフプランに関すること、どこに相談すればよいか分からないこと等、お気軽にご相談ください。

相談の内容やご希望に応じて、適切な相談先（リファー）もご紹介いたします。

<キャリア支援や学業（仕事）と家庭との両立支援に関すること>

- ・今後のキャリアや生き方に関する相談
- ・妊娠・出産・育児との両立や保育園入園・介護に関する相談

e-mail : info.ang@tmd.ac.jp

ホームページ : <http://www.tmd.ac.jp/ang/counsel/index.html>



12) 研究不正関連講習会の受講

本学では、「遺伝子組換え実験」「病原微生物等・特定病原体等を取扱う実験」及び「動物実験」を行う者は『**安全で適正な研究に係る研修会**』を、「ヒト（試料・データを含む）を対象とする研究」を行う者は『**研究倫理講習会**』を受講し、それぞれ基礎研究 ID（「安全で適正な研究」に係る研修会）、受講証番号（研究倫理講習会）を取得することとしておりますが、**大学院生についてはいずれも受講必須となっております**。実施詳細は Slack および HP で周知いたしますので確認のうえ必ず受講するようにしてください。

(HP) <https://www.tmd.ac.jp/tmd-research/safety/koushoukaianai/>

(問い合わせ先) 研究推進部研究基盤推進課研究安全グループ (e-mail : anzen.adm@tmd.ac.jp)

13) 院生ラウンジ

院生はM&Dタワー14階院生ラウンジを利用することができます。

<利用時間> 8:00~21:00

- <注意事項>
- ①利用後は整理整頓を行い、必ず原状復帰すること。
 - ②ゴミは各自の研究室に持ち帰り、責任を持って処分すること。同フロアに設置されている他の教室のゴミ箱に捨てないこと。
 - ③他の利用者に迷惑となる行為（大声で話す、長時間の睡眠をとる、遊具を持ち込む等）をしないこと。
 - ④私物を放置したままにしないこと。
 - ⑤手洗い、マスク着用等基本的な感染対策に留意してご利用ください。

14) その他

- (1) 個人宛の郵便物等には、必ず分野名の記載を相手方に周知してください。
- (2) 本学では、構内での交通規制が行われており、学生の車での通学は認められていませんので、注意して下さい。ただし、電車、バス等で通学することが困難な者については、申請に基づき許可することがあります。
- (3) 担当グループ等

① 教務事務・・・・・・・・・・教務課（1号館西1階）

学位審査グループ : grad.doctor_med.adm@tmd.ac.jp

湯島教務室

大学院教務第1グループ : grad01@ml.tmd.ac.jp

大学院教務第2グループ : grad02@ml.tmd.ac.jp

JD&MPH グループ : jd@ml.tmd.ac.jp

)

- ② 授業料の納入・・・・・・・・財務部経理課収入第2グループ
(大岡山キャンパス：suitou.adm@tmd.ac.jp))
- ③ 奨学金・授業料免除・・・学生支援課湯島学生支援室
(5号館3階：kousei.adm@ml.tmd.ac.jp)

9. 長期履修制度について(医歯学総合研究科博士課程対象)

1) 長期履修学生制度とは

長期履修学生制度とは、職業を有している等の事情により標準修業年限（医歯学専攻：4年、生命理工医療科学専攻：3年）を超えて履修を行い修了することができる制度であり、願い出た者については、審査のうえ許可する。

2) 対象者

長期履修を申請できるのは原則下記にあてはまる者とする。

- ・官公庁又は企業等に雇用されている者（休業等により、職務を免除されている者を除く。）、自ら事業を行っている者その他のフルタイムの職業に就いている者
- ・出産、育児又は親族の介護を行う必要がある者であって、その負担により修学に重大な影響があると学長が認めた者
- ・その他長期履修を必要とする事情があると学長が認めた者

3) 申請手続き

提出・問い合わせ窓口

湯島教務室大学院教務第1グループ・第2グループ（1号館西1階）

提出書類

- ・長期履修申請書
 - ・在職証明書（企業等の常勤職員の場合）
 - ・その他申請理由を証明できる書類
- （例）出産・育児を理由とする場合は、母子手帳や保険証のコピーなど

提出期限

- ・入学志願者が長期履修を希望する場合・・・入学手続き期間の最終日
- ・在学者が長期履修を申請する場合・・・医歯学専攻：3年次の2月末日
生命理工医療科学専攻：2年次の2月末日

※10月入学者の申請書提出期限は各専攻とも8月末日とする。

※在学者が長期履修申請をした場合、申請年次の次年度から長期履修が適用される。

4) 長期履修期間

長期履修者が在学できる期間の限度は標準修業年限の2倍（医歯学専攻：8年、生命理工医療科学専攻：6年）とする。なお、長期履修期間を最大修業年限未満に設定したもののについては、長期履修後、最大修業年限までは在学期間延長の手続きをすることができる。（在学期間延長については「諸手続きについて」を参照）

5) 長期履修の短縮

長期履修は半年単位で短縮することができるが、短縮後の在学年数を標準修業年限未満（医歯学専攻：4年、生命理工医療科学専攻：3年）にすることはできない。また、長期履修の適用日から1年に満たない者は、長期履修期間の短縮を申請することができない。なお短縮申請は1回限りとする。

提出・問い合わせ窓口

湯島教務室大学院教務第1グループ・第2グループ（1号館西1階）

提出書類

- ・長期履修期間変更願

提出期間

希望する長期履修期間満了日の2か月前まで

(例) 6年間から5年間への短縮を行う場合(休学等がない場合) : 5年目の1月20日までに手続きを行う

5) 長期履修の延長

長期履修は1年単位で延長することができるが、延長後の在学年数は標準修業年限の2倍を超えることはできない。長期履修期間満了までの期間が1年に満たない者は、長期履修期間の延長を申請することができない。なお延長申請は1回限りとする。

提出・問い合わせ窓口

湯島教務室大学院教務第1グループ・第2グループ(1号館西1階)

提出書類

・長期履修期間変更願

提出期間

- ・4月入学: 当初の長期履修期間満了日(の属する年度)の前年度の1月20日まで
- ・10月入学: 当初の長期履修期間満了日(の属する年度)の前年度の7月31日まで

(例) 4月入学の学生で5年間から6年間への延長を行う場合(休学等がない場合) : 4年目の1月20日までに手続きを行う

6) 履修登録

長期履修者の履修登録にあたっては、担当教員と事前に相談し単位取得に関する履修計画を作成のうえ、計画的に履修を行わなければならない。その際、医歯学専攻においては1年間に取得できる単位数の上限は12単位とし、原則として3年以上の期間にわたって単位取得するものとする。

7) 授業料

標準修業年限期間に標準額を納付する。

(例) 4年課程を8年に延長した場合、最初の4年で通常の授業料額を納入し、残りの4年は授業料の納入は不要。

※日本学生支援機構の奨学金に申請する学生は、貸与期間等に特別の定めがある場合があるので、学生支援事務課(5号館3階)に問い合わせること。

8) 学位申請

学位申請が行えるのは、長期履修の最終年度のみである。最終年度以外の年度には学位申請は受け付けないので注意すること。なお、申請した長期履修期間より早く学位申請が行えるようになった場合は、前もって長期履修短縮申請をすること。

※5) 長期履修の短縮・延長を参照

9) 長期履修中の休学及び留学

長期履修学生の休学、留学については、事例ごとに審議することとする。なお、休学が認められた場合、休学期間は在学期間に算入しない。

※休学、留学の手続き等詳細については、「諸手続きについて」を参照すること

10) 長期履修事由の消滅

長期履修期間中に長期履修の事由が消滅した場合（常勤職員のため長期履修を申請したが、会社を辞めた等の理由で学業に専念できるような状況になったなど）は、長期履修の短縮をすることができる。

※大学統合（2024年10月）より前に既に長期履修を開始している学生は、変更の規定を適用する。

(趣旨)

第1条 この規程は、東京科学大学大学院学則（令和6年学則第2号。以下「大学院学則」という。）第7条第2項の規定に基づき、長期履修の制度（以下「長期履修制度」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規程において「長期履修」とは、大学院学則第6条に規定する標準修業年限（以下「標準修業年限」という。）を超える一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することをいう。

2 この規程において「長期履修学生」とは、長期履修を許可された学生をいう。

3 この規程において「長期履修期間」とは、長期履修を許可する期間（在学中に長期履修を許可された者にあつては、長期履修を許可される前の在学期間を含む。）をいう。

(長期履修の対象学生)

第3条 長期履修を申請することができる者は、学院の博士後期課程若しくは研究科の博士課程又は専門職学位課程の学生であつて、標準修業年限内での修業が困難な事情のある次の各号のいずれかに該当する者とする。

一 官公庁又は企業等に雇用されている者（休業等により、職務を免除されている者を除く。）、自ら事業を行っている者その他のフルタイムの職業に就いている者

二 出産、育児又は親族の介護を行う必要がある者であつて、その負担により修学に重大な影響があると学長が認めた者

三 その他長期履修を必要とする事情があると学長が認めた者

2 前項の規定にかかわらず、申請時における在学期間が、博士後期課程にあつては2年、一貫制博士課程にあつては4年、医学又は歯学を履修する博士課程にあつては3年、後期3年博士課程にあつては2年、専門職学位課程にあつては1年を超えている者は、長期履修を申請することができない。

(長期履修期間等)

第4条 長期履修の開始日は、前期の始めに入学（大学院学則第17条の規定に基づき学院の修士課程若しくは専門職学位課程から引き続き博士後期課程に進学する場合又は研究科の修士課程から引き続き医学又は歯学を履修する博士課程若しくは後期3年博士課程に進学する場合を含む。以下同じ。）した者にあつては前期の初日、後期の始めに入学した者にあつては後期の初日とする。

2 長期履修期間は、1年を単位とし、その上限は、長期履修学生の在学する課程の標準修業年限の2倍とする。

(申請手続等)

第5条 長期履修を希望する者は、別に定める長期履修申請書に次に掲げる書類を添えて、所属する学院の長又は研究科の長（入学前に長期履修を志願する者にあ

っては、入学後、所属する予定の学院の長又は研究科の長をいう。)を經由して学長に申請しなければならない。

一 在職証明書(第3条第1項第1号に該当する者のみ)

二 その他学長が必要と認めた書類

2 前項の申請は、所定の期日までに行わなければならない。

(許可等)

第6条 前条の申請による長期履修の許可は、当該学院の教授会又は研究科委員会の議を経て、学長が決定する。

2 長期履修を許可した場合は、別に定める長期履修許可書により通知するものとする。

(長期履修期間の短縮)

第7条 長期履修学生は、就業環境等の変動により長期履修の必要がなくなった場合は、別に定める長期履修期間短縮願により、長期履修期間を短縮する旨を学長に申請し、許可を得て長期履修期間を短縮することができる。

2 前項の規定にかかわらず、長期履修の開始日から1年に満たない者は、長期履修期間の短縮の申請をすることができない。

3 第1項の申請により、長期履修期間を短縮することができる期間は、学期単位とする。

4 第1項の申請は、所定の期日までに行わなければならない。

5 長期履修期間の短縮の許可等については、前条の規定を準用する。

6 長期履修期間を短縮した者は、再度、長期履修期間の短縮を申請することはできない。

(長期履修期間の延長)

第8条 長期履修学生は、就業環境等の変動により長期履修期間の延長をする必要がある場合、別に定める長期履修期間延長願により、長期履修期間を延長する旨を学長に申請して、許可を得て長期履修期間の延長をすることができる。

2 前項の規定にかかわらず、長期履修期間満了までの期間が1年に満たない者は、長期履修期間の延長の申請をすることができない。

3 第1項の申請により、長期履修期間を延長することができる期間は、1年単位とする。

4 第1項の申請は、所定の期日までに行わなければならない。

5 長期履修期間の延長の許可等は、第6条の規定を準用する。

6 長期履修期間を延長した者は、再度、長期履修期間の延長を申請することはできない。

(休学)

第9条 長期履修学生の休学の取扱いは、大学院学則第25条の定めるところによる。

(授業料)

第10条 長期履修学生の授業料は、東京科学大学における授業料、入学料及び検定料等に関する規則(令和6年規則第75号)第6条の定めるところにより、長期履修期間のうち、当該学生の在学する課程の標準修業年限を超えた期間において

は、徴収しない。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、長期履修制度に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、令和6年10月1日から施行する。
- 2 次に掲げる規程等は、廃止する。
 - 一 東京工業大学大学院長期履修規程（平成29年規程第1号。以下「旧東工大規程」という。）
 - 二 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科長期履修に関する要項（平成18年10月17日制定。以下「旧医歯学総合研究科要項」という。）
 - 三 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科長期履修に関する要項（平成19年8月22日制定。以下「旧保健衛生学研究科要項」という。）
- 3 この規程の施行の日（以下「施行日」という。）前に旧東工大規程により長期履修を許可された者は、この規程により長期履修を許可された者とみなす。
- 4 施行日前に旧医歯学総合研究科要項又は旧保健衛生学研究科要項の規定により、長期履修学生として許可された者の長期履修の取扱いについては、なお従前の例による。

10. 諸手続きについて

各手続きに必要な本学指定の様式については、湯島教務室大学院教務第1グループ・第2グループ（1号館西1階）もしくは本学ホームページより取得することができる。

本学ホームページ (<http://www.tmd.ac.jp/index.html>) → 「学部・大学院」 → 「大学院医歯学総合研究科」 → 「統合教育機構学務企画課」 → 「諸手続（休学・退学・住所変更等に必要な手続関係）」
(旧東京医科歯科大学ホームページに暫定的に掲載しています)

URL : http://www.tmd.ac.jp/faculties/graduate_school/kyoumuka/index.html

1) 休学

病気その他の事由により、引き続き2ヶ月以上就学できない場合は下記の手続きにより休学もしくは休学延長することができる。なお、休学期間は通算して修士課程は2年、博士課程は3年を超えることはできない。また、休学期間は在学期間に算入しないものとする。

提出・問い合わせ窓口

湯島教務室大学院教務第1グループ・第2グループ（1号館西1階）

提出書類

・休学願または休学期間延長願（本学指定様式）

※開始日は原則として、月初めとする

※傷病を理由とする場合は、医師の診断書を添付すること

※経済的理由又は家庭の事情を理由とする場合は、事情を証明する書類を添付すること

※出産、育児又は介護を理由とする場合は、事情を証明する書類を添付すること

提出期限

休学を希望する前々月の20日まで

2) 復学

復学願の提出は不要。

ただし、休学している学生が、休学期間途中で復学を希望する場合、もしくは病気により休学した場合は、下記の手続きを行わなければならない。

提出・問い合わせ窓口

湯島教務室大学院教務第1グループ・第2グループ（1号館西1階）

提出書類

・復学願（本学指定様式）

※病気療養を理由に休学した場合は、医師の診断書及び保健管理センターが発行する意見書を添付すること。

提出期限

復学を希望する前々月の20日まで

3) 退学

病気その他の事由により、学業を継続することが困難となり、退学しようとする場合は、下記の手続きを行わなければならない。

提出・問い合わせ窓口

湯島教務室大学院教務第1グループ・第2グループ（1号館西1階）

提出書類

・退学願（本学指定様式）

提出期限

退学を希望する前月の20日まで

4) 研究指導委託

他の大学院、研究所又は高度の水準を有する病院（以下「他機関」という。）において研究指導を受けたい場合は、先方とあらかじめ協議したうえで下記の手続きを行わなければならない。なお、申請期間は年度を超えることができない。翌年度も引き続き研究指導を受ける場合は、1月末までに再度申請をすること。

なお、修士課程在学者が研究指導委託できる期間は、最大1年間である。

提出・問い合わせ窓口

湯島教務室大学院教務第1グループ・第2グループ（1号館西1階）

提出書類

・研究指導委託申請書（本学指定様式）

※開始日は原則として、月初めとする

提出期限

研究指導委託希望日の3ヶ月前の20日まで

※研究指導委託に伴う実習用定期の申請について

研究指導委託申請の承認後、他機関に通学することになった場合は、申請により実習用定期を購入することができる。

提出・問い合わせ窓口

湯島教務室大学院教務第1グループ・第2グループ（1号館西1階）

提出書類

実習用通学定期乗車券申込書（本学指定様式）

提出期限

2ヶ月前まで（鉄道会社の許可を得るのに1ヶ月程度要する）

5) 留学

外国の大学院又はこれに相当する高等教育機関において31日以上修学する場合は、先方とあらかじめ協議のうえで下記の手続きを行わなければならない。

留学期間に制限があるので、必ず事前に問い合わせること。

提出・問い合わせ窓口

湯島教務室大学院教務第1グループ・第2グループ（1号館西1階）

提出書類

- ・留学願（本学指定様式）
- ・指導教員の理由書（書式自由）
- ・相手先の受入承諾書等の書類（写し）
- ・相手先の受入承諾書等の書類の和訳
- ・留学計画書（書式自由）

提出期限

留学希望日の前々月の20日まで

【留学期間を変更したい場合】

提出・問い合わせ窓口

湯島教務室大学院教務第1グループ・第2グループ（1号館西1階）

提出書類

- ・留学期間変更願（本学指定様式）

- ・留学期間変更に係る文書（写し）
- ・留学期間変更に係る文書の和訳
- ・留学許可書（写し）

提出期限

留学期間変更希望日の3ヶ月前の20日まで

6) 在学期間延長

標準修業年限を超えて在学（休学期間を除く）しようとする者は、下記の手続きを行わなければならない。なお、在学期間は標準修業年限の2倍（下表参照）まで延長することができる。

研究科	課程	専攻	年数
医歯学総合研究科	修士課程	医歯理工保健学専攻（医療管理学コースを除く）	4年
		医療管理学コース	2年
	博士課程	医歯学専攻	8年
		生命理工医療科学専攻	6年
保健衛生学研究科	一貫制博士課程	看護先進科学専攻 共同災害看護学専攻	10年

なお、在学期間に休学期間は含めない。

提出・問い合わせ窓口

湯島教務室大学院教務第1グループ・第2グループ（1号館西1階）

提出書類

- ・在学期間延長願（本学指定様式）

提出期限

- ・在学期間満了日の前々月の20日まで

7) 専攻分野変更

在学中に研究内容に変更が生じた等の理由で、所属研究分野の変更を希望する場合は、下記の手続きを行わなければならない。

提出・問い合わせ窓口

湯島教務室大学院教務第1グループ・第2グループ（1号館西1階）

提出書類

- ・専攻分野変更願（本学指定様式）

提出期限

変更希望日の前々月の20日まで

8) 在学コース変更

在学中に職に就いた場合、もしくは社会人コースで入学したがその事由が消滅した場合は下記の手続きを行わなければならない。

提出・問い合わせ窓口

湯島教務室大学院教務第1グループ・第2グループ（1号館西1階）

提出書類

- ・在学コース変更願（本学指定様式）

※「一般コース」から「社会人コース」への変更を希望する場合は下記も添付すること

- ・勤務先の承諾書（本学指定様式）
- ・指導教員の承諾理由書（書式自由）

提出期限

変更希望日の前々月の20日まで

9) 転学

他大学への転学するための転入学試験を受験する場合は下記の手続きを行わなければならない。

提出・問い合わせ窓口

湯島教務室大学院教務第1グループ・第2グループ（1号館西1階）

提出書類

・転入学試験受験承諾書請求願（本学指定様式）

提出期限

受験日の3ヶ月前の20日まで

転入学試験受験の結果、合格した場合は下記の手続きを行わなければならない。

提出書類

・転学願（本学指定様式）

・合格通知書の写し

提出期限

転入学日の3ヶ月前の20日まで

10) 死亡

学生本人が死亡した場合、保護者等は速やかに下記手続きを行わなければならない。

提出・問い合わせ窓口

湯島教務室大学院教務第1グループ・第2グループ（1号館西1階）

提出書類

・死亡届（本学指定様式）

提出期限

速やかに提出

11) 履修取消

登録済みの科目のうち、履修を継続しない科目の取消しを行う場合は、下記の手続きを行わなければならない。

提出・問い合わせ窓口

湯島教務室大学院教務第1グループ・第2グループ（1号館西1階）

提出書類

・履修登録科目取消願（本学指定様式）

提出期限

・専攻により異なるため問い合わせ窓口に確認すること。

12) 成績評価

成績評価について異議がある場合は、所定の期日までに下記の手続きを行わなければならない。

異議申し立て

提出・問い合わせ窓口

湯島教務室大学院教務第1グループ・第2グループ（1号館西1階）

提出書類

・成績評価異議申し立て書（本学指定様式）

提出期限

・専攻により異なるため問い合わせ窓口に確認すること。

【注意】

上記の諸手続きは「履修取消」を除き全て研究科運営委員会付議事項であるため、**提出期限は厳守**のこと。期限を過ぎての提出は、希望日以降の許可となる。

8月は研究科運営委員会が開催されないため、9月から希望する学生は、上記の提出期限の更に1ヵ月前までに届け出ること。

学内主要施設(湯島地区)

施設名	所在地	連絡先メールアドレス
学生支援課 湯島学生支援室 学生支援総括グループ	5号館3階	kousei.adm@ml.tmd.ac.jp
教育推進部 教務課 (湯島教務室)	1号館西1階	grad.doctor_med.adm@tmd.ac.jp (湯島学位審査グループ) grad01@ml.tmd.ac.jp (大学院教務第1グループ) grad02@ml.tmd.ac.jp (大学院教務第2グループ) jd@ml.tmd.ac.jp (JD・MPHグループ)
入試課 湯島地区 湯島大学院入試グループ	1号館西1階	nyu-grad@ml.tmd.ac.jp
財務部 経理課 収入第2グループ	大岡山地区	suitou.adm@tmd.ac.jp
図書館 利用支援課 御茶ノ水図書館グループ	M&Dタワー3階	toshokan@ml.tmd.ac.jp
湯島保健管理センター	5号館2階	hokencenter.hsc@tmd.ac.jp
談話室(証明書自動発行機)	5号館4階	—
生活協同組合 食堂・売店	5号館1階・地下1階	—
御茶ノ水リサーチファシリティ	8号館南	https://www.tmd.ac.jp/rcmd/contact/

校内案内図(湯島地区)

